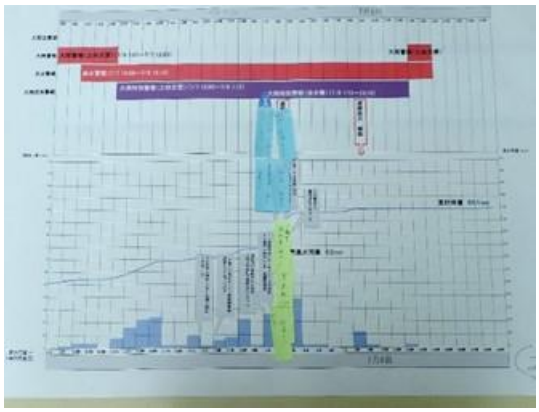
災害・避難カードを作成する取組みの手引き
～一人ひとりの避難手順を考えるために～



平成３１年３月　岐阜県

目　次

第１章　災害・避難カードを作成する取組みについて 1
１．災害・避難カードとは.....1
２．岐阜県における災害・避難カード作成の取組み 1

第２章　実施にあたっての留意事項 3
１．取組みの目的について.....3
２．取組みの内容について.....3
３．取組みの効果について.....3
４．実施する地域について.....4
５．取組みの補助について.....4
６．取組み後について.....4

第３章　災害・避難カード作成のポイント 5
１．この手引きについて 5
２．住民が学ぶ３つのポイント 5

第４章　災害・避難カードを作成する取組みの手順 6
１．取組みの実施手順.....6
２．主催者による事前準備.....7
手順１－１　地域の特徴を知る.....7
手順１－２　地域の災害・避難カードの様式を作る.....8
手順１－３　取組みの内容を決める 15
３．地域住民による勉強会.....20
手順２－１　取組みの目的を理解する.....20
手順２－２　地域における災害リスクを知り、 早めの避難の重要性を学ぶ.....21
手順２－３　災害の危険を回避するための情報を学ぶ 46
手順２－４　一人ひとりの避難の手順を学ぶ.....54
手順２－５　災害・避難カードを作る.....62
手順２－６　地域内での普及・活用方法を考える 64

参考資料　モデル事業の実施事例..... 67
１．実施概要 67
（１）関市上之保川合下.....67
（２）下呂市金山第一区.....69
２．勉強会資料.....71
（１）関市上之保川合下.....73
（２）下呂市金山第一区.....185

第1章　災害・避難カードを作成する取組みについて

1. 災害・避難カードとは

●災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等、災害から命を守る手順を一目で分かるように整理したカードです。

●住民のみなさまが、過去の災害の記憶（情報）や避難経路上の危険箇所、避難に要する時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手で整理した上で、災害・避難カードを作成していきます。

●作成した災害・避難カードは、自宅の冷蔵庫に貼るなど、普段から目にとまるようにします。また、防災訓練では地域ぐるみで災害・避難カードに沿って避難判断と避難行動の手順を確認し、改善が必要な点があれば、災害・避難カードに反映します。

2. 岐阜県における災害・避難カード作成の取組み

●平成２７～２９年度にかけて、内閣府による災害・避難カードを作成する取組みのモデル事業が、全国８地区で実施されました。

●このうち、愛媛県大洲市では、平成３０年７月豪雨災害の際に、地域住民一人ひとりが災害・避難カード作成を通じて避難先と避難行動をあらかじめ確認しておいたことが速やかな避難を可能とし、人的被害の防止につながった事例がありました。

●また、平成３０年７月豪雨災害を受け、同年岐阜大学と岐阜県が共同で実施した「豪雨災害時の住民避難行動実証研究」では、当豪雨災害に際し、避難した人は「ハザードマップの確認」、「避難場所、避難経路の確認」等、事前の備えを行っている傾向にあることや、「避難情報」や「洪水警報の危険度分布」、「自然災害の危険度」の理解度が高いと避難し、逆に低いと避難しない傾向にあることが分かりました。

●その結果、当時、避難した人は「ハザードマップの確認」、「避難場所、避難経路の確認」等、事前の備えを行っている傾向にあることや、「避難情報」や「洪水警報の危険度分布」、「自然災害の危険度」の理解度が高いと避難し、逆に低いと避難しない傾向にあることが分かりました。

●こうした理由から岐阜県では、災害に関する情報の理解度向上を図るとともに、住民が自らの避難行動を考え備える「自助」の強化を図るため、災害・避難カードの作成をとおして、地域住民のみなさま一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決める取組を推進することとなりました。

●本手引書は、平成３０年度に関市上之保地区と下呂市金山地区で実施したモデル事業で得た成果を皆さまに活用していただけるよう、災害・避難カード作成のポイントや手順を整理したものです。

第2章　実施にあたっての留意事項

1. 取組みの目的について

●当取組みは「早めの避難の完了」、「避難行動の実効性の向上」、「避難率の向上」により、「住民一人ひとりが自ら命を守る」ことを目的としています。

●当取組みは、カードを作成することが目的ではなく、住民一人ひとりに避難の手順を考えてもらい決定するプロセスが重要です。よって、繰り返し住民に問いかけることによって自ら「早めの避難」という決断と行動に結び付けることが必要です。

●大雨の発生のメカニズムや治山治水の仕組み等、専門的知識を伝授することに固執する必要はありません。住民が自ら考えることを最重要視して、命を守るための手順や知識を習得してもらうことが大切です。

●災害発生直前に自治会長等、地域のリーダーがたった一人で住民の避難を呼びかけることには自ずと限界があります。一人ひとりに避難を行う重要性を平素より気づいてもらうことが大切なことであり、そのための気付きの場や訓練等を日常から設けることが本取組の狙いです。

2. 取組みの内容について

●各市町村にて実施している既存の防災に関する取組みがある場合、学ぶべき３つのポイントを踏襲し、当取組みの内容を既存のものと融合して行っていただいてもかまいません。

3. 取組みの効果について

●本取組みは、以下のような地域の課題を解決するのに効果が高いと思われます。

・避難行動に対する住民の意識が低く、主体的に避難可能かどうか不安である。

・地域に災害時の連絡網や要配慮者等への声掛けの体制等はあるが、手順が明確でなく、実効性に不安がある。

・災害時に、地域の防災に関する課題が明らかとなり、改善する必要性がある。

・集落から指定避難所や指定緊急避難場所までの距離が長く、たどり着くのに多くの時間を要する。

・避難所が浸水想定区域内や土砂災害（特別）警戒区域内に立地しており、見直す必要がある。

・要配慮者を安全に避難所まで誘導するのに不安がある。　　等

4. 実施する地域について

●取組みを実施する地区の規模は、ワークショップへの参加率等を考慮すると 100～300 世帯程度が望ましいです。

※平成 30 年度に実施したモデル事業では、100 世帯程度であり、各ワークショップへの参加人数は３０名前後でした。

5. 取組みの補助について

●取組みを進めるにあたり、実施者の資料作成等の技術が乏しい等、課題がある場合は、必要に応じて行政や防災士、地域活動のサポートに熟練した専門家や団体が下記内容等についてサポートを行ってください。

・取組みのプランを立案する際に必要となる資料の提供（ハザードマップや非常時持出品リスト等）。

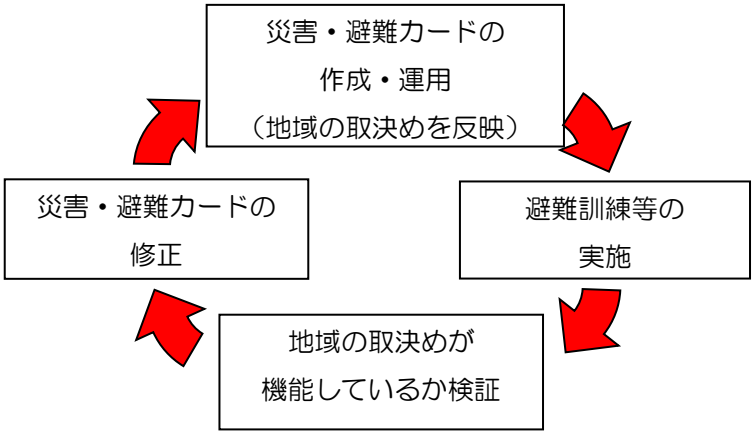
・ワークショップで使用する資料の作成（パソコン作業等）。

・グループワークの進行を補助する要員の動員（住民意見の聞取りや付箋への代筆、意見の集約）。

6. 取組み後について

●取組みに参加できなかった方のために、災害・避難カードの様式及び記入の説明書を添えて各戸に配布してください。ただし、説明書だけでは本取組の狙いが十分に理解できないことが考えられるため、別途、取組みを行った地域にてイベントの開催にあわせて学んだことを教えあう取組みを行うことが効果的です。

●当取組みは、既存の地域における取決め等を踏まえ、住民一人ひとりが避難を考え実行するために手順を決める取組みです。よって、あらかじめ地域の取決めをまとめたものを配布するなどして周知する必要があります。また、避難の手順を決め、災害・避難カードを作成した後は、避難訓練等で実際に運用し、地域の取決めを踏まえた個人の避難手順として問題が無いかを確認する場を設け、必要であれば修正を施して運用を続けます。



第3章　災害・避難カード作成のポイント

1. この手引きについて

●当取組では、地域住民（参加者）が、「住民一人ひとりが自ら命を守る」ために避難方法や避難開始のタイミング、避難経路などを整理します。この手引きには、災害・避難カードの作成を通じて地域住民が学ぶべきポイントとその手順を示しています。

2. 住民が学ぶ3つのポイント

●災害・避難カードを作成するうえで考えるべきポイントは以下の３点です。

その１　地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ

地域において、災害の歴史や被害の状況・規模、浸水や土砂災害の発生が予想される区域など、地域に潜む災害のリスクを知り、自宅や避難途中に災害に遭わないための早めの避難や事前の備えの重要性を学びます。

その２　危険を回避するための情報を学ぶ

大雨による災害は、前触れなく起きることはありません。数日前からテレビやラジオなどをとおして、天気予報、雲の動き、他地域の降雨状況や被害状況を確認することができます。

危険な状況に巻き込まれずに安全無事に避難を完了するためには、このような情報の入手方法と内容を理解することが必要となります。

その３　一人ひとりの避難の手順を学ぶ

避難には、避難開始の判断、避難経路の設定、家族や近所への声掛け、身支度や所持品の準備等、様々な判断と備えが必要です。また、避難の判断が早くても、避難の準備や移動に時間がかかっては、避難途中で危険に遭う可能性も高まります。まだ安全なうちに確実に安全な場所に避難するためには、あらかじめ、避難の手順を検討し、準備を済ませておく必要があります。

●これらの３つのポイントを学んだ上で、避難判断・避難行動に役立つ一人ひとりの災害・避難カードを作成することとします。

第4章　災害・避難カードを作成する取組みの手順

1. 取組みの実施手順

取組みは以下の手順に従い実施します。

＜主催者による事前準備（地域の状況に合った取組内容の検討）＞

手順	概要	掲載頁
手順１－１ 地域の特徴を知る	①地域情報の収集整理 ・近年の被災履歴や被害状況の確認 ・自治会等の体制や防災に関する取決めの確認 ・地域コミュニティの活動状況の確認 ・地域が抱える課題の確認　等	7
手順１－２ 地域の災害・避難カードの様式を作る	①ひな型ファイルの入手 ②地図データ等の作成・更新 ③危険情報を入手する方法の修正	8～14
手順１－３ 取組みの内容を決める	①３つのポイントを学ぶための手法の検討 ②開催日程、時間、場所の検討 ③その他	15～19

＜地域住民による勉強会＞

手順	概要	掲載頁
手順２－１ 取組みの目的を理解する	①主催者代表によるあいさつ ②災害・避難カードを作成する取組みの概要説明	20
手順２－２ 地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ	以下の内容より選択して実施します。 ①座学による講義 ②災害時のふりかえり（被災履歴がある場合） ③災害発生のケーススタディ ④自宅周辺の地図を用いた災害リスクの確認 ⑤まち歩き（地域に潜む危険を知る）	21～45
手順２－３ 災害の危険を回避するための情報を学ぶ	①資料を使った気象情報、警報の危険度分布、水位情報、避難情報の説明	46～53
手順２－４ 一人ひとりの避難の手順を学ぶ	①安全な避難場所と避難経路の検討 ②避難に必要な時間等の検討 ③安全に避難するためのタイミングを考える	54～61
手順２－５ 災害・避難カードを作る	①災害・避難カードの清書 ・手順２－２～４を踏まえ、参加者自らが清書	62～63
手順２－６ 地域内での普及・活用方法を考える	①普及・活用方法に関する意見交換 ・家族や地域に普及する方法や課題を議論	64～65

2. 主催者による事前準備

手順1－1　地域の特徴を知る

≪背景と目的≫

●前掲の「住民が学ぶ３つのポイント」に基づき一人ひとりが避難の手順を決めるためには、地域ごとの防災に関する取り決めや計画等が前提となります。

●被災履歴やハザードマップ、地域の防災に関する取組み、コミュニティの状況など、様々な情報を収集整理し、取組みのプログラムや一人ひとりの避難手順決定に反映します。

●地域の課題があれば当取組みのなかでも取り上げ、解決に努めます。

≪実施内容≫

①地域情報の収集整理

・近年の被災履歴や被害状況の収集、ハザードマップ、市町村史等より、地域に潜む水害や土砂災害の危険性を理解し、マップなど、取組みの資料に反映します。

・自治会や自主防災組織の体制、運用のルール、防災に関する地域の取決め、班や組などのまとまりを確認します。必要であれば修正し、避難手順に反映されるよう促します。

・地域コミュニティの活動状況（活動頻度、活動分野、参加状況、住民間や地域間の付き合いの深さ、等）を把握します。また、運動会や夏祭り、餅つきなどの恒例行事の開催状況を確認することで、地域イベントと併催する等、より参加しやすい取組の環境を考えます。

・その他、地域が抱える課題を話し合いの中で把握し、取組みの中で解決できるよう計画に反映します。

≪準備するもの≫

・開催地域の地図（白図：住宅地図程度の縮尺が望ましい）

・土砂災害や浸水害のハザードマップ

（市町村ホームページ（以下 HP）や県 HP「ぎふ山と川の危険箇所マップ」参照）

・災害履歴に関する記録や文献情報

（報道記録や市町村史など参照）

・自治会等の体制表や要綱・要領

・防災に関する取り決め資料

・イベントカレンダー

など

手順1－2　地域の災害･避難カードの様式を作る

≪目的≫

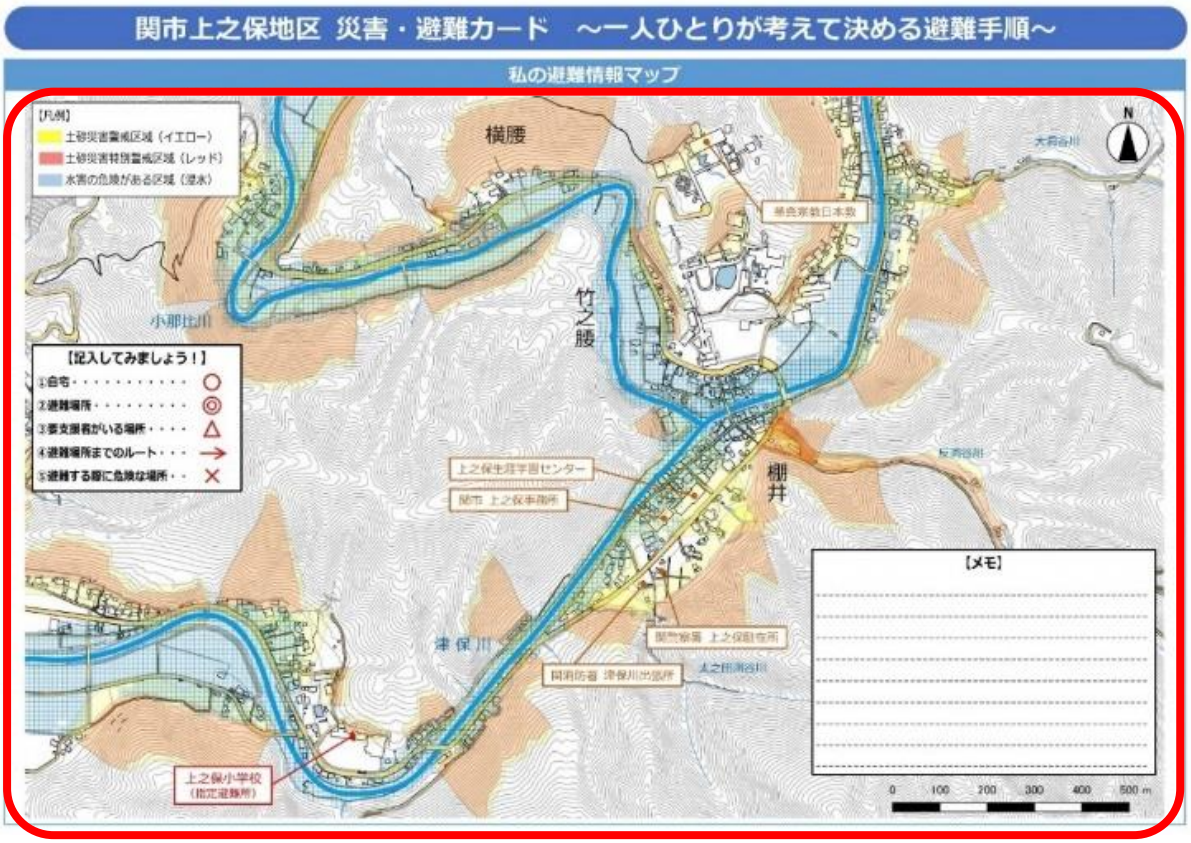
●本手引きの様式は県内で広く利用可能とするため一般化しています。
●参加者が深い学びを得やすいように、一般化した様式を地域の実情にあうように修正することが必要です。
●住民一人ひとりが考えやすいように災害・避難カードの様式を修正します。

≪実施内容≫

①ひな型ファイルの入手

●各地域で災害・避難カードを作成しやすいように、カードのひな型を準備しました。このひな型に、地域ごとの情報を一部入れ替えることで、その地域版のカードの様式を作ることができます。

岐阜県の HP から、災害・避難カードのひな型をダウンロードします。
該当ページの URL：
『http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/bosai/bosai-taisaku/11115/saigaihinancards.html』
ファイル名「hinancard.doc」（Word ファイル）



当ファイルの内容です。以下に修正手順を示します。

②地図データ等の作成・更新

「私の避難情報マップ」の地図を、各地区の内容に差し替えます。

＜手順＞

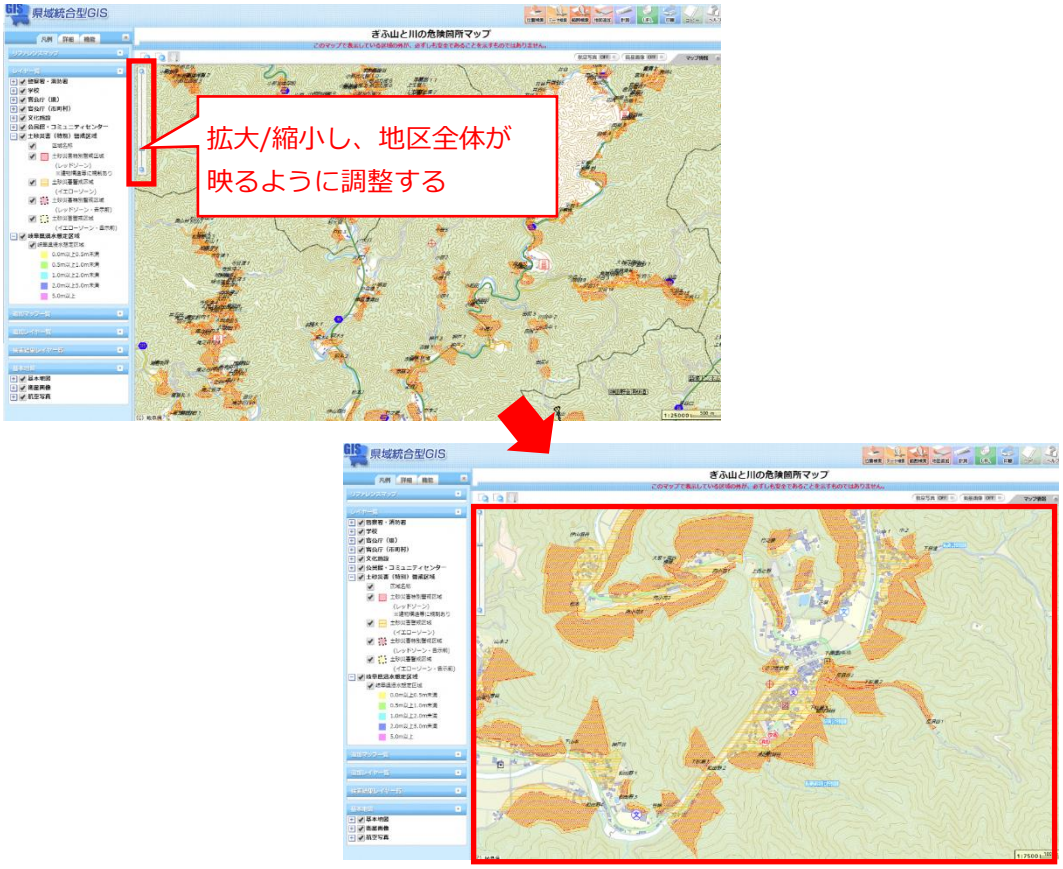
（１）岐阜県の HP から入手したひな形を準備します。

（２）インターネットの検索画面で「ぎふ山と川の危険箇所マップ」を入力して、「ぎふ山と川の危険箇所マップ」HP を開きます。

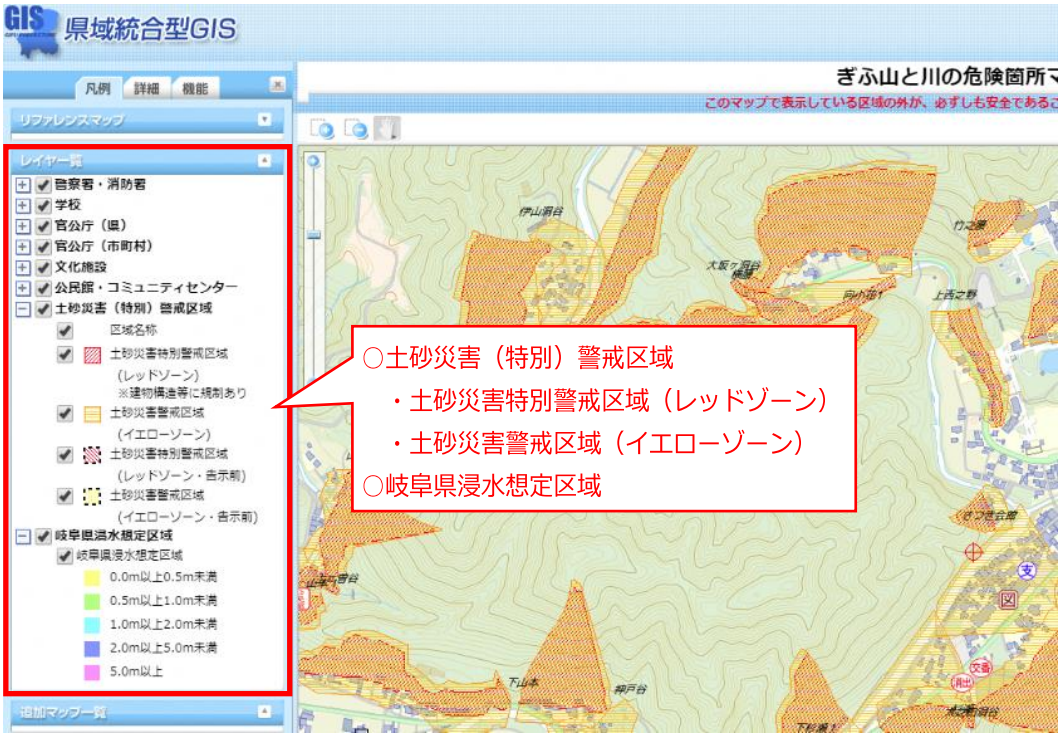
「ぎふ山と川の危険箇所マップ」⇒『http://kikenmap.gifugis.jp/』

（３）地区の郵便番号を入力し、「山と川の危険箇所」ボタンを押します。

（４）地区周辺の「山と川の危険箇所マップ」を開き、地区全体が映るように範囲を調整します（画像は関市上之保地区）。

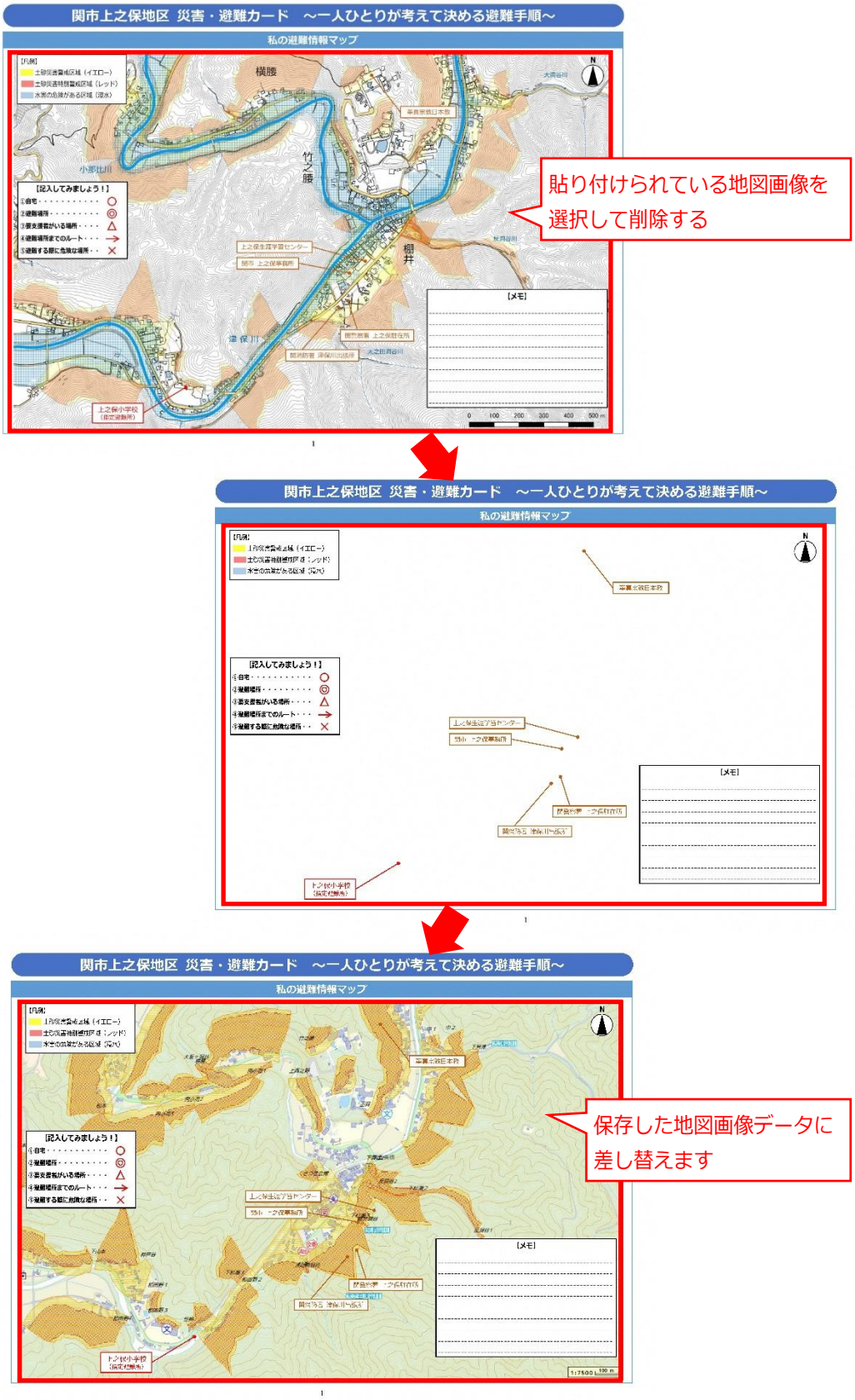


（５）設定した範囲を表示出来たら、左の「レイヤー一覧」で次の項目にチェック（✓）が入っているかを確認します。



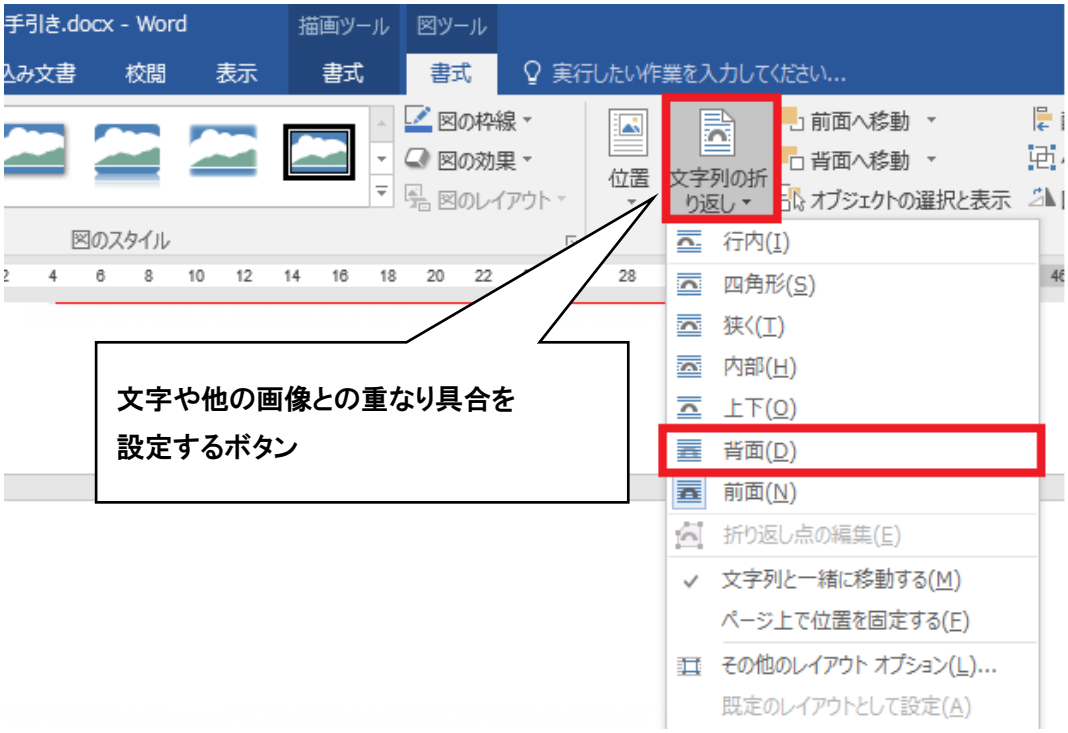
（６）設定した範囲を表示出来たら、右上の「コピー」アイコンを押して、画像データ（PNG データ）を保存します。

（７）岐阜県が作成した災害・避難カードの「私の避難情報マップ」について、貼り付けられている画像（ここでは関市上之保地区の地区図）を削除し、保存した画像データに差し替え、大きさを調整します。

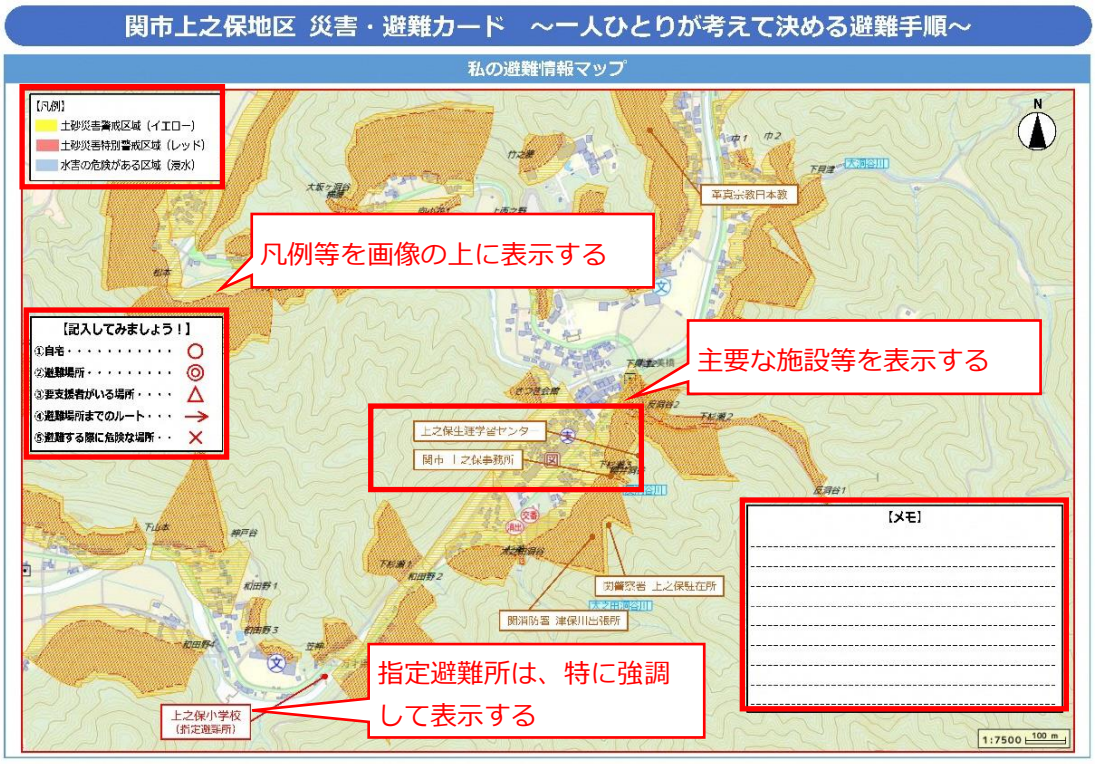


（８）凡例、吹き出し、コメントボックスなどを操作するために、差し替えた地図画像データに対して以下の手順を行います。

・ソフトのツールバー「図ツール　書式」を選び、地図データが背面に表示されるように設定する。



（９）凡例等を地図上に記して完成です。



③危険情報を入手する方法の修正

水位情報、避難情報及びその他の情報の入手先を、地域の内容に即して修正します。

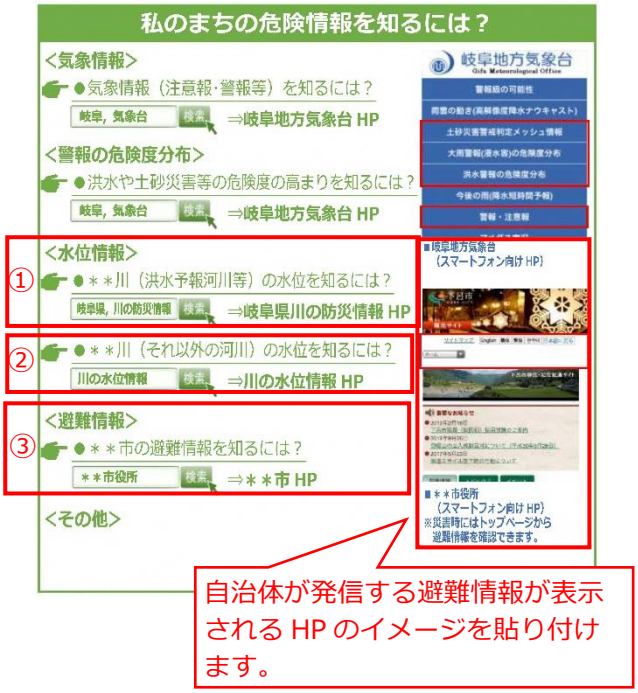
＜水位情報について＞

・「岐阜県川の防災情報」HP と「川の水位情報」HP から、地区を流れる河川名を確認します。また、その河川の氾濫に影響する上流部の河川名も確認します。

・「岐阜県川の防災情報」HP にて確認できる河川名があれば、①に記入します。

・「川の水位情報」HP にて確認できる河川名があれば、②に記入します。

・該当する河川が無ければ削除します。



自治体が発信する避難情報が表示される HP のイメージを貼り付けます。

＜避難情報について＞

・自治体が発信･提供している避難情報を取得できるホームページを確認し、③に名前を記載します。また、緊急時にどこに表示されるかを調べて、ホームページの画像を貼り付け、表示箇所を明示します。

・上記の情報以外に、特に注意すべき情報があれば、その内容と入手場所を＜その他＞に記載します。

＜確認するホームページ＞

・岐阜地方気象台	https://www.jma-net.go.jp/gifu/
・ぎふ山と川の危険箇所マップ	http://kikenmap.gifugis.jp/
・岐阜県川の防災情報	http://www.kasen.pref.gifu.lg.jp/
・川の水位情報	https://k.river.go.jp/
・自治体	個別に自治体 HP を検索してください

手順1－3　取組みの内容を決める

≪背景と目的≫

- ●一人ひとりが避難の手順を決める過程で、避難に関する意識を変えると共に、命の守り方を理解することが重要です。
- ●地域の状況に合わせて、3つのポイントを効果的に学ぶための手法とその組み合わせを選択し、取組みのプログラムを決定します。
- ●決定したプログラム内容に合わせて勉強会の回数、開催場所や時間を決めます。

≪実施内容≫

①3つのポイントを学ぶための手法の検討

・地域の状況に合わせて、３つのポイントを学ぶための手法を決定します。

・手法の効果的な組み合わせを検討し、取組の回数、時間を決め、各回のプログラム（内容と時間割）を検討します。

・手順２－２「地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ」では、実施可能な時間や、地域の状況などに従い、５つの手法（P.21～45 参照）から選択します。

・P.17 に「取組のプログラム内容の例」を示しますので参考にしてください。

②開催日程、時間、場所の検討

・参加者が集まりやすい曜日、時間を想定し日程を決定します。もともと設定されていた地域の会合やイベントなどに合わせて開催することも考えられます。

・開催場所を決めます。参加者の想定人数に応じた広さの会議室等で、参加者が集まりやすい場所であることや、駐車場が十分に確保できるかなどを考慮します。

・ワークショップを行うことを想定し、参加人数に対応した活動しやすい広さであることや、テーブルや椅子などの備品が用意できることも重要です。

・参加者への案内の作成、周知の方法を検討します。

③その他

・あいさつ、司会進行、会場設営、資料作成等の担当者を決めます。

・参加者配布資料、模造紙など、資料等の準備を進める担当者を決めます。

・プログラムの内容に応じて、防災に係る行政機関や学識者等への依頼を行います。

・回覧板やチラシ、会合などを利用して、参加者への周知を行います。

≪準備するもの≫

・開催地域の地図（白図）

・ハザードマップ

・地域の防災活動の組織図、名簿

・地域の活動(自治会活動、防災活動、学校との連携行事、祭、地区清掃、サロン、学習会、交流会など)のスケジュールが確認できるもの、あるいは公民館や体育館の利用実績

など

【参考】取組のプログラム内容の例

1回コース（3．0時間×1回）

● １回の勉強会でカードを作成する例です。地域組織の会合や、イベントに合わせて実施するなど、様々な機会を活用することが考えられます。

	手順	内容	時間	掲載頁
第１回	**手順２－１** 取組みの目的を理解する	①主催者代表によるあいさつ ②災害・避難カードを作成する取組みの概要説明	１５分	20
	手順２－２ 地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ	④自宅周辺の地図を用いた災害リスクの確認	５０分	35~38
	手順２－３ 災害の危険を回避するための情報を学ぶ	①資料を使った気象情報、警報の危険度分布、水位情報、避難情報の説明	２５分	46~53
	手順２－４ 一人ひとりの避難の手順を学ぶ	①安全な避難場所と避難経路の検討 ②避難に必要な時間等の検討 ③安全に避難するためのタイミングを考える	６０分	54~61
	手順２－５ 災害・避難カードを作る	①災害・避難カードの清書	１０分	62~63
	手順２－６ 地域内での普及・活用方法を考える	①普及・活用方法に関する意見交換	２０分	64~65

2回コース（2．5時間×2回）

● ２回の勉強会でカードを作成する例です。１回目で学んだことを２回目までの間で、家族や地域で話し合ったり、新たな意識を持って地域を見直す効果が期待できます。

	手順	内容	時間	掲載頁
第１回	**手順２－１** 取組みの目的を理解する	①主催者代表によるあいさつ ②災害・避難カードを作成する取組みの概要説明	２０分	20
	手順２－２ 地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ	【いずれかを選択】 ①座学による講義 ②災害時のふり返り（被災履歴がある場合） ③災害発生のケーススタディ	６０分	21~34
	手順２－２ 地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ	④自宅周辺の地図を用いた災害リスクの確認	６５分	35~38
		２回目の概要説明等	５分	
第２回		１回目のふり返り等	１５分	
	手順２－３ 災害の危険を回避するための情報を学ぶ	①資料を使った気象情報、警報の危険度分布、水位情報、避難情報の説明	３５分	46~53
	手順２－４ 一人ひとりの避難の手順を学ぶ	①安全な避難場所と避難経路の検討 ②避難に必要な時間等の検討 ③安全に避難するためのタイミングを考える	６０分	54~61
	手順２－５ 災害・避難カードを作る	①災害・避難カードの清書	１０分	62~63
	手順２－６ 地域内での普及・活用方法を考える	①普及・活用方法に関する意見交換	３０分	64~65

3回コース（2．5時間×3回）

● ３回の勉強会でカードを作成する例です。１回目に学んだことをもとに、２回目に「まち歩き」を実施することで、地域の状況を自分の目で具体的に確認することができます。１、２回目で学んだことを家族や地域で話し合い、それをもとに３回目に災害・避難カードを作成することができます。

	手順	内容	時間	掲載頁
第１回	**手順２－１** 取組みの目的を理解する	①主催者代表によるあいさつ ②災害・避難カードを作成する取組みの概要説明	２０分	20
	手順２－２ 地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ	①座学による講義	６０分	21~22
	手順２－２ 地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ	【いずれかを選択】 ②災害時のふり返り（被災履歴がある場合） ③災害発生のケーススタディ	６５分	23~34
		２回目の概要説明等	５分	
第２回		１日目のふり返り等	１５分	
	手順２－２ 地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ	⑤まち歩き（地域に潜む危険を知る）	１３０分	39~45
		３回目の概要説明等	５分	
第３回		１、２回日目のふりかえり等	１５分	
	手順２－３ 災害の危険を回避するための情報を学ぶ	①資料を使った気象情報、警報の危険度分布、水位情報、避難情報の説明	３５分	46~53
	手順２－４ 一人ひとりの避難の手順を学ぶ	①安全な避難場所と避難経路の検討 ②避難に必要な時間等の検討 ③安全に避難するためのタイミングを考える	６０分	54~61
	手順２－５ 災害・避難カードを作る	①災害・避難カードの清書	１０分	62~63
	手順２－６ 地域内での普及・活用方法を考える	①普及・活用方法に関する意見交換	３０分	64~65

3. 地域住民による勉強会

手順2－1　取組みの目的を理解する

≪背景と目的≫

●避難に関する意識を変えると共に、命の守り方を理解してもらうため、一連の取り組みの概要と目的を説明します。 ●住民一人ひとりが避難の当事者であること、自分の身は自分で守るべきであること等、取組の趣旨を理解してもらいます。

≪実施内容≫

①主催者代表によるあいさつ・・・・5分程度

・自治会長や自主防災会の代表、自治体担当者などが、地域の課題にふれ、ともに考えていけるように挨拶の中で呼びかけます。

②災害・避難カードを作成する取組みの概要説明・・・・10分程度

・災害・避難カード作成までの手順と、日程について説明を行います。

・災害・避難カードを作成する以下の取組趣旨を理解してもらいます。

１）行政は、避難情報を適切に出せるよう努力しているが、限界があること。

２）避難行動の主体は住民であり、住民一人ひとりが避難の手順について考えることが、重要であること。

・その他、本取組みを行う理由がある場合は、説明します。

⇒資料は、参考資料「モデル事業の実施事例　資料2　本日の勉強会について」参照（P.76～88）

手順2－2　地域における災害リスクを知り、早めの避難の重要性を学ぶ

≪背景と目的≫

●地域において、過去にどのような災害が起きているのか、大雨の時に、浸水や土砂災害が発生する可能性の有無、可能性の高い場所を知ることが重要です。
●その上で、災害に遭う前に早めの避難が重要であることを学びます。
●被災履歴がある地域では、被災時にどのようなことが起きていたかをふりかえり、避難のポイントや警戒すべき現象を学びます。
●ハザードマップ等を用いて、大雨に関してどのような災害リスクがあるのかを学びます。
●大雨の中で避難する際に想定される危険性を認識し、早めの避難が必要であることを学びます。

≪実施内容≫

①座学による講義･･･60分程度

＜ねらい＞

●地域における災害のリスクや、必要な情報の入手による早めの避難行動を取ることの重要性について、講師を招いて講義を開催します。

＜手順＞

●講師の選定

・座学の講師には、下記の項目について精通していることが望まれます。

〔必須〕
・ハザードマップの入手方法
・ハザードマップから得られる情報の意味合い
（レッドゾーン、イエローゾーン、浸水想定区域についてそれぞれが想定している災害現象や特徴、被害規模、発生確率、想定する現象など）
・ハザードマップの適用範囲（想定外の事象、問題）
・自主的な避難行動の重要性
・避難行動の一連の手順
・指定緊急避難場所、指定避難所、自主避難所の定義と用途・使い分け
・避難所の開設手順
・避難所に必要な要件(想定する災害に対する安全性、居住性、収容能力など)

〔可能な限り〕

・市町村や消防・警察など、公的機関による避難誘導とその限界ならびに自分の身は自分で守る必要性

・台風や積乱雲、線状降水帯の発生メカニズムなど（気象学など）

・水害の特徴、メカニズム、対策など（水理学・河川工学など）

・土砂災害の特徴、メカニズム、対策など（地質学、地盤工学、砂防工学など）

・防災、気象、避難に関する法律

・気象情報・避難情報(防災事業のソフト対策)の特徴と限界

・治山治水事業(防災事業のハード対策)の特徴と限界

●話す内容のポイント

・講義の内容としては、以下のポイントを押さえる必要があります。

・避難の必要性

・自宅や外出先、避難途中で被災するシナリオ

・避難失敗のシナリオ・特徴

・避難成功に必要な条件

・避難先に求められる要件

・避難に必要な気象情報・避難情報の特徴と限界、入手方法、使い方など

・避難完了までの一連の手順と所要時間(個人編、地域編、要支援者支援編)

・避難訓練の方法と注意点など

②災害時のふり返り(被災履歴がある場合)･･･50～60分程度

<ねらい>

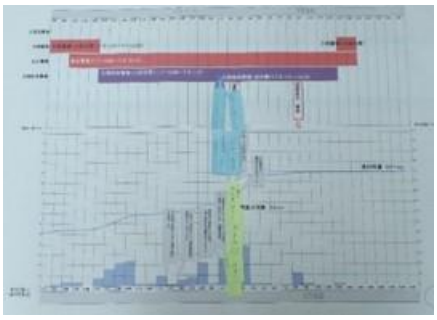
●被災地域では、避難に関する情報が数多く発表されていたにもかかわらず、多くの方が避難開始の判断ができず、水や流出土砂で覆われている道路を通って脱出したり、自宅内での垂直避難を余儀なくされています。

●近年被災したことのある地域では、被災当時、状況が悪化していくなかで自分がとった行動を振り返っていただき、気象や避難に関する各種情報を収集し、災害から身を守るために使いこなしていたかを自己評価します。

●これらの振り返りをとおして、早めに避難を判断し、行動することの重要性を学びます。

<手順>

●近年起きた災害における具体的な被害状況を客観的にふりかえり、当時のひっ迫した状況を再現します。



（１）災害時のふり返り

①水害や土砂災害など、発生した事象のふり返り

②自分が取った行動のふり返り

（２）避難できたかどうかのふり返り

③いつ避難したのかや避難の成否の確認

（３）長い時間軸で見た避難行動（長雨の場合）

④災害発生時に行った判断や行動と当時の気象情報や避難情報との時間的前後関係の確認

（４）取ると良かったと思う避難行動の気付き

⑤避難するなかで気づいたこと

⑥望ましい判断・行動とタイミング

（５）意見交換

⑦意見交換

＜準備するもの＞

使い方	準備するもの	規格	数量	備考
テーブル配布	地区全体図	A1	5 枚	資料作成方法参照
	短期タイムライン	A1	5 枚	資料作成方法参照
	長期タイムライン	A1 張り合せ	1 枚	資料作成方法参照
	模造紙	A1	5 枚	
	付箋①（3 色）	75×75mm	適量	
	付箋②（2 色）	75×25mm	適量	
	ボールペン	－	人数分	
	サインペン			
	カラーマーカー	－	各テーブル分	

※参加者 30 名（6 名×5 グループを想定）

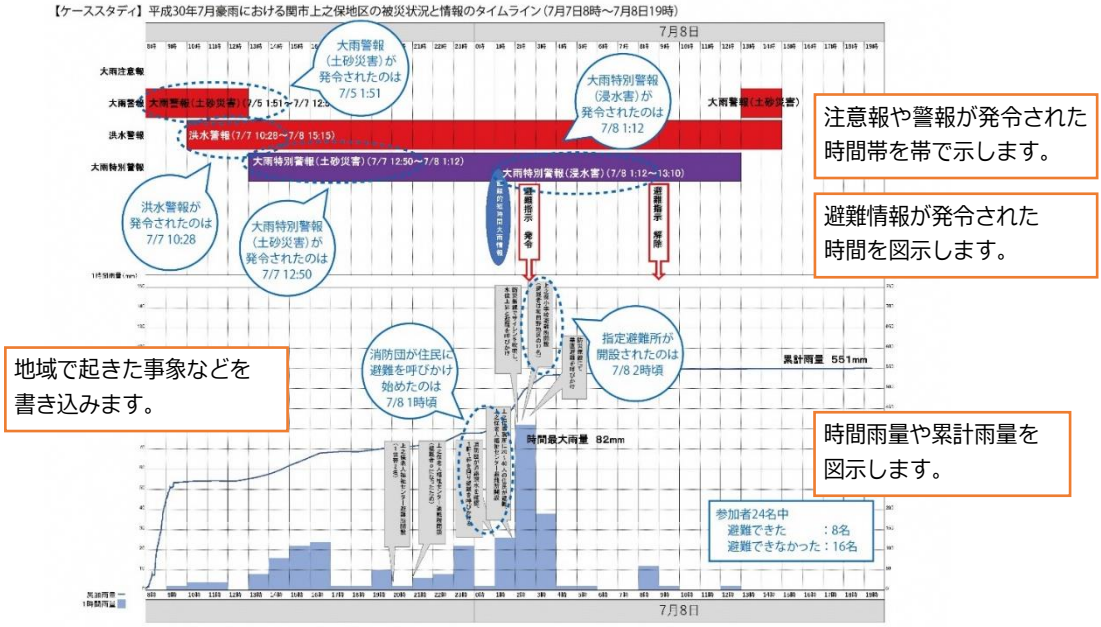
＜資料作成方法＞

【地区全体図】

●本手引きの P.8「手順１－２　地域の災害･避難カードの様式を作る」を参考に、地区全体図を作成します。

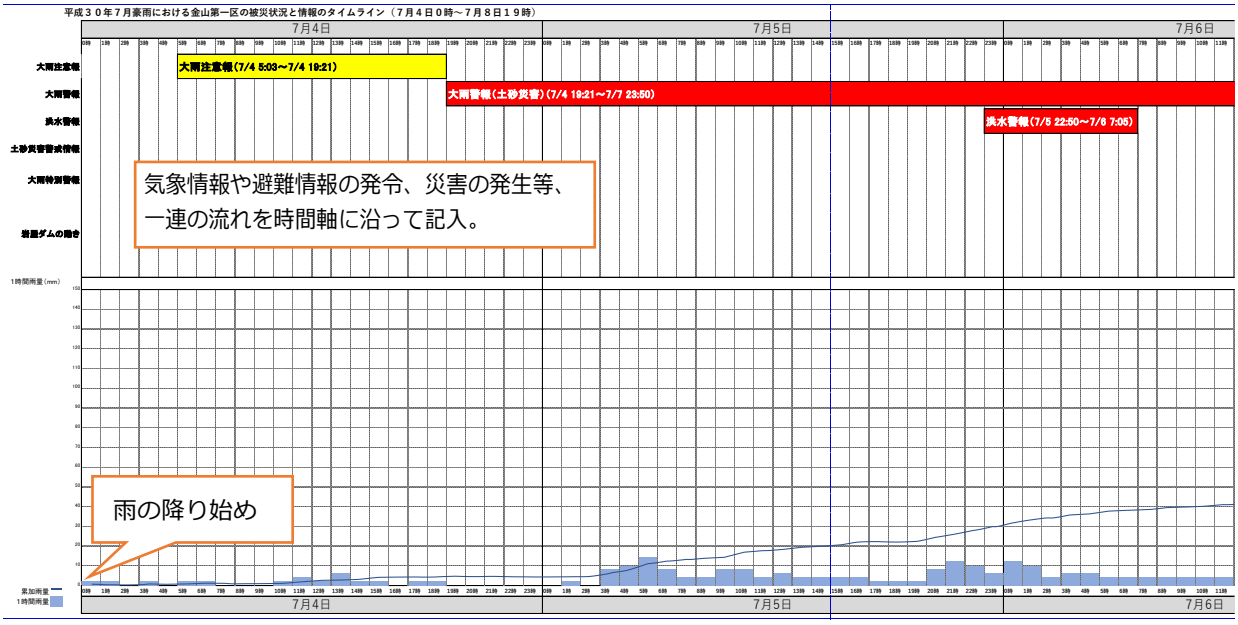
【短期タイムライン】

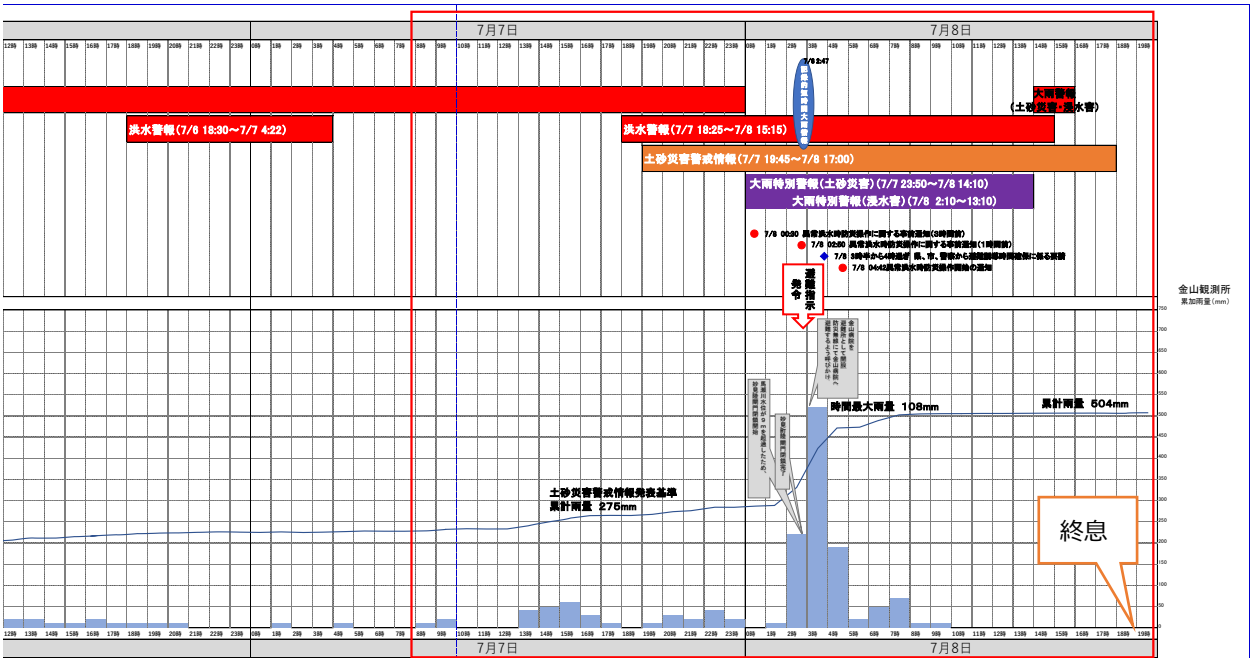
●下のイメージを参考に、災害の危険性が最も高まった時間帯を抜き出し、注意報や警報の発令状況、時間雨量及び累積雨量、地域で起きた事象をまとめましょう。



【長期タイムライン】

●下のイメージを参考に、一連の降雨の始まりや大雨が予測される情報が現れ始めた時点から、災害の危険性が最も高まった時間帯を経て終息するまでの間で、注意報や警報等、気象情報や避難情報の発令、時間雨量及び累積雨量、発生した災害の事象等を時間軸に沿ってまとめましょう。



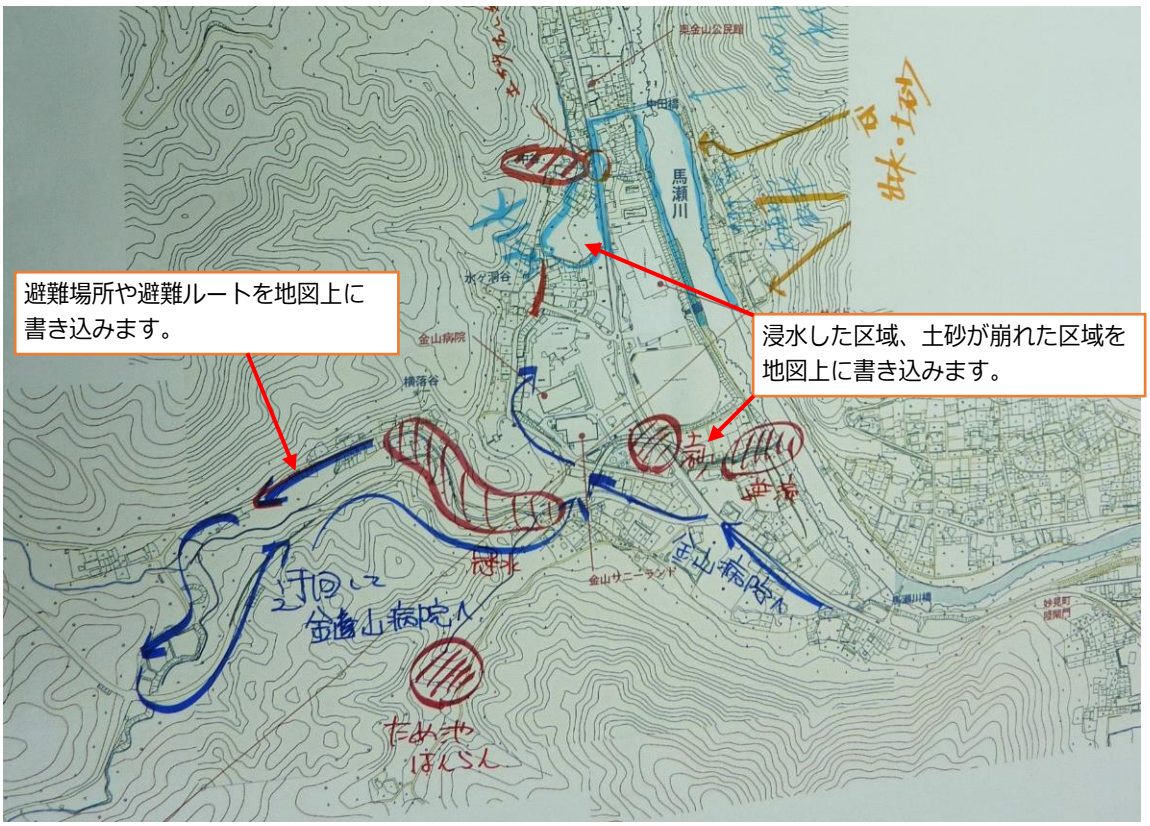


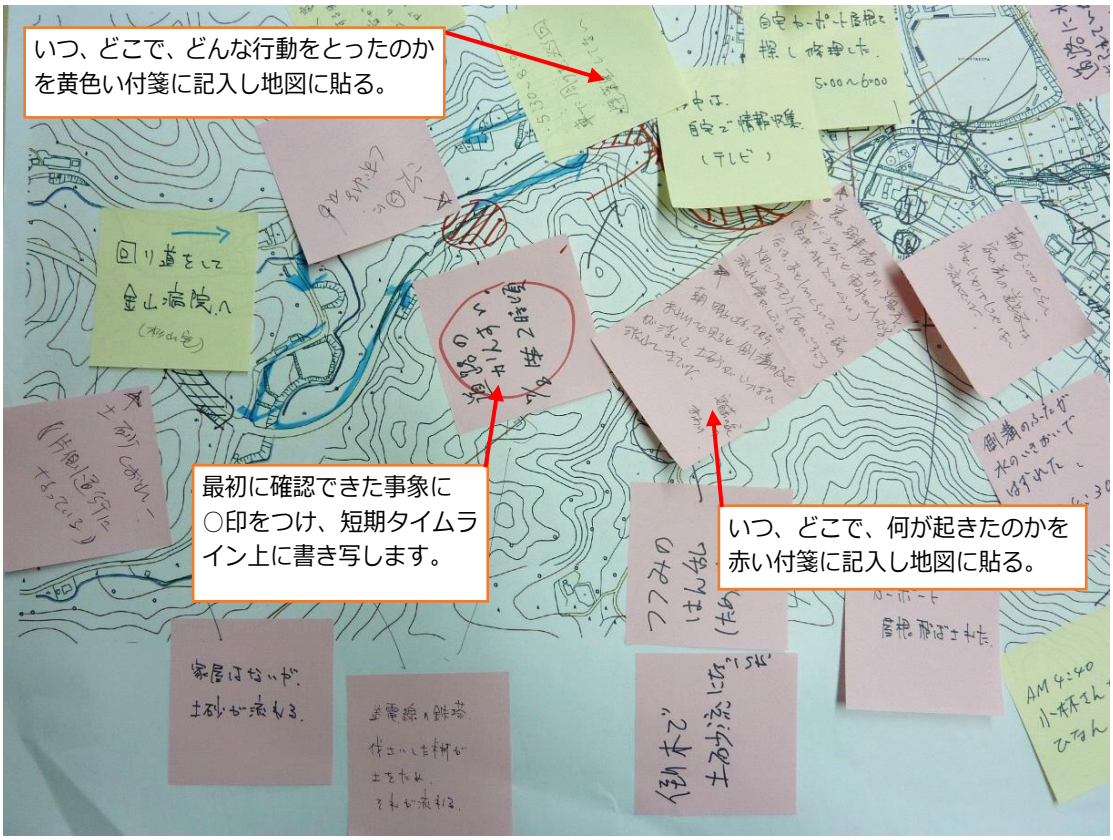
この部分が短期タイムラインになります。

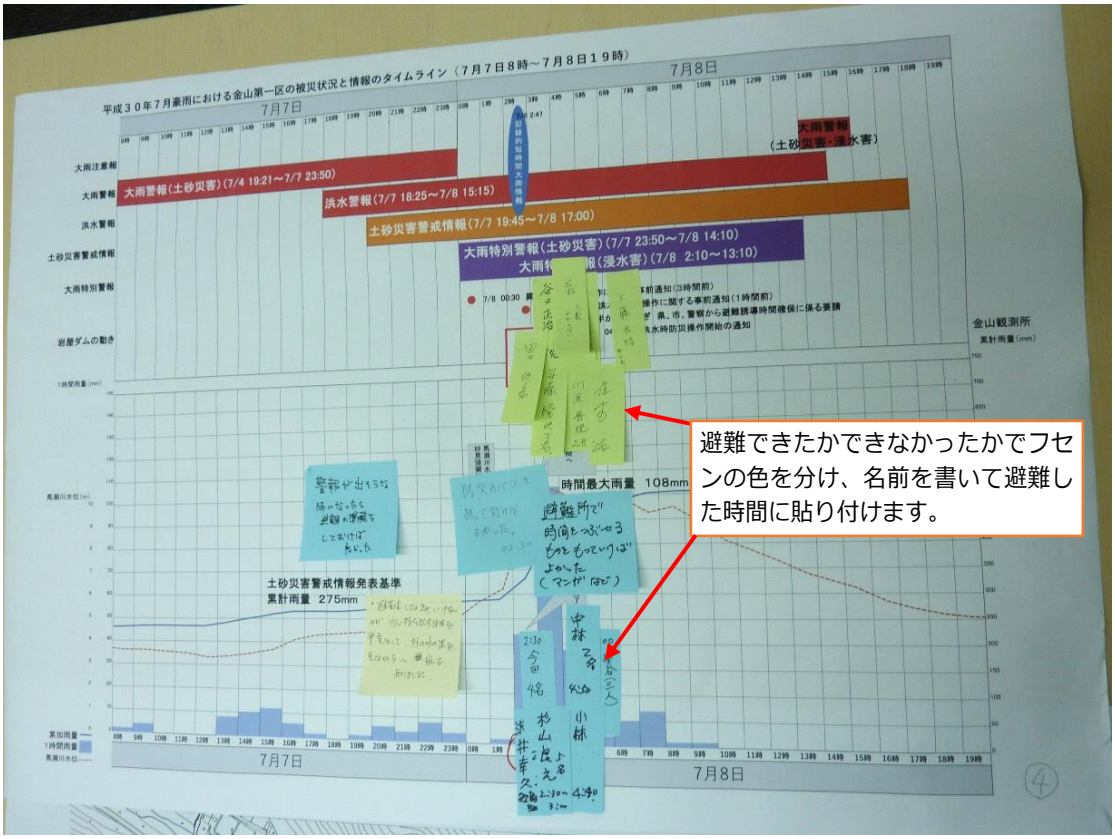
<進行イメージ>

進行	内容	備考
(1)災害時のふり返り	①発生した事象のふり返り ・災害発生時を思い出し、いつ、どこで、どういった事象が発生したかを、赤い付箋に書く（自分が確認した事象を記入） ・書いた付箋を地区全体図に貼る ・浸水したエリア、土砂が流れてきたエリアなど、発生した事象が広範囲に及ぶ場合は、マジックで地図上に書き込む **<ポイント>** ・災害発生時、どこに、誰といたのか ・浸水や土砂流出の状況はどうだったか ・建物や車など、被害の状況はどうだったか ・その際、時間も一緒に思い出してみましょう ②取った行動のふり返り ・災害が発生するなか、自身がいつ、どこで、どんな行動を取ったのかを、黄色い付箋に書く ・書き出した付箋を模造紙に貼る **<ポイント>** ・何時何分に、どこへ避難（水平避難か垂直避難か）したかを思い出してみましょう ・その時、身の危険を感じたかどうかを思い出してみましょう	①②で使う付箋は書き出しやすいよう 75×75mm が良い。また、発生／確認した事象と取った行動で付箋の色を変えておくと整理しやすい <①の例> 7月8日　23:10 家の前の道に土砂が流出していた <②の例> 7月8日　23:50 ●●小学校体育館へ子ども2人と避難した
(2)避難できたかどうかのふり返り	③一番最初に発生した事象の確認 ・①で書き出した付箋を見直し、一番最初に確認された事象の付箋に○印をつける ・○印をつけた付箋の内容を、短期タイムライン上の該当する時間に書き写す **<ポイント>** ・災害と認識できる事象がいつ始まっていたのかを短期タイムライン上で明らかにします。 ④いつ避難したのかや避難の成否の確認 ・短期タイムライン上で避難行動をとった時間に付箋を貼る ・避難できた、できなかったで付箋の色を分け、名前を書いてタイムラインに貼り出す **<ポイント>** ・安全な避難ができていたか、危機一髪の脱出になっていなかったかを考えてみましょう	使用する付箋は 75×25mm が良い。複数の参加者の行動が短い時間に集中すると考えられるため

(3)長い時間軸で見た避難行動（長雨の場合）	⑤長い時間軸で見た避難行動（長雨の場合） ・短期タイムラインが長期タイムラインのほんの一部であることを示す。 ・気象情報や避難情報が前々から出されていることを確認する。 **<ポイント>** ・各種情報に関心を持ったのかどうか。なぜ早めに避難行動をとらなかったのか考えましょう。	付箋は①②と違う色にすると整理しやすい
(4)取ると良かったと思う避難行動の気付き	⑥取ると良かったと思う避難行動の気付き ・当時、なぜ自分がその行動をとったのか、どう行動すれば良かったのかの気付きを付箋に書く ・書いた付箋を地図上に貼る **<ポイント>** ・他の参加者の行動も見て、どういう行動を取ると良かったか、考えてみましょう	
(5)意見交換	⑦意見交換 ・参加者が多く、いくつかのグループに分かれて実施した場合は、各グループでどういった話し合いがされたか、意見交換を行う **<ポイント>** ・各グループ間で意見や気付きを共有しましょう	意見交換の方法は、グループ毎に発表する形式でも良いし、各グループに代表者が残り、それ以外の人は他のグループを見に行き、各グループに残った代表者が内容を説明する形式でも良い




いつ、どこで、どんな行動をとったのか
を黄色い付箋に記入し地図に貼る。
最初に確認できた事象に
○印をつけ、短期タイムライン上に書き写します。
いつ、どこで、何が起きたのかを
赤い付箋に記入し地図に貼る。


平成３０年７月豪雨における金山第一区の被災状況と情報のタイムライン（７月７日８時～７月８日１９時）
7月7日
7月8日
大雨注意報
大雨警報
洪水警報
土砂災害警戒情報
大雨特別警報
大雨警報（土砂災害）(7/4 19:21～7/7 23:50)
洪水警報（7/7 18:25～7/8 15:15）
土砂災害警戒情報（7/7 19:45～7/8 17:00）
大雨特別警報（土砂災害）(7/7 23:50～7/8 14:10)
大雨特別警報（浸水害）(7/8 2:10～13:10)
大雨警報
（土砂災害・浸水害）
金山観測所
累計雨量（mm）
時間最大雨量 108mm
土砂災害警戒情報発表基準
累計雨量 275mm
避難できたかできなかったかでフセンの色を分け、名前を書いて避難した時間に貼り付けます。

③ 災害発生のケーススタディ･･･60分程度

＜ねらい＞

●近年被災したことのない地域では、自らの経験のもと、早めの避難や事前の備えの重要性を理解することができません。

●そのため、モデル事業をとおして整理した事例をもとに、災害の危険を回避するための避難情報・防災情報の発表状況（内容・タイミングなど）、警戒が必要な災害の兆候、望ましい住民の判断と行動（内容・タイミングなど）等を確認し、災害があった地域と同様に、早目の避難の必要性と具体的手順を学びます。

＜手順＞

（１）災害発生後となってしまった避難行動

↓

大雨特別警報が発令され、短時間で大雨が降り災害が発生するなかで、住民が取った避難事例を時間軸に沿って確認し、自分ならどう行動したか考える。

（２）早めの避難行動を取るためには

↓

災害が発生し住民が避難行動を取る何日も前から気象、避難など各種情報が発令されていたことを見てどうしたら良かったのか考える。

（３）意見交換

実際の住民の気づきと自分たちの気づきを比べて共有する。

※モデル事業（関市上之保地区及び下呂市金山地区）の例では、災害発生後の避難となった結果、避難行動自体が困難となったケースを取り上げています。

<準備するもの>

使い方	準備するもの	規格	数量	備考
テーブル配布	短期タイムライン	A1	5 枚	県 HP より入手
	付箋	75×75mm	適量	
	筆記具	–	適量	
会場掲示	長期タイムライン	A0	1 枚	県 HP より入手

※参加者 30 名（6 名×5 グループを想定）

<資料入手方法>

【短期タイムライン、長期タイムライン】

●関市及び下呂市をモデルに作成した短期タイムラインと長期タイムラインを準備しましたので、いずれかを選択し使用してください。

「関市上之保地区」…浸水害が発生するなか避難した地域（P.32 参照）

「下呂市金山地区」…土砂災害が発生するなか避難した地域（P.33 参照）

●岐阜県の HP から、短期タイムライン、長期タイムラインをダウンロードします。

該当ページの URL：

『http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/bosai/bosai-taisaku/11115/saigaihinancards.html』

関市版……ファイル名「studyseki-short.pdf」（短期タイムライン）

「studyseki-long.pdf」（長期タイムライン）

下呂市版…ファイル名「studygero-short.pdf」（短期タイムライン）

「studygero-long.pdf」（長期タイムライン）

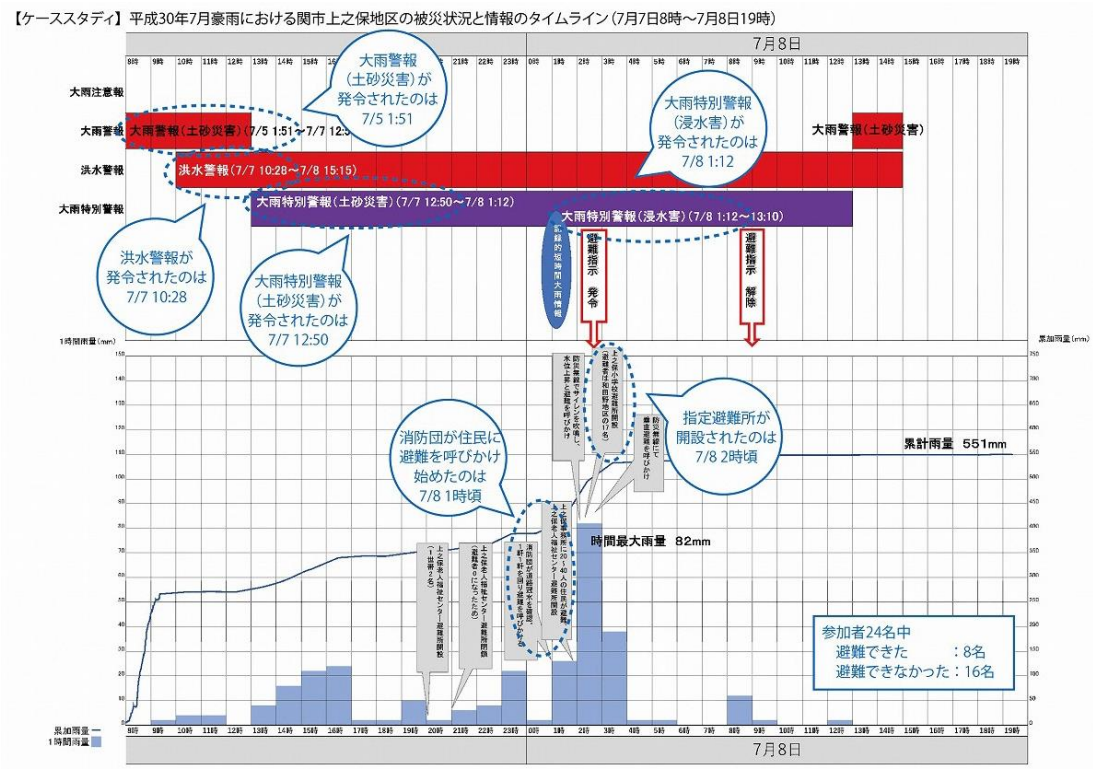
<進行イメージ>

進行	内容	備考
(1)災害発生後となってしまった避難行動	①気象情報発令のタイミングや降雨状況の確認 ・短期タイムラインを見ながら、時間雨量や累計雨量、気象情報の発令された時期を確認する ②避難指示の発令、指定避難所の開設のタイミングの確認 ・短期タイムラインを見ながら、自治体から避難指示が発令された時期、指定避難所が開設された時期を確認する **<ポイント>** ・いつ避難指示が出たのか、いつ避難所が開設されたのか、吹き出しを見て確認しましょう ③災害の事象が発生した状況等の確認 ・陸閘の閉鎖、消防団や自治会の声掛けなどの行動、災害の事象発生などを時間に沿って確認する	自治体や住民が避難行動を取り始めたタイミングでは、既に危険な状況にあったことを参加者に知ってもらう また、上記タイミングが深夜であったことに気づいてもらい、安全に避難するためにはいつ頃に避難すべきかを考えてもらう

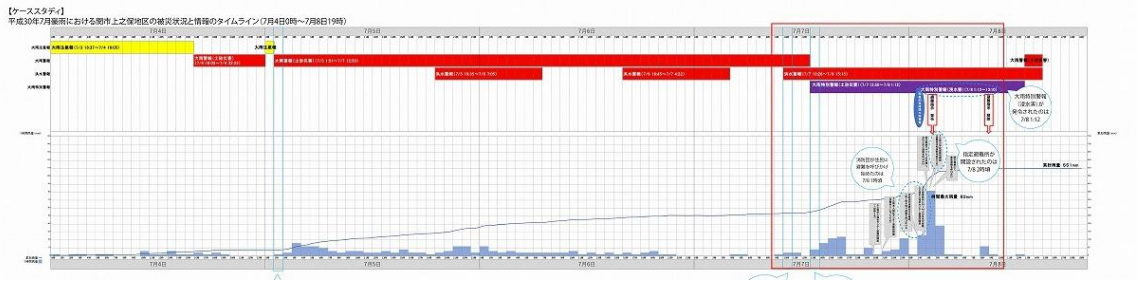
	④住民の避難行動や災害が発生したタイミングの確認 ・気象や避難など各種情報が出され、大雨が降り、災害が発生するなか、住民がどのようなタイミングで避難したのか確認する。 ・また、どれだけの人が避難できなかったのかを確認し、避難の困難度合いを計る。 **<ポイント>** ・住民はいつ避難所へ避難したのか、その時、どんな気象情報が発令されていて、雨はどんな降り方をしていたのか確認しましょう	
(2)早めの避難行動をとるためには	⑤気象情報の発令タイミングの確認 ・長期タイムラインを見ながら、災害の危険を回避するために重要な気象情報がいつの段階から発令されていたのかを確認する。 ・避難のタイミングが良かったのかどうか、自分なら、いつ何をきっかけにどのように避難するのか考える。 ・考えを付箋に書き、短期タイムラインに貼る。 **<ポイント>** ・長期タイムラインを見て、気象情報がいつから発令されていたか確認しましょう ・もっと早くに避難することができなかったか、話し合ってみましょう	かなり早い時点から様々な情報を入手することができたこと、避難行動を開始するきっかけが多くあったことを理解してもらう
(3)意見交換	⑥意見交換 ・各グループでどういった話し合いがされたか、意見交換を行う ・避難した関市及び下呂市の住民の気付きを紹介し、参加者間で共有する **<ポイント>** ・各グループでの話し合いの内容を確認し、参加者の気づきを共有しましょう ・モデル事業の参加者意見を紹介し、自分達の意見と比較することで、気づきを共有しましょう	

関市上之保地区

＜短期タイムライン＞



＜長期タイムライン＞



※関市上之保地区のケーススタディにおける説明ポイント

・災害が発生する４日前から大雨警報が、前日の 12:50 には大雨特別警報が発令されていた。午前 2 時に時間最大 82mm の大雨が降った。

・津保川が氾濫し、家屋が浸水被害を受けた。道路が川と化し、避難が困難な状況になった。「避難」ではなく「脱出」という状況であった。

・深夜、猛烈な雨が降るなか、自治会や消防団が各戸に避難を呼びかけた。

・住民が避難したのは土砂災害警戒区域内にある老人福祉センターだった。

・指定避難所は、地区から１ｋm近く離れた上之保小学校であったが、道路が冠水しており、たどり着ける状態ではなかった。

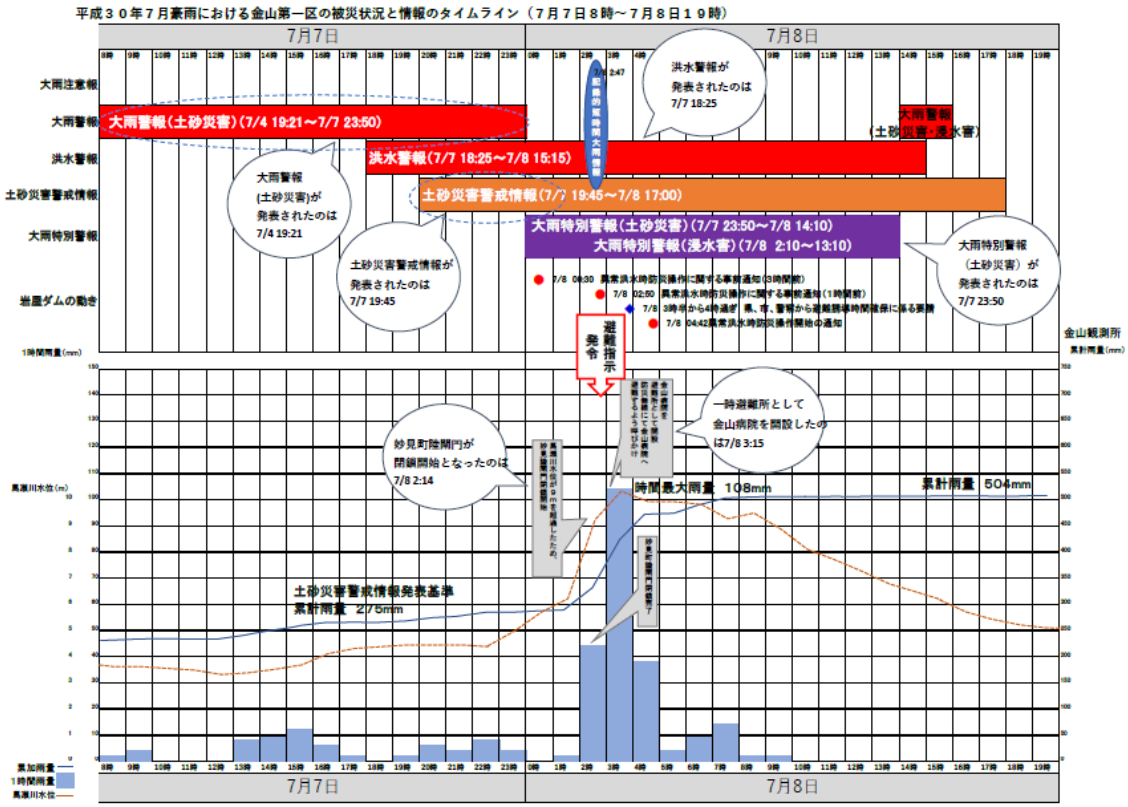
・いつ、何をタイミングにどこに避難すべきだったか、事前にどのような準備をすべきだったのかを考えてもらう。

例：明るいうちに、指定避難所である上之保小学校に避難する。

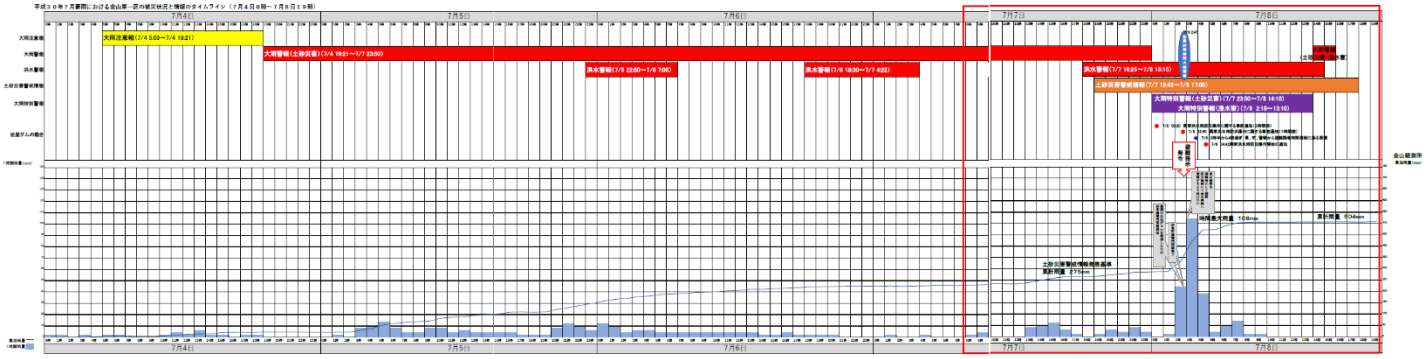
例：早い段階から気象情報等に関心を持ち、早めの避難をする。

下呂市金山地区

＜短期タイムライン＞



＜長期タイムライン＞



※下呂市金山地区のケーススタディにおける説明ポイント

・災害が発生する４日前から大雨警報が、前日の 23:50 には大雨特別警報が発令されていた。午前３時に時間最大 108mm の大雨が降った。

・馬瀬川が増水し国道 41 号につながる県道の妙見町陸閘が閉鎖されたことで集落が孤立。さらに、岩屋ダムの異常洪水時防災操作実施による馬瀬川の更なる増水の可能性が高まっていた。

・複数の谷から土砂が流出し、県道の一部が埋塞。避難経路が限られる。

・深夜、猛烈な雨が降るなか、自治会や消防団が各戸に避難を呼びかけた。

・いつ、何をタイミングにどこに避難すべきだったか、事前にどのような準備をす

べきだったのかを考えてもらう。

例：大雨警報が出た後に、明るいうちに早めの避難をしておく。

例：陸閘が締まり孤立する前に、親戚宅等に避難することも考えられる。

＜避難した関市及び下呂市の住民の気付き＞

ケーススタディにより参加者間で意見交換した後、以下の気付きを紹介することで共有する。

関市上之保地区

・急に水位が上昇するとは思わなかったし、経験もなかった。
・自宅は大丈夫との思い込みがあった。もう少し早く起きて逃げればよかった。
・早い段階から情報収集する行動を起こせばよかった。
・自宅は大丈夫と過信せず、早めの行動をとることが大切だと思う。
・早めの避難が必要。個人だけでなく上之保地区全体の意識を変えないといけない。
・早めの準備が必要。
・天気予報など、情報を早めに見る。
・体調を悪くしている人などの事を今一度考えたい
・とにかく避難は早めに自主的に避難すること。行政をあてにしすぎない。

下呂市金山地区

・スマートフォンなどで雨雲レーダーを随時確認しておけばよかった。
・避難用具を備えておけばよかった。
・警報が出る前に避難準備をしておけばよかった。
・明るいうちに自主的に避難できればよかった。
・空振りを恐れず避難することが大切。
・避難所の錠を区長が保管し、地域で開設することができるようにする。
・近所で連絡をどうとりあうか考えておく。
・子どもたちと災害や避難について話し合いを持ちたい。
・日頃、地域で話し合うことが必要。

④自宅周辺の地図を用いた災害リスクの確認･･･50～60分程度

＜ねらい＞

●ハザードマップを落とし込んだ地域の地図を使い、身近にひそむ危険を「見える化」します。

●この作業をとおして、地域における災害リスクを空間的に理解し、自宅や避難場所周辺の危険性を知り、早めの避難の必要性や、避難における安全な場所の選び方を学ぶ必要があります。

＜手順＞

（１）災害の恐ろしさを知る

①全体の流れの説明

②進行ルールの説明

③災害の映像を視聴し災害の恐ろしさを知る

（２）自宅周辺の災害リスクや避難行動の条件を知る

④自宅の場所に印をつける

⑤水害や土砂災害の発生源を書き込む

⑥避難所等、要支援者の位置を書き込む

（３）避難経路の確認と危険箇所の抽出

（４）命を守るために必要な避難手順とその課題

（５）意見交換

＜準備するもの＞

使い方	準備するもの	規格	数量	備考
テーブル配布	地区全体図	A1	5 枚	資料作成方法参照
	模造紙	A0	5 枚	
	付箋	75×75mm	適量	
	マジック	7 色入	5 セット	
会場投影	災害のビデオや写真	-	-	資料作成方法参照

※参加者 30 名（6 名×5 グループを想定）

＜資料作成方法＞

【地区全体図】

●本手引きの P.8「手順１－２　地域の災害･避難カードの様式を作る」を参考に、地区全体図を作成します。

【災害のビデオや写真】

●市町村がまとめた災害資料や保有しているビデオ等を借用し準備します。

※総務省消防庁 HP「防災・危機管理 e-カレッジ」から配信されている災害の動画を活用することも可能です。

該当ページの URL :『http://open.fdma.go.jp/e-college/』

※当ページ内の防災の基礎知識コース「風水害」を参照ください。

＜進行イメージ＞

進行	内容	備考
(1)災害の恐ろしさを知る	①全体の流れの説明 ・参加者にこれから何をするのかイメージしてもらうため、流れの説明を行う。 ②進行ルールの説明 ・堅苦しい決まりはなく、楽しく自由にかつ活発に意見交換することが重要であることを伝える ・異論があるときは否定ではなく、代案を提示するよう心がける ③災害のビデオや写真の視聴 ・参加者が災害をイメージできるよう、災害のビデオや写真を観る	総務省消防庁 HP「防災･危機管理 e－カレッジ」から配信されている災害の動画を活用する
(2)自宅周辺の	④自宅の場所に目印をつける	

<table>
<tr>
<td>災害リスクや避難行動の条件を知る</td>
<td>
・レッドゾーン、イエローゾーン、浸水想定区域にかかっていなければ、青い付箋で目印をつける。
・上記の区域にかかっていれば、赤い付箋で目印をつける。

⑤水害や土砂災害の発生源を書き込む
・以下の要領で、ペンでぬり絵をする
<table>
<tr><th>項目</th><th>ペンの色</th></tr>
<tr><td>大きな川</td><td>青色</td></tr>
<tr><td>小さな川･用水路など</td><td>紫色</td></tr>
<tr><td>谷川</td><td>茶色</td></tr>
</table>
・以下の箇所を黄色の付箋に書き、地図に貼る
・近年の災害で被災した箇所
（冠水、越水、土砂災害など）
・災害の危険性がある箇所
（土砂災害警戒区域となっている谷など）
・大雨時の避難で危険な箇所
（マンホール、ふたのない側溝、水路など）
・避難判断の目安となる箇所
（水位がここまで来たら危ないとされる場所など）

⑥避難所等、要支援者の位置を書き込む
・以下の箇所を地図に書き込む
<table>
<tr><th>項目</th><th>具体例</th></tr>
<tr><td>安全を確保できる施設</td><td>指定緊急避難場所、指定避難所、自主避難所など</td></tr>
<tr><td>災害時要支援者がいる世帯</td><td>一人暮らしの高齢者など</td></tr>
</table>
●指定緊急避難場所
洪水等による危険が切迫した状況において、住民等が緊急に避難する際の避難先として市町村が定めた場所。
●指定避難所
災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させることを目的とし、市町村が指定するもの。
●自主避難所
住民自身が地域の申し合わせの中で一時的に開設するもの。
</td>
<td>要支援者については、個人名はふせるなど、個人情報に配慮した記載内容とすること。取組の結果を公表したり、貼りだしたりするか、要確認。</td>
</tr>
</table>

(3)避難経路の確認と危険箇所の抽出	⑦避難経路の確認と危険箇所の抽出 ・自宅から要支援者のサポートを行い避難所に行くまでの経路を矢印で記入する。 ・経路上にある危険箇所を確認する。 **<ポイント>** ・経路上の危険箇所がまだ安全なうちに避難することの重要さに気づいてもらいましょう。	
(4)命を守るために必要な避難手順とその課題	⑧命を守るために必要な避難手順とその課題 ・命を守るために必要な避難手順（連絡、声掛け支援）を考え、付箋に書き模造紙に貼る。 ・また、そのための課題を考え、付箋に書き模造紙に貼る。 **<ポイント>** 以下のとおり分類して整理しましょう。 地図から読み取れない内容でも良いです。 〇事前にすること 〇当日すること 〇課題 ・自分で解決できること ・地域で解決すること	付箋は書き出しやすいよう 75×75mm が良い
(5)意見交換	⑨意見交換 ・参加者が多く、いくつかのグループに分かれて実施した場合は、各グループでどういった話し合いがされたか、意見交換を行う ・地域で取り組むべき課題を選び、解決の手順を地域で決める。 **<ポイント>** ・各グループでの話し合いの内容を確認し、参加者の気づきを共有しましょう	意見交換の方法は、グループ毎に発表する形式でも良いし、各グループに代表者が残り、それ以外の人は他のグループを見に行き、各グループに残った代表者が内容を説明する形式でも良い

⑤ まち歩き（地域に潜む危険を知る）･･･130分程度

＜ねらい＞

●災害が起きた場所や、災害リスクが高い場所を実際に見ることで、日頃は感じていなかった危険性について、実感を持って理解することができます。
また、住民間で視点や情報を共有することにより、地域で語り継がれる避難判断の目安※などの伝承の場としての役割も期待できます。

●日頃安全と思っていた場所も、大雨の時、夜間、災害が起きた時などにおいて、避難するには危険が伴うこと、予想外に時間を要することを理解し、早めの避難や、避難における安全な経路の選択に役立てます。

※地域の取り決めとして、大きな石が水没しはじめたことを受けて避難の声掛けを始めることをしている。等

＜手順＞

（１）まち歩きの実施

①浸水想定や過去の浸水範囲、レッドゾーン、イエローゾーンを確認。
②マンホール、ふたの空いた水路、ガードレールの切れ目など避難行動の阻害要因となる箇所を確認。

（２）意見交換の実施

③各グループで意見交換を実施し、気づきを共有。

（３）講評

④主催者よりまち歩きを通じた講評を行う。

＜準備するもの＞

使い方	準備するもの	規格	数量	作成方法
参加者配布	まち歩き用地図	A3	30 枚	資料作成方法参照
テーブル配布	まち歩き用地図	A1	5 枚	資料作成方法参照
	付箋	75×75mm	適量	
	筆記具	–	適量	

※参加者 30 名（6 名×5 グループを想定）

＜資料作成方法＞

【まち歩き用地図】

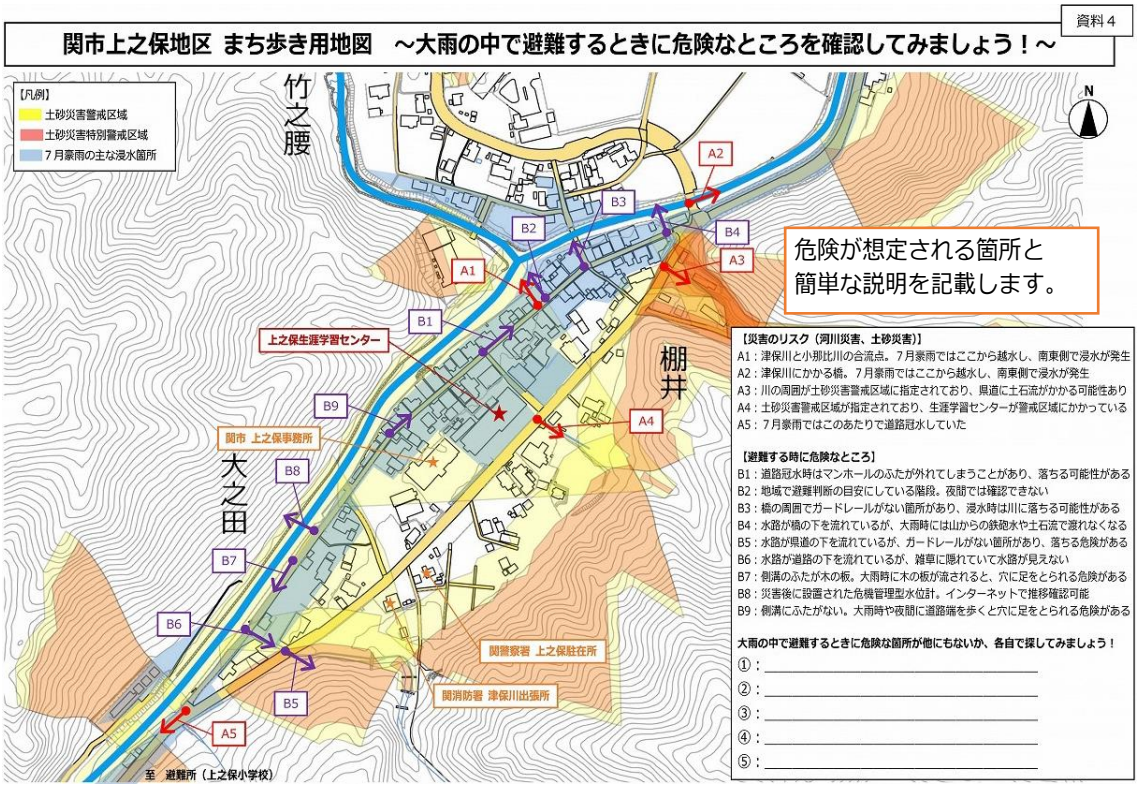
●本手引きの P.8「手順１－２　地域の災害･避難カードの様式を作る」を参考に、地区全体図を作成します。

●下図を参考に避難経路となる道路において、あらかじめ災害のリスクがある箇所及び避難の阻害要因となる箇所を調査しておき、地区全体図に印をつけます。

●印をつけた箇所の簡単な説明を記載します。

災害のリスクがある場所・・・土砂災害レッドゾーン、イエローゾーン、浸水想定区域等

避難の阻害要因となる箇所・・マンホールやガードレールの切れ目など



<スタッフの構成>

●まち歩きを円滑に進めるために、以下のとおりスタッフを配置します。

１グループにつき３～４名のスタッフが付き添い、一緒に歩きます。

・説明係…過去に災害があった場所など、注目してもらいたいポイント等で参加者の気付きを促すように説明を行います。

・記録係…まち歩きの様子を写真で撮影したり、参加者の発言の中で注目すべき内容等を書き留めます。

・安全係…参加者が車道等に大きくはみ出さないように見守るなど、安全に注意を払います。

<進行イメージ>

進行	内容	備考
(1)まち歩きの手順説明	①まち歩きの手順説明を行う ・まち歩きの趣旨 ・まち歩きの流れ ・意識していただきたいポイント （例）災害時に危険な場所、避難所等の確認 ②留意事項を説明する ・交通安全に配慮しスタッフの誘導に従うこと ・体調不良等があればスタッフに声をかけること **<ポイント>** ・避難場所までのルートの確認と、避難する際に危険な場所を確認することを説明しましょう	あからじめ、説明係、記録係、安全係を決めておく
(2)グループ分けと出発準備	③主催者よりグループ分けを発表する ・各グループに帯同するスタッフを紹介する ④まち歩きのルートを確認する ※複数のグループがいる場合、ルートを別々にしておくと説明する地点での渋滞を防ぎ、円滑に進行することができます。 **<ポイント>** ・スタッフが帯同して一緒に説明･確認しながらまち歩きを行うことを説明しましょう	参加者数に応じてグループ分けを行う。円滑な進行を考え、１グループ８名以内が好ましい。
(3)まち歩きの実施	⑤各ルートでまち歩きを始める ・各グループにスタッフが数名付き、説明、説明補助、記録、安全確認等を行う ・あらかじめ地図に印をつけた箇所を１つ１つ確認しスタッフから説明を行う （P.42 説明時のポイント参照） ・終了後、意見交換を行う会場へ誘導する	危険箇所などを説明したり、参加者が話したりしていると時間がかかるので、まち歩きの時間は長めに確保しつつ、当日の時間管理に気を付ける。

	<ポイント> ・経路上の危険箇所がまだ安全なうちに避難することの重要さに気づいてもらいましょう。 ・水分補給やお手洗い等、適宜休憩を取る	
(4)意見交換	⑥各グループで意見交換を始める ・まち歩きでの気付き、感じたことを付箋に書き、を A1 のまち歩き地図に貼る ・貼った付箋の内容を参考に意見交換を行う ・各グループのスタッフが進行補助を行う ・意見交換が落ち着いたところで、参加者にまち歩き地図を壁に貼り出してもらう **<ポイント>** ・まち歩きで気付いたことを付箋に書き出しましょう ・記録係は、まち歩き中にメモした参加者の気づきを紹介しましょう ・1 つの感想につき 1 枚の付箋を用意し、些細だと思う事でも書いてみましょう	講評も含め、ＷＳ後も、日常的に意識することや、家族等で歩いてみることを進める
(6)講評	⑦主催者よりまち歩きの講評を行う **<ポイント>** ・普段は安全だと思っている（危険だと思っていない）場所が、災害時には危険な場所に変わる可能性があるということを共有しましょう ・家族や近隣の人と一緒に、家の周りや避難場所までのルート上でまち歩きをやってみるよう案内しましょう	

<説明時のポイント>

・災害の危険性がある場所や避難の阻害要因を現地で確認し、場所を把握する。
・身の回りに予測される危険を現地確認し、それが形として現れる前に早めに逃げることの必要性を理解する。
・実際に避難行動にかかる時間を体感する。
・避難の阻害要因により、避難には思ったより時間がかかることを理解する。
・安全に避難するための手順と、それにかかる時間を考える。

<まち歩きで着目すべき箇所>

・近年の災害で被災した箇所（冠水、越水、土砂災害など）
・災害の危険性がある箇所（土砂災害特別警戒区域となっている谷など）
・大雨時の避難で危険な箇所（マンホール、ふたのない側溝、水路など）
・避難判断の目安となる箇所（水位がここまで来たら危ないとされる場所など）

・説明係が中心となり、経路上の危険箇所で、参加者の気付きを促すように説明します。
・災害時の写真などが残っていれば、現地で写真を見せながら説明を行うことが効果的です。
・被災時の写真がない場合は、後で撮影した画像に、災害時の様子を聞き取るなどして把握し、浸水時の様子を写真に茶色いで示し再現すると効果的に説明ができます。

＜説明する内容を事前にまとめた事例＞

まち歩きの実施時に参加者に必要な内容を確実に伝えるため、事前に説明するポイントを写真等でまとめ、スタッフ間で共有しておくことが必要です。以下にまとめた事例を示します。

関市上之保地区の例

●津保川と小那比川の合流点。７月豪雨では、ここから越水し、南東側で浸水が発生

・津保川と小那比川の合流点。７月豪雨の時はここで南東側に越水し、道路を水が流れた。
・現在では水位が低く河川敷も広いが、当時は溢れるほどの水量があったことを想像してもらう。

●土砂災害警戒区域が指定されており、生涯学習センターが区域内にある

・生涯学習センターの南側の山が土砂災害特別警戒区域に指定されている。
・生涯学習センターは土砂災害警戒区域内にある。

●道路冠水時はマンホールのふたが外れてしまうことがあり、落ちる可能性がある

・普段何気なく歩いている道路でも、大雨の時は、マンホールが外れる可能性がある。
・深夜や泥水が流れている中の避難では、マンホールに気付かず、ふたが外れていると、引き込まれるおそれがある。

●地域で避難判断の目安にしている階段。夜間には確認できない

・７月豪雨の時、この階段で水位を確認していた。
・明るいうちは確認できたが、夜間は周囲に明かりがないと見えないのではないか。
・目安にするとしても、夜に大雨が降った時のことを考えておく必要があるのでは。
・７月豪雨の時は、より川上で越水したため、道路側から水が流れてきた。

●水路が県道の下を流れているが、ガードレールがない箇所があり、落ちる危険性がある

・山からの谷川が、県道の下を通っている箇所。

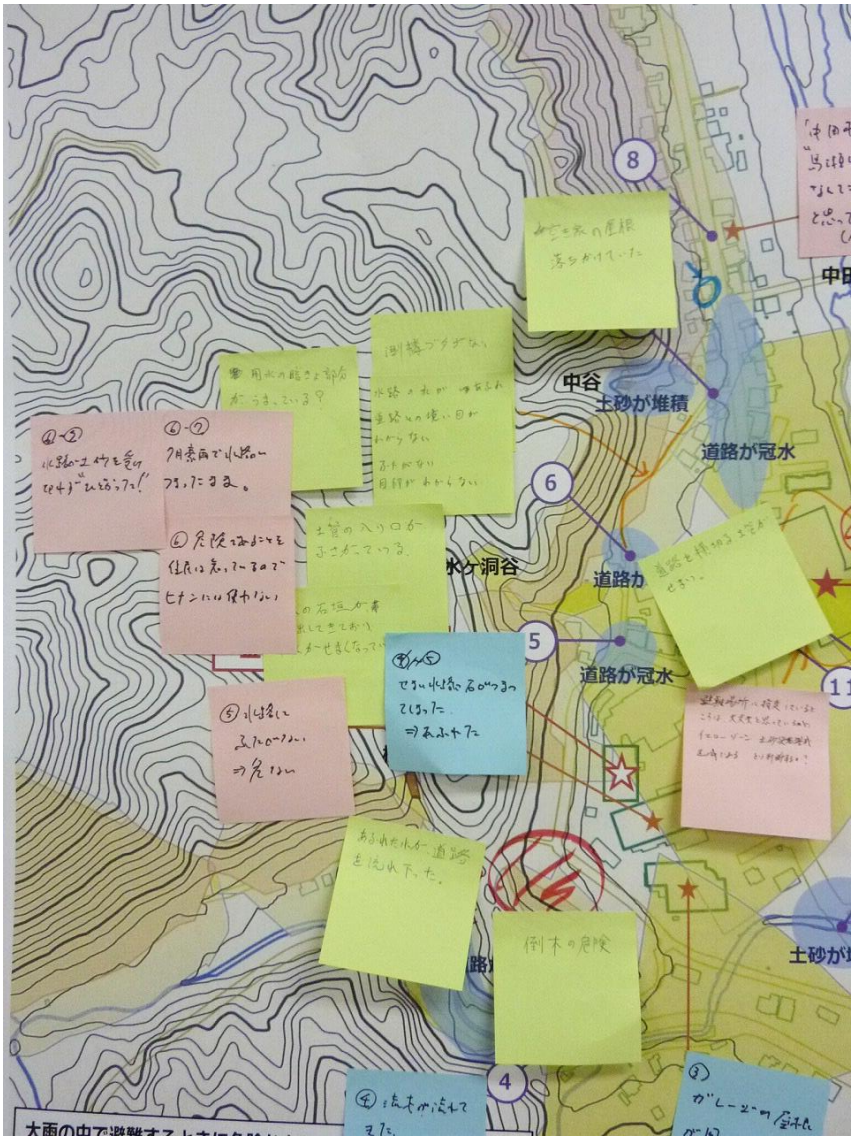
・金網とガードレールの間が１mほど開いており、特に夜間は落ちる危険性がある。

・県道が土砂災害特別警戒区域となっており、土砂災害により通れなくなる可能性がある。

<各グループでの意見交換>

まち歩きで気づいたことや感じたことを付箋に書き出し、地図上に貼り出します。

張り出された意見を集約し、講師や主催者により、まち歩きの講評を行い学びを共有します。



手順2－3　災害の危険を回避するための情報を学ぶ

≪背景と目的≫

●大雨による災害は、前触れなく起きることはありません。災害の危険を予見し回避するために必要な気象や避難の情報はテレビやインターネットから容易に取得することができ、注意報等初期の段階で避難すれば、安全に行動することができます。

●危険に遭遇する前に避難を判断するためには、気象や避難に関する情報の入手方法を知り、使いこなし方を知っておく必要があります。

●災害の危険を回避するための情報を学ぶことで、自発的にこれらの情報に関心を持ち、行動に結び付けるようにすることが重要です。

≪実施内容≫

①資料を使った気象情報、警報の危険度分布、水位情報、避難情報の説明

・・・30分程度

<ねらい>

●気象情報、警報の危険度分布、水位情報、避難情報について、体系的に学びます。

●これらの情報は、難解な部分があり、使いこなしは容易ではありません。自ら避難を判断できるように情報の内容を理解する必要があります。

●また、これらの情報は、気象台や県、市町村など、それぞれ情報発信元が異なるため、必要な情報に応じた入手方法を知っておく必要もあります。

<手順>

（１）気象情報について学ぶ

①大雨に関する気象情報について、インターネット（岐阜地方気象台の HP 等）から入手する手順と見方について説明。

②テレビやラジオにおける危険度や重大性を示す表現の違いを説明。

（２）警報の危険度分布について学ぶ

③土砂災害、浸水害、洪水の危険度の高まり情報を入手する手順と見方について説明します。

（３）水位情報について学ぶ

④洪水予報河川や水位周知河川の水位情報を取得する手順と見方を説明します。

⑤氾濫の危険度に応じた４段階（氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報）の水位決定について説明します。

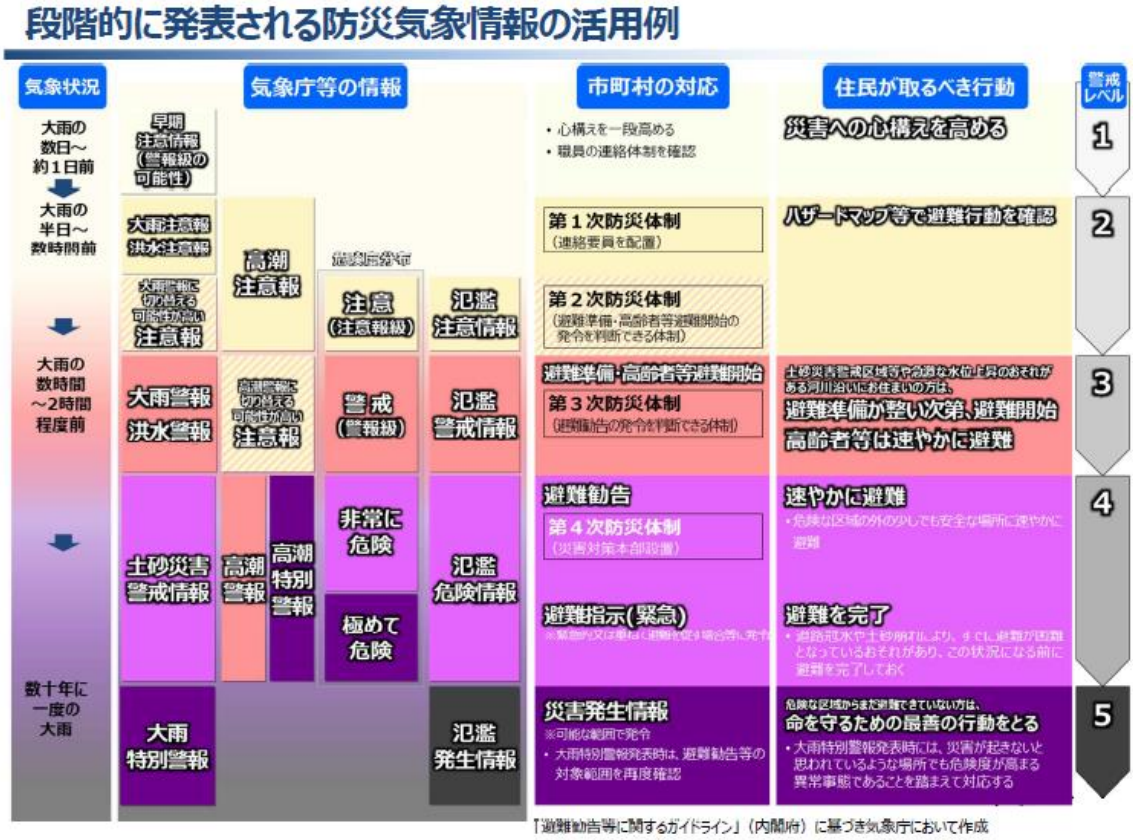
⑥その他中小河川の水位情報を取得する手順と見方を説明します。危機管理型水位計の設置と、設定された避難判断参考水位について説明します。

（４）避難情報について学ぶ

⑦避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示など、市町村から発令される避難情報について、住民のとるべき行動と関連づけながら説明します。

⑧気象、水位、警報の危険度分布の各段階の情報が避難情報にどう対応するか体系的に説明します。

⑨防災行政無線や登録制メール、自治体 HP など自治体からの避難情報の伝達方法や、連絡網など自治会における情報伝達の仕組みについて説明します。



＜確認するホームページ＞

・岐阜地方気象台	https://www.jma-net.go.jp/gifu/
・ぎふ山と川の危険箇所マップ	http://kikenmap.gifugis.jp/
・岐阜県川の防災情報	http://www.kasen.pref.gifu.lg.jp/
・川の水位情報	https://k.river.go.jp/
・自治体	個別に自治体 HP を検索してください

＜各 HP から該当箇所を表示する手順（画像はスマートフォン版）＞

①気象情報「気象情報を知るには？」

岐阜地方気象台の HP から自分の地域の気象情報や警報の危険度分布を得るための手順を伝えます。

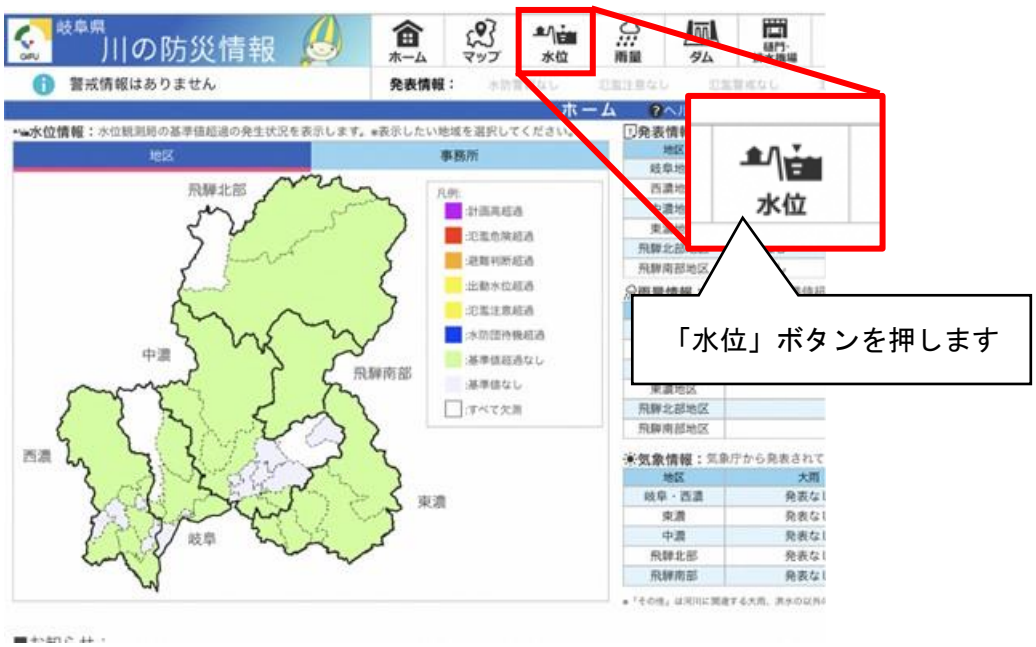
②警報の危険度分布「土砂災害の危険度の高まりを知るには？」

③警報の危険度分布「大雨（浸水害）の危険度の高まりを知るには？」

④警報の危険度分布「洪水の危険度の高まりを知るには？」

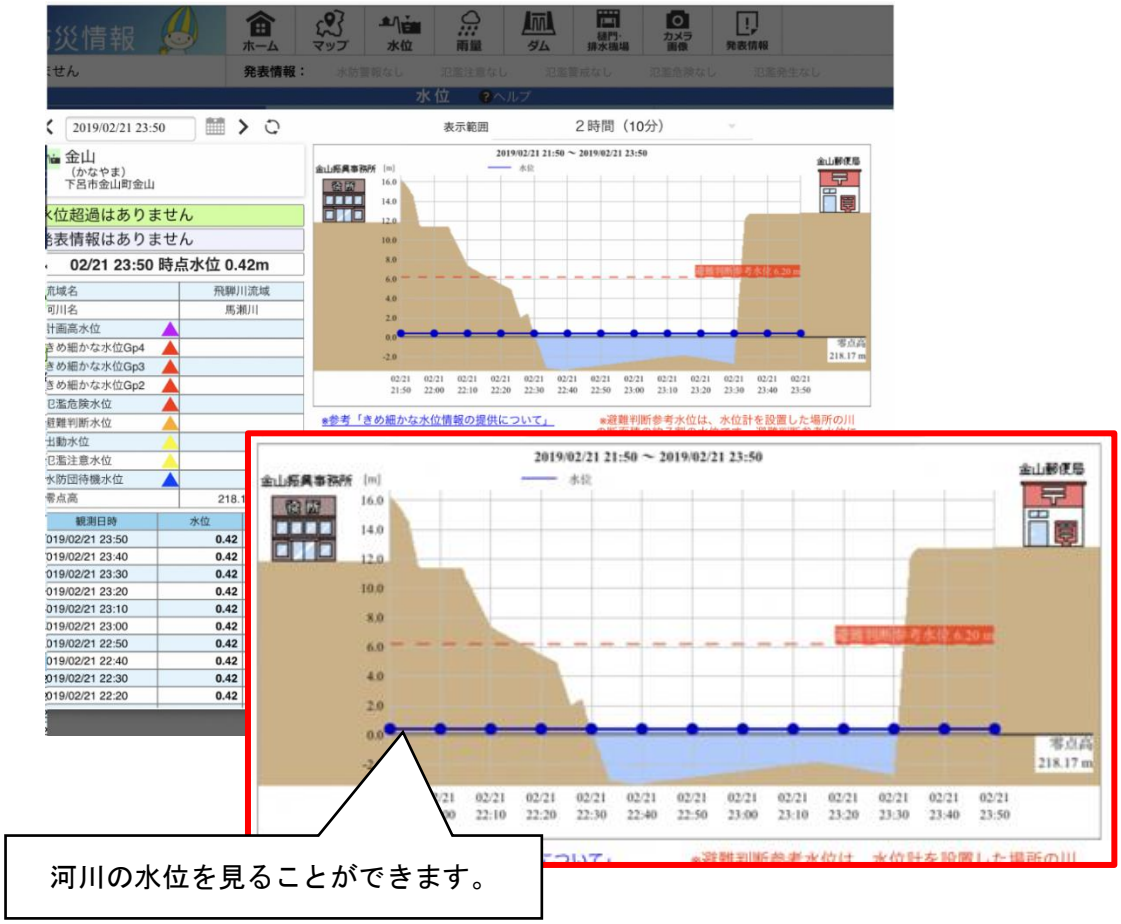
⑤水位情報「洪水予報河川等の水位を知るには？」

岐阜県川の防災情報より洪水予報河川や水位周知河川の水位情報を取得するための手順を伝えます。



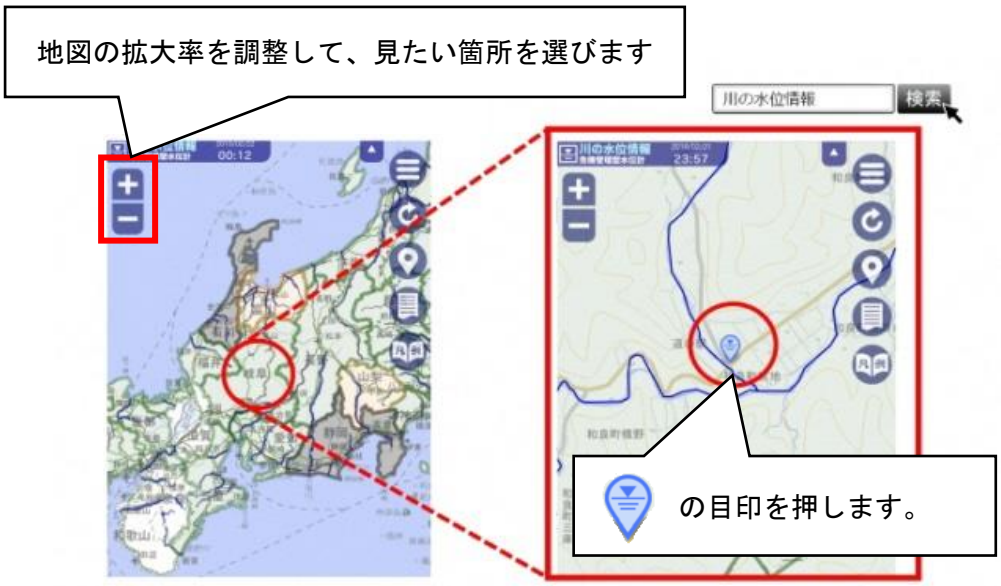
岐阜県
川の防災情報
ホーム
マップ
水位
雨量
ダム
樋門・排水機場
カメラ画像
発表情報
メニュ
警戒情報があります
発表情報：
水位
ヘルプ
現況
経過
基準値超過
観測日時
2019/02/22 14:40
観測局
地区・事務所
全て
所管
全て
表示内容
現況のみ
現況および過去水位
現況および基準値
凡例
所管：
表の背景色は所管を表します。
岐阜県
国交省
気象庁
基準水位あり
流域名
河川名
所在地
観測局名
現在水位
増減
該当の地区を選択します

岐阜県
川の防災情報
ホーム
マップ
水位
雨量
ダム
樋門・排水機場
警戒情報はありません
発表情報：
水防警報なし
氾濫注意なし
氾濫警戒なし
水位
ヘルプ
現況
経過
観測日時
2019/02/21 23:50
観測局
地区・事務所
地区
地区
飛騨南部地区
所管
全て
表示内容
現況のみ
所管：
表の背景色は所管を
岐阜県
国交省
観測値：
基準水位あり
流域名
河川名
所在地
観測局名
現在水位
増減
飛騨川流域
馬瀬川
下呂市
金山
0.42
飛騨川流域
飛騨川
下呂市
中呂
0.92
飛騨川流域
飛騨川
下呂市
下呂
0.15
飛騨川流域
大ケ洞川
下呂市
前野
0.52
飛騨川流域
馬瀬川
下呂市
馬瀬中切
1.35
飛騨川流域
飛騨川
下呂市
上呂
1.21
見たい河川の観測所名を押します

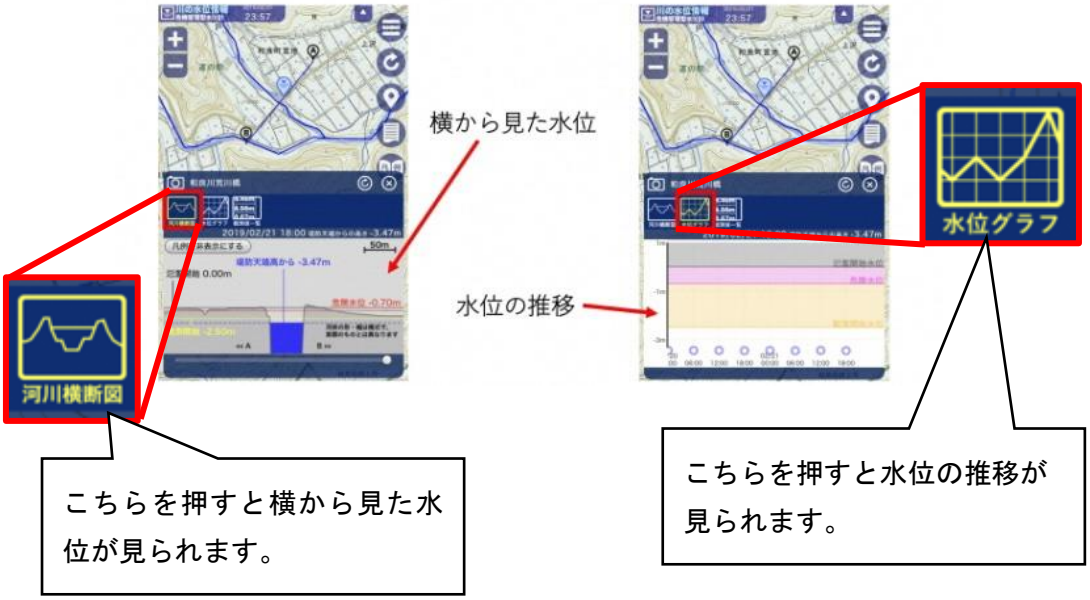


⑥水位情報「その他中小河川の水位を知るには？」

川の水位情報 HP より、その他中小河川の水位情報を取得するための手順を説明します。



●和良川の水位を知るには？



手順2－4　一人ひとりの避難の手順を学ぶ

≪背景と目的≫

●実際に避難することを判断しても、どこに逃げるか、誰と逃げるか、何を持って逃げるか、どのような準備をして逃げるか、といった様々な判断が必要です。
●避難の判断が早くても、安全な場所に着くまでに時間がかかっては、避難ルートで危険に遭う可能性も高まります。
●確実に安全な場所に避難するためには、あらかじめ、避難の手順を考え、決めます。

≪実施内容≫

●ここでは災害・避難カードの様式を使用して作業します。厚紙等、清書用の様式は「手順２－５　災害・避難カードを作る」にて使いますので、当手順では、A3普通用紙にカラーコピーをしたもの（下書き用）で作業してください。
●今回書く下書きが、一人ひとりの避難計画に反映されます。よって、指導者や補助要員のスタッフが、参加者の記入内容を見ながら、危険箇所に避難することになっていないか、地域の取決めが反映されているかなど助言をし、実効性のある内容となるよう十分に配慮してください。
●次の①～③までの取組みを実施する際に、記入した内容等を参加者同士で見せ合い、自分のものと他のものを比べながら修正する時間を、それぞれ取るようにしてください。

①安全な避難場所と避難経路の検討･･･20分程度

＜ねらい＞

●安全な避難を行うためには、土砂災害のレッドゾーンやイエローゾーン、浸水想定区域にかからない所を避難場所に選び、自宅から出発し、声掛けして一緒に逃げる方の家を経由し、避難場所まで行くための経路を決め、その間における災害の危険箇所や避難の阻害となるような箇所を把握しておくことが必要です。
●ここでは、避難しようとしていた場所が安全かどうか確認し、真に安全な避難場所を選ぶこと。また、避難経路の危険箇所を把握することにより、大雨時にその危険が顕著になる前の、早めの避難を認識することが目的となります。

＜手順＞

●自宅、要支援者等の場所を、判例に従い、地図に記入します。
●土砂災害特別警戒区域（レッド）や土砂災害警戒区域（イエロー）、浸水想定区域

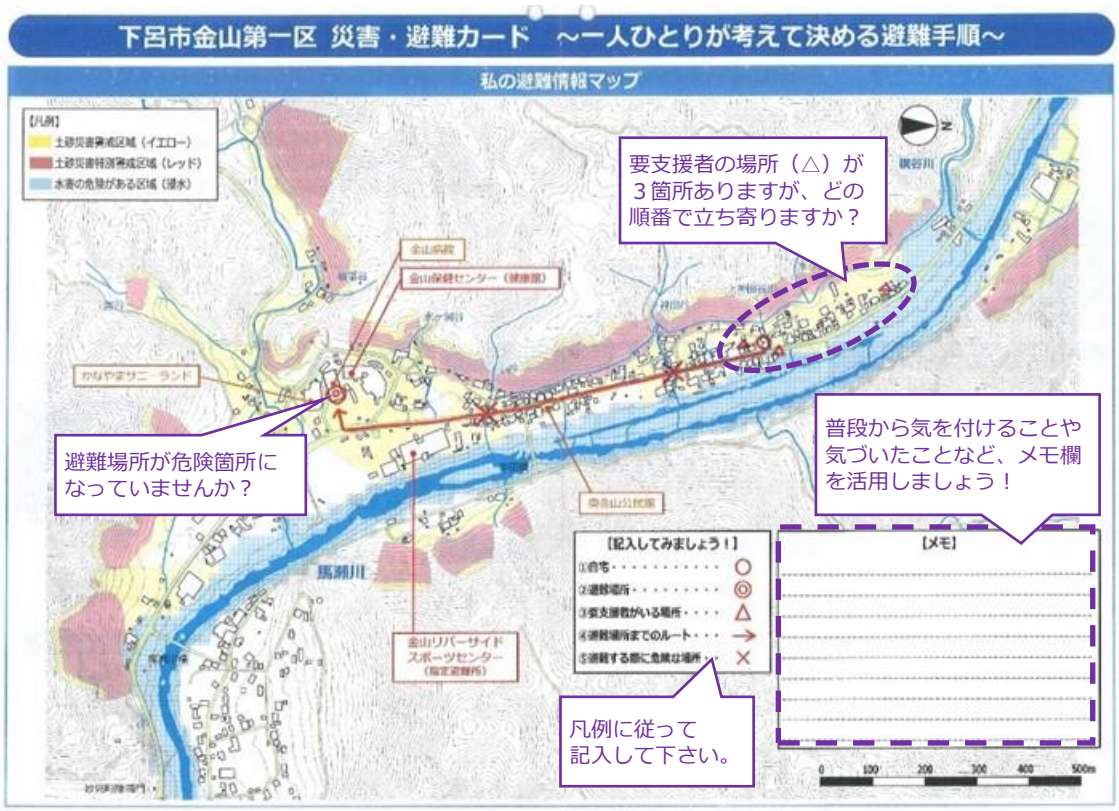
にかかっていない避難可能な場所に「◎」を記入します。複数記入してもかまいません。親戚や知人宅等の場合は、避難可能か確認した後に記入してください。

●実際に避難する場所を選んで、自宅を出発後、要支援者等一緒に避難する方の家を経由して避難する経路を、判例に従い、地図に書き込みます。

●避難経路上にある避難の阻害要因になるような箇所（避難する際に危険な場所）について、「×」を記入してください。

●メモ欄には、普段から気を付けることや、気づいたことなどを記入します。

【記入例】



＜準備するもの（主なもの）＞

・災害・避難カードの様式（下書き用）

・自治会など、地域で避難時における要支援者等への声掛け等に取決めがある場合は、その体制表など

②避難に必要な時間等の検討･･･20分程度

<ねらい>

●避難を決断してから、安全な場所に到着するまでには、避難の準備から、避難場所への移動の時間、近所や要配慮者への声掛けなど、多くの時間が必要です。 ●災害の危険が迫った時には、「避難を完了していること」が重要であるため、各自が、避難にかかる一連の手順を決め、必要となる時間を把握し、間に合うようなタイミングで避難を開始することが必要です。 ●避難に必要な時間の計算の中には、誰と避難するか、何を持って避難するか、といったこともあらかじめ確認します。

<手順>

災害・避難カードの様式裏面の各シートを使って行います。

●安全な場所は？

・「①避難に必要な時間は？」の「A. 安全な場所は？」に、大雨時に安全と考える場所（避難所等）を記入します。

・レッドゾーン、イエローゾーン、浸水想定区域の外であることを確認し、問題なければチェックボックスにチェック済みの印を記入します。

●誰と避難する？

・「②誰と避難する？」に、一緒に避難する人の名前と、連絡先を記載します。

・自治会など、地域で声掛けの取決めや支援者の割り当てがある場合は、支援者の名前と連絡先も記載してください。

●何を持って避難する？

・「③何を持って避難する？」に、自宅等から避難所に持っていくものを記入します。

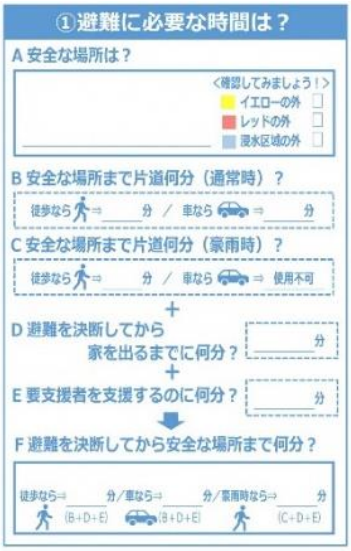
・いざという時に準備に時間を取られないよう、あらかじめ、避難の時に何を持っていくか決めておき、すぐに持ち出せるように準備しておくことが重要です。

・持っていこうとしているものが、大きさや重さの点で運ぶことが困難な物品を選

んでいないかどうかチェックします。

・自治体 HP 等に記載されているリストを参考に、大雨時に必要なものを選び、避難する時に持っていくもののリストを作成します。

●避難に必要な時間は？



・「①避難に必要な時間は？」の計算シートを使って、避難に必要な時間を計算します。

・「B 安全な場所まで片道何分（通常時）？」に、徒歩の場合と車を使った場合の所要時間を記入します。

・「C 安全な場所まで片道何分（豪雨時）？」に、徒歩の場合の所要時間を記入します。豪雨時は通常時と違い移動に危険が伴うため、時間がかかることに留意してください。（車は冠水等で使用できません）

・「D 避難を決断してから家を出るまでに何分？」に、身支度や持出品準備等にかかる時間を記入します。

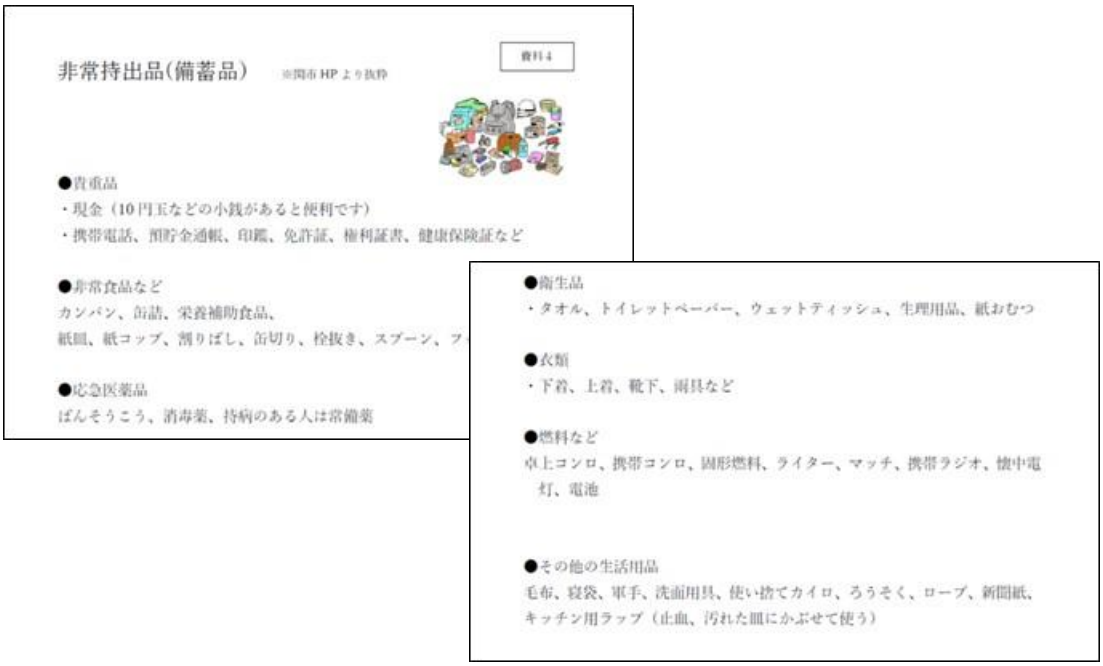
・「E 要支援者を支援するのに何分？」に、「②誰と避難する？」に記入した方と一緒に避難するためにかかる時間を記載します。

・F に、それぞれ合計の時間を計算して記入します。

＜準備するもの（主なもの）＞

・災害・避難カードの様式（下書き用）

・非常持ち出し品リスト（自治体ＨＰや防災ガイドブックより）　など



【記入例】

いざという時に助け合えるよう、普段から
災害時の行動などを話し合っておきましょう！

連絡の取れる電話番号などを記入
しておきましょう！

①避難に必要な時

A 安全な場所は？

スポーツセンター

<確認してみましょう！>
- イエローの外 ☐
- レッドの外 ☑
- 浸水区域の外 ☐

B 安全な場所まで片道何分（通常時）？

徒歩なら ⇒ 10 分 ／ 車なら ⇒ 2~3 分

C 安全な場所まで片道何分（豪雨時）？

徒歩なら ⇒ 15 分 ／ 車なら ⇒ 使用不可

＋

D 避難を決断してから家を出るまでに何分？ 10 分

＋

E 要支援者を支援するのに何分？ 0 分

F 避難を決断してから安全な場所まで何分？

徒歩なら ⇒ 20 分（B+D+E）／ 車なら ⇒ 13 分（B+D+E）／ 豪雨時なら ⇒ 25 分（C+D+E）

②誰と避難す

誰と？	連絡先は？
妻 犬2匹.	ケイタイ.

③何を持って避難する？

何を？	大きさは？	重さは？
現金.印かん.通帳. LEDライト・ 食品.水 500mlx2 ヘルメット.手ぶくろ. 衣類.タオル.	リック	10K 【合計】 10 kg

何に何分かかるかをイメージし、事前に準備
できるものがあれば準備しておきましょう！

「薬」はどんな薬があると良いでしょうか？
「食料」は何を何日分、何人分持って行きますか？
「水」は何リットル持って行きますか？
「旅行カバン２個」「20kg」は、自分が持って避難できる
量なのか確認しておきましょう！

③安全に避難するためのタイミングを考える･･･20分程度

＜ねらい＞

●避難を完了しなくてはならないときまでに、「情報に関心を払う」、「最新の情報をこまめに確認」、「速やかに避難開始」、「避難を完了」といった４つのタイミングをそれぞれ決めます。

＜手順＞

（１）日中における避難タイミングの検討

①いつまでに避難を完了する必要があるかを決め、避難にかかる時間を逆算したタイミングで避難する手順を決めます。

（２）夕暮れ時における避難タイミングの検討

②避難しなければならないタイミングが夜間～早朝にかけて発生することが予想される場合、夕暮れ前に避難を開始する手順を決めます。

＜準備するもの＞

使い方	準備するもの	規格	数量	作成方法
テーブル配布	災害･避難カード	A3	30 部	資料作成方法参照
	筆記具	－	適量	
会場掲示	私の避難タイミング	A０	１枚	資料作成方法参照

※参加者 30 名（6 名×5 グループを想定）

＜資料作成方法＞

【災害･避難カード】

●本手引きの P.8「手順１－２　地域の災害･避難カードの様式を作る」で作成したものを使用します。

【私の避難タイミング】

●当データのうち、「私の避難タイミング」の部分を A0 判で出力し貼り合わせる。

<進行イメージ>

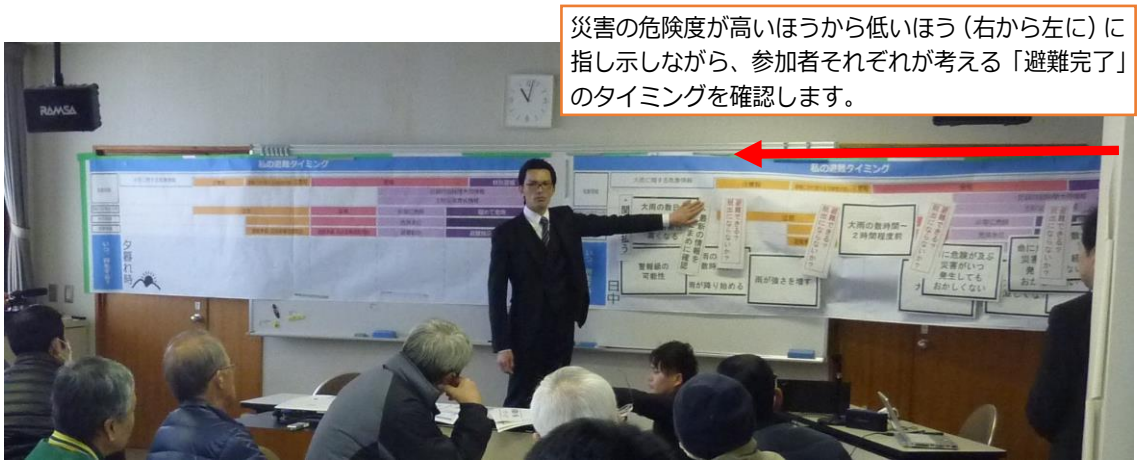
進行	内容	備考
(1)日中における避難タイミングの検討	①「避難完了」のタイミングの検討 ・災害･避難カードの裏面上部にある「私の避難タイミング」にて、各種情報を災害の危険度が高いほうから低いほうに（右から左に）順番に見ていき、その時の河川や降雨の状況を想像し、安全に避難完了できる（脱出にならない）タイミングを考えて、災害･避難カードに記入する **<ポイント>** ・各種情報が発令されている際の雨の降り方などを想像し、徒歩や車で安全な避難ができるかを確認しましょう ②「避難開始」のタイミングの検討 ・①で決めたタイミングまでに「避難完了」するには、避難に必要な時間を踏まえ、いつ「避難開始」すべきかを考えて、災害･避難カードに記入する ③「関心を払う」「最新の情報をこまめに確認する」タイミング（期間）の検討 ・「避難開始」のために必要な、気象情報や警報の危険度分布、水位情報、避難情報の発令状況について、「関心を払う」「最新の情報をこまめに確認する」タイミングを考え、災害･避難カードにそれぞれ記入する	進行役が、災害発生時から、さかのぼるような形で、「どこで行動を開始するか」を考えさせます。 考える際は、「私の避難タイミング」を大きく印刷したものを参加者の前に貼り出し、それぞれ行動のタイミングを参加者全員で挙手しながら検討することが効果的です。 改めて、災害の危険を予知できる情報は、発生の前から出ていたことを認識してもらいます。
(2)夕暮れ時における避難タイミングの検討	④夕暮れ時における避難タイミングの検討 ・夕暮れ時の時間帯（左端が夕方、右端が深夜・早朝）を想定して、上記①～③についてそれぞれ検討し、災害･避難カードに記入する **<ポイント>** ・夕暮れ時では、夜中に災害の危険性が高い状況が訪れる可能性があります。日中よりも早めの行動が重要であることを確認しましょう	夕暮れ時は、その後の情報収集が難しくなるので、「明るいうちに行動しておく」考え方を促します。

＜早めの避難を理解する工夫＞

・講師や主催者が、時間軸に沿って各種情報が発令されている際の雨の降り方等を説明しながら、その中で避難できるかどうかを参加者に想像させます。

・そのうえで安全に「避難完了」するタイミングを、災害･避難カードの「私の避難タイミング」を使って、災害の危険度が高いほうから低いほう（右から左に）に指し示しながら、全員に手を上げさせることで確認していく方法が有効です。

・これにより、参加者間で早めに避難する意思を共有することができます。



災害の危険度が高いほうから低いほう（右から左に）に指し示しながら、参加者それぞれが考える「避難完了」のタイミングを確認します。

手順2－5　災害･避難カードを作る

≪背景と目的≫

●災害のリスクやそれを回避するために必要な情報、早めの避難の重要性など、今回の取組みで学んだことを、実行に移すことができるよう、また、家族等で共有するために、災害・避難カードを作成します。

●一連の学びの成果として、参加者一人ひとりが、自分の避難計画として、これまでの検討を踏まえ、カードの様式に書き込みます。

≪実施内容≫

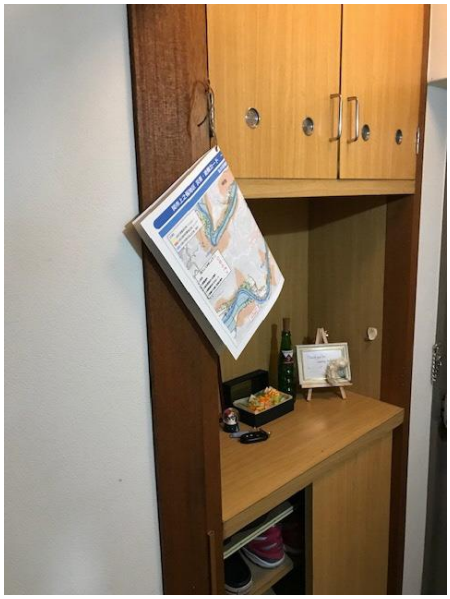
①災害･避難カードの清書･･･10分程度

・手順２－４で下書きした様式をもとに、参加者が清書用の様式に記入します。

・講師から項目ごとに留意事項を読み上げ、確認しながら書いてください。

・清書した災害・避難カードは、角に穴を空けて紐を通し、玄関や冷蔵庫など、家の中で、避難の際、見やすいところに掲示できるようにして下さい。

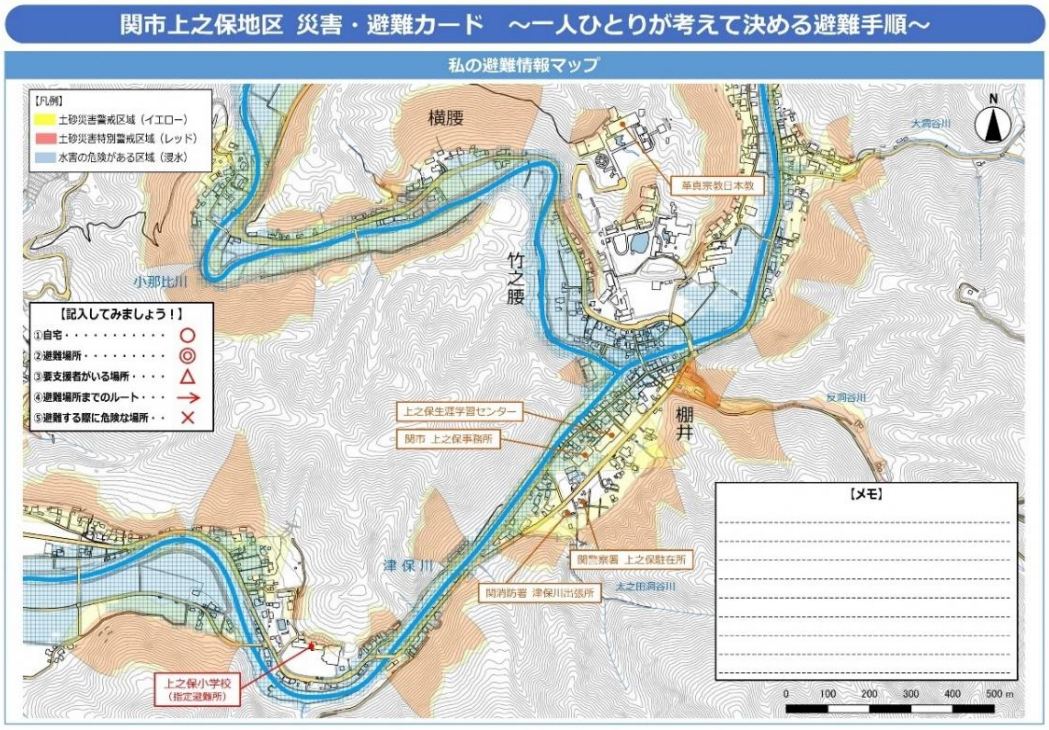
＜玄関にかけた状況＞



＜冷蔵庫にかけた状況＞

≪準備するもの≫

・災害・避難カードの様式（清書用、下書き用）



手順2－6　地域内での普及・活用方法を考える

≪背景と目的≫

- ここまでの取組みは、気象災害から命を守る方法の学びが重要であり、早めの避難に対する姿勢を身に着ける取組みといえます。
- 参加者が学んだ避難に対する考え方は、各自の命を守るものであるとともに、地域全体で共有することで、さらにその効果が高まります。
- そのため、一連の取組みを、家族や地域に普及し、作成したカードを活用するための方法について、参加者で話し合い、地域の活動の中で生かしていくことが重要です。
- 住民の転入転出、高齢化の進行による体力の低下や体調の変化などが見込まれるため、共助の内容は毎年見直しが必要です。
- 一人ひとりが作ったカードの内容を訓練等の形で地域に戻すことで、地域の防災体制の見直しにつながります。また、無理な計画になっていないかを地域ぐるみで実証したり、避難に係る新たな取決めを反映し、各自の災害・避難カードを修正していく必要があります。
- その仕組みを参加者が考えることで、地域にあった計画策定と訓練によるチェック・更新のサイクルを構築します。

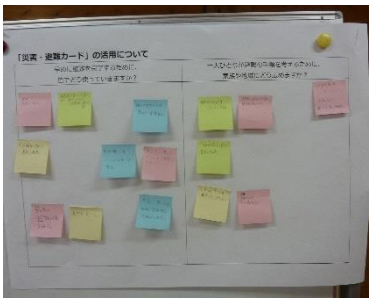
≪実施内容≫

①普及・活用方法に関する意見交換・・・30分程度

<ねらい>

- 一人ひとりの考えをより具体的なものとするため、グループワーク形式で参加者間で話し合います。

<手順>



・災害・避難カードを活用し、早めの避難の実行力をより向上させる方法を話し合います。
・参加者が取組みで得た知識や心構えを家族や地域に広めるための方法について話し合います。
・指導者や補助要員のスタッフが、参加者の意見をより具体的になるよう話題を盛り上げます。また、課題を明確にし、解決策を考えます。
・意見を付箋に書き込み、普及、活用にカテゴリを分けて貼ります。
・話し合いが終了後、各グループの意見を見せ合う、もしくは発表します。

※以下のようなものが考えられます。

・参加者が、家族や近隣の方へ配布し、記載を手伝う。 ・別の機会で、地域の避難訓練実施などに、全員にカードを配布して作成。 ・自治会の班や、家族などより小さい単位での実施を促す。 ・カードを用いた図上訓練や避難訓練の実施とその成果に基づくカード改良。

＜準備するもの＞

・筆記具、模造紙、付箋　など

参考資料　モデル事業の実施事例

1. 実施概要

平成３０年７月豪雨にて、避難情報が発令され、また、河川災害や土砂災害が発生し、避難を行った関市及び下呂市の２つの地域にて、それぞれ３回の「一人ひとりが避難の手順を考える勉強会」を開催。地域に潜む危険を知り、あらかじめ避難の手順を考え、早めの避難の実効性を高めることで、住民一人ひとりが自ら命を守るための取組みを行いました。

(1)関市上之保川合下

①地区の特徴

平成 30 年７月豪雨では、大雨特別警報が発令されているなか、累計雨量 551mm、時間最大雨量 82mm を記録し、津保川及び小那比川が氾濫。家屋の床上床下浸水が多数発生するなかで、自治会や消防団による各戸への声掛けのもと、多くの人が避難することとなりました。

地区の世帯数は 107 世帯。自治体任せではなく、地域住民が自ら考えて避難行動できるようになるため、当取組みを実施しました。

②実施内容

【第１回勉強会】

日　時：平成 30 年 12 月 15 日（土）9:30～12:00
場　所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室
参加者：24 人

当勉強会の主旨などを説明。災害が発生するなかでの避難行動をふり返り、地区に潜む災害リスクや、とったらよかったと思う避難行動、地区の防災対策の課題など、住民自らの経験をとおした「気付き」を共有することにより、日頃の備えと早めの避難行動の重要性を認識。また、一人ひとりが「安全な避難場所」や「避難にかかる時間」など、安全に避難するための手順を考えました。

○第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」
・開催趣旨の説明
・全体的な検討スケジュールの説明
・本日の勉強会についての説明

○第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等）」
・７月豪雨災害のふり返り
・とったらよかったと思う避難行動

○第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

【第２回勉強会】

日　時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00
場　所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール他
参加者：第１部 109 人、第２部 23 人

上之保川合下以外の地区についても、当取組みを実施する必要があると考え、第１部は上之保とその周辺地区を広く対象とし、早めの避難の重要性を伝えるための講演会を実施。その後、川合下の住民のみを対象とし、地域に潜む危険を具体的に知るため、まち歩きを実施。災害時に危険な場所、避難を阻害する要因となるものを確認し、災害が発生する前に早めの避難することの重要性を認識しました。

○第１部　講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」
・第１回勉強会のふり返り
・自分の地域に予想される危険について
・一人ひとりが考えて決める避難手順
○第２部　まち歩き「地域に潜む危険を知る」
・まち歩きの手順説明
・まち歩き実施
・まち歩きを踏まえた意見交換

【第３回勉強会】

日　時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00
場　所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室
参加者：30 人

第１、２回の勉強会の内容を踏まえ、安全な避難場所と経路の確認、避難にかかる時間の計算を行った上で、避難のタイミングを決定。また、災害の危険を回避するために必要な気象情報や避難情報等の使い方を学びました。その後、一人ひとりが自らカードに手順を記入し、また、普及や活用について意見交換を行いました。

○第１部　ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」
・これまでの勉強会のふり返り
・私の避難タイミングの検討　等
○第２部　ワークショップ「災害・避難カードの活用について」
・災害・避難カードの活用について

(2)下呂市金山第一区

①地区の特徴

平成 30 年 7 月豪雨では、大雨特別警報が発令されているなか、累計雨量 504mm、時間最大雨量 108mm を記録し馬瀬川が増水。国道 41 号につながる県道の妙見町陸閘が閉鎖されたことで集落が孤立しました。さらに、岩屋ダムの異常洪水時防災操作実施による馬瀬川の更なる増水の可能性が高まるなか、また、複数の谷から土砂が流出し県道の一部が埋塞するなか、自治会や消防団による各戸への声掛けのもと、限られた避難経路をたどり、多くの人が避難することとなりました。

地区の世帯数は 127 世帯。従前より、区長をはじめ、民生児童委員や自主防災会長、各班長等により構成される自主防災組織があり、緊急時の体制があるなか、一人ひとりが避難の手順を考えることでその実行力を高めるため、当取組みを実施いました。

②実施内容

【第１回勉強会】

日　時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30
場　所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他
参加者：31 人

関市上之保川合下の実施内容に同じ。

○第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」
・開催趣旨の説明
・全体的な検討スケジュールの説明
・本日の勉強会についての説明
○第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」
・7 月豪雨災害のふり返り
・とったらよかったと思う避難行動
・ほかのグループの「ふり返り」確認
○第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

【第２回勉強会】

日　時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00
場　所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室　他
参加者：36 人

地域に潜む危険を具体的に知るため、まち歩きを実施。災害時に危険な場所、避難を阻害する要因となるものを確認し、災害が発生する前に早めの避難するこ

との重要性を認識しました。子供から年配の方までが参加し、避難の目安となる事象を話し合うことで、次世代への語り継ぎの場にもなりました。

○第１部　講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」

・第１回勉強会のふり返り

・一人ひとりが考えて決める避難手順

・自分の地域に予想される危険について

○第２部　まち歩き「地域に潜む危険を知る」

・まち歩きの手順説明

・まち歩き実施

・まち歩きを踏まえた意見交換

【第３回勉強会】

日　時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00

場　所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

参加者：33 人

関市上之保川合下の実施内容に同じ。

○第１部　ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」

・これまでの勉強会のふり返り

・私の避難タイミングの検討　等

○第２部　ワークショップ「災害・避難カードの活用について」

・災害・避難カードの活用について

2. 勉強会資料

(1)関市上之保川合下

【第１回勉強会】

・次第 …… P.73
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.74
・資料２　本日の勉強会について …… P.76
・資料３　大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう…… P.89
・参加者アンケート …… P.91
・とったらよかったと思う避難行動（意見交換の結果） …… P.93
・参加者の感想…… P.95
・事務局資料…… P.97

【第２回勉強会】

・次第 …… P.103
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.74 （再掲）
・資料２　本日の勉強会について …… P.104
・資料３　第１回勉強会のふり返り（実施結果の概要） …… P.116
・資料４　関市上之保地区 まち歩き用地図 …… P.118
・参加者アンケート …… P.119
・まち歩きを踏まえた気付き（意見交換の結果） …… P.121
・参加者の感想…… P.122
・事務局資料…… P.125

【第３回勉強会】

・次第 …… P.143
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.74 （再掲）
・資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り（実施結果の概要） …… P.144
・資料３　関市上之保地区 災害・避難カード …… P.148
・資料４　非常持出品リスト…… P.149
・資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法…… P.150
・参加者アンケート …… P.162
・災害・避難カードの記入例…… P.164
・災害・避難カードの普及・活用（意見交換の結果） …… P.165
・参加者の感想…… P.166
・事務局資料…… P.168

(2)下呂市金山第一区

【第１回勉強会】

・次第 …… P.185
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.186
・資料２　本日の勉強会について …… P.188
・資料３　大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう…… P.201
・参加者アンケート …… P.203
・とったらよかったと思う避難行動（意見交換の結果） …… P.205
・参加者の感想…… P.206
・事務局資料…… P.208

【第２回勉強会】

・次第 …… P.218
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.186（再掲）
・資料２　第１回勉強会のふり返り（実施結果の概要） …… P.219
・資料３　下呂市金山第一区 まち歩き用地図 …… P.221
・参加者アンケート …… P.222
・まち歩きを踏まえた気付き（意見交換の結果） …… P.224
・参加者の感想…… P.225
・事務局資料…… P.227

【第３回勉強会】

・次第 …… P.242
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.186（再掲）
・資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り（実施結果の概要） …… P.243
・資料３　下呂市金山第一区 災害・避難カード …… P.247
・資料４　非常持出品リスト…… P.248
・資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法…… P.249
・参加者アンケート …… P.263
・災害・避難カードの記入例…… P.265
・災害・避難カードの普及・活用（意見交換の結果） …… P.266
・参加者の感想…… P.267
・事務局資料…… P.168（再掲）

（1）関市上之保川合下

【第１回勉強会】次第

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
次　第

日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）9:30～12:00
場所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室

時間	プログラム
9:30～9:40	**開会** ○あいさつ 関市 市長公室 危機管理課　課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 関市自治会連合会　上之保支部　支部長
9:40～10:00	**第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」** ○開催趣旨の説明 ○全体的な検討スケジュールの説明 ○本日の勉強会についての説明 岐阜県 危機管理部 防災課
10:00～10:50	**第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等)」** ○7 月豪雨災害のふり返り ○とったらよかったと思う避難行動 ○ほかのグループの「ふり返り」確認
10:50～11:00	**休憩**
11:00～11:50	**第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」** ○講義 清流の国ぎふ　防災・減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○次回の開催内容の説明

●配布資料リスト
資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　本日の勉強会について
資料３　大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

【第１回勉強会】資料１

資料１

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について

１ 開催目的

平成３０年７月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例がありました。

関市においても、多数の浸水被害が発生しており、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となります。

そのため、「災害・避難カード」の作成をとおして、地域住民のみなさま一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施します。

２ 開催概要

計３回の勉強会を開催し、関市上之保地区における「災害・避難カード」を作成します。

具体的な内容と、各回の開催内容は以下のとおりです。

【第１回目（今回）】　平成３０年１２月１５日（土）

勉強会の主旨やスケジュールなどを説明。お住まいの地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、みなさんと考えます。

【第２回目】　平成３１年１月中旬（予定）

まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる経路などを確認します。

【第３回目】　平成３１年１月下旬～２月上旬（予定）

第１、２回のワークショップ踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入します。

3 災害・避難カードのイメージ

・災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードです。

・住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していきます。

・作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段目にとまる場所に置いておきます。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用します。

○災害・避難カードのイメージ

災害・避難カード（●●地区）　～少しでも危険を感じたら迷わず避難！～

わたしの避難行動

災害	避難先	避難の合図
土砂災害	●●小学校 （そこまで逃げられない時は△△）	土砂災害の避難勧告

※避難先までの移動が危険と判断されるような状況の時は、自宅の上層階で山からできるだけ離れた部屋等へ移動

避難の心得

その1	**状況により、すばやく避難する** 自治体などからの情報を収集するとともに、避難準備情報や避難勧告などが発表されたら、早目に避難する
その2	**安全なうちに避難する** 雨が弱い、外が明るい、避難経路が利用可能等といった、避難先へと安全に移動するために必要な条件が整っているうちに避難する
その3	**防災メモを持つ** 事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難する
その4	**家族とメッセージのやり取りを行う** 外出中の家族とは、携帯電話や「災害用伝言ダイヤル171」を活用して、「どこへ避難する」といったメッセージのやり取りを行う
その5	**助け合いながら避難** 近所のお年寄りなどへ声をかけながら、一緒に避難する

避難経路

「災害用伝言ダイヤル171」の使い方

電話で家族と連絡が取れないとき、「災害用伝言ダイヤル171」で自分から家族へのメッセージを録音でき、また、家族からのメッセージを聞くことができます。

［使い方］　※音声ガイダンスにしたがって録音、再生できます。

メッセージを録音する場合　「171」の後に「1」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

メッセージを聞く場合　「171」の後に「2」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

【第１回勉強会】資料２

資料２

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会

本日の勉強会について

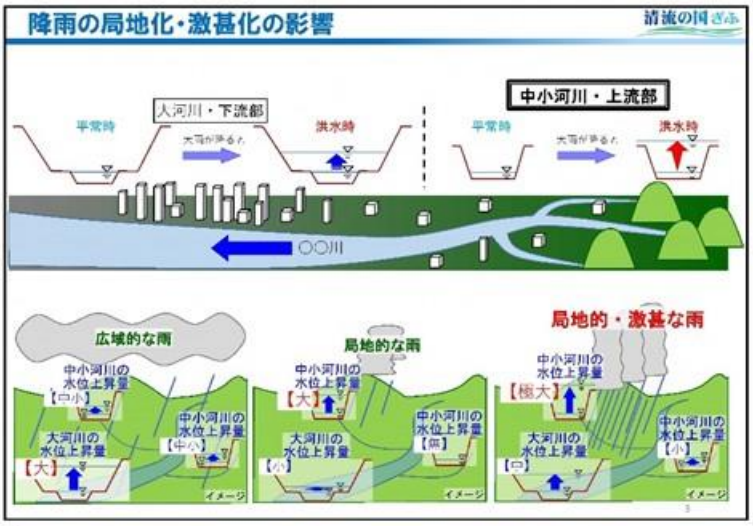
平成30年12月15日

1

河川災害

2

1


降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
大河川・下流部
中小河川・上流部
平常時
洪水時
○○川
広域的な雨
局地的な雨
局地的・激甚な雨
中小河川の水位上昇量
大河川の水位上昇量
【大】
【中小】
【小】
【極大】
イメージ

3

降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
関市
行合雨量局
上之保水位局
関市上之保
川合下地区

4

2

降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
平成30年7月7－8日　津保川（水位、行合（国）雨量）
水位
上之保水位
最高水位　7/8　3：00
4.81m
上之保　水位
2時間
上之保水位局より上流の
川合下地区には、
もっと早く影響が・・・。
行合雨量
時間最大雨量
7/8　1：00　82mm
累積雨量　551mm
時間雨量
累加雨量
累積雨量

5

土砂災害

6

3

土砂災害の種類
清流の国ぎふ
土 石 流
谷から、土、石、木などが、大雨による水といっしょになって、一気に流れてくる現象。
（およそ時速40～50km）
土石流のおそれのある箇所
約6，500箇所
がけ崩れ
大雨や地震により、"がけ"が突然、崩れ落ちる現象。
がけ崩れのおそれのある箇所
約8，400箇所
地すべり
大雨により、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。
地すべりのおそれのある箇所
約100箇所
岐阜県内の土砂災害警戒区域数　約15，000箇所
7

7

土砂災害の前ぶれと呼ばれる現象
清流の国ぎふ
時間的切迫性
★土石流
流水の異常な濁り
流木発生
渓流内の転石の音
山鳴り・地鳴り
水位の急激な低下
土石流発生
★がけ崩れ
湧水量の増加
小石が
ばらばら落下
湧水が濁り
小石が
ぼろぼろ落下
亀裂の発生
がけ崩れ発生
★地すべり
湧水量
の増加
井戸水の濁り
亀裂の発生
山鳴り・地鳴り
地すべり発生
8

8

4

土砂災害防止法

清流の国ぎふ

土砂災害から住民の生命を守るために、
土砂災害が発生する恐れがある区域を明らかにし、
警戒避難体制の整備や一定の行為の制限を行う法律です。

基礎調査の実施
岐阜県が土砂災害により被害を受けるおそれのある場所の
地形や地質、土地の利用状況などを調査

土砂災害警戒区域の指定
通称：イエローゾーン
（土砂災害のおそれがある区域）

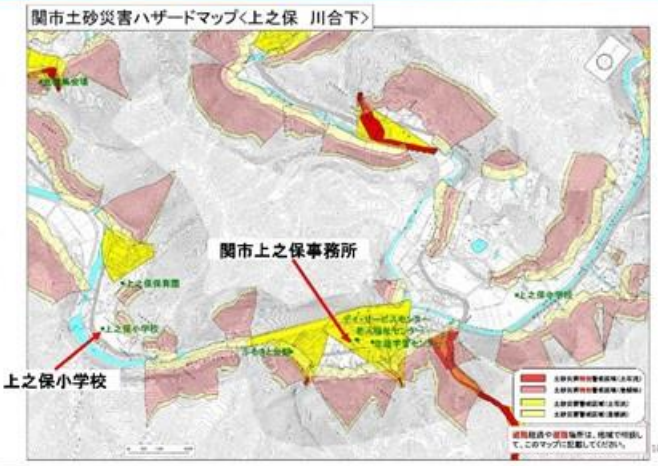
土砂災害特別警戒区域の指定
通称：レッドゾーン
（建築物損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域）

9

土砂災害の危険性を表すマップ

清流の国ぎふ

関市土砂災害ハザードマップ〈上之保　川合下〉



10

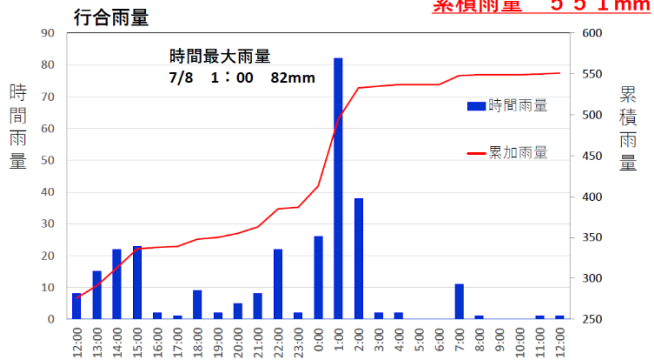
10

7月豪雨時の土砂災害の危険性

清流の国ぎふ

当時、累積雨量２８０mmの段階で、「土砂災害発生の危険性の基準」を超過していた。
２４時間の累積では「土砂災害発生の危険性の基準」の超過時の約２倍の雨量を記録していた。

累積雨量　５５１mm



11

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

７月８日発生　土石流災害　家之洞（岐阜県郡上市八幡町小那比）

12

6

13

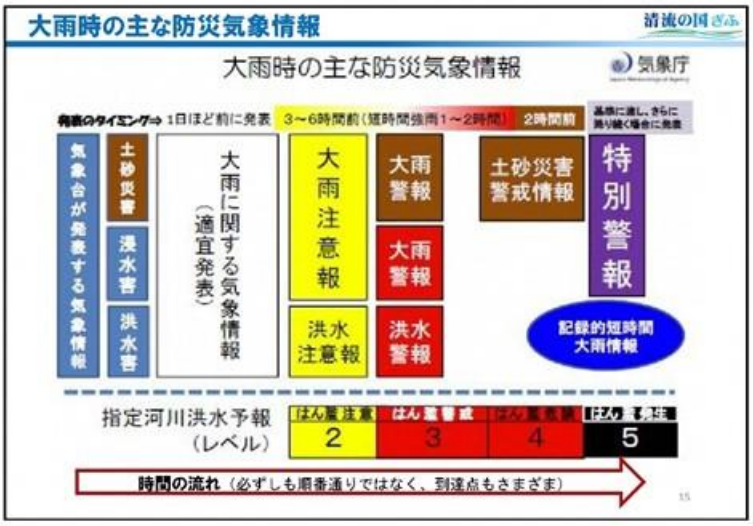
では、

このような
災害の**危険**を予測し、
身を守るために
必要な情報は・・・。

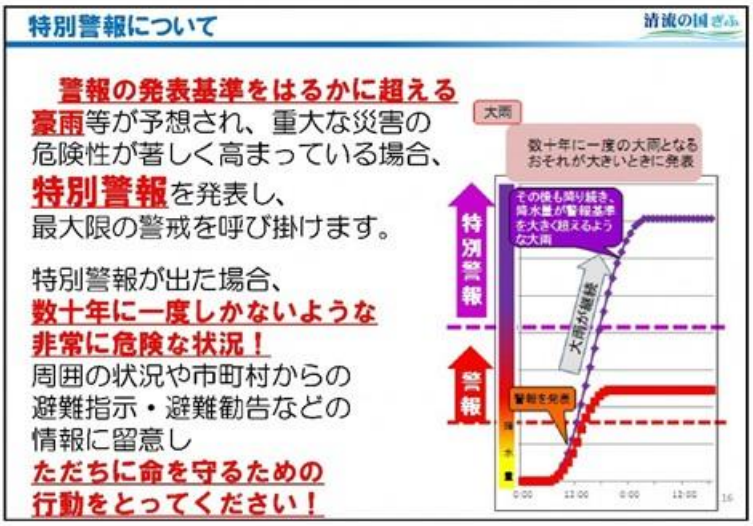
14

14

7


大雨時の主な防災気象情報
清流の国ぎふ
大雨時の主な防災気象情報
気象庁
発表のタイミング⇒ 1日ほど前に発表
3～6時間前（短時間強雨1～2時間）
2時間前
気象台が発表する気象情報
土砂災害
浸水害
洪水害
大雨に関する気象情報（適宜発表）
大雨注意報
洪水注意報
大雨警報
大雨警報
洪水警報
土砂災害警戒情報
特別警報
記録的短時間大雨情報
指定河川洪水予報（レベル）
2
3
4
5
時間の流れ（必ずしも順番通りではなく、到達点もさまざま）
15

15


特別警報について
清流の国ぎふ
警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、特別警報を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。
特別警報が出た場合、数十年に一度しかないような非常に危険な状況！
周囲の状況や市町村からの避難指示・避難勧告などの情報に留意し
ただちに命を守るための行動をとってください！
大雨
数十年に一度の大雨となるおそれが大きいときに発表
特別警報
警報
その後も降り続き、降水量が警報基準を大きく超えるような大雨
大雨が継続
警報を発表
16

16

8

各市町村が発令する避難情報

清流の国ぎふ

避難情報の種類	発令時の状況	住民がとるべき避難行動	発令基準（市町村ごとの基準例）
避難準備・高齢者等避難開始	・人的被害の発生する危険性が高まった状況	・避難行動要支援者など、避難に時間を要する方（高齢者、障がい者、乳幼児を含む家族など）は、指定緊急避難場所などへの避難を開始 ・上記以外の方は、気象情報に注意し、非常用持出袋の用意などの避難準備を開始	・大雨警報（土砂災害）が発表され、土壌雨量指数が高まったとき ・河川水位が避難判断水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難勧告	・人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況	・まだ避難行動を開始していない全ての住民が指定緊急避難場所などへの避難を開始	・土砂災害警戒情報が発表された時 ・河川水位がはん濫危険水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難指示（緊急）	・人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況	・確実な避難を完了（まだ避難をしていない住民は、直ちに避難）	・上記の基準を上回る危険性が確認されたとき

17

17

７月豪雨時は、
避難指示（緊急）のみ発令。

- 下之保観測所の水位が基準。
- 基準水位がない河川あり（中小河川）。
- 中小河川は水位上昇が急。

18

18

9

新たな取組み

中小河川でも
避難情報を発令できるよう
基準を追加。

19

19

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

1．中小河川における
避難判断参考水位の設定。
・県内４２２の一級河川に**危機管理型水位計**を設置。
・津保川に３箇所、小那比川に１箇所、新たに設置。

2．洪水警報の**危険度分布図**の確認。
・３時間先の洪水予想。

3．現地の**情報収集体制**の強化
・消防・水防団からの情報収集　など

20

20

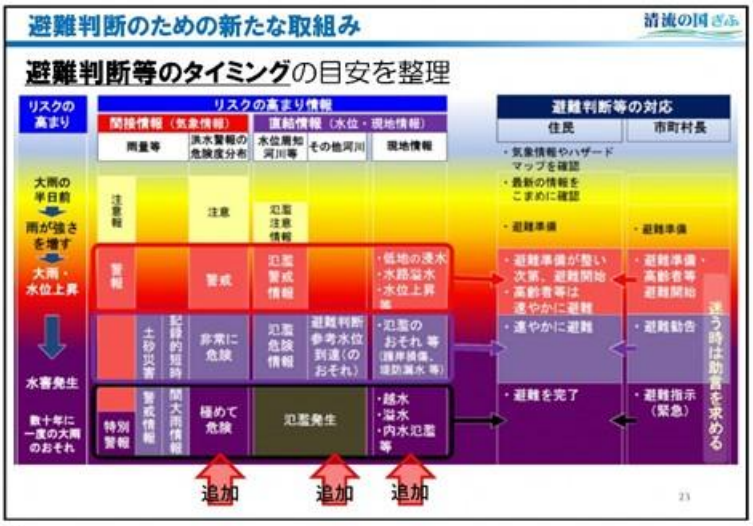
10

避難判断のための新たな取組み
清流の国ぎふ
危機管理型水位計を新たに設置
津保川
上之保鳥屋市
小那比川
上之保向島橋
津保川
上之保正洞橋
上之保水位局
津保川
上之保川合下
21

21

避難判断のための新たな取組み
清流の国ぎふ
洪水警報の危険度分布図の確認
※気象庁ＨＰより
22

22



23

しかし、

それだけでは**限界**。

取組を始めたばかり・・・
予測にも限界がある・・・

24

12

一人ひとりが
避難を考える取組み

自分の生活環境などをふり返り、
一人ひとりが避難の手順について考え、
どう行動するのか**あらかじめ決めておく**。

それが今回の取組み

25

25

13

【第１回勉強会】資料３

地区名＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

資料３

大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

- 大雨時避難の活動手順を整理します
- 『早めの避難』とは『スピード速く』ではなく、『タイミング早く』であることを理解して下さい

① 安全な所はどこですか？

② 片道何分ですか？(通常)　(徒歩)＿＿＿分　(車)＿＿＿分

③ 片道何分ですか？(豪雨時)　(徒歩)＿＿＿分　(車)使用不可

④ 避難を決断してから家を出るまでに何分必要ですか？　＿＿＿分

⑤ 避難を決断してから、安全な所に無事辿り着くまでに何分かかりますか？

②+④	②+④	③+④
(徒歩)＿＿＿分	(車)＿＿＿分	(豪雨時)＿＿＿分

■時間雨量が 20mm を越えると、屋外は危険

⑥ 持ち物は？

合計 ＿＿＿＿ kg

1

要支援者の支援手順と所要時間も整理しよう

⑦ 要支援者にとっての安全な所はどこですか？

⑧ 要支援者はどこにいますか？	
どなたですか？	さん
⑨ 気象情報の入手方法は？	
⑩ 避難開始を決断する目安は？	
⑪ 不安と感じる現象は？(複数)	
⑫ 避難開始を誰が決断しますか？	さん
⑬ 誰が避難開始を連絡しますか？	さん
⑭ 誰に避難開始を連絡しますか？	さん
⑮ 連絡手段は？	
⑯ 第二の連絡手段は？	
⑰ 安全な所の解錠手順は？	
⑱ 安全な所の解錠担当者は？(複数名)	さん　さん　さん
⑲ 避難手段は(徒歩、誰の車)？	
㉑ 避難ルートは？	

㉒ 命を守る為に必要な総所要時間（決断⇒連絡完了⇒避難準備完了

⇒安全な所の解錠完了⇒避難開始⇒避難中⇒全員の避難完了）は？

約　　時間　　分

㉓ 先送りや時間切れの原因は？

2

【第１回勉強会】参加者アンケート

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

(1) 最初に、普段からの備えについて教えてください。

①ご自身が避難する避難場所を知っていますか。　知っていた ←　→ 知らなかった

②土砂災害や洪水のおそれがある場合、家族で避難場所や避難行動の方法を決めていますか。　はい ←　→ いいえ

③ハザードマップを確認したことがありますか。　はい ←　→ いいえ

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第１回勉強会の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

②配布資料はどうでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

③会場全体に掲示した資料や各テーブルに配置した資料はわかりやすいものでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

④説明の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

⑤ガイダンス「本日の勉強会について」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑥ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等）」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑦講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」の内容はいかがでしたか。

楽しかった ← どちらとも言えない → つまらなかった

⑧いつまでに避難を完了するのがよいか分かりましたか。

はい ← どちらとも言えない → いいえ

⑨土砂災害や洪水に関することについて、知識が身につきましたか。

高まった ← どちらとも言えない → 高まらなかった

⑩第１回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった ← どちらとも言えない → 高まらなかった

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第１回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　男性・女性
年代　20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上
地区　大之田・棚井・竹之腰・横腰
お名前　（　　） ※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第１回勉強会】とったらよかったと思う避難行動（意見交換の結果）

①当時の行動やできなかったこと

・両隣の家に避難の呼びかけをした

・午前２時頃、自治会長へサイレンを鳴らすように話しに行った

・午前１時 40 分頃、隣の家に声をかけて避難を開始した。軽トラ等を高台に移動した

・今まで経験したことがない水がきていたので避難所へ避難した

・３日前から妻と交代で確認をしており、当日も０時前に気象庁レーダーをスマートフォンで確認していた。

・家の中に水が流れ込んできたため、午前２時頃に家の天井を破り、そこに掴まって耐えた。

・雨が４日間続いたことで危険を感じた。

・市のメールを見たが、上之保地区は安心だと思って油断していた。

・警報があってから、２階から１階に行ったところ玄関の中に水が１０センチくらい来ていたため、床上のものを机の上に上げた。

・午前１時 50 分頃、水が家の中に入り、大切なものをバッグに入れて家から出た。膝まで水が来ていたため、裏庭の石垣を上がって避難した。

・川を車が流れていったため、避難が難しいと思い自宅にいた。

・友達からのメールがきっかけで、何も持たずに避難所へ逃げた。

・消防から呼びかけを受けて、とりあえず逃げた。他の人を助けに行けなかった。

・7/7 当日は朝からの降雨はあまり気にならない程度だった。また、特別警報が発令されていたが、水位は普段より１m程の増水を夜 10 時頃まで繰り返していた。1 時 50 分頃、1 km ほど下流の地域に嫁いだ娘から「道路に水がついた」と連絡を受け、自宅玄関を開けたところ、すでに水が玄関内に入ってきていた。（道路は激流となっていた）

・泥水に気づいた時、すでに道路は激流で近隣の避難状況を確認することなどできない状況であり、家族を裏庭から 1.5m程の高台へ石垣を登らせ避難させた。自分は向いの家（平屋）の避難を自宅側から電灯を振り大声を出しながら確認した。取り残されていることが判明し、助けを呼んでくる旨を大声で叫び、1.5m程の石垣を登り、学習センター敷地にいた消防団に助けを求め一緒に戻ったが、すでに水位は道路上で、1.5m以上に増水しており、救助できなかった。

・車が川を流れて行ったので「もう自分たちは道を渡れない」と思い自宅にいた。

・サイレンで気づいた時には道路に水が流れ、車も流されていたため、自宅の２階へ逃げるしかなかった。

・自宅の２階へ避難したため水がひくまでは下りられなかった
・戻ってきて畳を上げていたころ、電気が消えて何もできずに２階へ移った。
・午前 2:00 頃、避難の時に胸まで水がつき、素足で避難した。
・午前 1:00 に就寝した後サイレンが鳴り、家の中に水が入ってきた。水がひざ下まできたため、避難の準備をするが、非常持ち出し袋を持って避難する頃には外の水は胸まで来ていた。
・自家用車にて避難所への避難をしようと思ったが、危険を感じ家の２階に避難した。
・午前 1:37　家の前からも、裏からもいきなり水が家に入ってきたので、母と自分が逃げることしか考えられなかった。
・午前 1:37　自宅でテレビを見ていたら停電してすぐに警報がなった。このとき既に泥水が家に入ってきていた。眠っていた母を起こして家の２階へ避難させ、２階に上がった。
・情報収集する行動を起こせなかった。

②命を守る具体的な気づき

・早めの避難が必要。個人だけでなく上之保全体の意識を変えないといけない。
・携帯電話、スマホでの情報入手方法について、わかりやすく書面で伝えてほしい。
・早めの準備が必要だと感じた。
・天気予報を早めに見る。
・警報が出ていたのは知っていたが、武芸川地域のことだと思い込みがあった。
・体調を悪くしている人などの事も、今一度考えたい
・とにかく避難は早めに自主避難、自己判断を行う。行政をあてにしない。
・地域に設置されている水位計を活用するための講習会があると良い。
・近所や周りで呼びかけ合いが必要だと思った。
・過信せず、早めの行動を取ることが大切かと思う。

【第１回勉強会】参加者の感想

関市上之保地区　第1回WSアンケート集計　　回答件数：24

(1) 最初に、普段からの備えについて教えてください。

①ご自身が避難する避難場所を知っていますか。

知っていた	23
知らなかった	1

②土砂災害や洪水のおそれがある場合、家族で避難場所や避難行動の方法を決めていますか。

はい	18
いいえ	6

③ハザードマップを確認したことがありますか。

はい	13
いいえ	11

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第1回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	5
ちょうどよい	18
長い	1

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	19
どちらとも言えない	4
わかりにくい	0

③会場全体に掲示した資料や各テーブルに配置した資料はわかりやすいものでしたか。

わかりやすい	19
どちらとも言えない	4
わかりにくい	1

④説明の時間はどうでしたか。

短い	0
ちょうどよい	23
長い	0

⑤ガイダンス「本日の勉強会について」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	23
どちらともいえない	0
わかりにくい	0

⑥ワークショップ「安全に避難するためには（7月豪雨災害のふり返り 等）」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	20
どちらともいえない	4
わかりにくい	0

⑦講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」の内容はいかがでしたか。

楽しかった	17
どちらとも言えない	6
つまらなかった	0

⑧いつまでに避難を完了するのがよいか分かりましたか。

はい	22
どちらとも言えない	1
いいえ	0

⑨土砂災害や洪水に関することについて、知識が身につきましたか。

高まった	23
どちらとも言えない	1
高まらなかった	0

⑩第１回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	22
どちらとも言えない	2
高まらなった	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第1回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

大変有意義な勉強会で、ありがとうございました。
早めの避難が必要と思うが、その時の状況とかを考えてしまうので、その意識を変えないといけないが、上之保全体を変えないといけない。作業したいので夜の勉強会がいい。
私は被災者ではないのですが、勉強になりました。
思ったより熱の入った勉強会でした。何事も世間が支えてくれる事を願います。もちろん個人もそれ以上に努力しますが。
携帯電話、スマホでの情報入手方法について、わかりやすく書面で伝えてほしい。
今後の関市の情報（取り組み）
村岡先生のお話は、具体的でポイントをしぼった話で、避難の判断の大切さが良くわかった。また、やること（行動）が具体的で何をどのように考えれば良いかがわかった。河川災害、土砂災害のメカニズムと避難情報の状況、また各自が避難判断することの重要性が理解できた。今回のことは、より多くの人に知っていただけるとよいと思った。
体調を悪くしている人などの事を今一度考えたい
とにかく避難は早めに自主避難、自己判断。行政をあてにしない。
大之田水位計の活用の講習会があると良い。
情報を早くもらいたい。
大変勉強になった。今後ともよろしくお願いします。
もっと多くの人に参加してほしかった。
地域以外の人も参加してほしい。
雨が降っている様子。
もっと多くの人が参加してほしかった。資料は両面コピーでない方が良い。見ずらいから。講義、村岡先生の話は参考になった。
勉強会の必要性がわかった。

性別

男性	10
女性	13

年代

20代	0
30代	0
40代	0
50代	1
60代	12
70代	7
80代	2
90代以上	0

地区

大之田	3	
棚井	17	
竹之腰	0	
横腰	1	
その他	1	※行合

【第１回勉強会】事務局資料

関市上之保地区

第１回　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会　進行表

2018. 12. 14 版

◆開催場所、日時

・日時：平成３０年１２月１５日（土）９：３０～１２：００

・場所：関市上之保生涯学習センター　２階 2-1 会議室

◆次第

9:30　開会

9:40　ガイダンス「本日の勉強会について」

10:00　講義「安全に避難するためには（７月豪雨のふりかえり　等）」

10:50　休憩

11:00　ワークショップ「一人ひとりが考えて決める避難手順」

11:50　まとめ

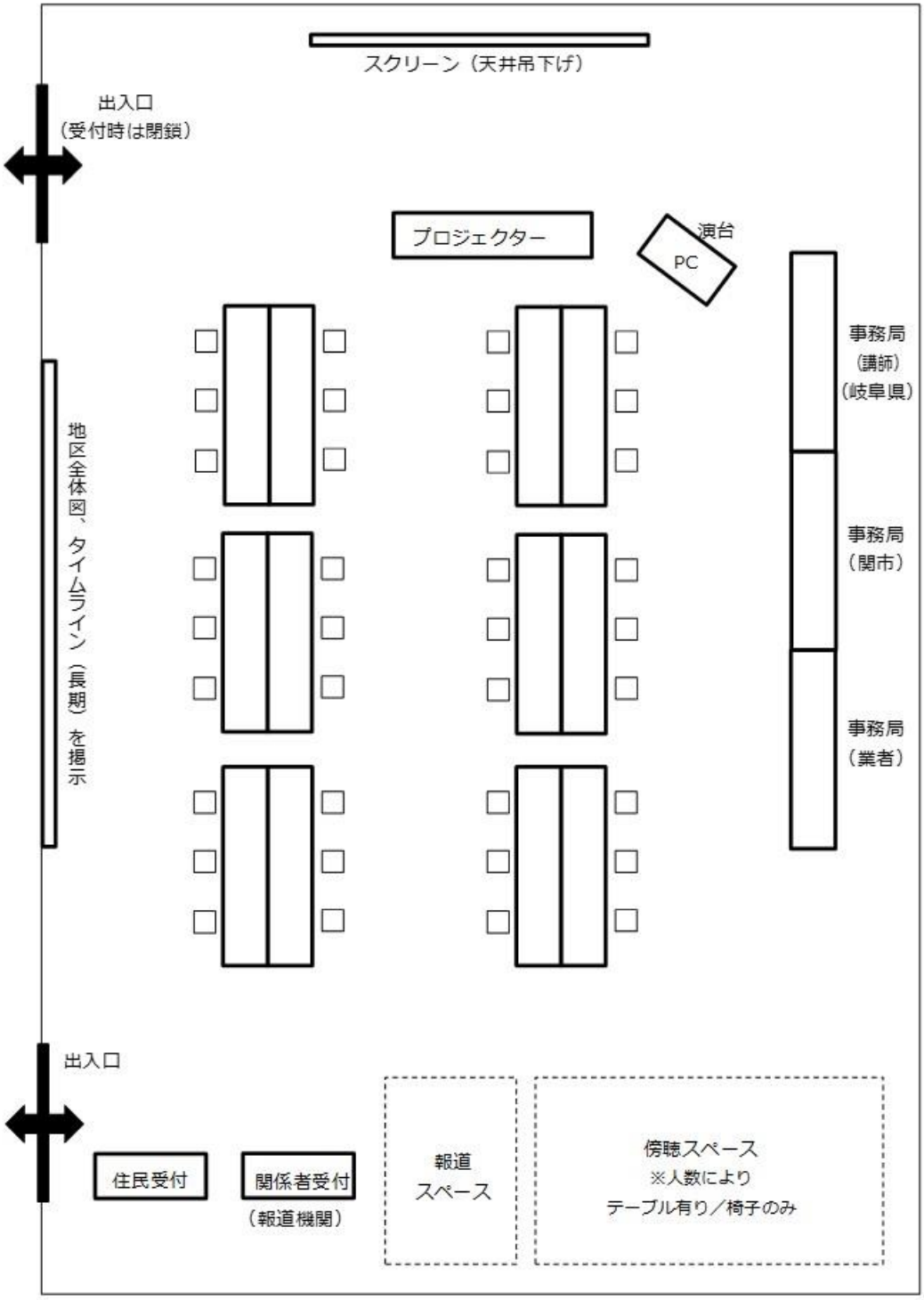
1 プログラム

	時間	内容	備考	担当
	8：30～9：00	準備 机を６グループ分並べる 地区ごと（３つ）×２を基本 １グループにつきイスを６～８脚程度想定参加者数によって椅子の数を増やす	■受付に配置 ・名簿、資料など ■壁やホワイトボードに掲示 ・地図（地区全体） ■各机に配置 ・タイムライン（短） ・地図（地区ごと） ・フセン（大、小）、マーカー、ボールペン	業者 受付：市、業者
	9：00～9：30	受付		
	9：30～9：40 （10 分）	① 開会 ② あいさつ（市→県→自治会）	・開会など全体的な進行は業者 ・県、市、区長があいさつ	①業者 ②県、市、自治会
	9：40～10：00 （20 分）	**ガイダンス「本日の勉強会について」** ① 事務局紹介 （講師→県→市→業者） ② 開催趣旨の説明 ③ 全体的な検討スケジュールの説明 ④ 本日の勉強会についての説明（岐阜県）	●資料等 ・説明パワーポイント	 ①県 ②県 ③県 ④県

	10：00～10：50 （50分） ①35分 ②15分 （時間は、状況を見ながら調整）	**安全に避難するためには（7月豪雨のふりかえり）** ① ・当時の避難の状況をふりかえり、水位や状況をフセンで記載（事柄、時刻、規模、危険性など） ② 課題の抽出 ・とったらよかったと思う行動は？（命を守るために必要だと思った行動を記入してもらう）	●資料等 ・地図（地区全体、地区別） ・写真 ・タイムライン（短） ■１テーブルに１人以上ずつ補助をつけて、進行や記入を手助けする。 ■タイムライン（長）は、講師の指示で壁に掲示する	県、市、講師
	10：50～11：00	**休憩**		
	11：00～11：50 （50分） 11：50～12：00 （10分）	**一人ひとりが考えて決める避難手順** ・「安全に避難するには」を踏まえ、避難に必要な手順、時間を考える **まとめ** ①次回の開催内容の説明 ②閉会	●資料「大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう」	講師 ①県 ②業者

2 第１回勉強会の開催に向けて

(1) 会場レイアウト（関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室）



(2) 準備物など

項目	準備物等	備考	数量	担当
配布資料（個人）	次第	A4 版片面	70 部	
	事業概要資料	A4 版両面	70 部	
	本日の勉強会について（パワーポイント資料 2in1 印刷）	A4 版両面	70 部	
	大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう	A4 版両面	70 部	
	第１回アンケート	A4 版両面	70 部	
	封筒 A3	A3	70 部	
配布資料（テーブル）	浸水箇所位置図（①～⑥をプロットしたもの）	A3 版	８部	
	浸水状況記入図（①～⑥のクリアファイル入り写真）	A4 版	８部	
	地区詳細図（横腰、竹之腰）	A1 版	各２部	
	地区詳細図（大之田）	A1 版	４部	
	タイムライン（短期）	A1 版	８部	
会場掲示資料	地区全体図（白図、警戒区域入図）	A0 版	２部	
	タイムライン（長期）	A0 版横長	１部	
その他（テーブル）	記入用ボールペン（ジェットストリーム 0.7mm）	－	70 本	
	浸水状況記入用油性ペン（マッキー細･極細）	－	12 本	
	地区詳細図記入用マーカーペン（プロッキー10 色）	－	6 ｾｯﾄ	
	75mm×75mm ふせん（パステルカラー）	－	6 ｾｯﾄ	
	75mm×25mm ふせん（パステルカラー）	－	6 ｾｯﾄ	
その他（会場）	名簿（参加者用、関係者用）	A3 版	２部	
	名簿記入用ボールペン（ジェットストリーム 0.7mm）	－	２本	
	会場案内図（生涯学習センター1 階等での案内用）	A3 版	１ｾｯﾄ	
	設営道具（テープ、ピン、ごみ袋など）	－	－	
	Ａ４用紙（メモ用）	Ａ４判	100 枚	
	Ａ３用紙（メモ用）	Ａ３判	100 枚	
	Ａ０判模造紙（抽出した課題を貼りだすため）	Ａ０判	10 枚	
その他（電子機器等）	ノート PC	－	１台	
	プロジェクター	－	１台	
	ケーブル	－	１本	
	延長コード	－	１台	
	差し棒	－	１本	
	デジタルカメラ	－	１台	
	カードリーダー	－	１台	
	レーザーポインタ（スクロール機能付き）	－	１台	
	IC レコーダー	－	１台	
その他	アンメルツまたはベンジン（油性ペンを消すためのもの）	－	１本	
	お茶	－	100 本	
	カイロ	－	100 枚	

3　ワークショップの行動

安全に避難するには（７月豪雨のふり返り　等）

１．発災時の被害状況変遷ならびに住民による行動(情報収集、声掛け、避難行動など)を正方形付箋に記入し、配布した地図に貼る。
また、クリアファイルに入った各地点の写真に、クリアファイルの上から冠水の状況を図示する。（１５～２０分間）

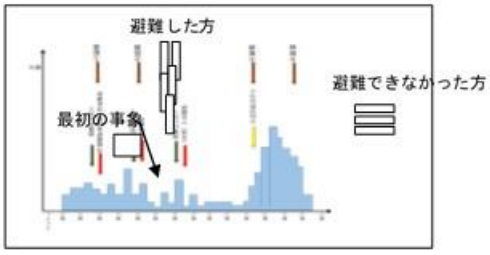
【地区】横腰、竹之腰、大之田・棚井

【方法】１）災害について（○色）
・付箋に記入する内容・・・事象、時刻、規模や範囲、
危険性（不安、通行困難、命にかかわる）
・進行は発生した順序にこだわらなくても良い。
・事象が発生した付近に貼り、範囲をペンで図示する。
・最も早く発生した事象に○印をつける。

２）避難行動について（○色）
・命を守るために必要と思った行動(情報収集、声掛け、避難行動など)を記入。
例：気づいたら道路を水が流れていたので、２階に避難した。
隣近所に声掛けをして一緒に避難所まで避難した。　等
・地図の端に貼っていく。

【注意点】　参加者はグループワークに不慣れであることが予想されるので、
記入を逐一促すこと(貴重な情報を会話で終わらせず、記録すること)
どうしても、記録が残らない状況に陥れば、スタッフが代筆することも必要

２．タイムラインに整理したイベントの中で、最初に発生した災害を四角付箋に転記し、
Ａ１版のタイムライン上の発生時刻に貼る。
また、参加者の地区名・氏名を縦付箋に記入し、Ａ１版のタイムライン上の避難行動を開始した時刻の位置に貼る。避難できなかった方は欄外にそろえて貼る。（５～１０分）



３.「とったらよかったと思う行動(情報収集、声掛け、避難行動など)」について付箋に記入し、Ａ１版の白紙の模造紙に貼る。（１５分）

４．参加者が一斉にほかの席の「ふり返り」を確認しに行く。スタッフは担当テーブルに残り説明。（５分）

ワークショップ終了。
１０分間の休憩。

５．各テーブルのスタッフが、それぞれの地区における「最初に確認された事象」及び「上之保小学校までの避難が困難になる事象」を、ひとつなぎの地図（Ａ０版）に正方形付箋（新たに記入）と引き出し線で記入。

講師の講義へ

【第２回勉強会】次第

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
次 第（案）

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00
場所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール他

時間	プログラム　※第１部は勉強会参加者以外も聴講可
13:30～13:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 関市 市長公室 危機管理課　課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 関市自治会連合会 上之保支部　支部長
13:35～14:30	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○勉強会の概要説明（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域支援係長 ○講義（50 分） ・第１回勉強会のふり返り ・自分の地域に予想される危険について ・一人ひとりが考えて決める避難手順 清流の国ぎふ 防災･減災センター
14:30～14:40	**休憩**
14:40～15:55	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○まち歩きの手順説明（5 分） ○まち歩き（45 分） ○まち歩きを踏まえた意見交換（25 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
15:55～16:00	**閉会** ○第３回勉強会の開催内容の説明（5 分）

<配布資料>

次第
資料１　関市上之保地区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回勉強会のふり返り
資料３　関市上之保地区 まち歩き用地図
参加者アンケート

【第２回勉強会】資料２

資料２

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会

本日の勉強会について

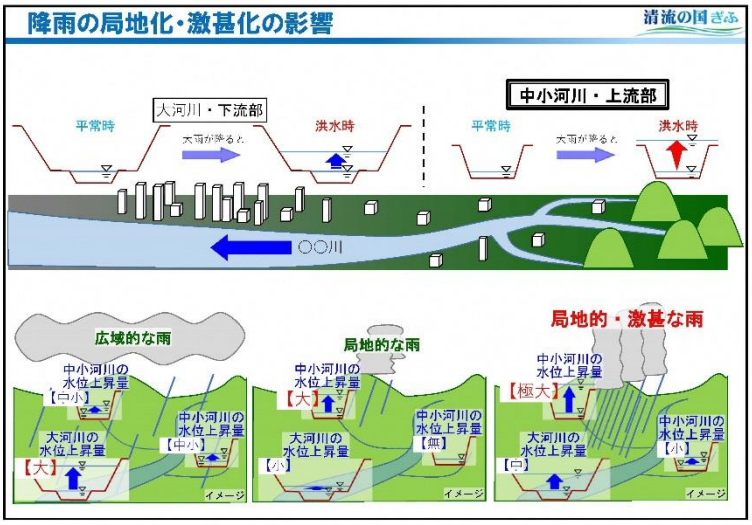
平成31年1月26日

1

河川災害

2

1


降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
大河川・下流部
中小河川・上流部
平常時
洪水時
大雨が降ると
○○川
広域的な雨
局地的な雨
局地的・激甚な雨
中小河川の水位上昇量
【中小】
【中小】
【大】
【大】
【小】
【無】
【極大】
【小】
【中】
大河川の水位上昇量
イメージ

3

降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
郡上市和良町沢
下呂市境から5.0km上流
撮影時刻　7/8　am2:00

4

2

降雨の局地化・激甚化の影響

清流の国ぎふ

5

降雨の局地化・激甚化の影響

清流の国ぎふ

6

3

土砂災害

7

土砂災害の種類

清流の国ぎふ

土石流

谷から、土、石、木などが、大雨による水といっしょになって、一気に流れてくる現象。
（およそ時速40～50km）

土石流のおそれのある箇所
約6，500箇所

がけ崩れ

大雨や地震により、“がけ”が突然、崩れ落ちる現象。

がけ崩れのおそれのある箇所
約8，400箇所

地すべり

大雨により、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。

地すべりのおそれのある箇所
約100箇所

岐阜県内の土砂災害警戒区域数　約15，000箇所

資料提供　NPO法人土砂災害防止広報センター

8

4

土砂災害防止法

清流の国ぎふ

土砂災害から住民の生命を守るために、
土砂災害が発生する恐れがある区域を明らかにし、
警戒避難体制の整備や一定の行為の制限を行う法律です。

基礎調査の実施
岐阜県が土砂災害により被害を受けるおそれのある場所の
地形や地質、土地の利用状況などを調査

↓

土砂災害警戒区域の指定
通称：イエローゾーン
（土砂災害のおそれがある区域）

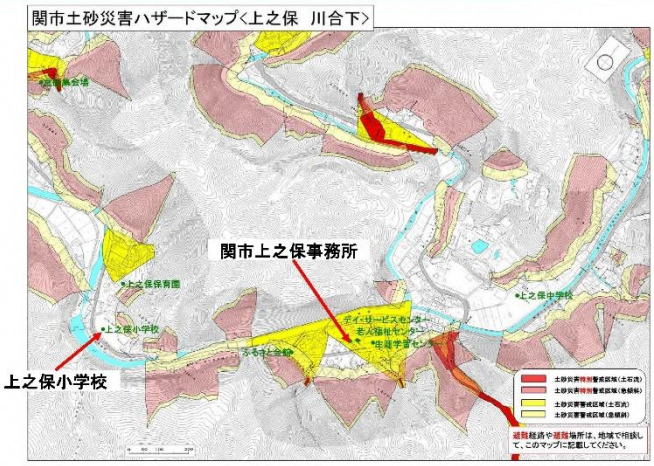
土砂災害特別警戒区域の指定
通称：レッドゾーン
（建築物損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域）

9

土砂災害の危険性を表すマップ

清流の国ぎふ

関市土砂災害ハザードマップ<上之保　川合下>



10

5

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

土砂氾濫

11

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

家屋への土砂流入

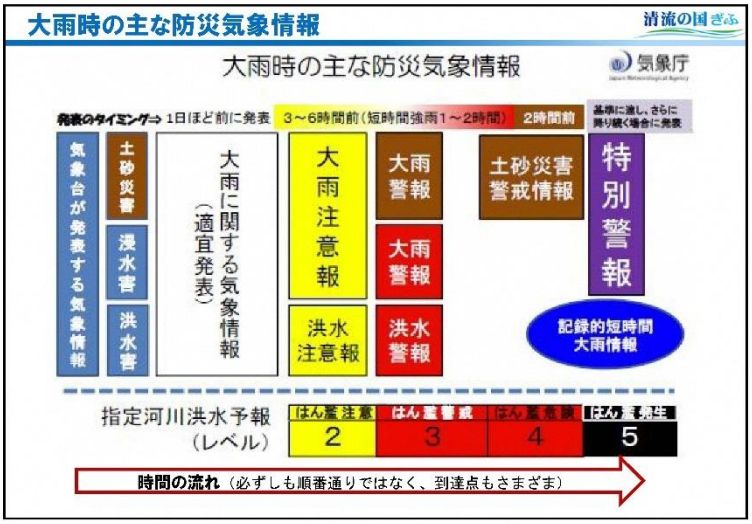
12

6

では、

このような
災害の**危険**を予測し、
身を守るために
必要な情報は・・・。

13



14

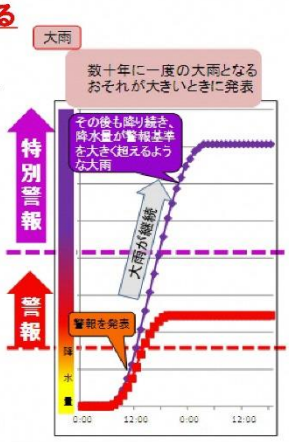
7

特別警報について

清流の国ぎふ

警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、**特別警報**を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

特別警報が出た場合、
数十年に一度しかないような非常に危険な状況！
周囲の状況や市町村からの避難指示・避難勧告などの情報に留意し
ただちに命を守るための行動をとってください！



15

各市町村が発令する避難情報

清流の国ぎふ

避難情報の種類	発令時の状況	住民がとるべき避難行動	発令基準（市町村ごとの基準例）
避難準備・高齢者等避難開始	・人的被害の発生する危険性が高まった状況	・避難行動要支援者など、避難に時間を要する方（高齢者、障がい者、乳幼児を含む家族など）は、指定緊急避難場所などへの避難を開始 ・上記以外の方は、気象情報に注意し、非常用持出袋の用意などの避難準備を開始	・大雨警報（土砂災害）が発表され、土壌雨量指数が高まったとき ・河川水位が避難判断水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難勧告	・人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況	・まだ避難行動を開始していない全ての住民が指定緊急避難場所などへの避難を開始	・土砂災害警戒情報が発表された時 ・河川水位がはん濫危険水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難指示（緊急）	・人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況	・確実な避難を完了（まだ避難をしていない住民は、直ちに避難）	・上記の基準を上回る危険性が確認されたとき

16

8

７月豪雨時は、
避難指示（緊急）のみ発令。

- 下之保観測所の水位が基準。
- 基準水位がない河川あり（中小河川）。

17

新たな取組み

中小河川でも
避難情報を発令できるよう
基準を追加。

18

9

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

1．中小河川における
避難判断参考水位の設定。

・家屋浸水が想定される一級河川に**危機管理型水位計**を設置。
・津保川に３箇所、小那比川に１箇所、新たに設置。

2．洪水警報の**危険度分布図**の確認。

・３時間先の洪水予想。

3．現地の**情報収集体制**の強化

・消防・水防団からの情報収集　など

19

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

危機管理型水位計を新たに設置し、**避難判断参考水位**を設定

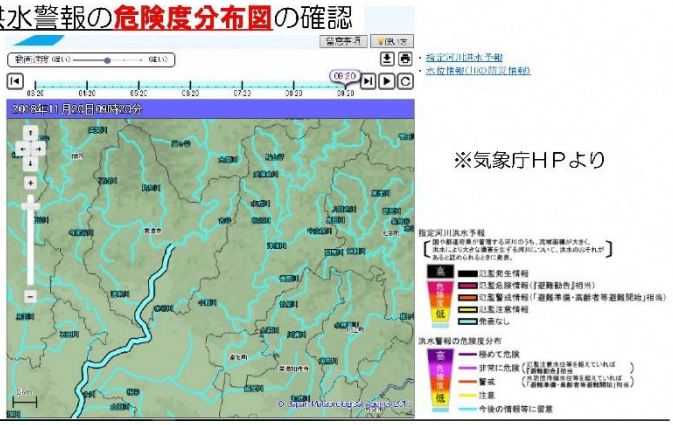
20

10

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

洪水警報の**危険度分布図**の確認



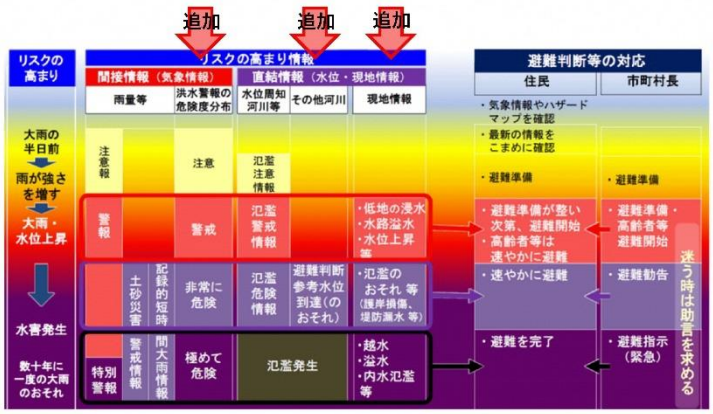
※気象庁ＨＰより

21

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

避難判断等のタイミングの目安を整理



22

11

しかし、

それだけでは**限界**。

取組を始めたばかり・・・
予測にも限界がある・・・

23

一人ひとりが
避難を考える取組み

自分の生活環境などをふり返り、
一人ひとりが避難の手順について考え、
どう行動するのか**あらかじめ決めておく**。

それが今回の取組み

24

12

【第２回勉強会】資料３

資料３

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第１回勉強会のふり返り

１ 開催概要

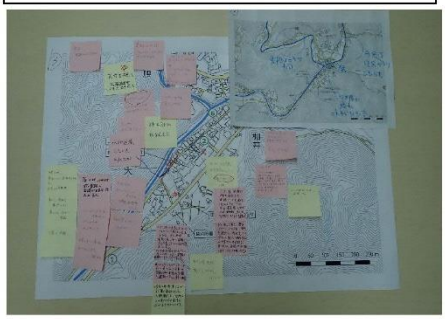
開催日時：平成３０年１２月１５日（土）　午前９時 30 分～午前 12 時
開催場所：上之保生涯学習センター　２階　２－１会議室

【第１部】 ガイダンス「本日の勉強会について」岐阜県 危機管理部 防災課

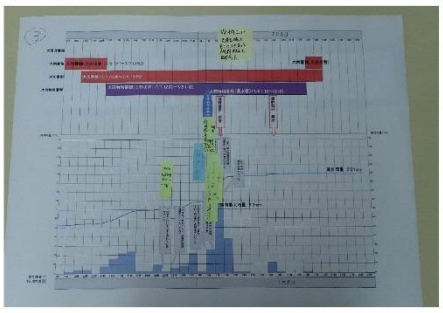
【第２部】ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等）」
○７月豪雨災害のふり返り
○とったらよかったと思う避難行動
○ほかのグループの「ふり返り」確認

◆住民の方の声

・2:30 サイレンに起こされた。自分の家は安全と思っていた。逃げようとしたら既に道路を車がながされていた。
・泥水に気づいた時、すでに道路は激流で近隣の避難状況を確認することなどできない状況であった。
・もう少し早く起きて逃げればよかった。
・サイレンで気づいた時には道路に水が流れ車も流れていたため２階へ逃げるしかなかった



・川を見た時に以前の大雨の時と同じくらいの水位に見えたので油断した
・自分のところは大丈夫との思い込みがあった
・急に水位が上昇する実感がなかった。経験もなかった。
・情報収集する行動を起こせなかった
・過信せず早めの行動をとることが大切かと思う



1

第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」
→大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう
→要支援者の支援手順と所要時間も計算しよう

・注意報、警報などの情報は、前日から出ていた
・「避難」ではなく「脱出」になっていないか？
・いざという状況になる前に、早めに避難を完了しておく必要がある
・自分が避難にかかる時間を把握し、いつまでに避難を完了させるのが重要

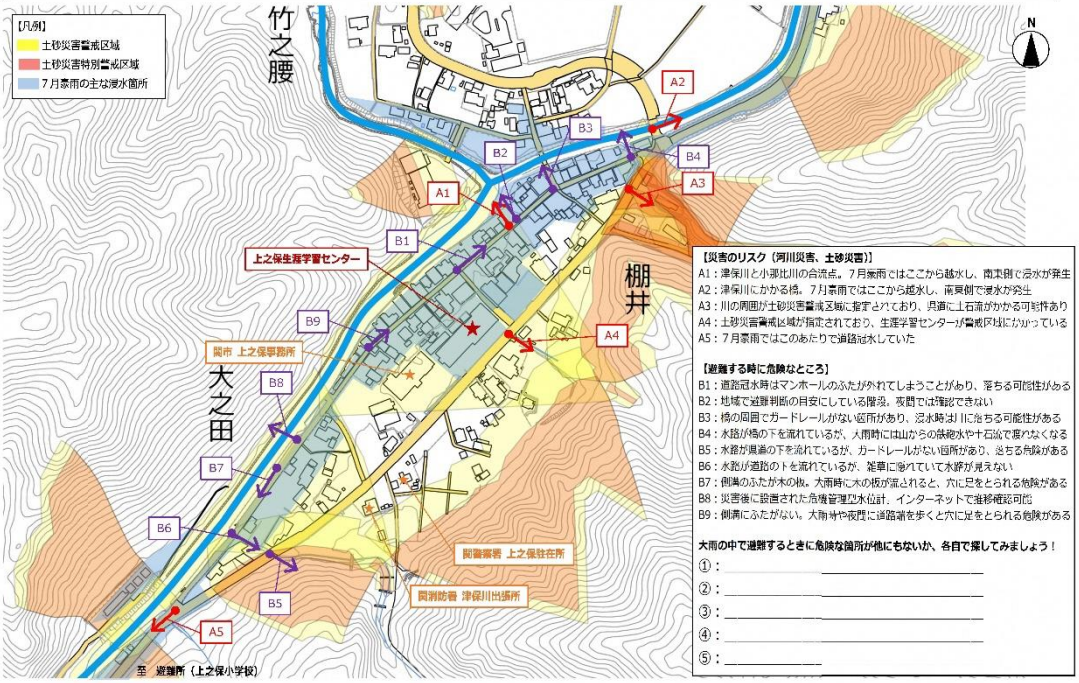
2 参加者からの主な意見（参加者アンケートより）

・大変有意義な勉強会で、ありがとうございました。
・早めの避難が必要と思うが、その時の状況とかを考えてしまうので、その意識を変えないといけないが、上之保全体を変えないといけない。
・私は被災者ではないのですが、勉強になりました。
・村岡先生のお話は、具体的でポイントをしぼった話で、避難の判断の大切さが良くわかった。また、やること（行動）が具体的で何をどのように考えれば良いかがわかった。河川災害、土砂災害のメカニズムと避難情報の状況、また各自が避難判断することの重要性が理解できた。今回のことは、より多くの人に知っていただけるとよいと思った。
・とにかく避難は早めに自主避難、自己判断。行政をあてにしない。
・大変勉強になった。今後ともよろしくお願いします。
・もっと多くの人が参加してほしかった。

【第２回勉強会】資料４

資料４

関市上之保地区 まち歩き用地図　～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～



【災害のリスク（河川災害、土砂災害）】

A1：津保川と小郡北川の合流点。７月豪雨ではここから越水し、南東側で浸水が発生
A2：津保川にかかる橋。７月豪雨ではここから越水し、南東側で浸水が発生
A3：川の周囲が土砂災害警戒区域に指定されており、県道に土石流がかかる可能性あり
A4：土砂災害警戒区域が指定されており、生涯学習センターが警戒区域にかかっている
A5：７月豪雨ではこのあたりで道路冠水していた

【避難する時に危険なところ】

B1：道路冠水時はマンホールのふたがかれてしまうことがあり、落ちる可能性がある
B2：地域で避難判断の目安にしている階段。夜間では確認できない
B3：橋の周囲でガードレールがない箇所があり、冠水時は川に落ちる可能性がある
B4：水路が橋の下を流れているが、大雨時には山からの鉄砲水や土石流で渡れなくなる
B5：水路が県道の下を流れているが、ガードレールがない箇所があり、落ちる危険がある
B6：水路が道路の下を流れているが、雑草に覆われていて水路が見えない
B7：側溝のふたが木の板。大雨時に水の板が流されると、穴に足をとられる危険がある
B8：災害後に設置された危機管理型水位計、インターネットで推移確認可能
B9：側溝にふたがない。大雨時や夜間に道路端を歩くと穴に足をとられる危険がある

大雨の中で避難するときに危険な箇所が他にもないか、各自で探してみましょう！

①：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
②：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
③：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
④：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
⑤：＿＿＿＿＿＿＿＿

【第２回勉強会】参加者アンケート

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

(1) 本日の勉強会は、どちらまで（何部まで）参加されましたか。

第１部（講義）まで　・　第２部（まち歩き）まで

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第２回勉強会の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

②配布資料はどうでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

③説明の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

④【第１部】講義「次の大雨への備え～危険と課題～」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

◆第２部に参加された方にお聞きします。

⑤【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑥第２回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。　は　い←　どちらとも言えない　→ いいえ

⑧本日の内容を踏まえて、上之保地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う　←　どちらとも言えない　→ そう思わない

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第２回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　**男性・女性**

年代　**20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上**

地区　**川合下（大之田、棚井、竹之腰、横腰）、**

上之保（鳥屋市・行合・川合上・川合中・和野田・山本・先谷・名倉・明ヶ島・船山）、

その他（　　）

お名前　**（　　）**　※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第２回勉強会】まち歩きを踏まえた気付き（意見交換の結果）

・食料品等の防災用品を常に集めておく。
・避難する場所を、災害の種類ごとに考えておきたい。
・明るいうちに早めの対応をしておく。
・普段利用している道路でも、暗いと危険がいっぱいであることがわかった。
・道路には段差がたくさんあり、特に夜間は危険だと分かった。
・マンホール等は外れて穴になってしまう。明るい時と違い大変危険だと思った。
・連絡網なども日頃から確認したい。
・避難場所が小学校であることは知りませんでした。今年は、早めに勇気を持って避難したいと思います。
・警報が出た時には遅いため、注意報などの時から注意してみておきたい。
・避難訓練は生涯学習センターで実施しているため、指定避難所の上之保小学校でやらないといけないと思った。
・早めに逃げないと避難するところがなくなる。
・避難行動の方法について話し合っていきたいと思った。
・早めの避難をします。

【第２回勉強会】参加者の感想

関市上之保地区　第2回WSアンケート集計　　回答件数：92

(1) 本日の勉強会は、どちらまで（何部まで）参加されましたか。

第1部（講義まで）	47
第2部（まち歩き）まで	17

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に〇をつけてください。

①第2回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	6
ちょうどよい	78
長い	1

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	62
どちらとも言えない	24
わかりにくい	1

③説明の時間はどうでしたか。

短い	7
ちょうどよい	79
長い	2

④【第1部】講義「次の大雨への備え~危険と課題~」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	76
どちらとも言えない	11
わかりにくい	0

◆第2部に参加された方にお聞きします。

⑤【第2部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	29
どちらとも言えない	4
わかりにくい	0

⑥第2回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	38
どちらとも言えない	4
高まらなった	0

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。

はい	45
どちらとも言えない	5
いいえ	0

⑧本日の内容を踏まえて、上之保地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う	48
どちらとも言えない	7
そう思わない	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第2回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

早く避難することが、大切だとわかった。とても有意義な話だった。
避難の大切さがわかりました。脱出とはちがうということ。
川の水位があふれる所に堤防を作ってほしい。道路は暗いと危険がいっぱい。水害が起こるメカニズムを考えてどう対処するのがいいか。少しでも水害が起こらないようにしてほしい。
避難場所、国道を考えてみたいと思う。

とにかく、正確な情報がほしい。空振りであっても、逃げます。（妻）7月8日洪水の2～3日前、気象庁の発表をとても気にしていました。が、それは、東京から預かっている孫（6才）を7日に新幹線（指定席）で送り届けることでした。私の心配は、公共機関が不通（名鉄電車）になる心配でした。ですから、皆さんの危険予想とは、申し訳ありませんがそんな心配だったことでした。6日中に犬山線で名古屋駅へ、もう名古屋駅でさえ新幹線が遅延状態でした。今日のお話で、皆さん2～3日前に予想していましたか？というお話で。そんな小さなことですが、私は脱出したと思っていました。東京の8日未明の日本のサッカーワールドカップNHKの20分の休憩時に上之保津保川氾濫を聞きました。	
「ギリギリ」まで待ってではなく「そうなる前に早めに完了」をすることにより、自分以外の人にも良い利点があることを知りました。	
小学校とは気が付きませんでした。今年は、早めに勇気を持って避難したいと思います。	
消防団員の者です。今日まで避難のタイミングを知らせることばかりをしていたように感じました。必要なのは、一人ひとりの住民の方に逃げる意識を持ってもらうことだとわかりました。今後の消防団の活動に生かしていきたいと思いました。	
大変いい話でした。	
勉強になりました。上之保以外でも話をしていただきたい。	
今日の話を聞いてよかったです。早めの避難が大切と良くわかりました。	
もっと避難について話を聞いてみたいです。	
雨量について、AIの時代、上之保はどのような情報ができますか？	
私どもは以前も浸水し、今回も家族で決めたマニュアル通りにしましたが、今一度話し合う必要があると痛感しました。空振りでもよいので、何度も何度も関市の放送を流してほしいです。住民の意識も大きく変わります。	
心配で大雨になると夜は寝ていることができない。	
上之保地区は河川に沿って道路が発達し、今までの経験上水に浸からない地区に住居（集落）ができて地域ができてきました。従って、過去の経験から水に浸かる地区はわかっており、その住民は経験から避難ができ、被災が大きかった割りに人的被害はありませんでした。しかし、大部分の地域では避難するにも指定されている避難所も危険な位置にあり、避難所へのルートも河川の浸水をしており、避難を躊躇しました。この異常気象が続く中、「今まではなかった」と考えず、「これまでになかった災害が起こりうる」ことを考え、自治会ごとに避難所の位置、避難ルートの確保を考えていかなければならない。	
会場が熱すぎます。体調不良になりました。	
天気予報の専門の人を市役所に置いてほしいです。	
情報は必ず入っている。自分の事として、早く準備は整えておき、脱出にならないように避難は早く、経路が安全なうちに安全な場所に避難完了する。良い勉強になりました。	
スマホを持っていない人でも、わかりやすく連絡していただくことを進めてもらいたい。	
画面説明用に差し棒で説明してほしい（防災課の大塚係長さんへ）。すばらしい講義でした。ぜひ中学生の子達に聞かせてやってほしい。まち歩きで危険なところが多く発見できた。	
指定されたところまでにいくことに不安を感ずる（少し遠い）。もう少し近場で検討してほしい。	
避難行動の方法について話し合っていきたいと思いました。	
年配の方の意見で、インターネットができない人の情報獲得手段として「川の階段や壁に水位がわかる表示をしたらいい」というものがあり、どちらにしても早い避難ということになれば、足を使って見に行く手段があってもいいと思った。	
お話を聞いて、とにかく明るい、足元も周囲も見える状態で考えるのと、短い時間の危険が迫っている時に考えるのは、大きな差があると思いました。情報は、大切でも、最後は自分の判断しかなく、自分の意思が大切だと感じました。	

あらためて早めの避難の大事なことが認識できた。ただ実際の場面にあったとき、いつ、どこへ、何を持って（何を残して）避難するかは迷うことだろうと思う。上之保地域では、避難所（安全な場所）の特定が難しい、その辺のことをもう少し知りたい。災害の状況、台風の場合と自身の場合では対応が違うと思われる。そうした個別的な対応についても勉強できるとよいと思う。
早めの避難をします。

性別

男性	38
女性	36

年代

20代	0
30代	0
40代	5
50代	8
60代	33
70代	32
80代	5
90代以上	0

地区

川合下（大之田）	6
川合下（棚井）	16
川合下（竹之腰）	1
川合下（横腰）	1
鳥屋市	6
行合	9
川合上	2
川合中	15
和野田	1
山本	0
先谷	3
名倉	4
明ヶ島	5
船山	2
その他	4

【第２回勉強会】事務局資料

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
★事務局資料★

1　勉強会について

(1) 開催目的

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

関市上之保地区においても、多数の浸水被害が発生しており、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

(2) 開催概要

計 3 回の勉強会を開催し、関市上之保地区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）9:30～12:00

場所：関市上之保生涯学習センター 2 階 2-1 会議室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明し、地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

済

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00

場所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール等

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00（予定）

場所：関市上之保生涯学習センター 2 階 2-1 会議室

内容：第 1 回及び第 2 回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(3) 作成する「災害・避難カード」のイメージ

災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードである。

住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していく。

作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段日にとまる場所に置いておく。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用する。

下呂市金山第一区の「災害・避難カード」の構成は、金山第一区長と下呂市危機管理課と協議しながら、第3回勉強会までに検討･確定する。

＜「災害・避難カード」のイメージ＞

災害・避難カード（●●地区）　～少しでも危険を感じたら迷わず避難！～

わたしの避難行動

災害	避難先	避難の合図
土砂災害	●●小学校 （そこまで逃げられない時は△△）	土砂災害の避難勧告

※避難先までの移動が危険と判断されるような状況の時は、自宅の上層階で山からできるだけ離れた部屋等へ移動

避難の心得

その1	**状況により、すばやく避難する** 自治体などからの情報を収集するとともに、避難準備情報や避難勧告などが発表されたら、早目に避難する
その2	**安全なうちに避難する** 雨が弱い、外が明るい、避難経路が利用可能等といった、避難先へと安全に移動するために必要な条件が整っているうちに避難する
その3	**防災メモを持つ** 事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難する
その4	**家族とメッセージのやり取りを行う** 外出中の家族とは、携帯電話や「災害用伝言ダイヤル171」を活用して、「どこへ避難する」といったメッセージのやり取りを行う
その5	**助け合いながら避難** 近所のお年寄りなどへ声をかけながら、一緒に避難する

避難経路

「災害用伝言ダイヤル171」の使い方

電話で家族と連絡が取れないとき、「災害用伝言ダイヤル 171」で自分から家族へのメッセージを録音でき、また、家族からのメッセージを聞くことができます。

［使い方］　※音声ガイダンスにしたがって録音、再生できます。

メッセージを録音する場合　「171」の後に「1」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

メッセージを聞く場合　「171」の後に「2」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

2 第２回勉強会について

(1) 開催プログラム

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00
場所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール他

時間	プログラム　※第１部は勉強会参加者以外も聴講可
13:30～13:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 関市 市長公室 危機管理課　課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 関市自治会連合会 上之保支部　支部長
13:35～14:30	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○勉強会の概要説明（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課 地域支援係長 ○講義（50 分） ・第１回勉強会のふり返り ・一人ひとりが考えて決める避難手順 ・自分の地域に予想される危険について 清流の国ぎふ 防災･減災センター
14:30～14:40	**休憩**
14:40～15:55	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○まち歩きの手順説明（5 分） ○まち歩き（45 分） ○まち歩きを踏まえた意見交換（25 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
15:55～16:00	**閉会** ○第３回勉強会の開催内容の説明（5 分）

<配布資料>

次第
資料１　関市上之保地区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回勉強会のふり返り
資料３　関市上之保地区 まち歩き用地図
参加者アンケート

(2) 当日の動き

	時間	内容	役割分担
0	11:30	**勉強会の案内（多目的ホール）** ○11:30 までに多目的ホールへ集合する ○学習発表会の中で午後の勉強会の PR を行う ・12:00～、教員が連絡事項等を来場者に伝えるため、その際に勉強会への来場のお願いを実施 ・学校からは、午前中の内容と午後の内容を関連付けてＰＲして欲しいと要望あり	岐阜県
1	12:00	**集合** ○事務局スタッフは、12 時までに現地に集合する ○会場（多目的ホール）は、12 時まで上之保小学校の学習発表会で使用しているため、それまでは会場外で待機する ○なお、早めに来て上之保小学校の学習発表会を観ても良い	各自
2	12:00～12:30	**会場設営①（多目的ホール）** ○舞台上に演台を配置する ○マイクの確認（マイクテスト）を行う ○プロジェクターを設置し、講師の PC と接続して、投影を確認する ○受付台を配置し、配布資料を準備する ○生涯学習センター入口に会場案内を掲示する ○ビニール紐で座席エリアを制限する	委託業者を中心に対応
3		**会場設営②（2-1 会議室）** ○2-1 会議室を解錠してもらい、テーブルを 4 グループ分、1 グループ 2 本並べて配置する ○予備として、テーブルを 2 グループ分、1 グループ 2 本並べて配置する ○事務局（講師、岐阜県、関市）用のテーブルを配置する ○それぞれにイスを配置する（1 グループ 8 脚程度） ○各テーブルに、地区図とフセン、マジック等を配置する	委託業者を中心に対応
4	12:30～13:00	**事務局ミーティング** ○事務局資料を用いて、第 2 回勉強会のタイムスケジュールの確認、まち歩きにおけるグループ編成、役割分担について説明する	岐阜県から一言挨拶 委託業者から説明

5	13:00～13:30	**受付** ○参加者の受付をする　※参加者は一度受付を通過する流れとする ・名簿に名前と地区を記入してもらう ・受付時に、第１部のみ参加、第２部まで参加を確認する ・参加者配布資料を手渡す。第２部まで参加する方には、順番にグループ割りを行う（封筒に 1,2,3,4,1,2…と番号を記入する） ・該当するハザードマップを渡す ・会場に案内する（ビニール紐で区切った座席エリア） ○関係者の受付をする ・名簿に所属と名前を記入してもらう ・岐阜県につなげる （本日の資料と、地区の図面を渡せるように準備） ○開会後 10 分程度は受付対応し、その後、受付用紙を持って会場に入る	委託業者を中心に対応
6	13:30～13:35	**開会** ○全体の司会進行は委託業者が行う ○開会にあたり、関市からあいさついただく ○続いて、岐阜県からあいさついただく ○最後に、関市自治会連合会上之保支部長からあいさついただく ○配布資料の確認を行う ・不足があれば、事務局スタッフが補充する ・アンケートの記入を依頼する	委託業者が司会進行 あいさつは、 ①関市 ②岐阜県 ③支部長 の順番
7	13:35～14:30	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○委託業者より第１部に入ることをアナウンスする ○はじめに、岐阜県から勉強会の概要説明をいただくことをアナウンスする ○岐阜県にマイクを手渡す ○岐阜県より勉強会の概要を説明していただく ○マイクを委託業者に返す ○委託業者より講師を紹介し、「次の大雨への備え ～危険と課題～」と題して講義いただくことをアナウンスする ○講師にマイクを手渡す ○講師より、第１回勉強会のふり返り、第２部のまち歩きの趣旨説明等をしていただく ○マイクを委託業者に返す	委託業者が司会進行 岐阜県が概要説明 講師が講義
8	14:30～14:40	**休憩** ○委託業者より第１部の終了をアナウンスする ○第１部のみ参加の方には、アンケートの記入と提出を依頼する ・出入り口にアンケート回収箱を設置し、スタッフ１名が付く ○第２部まで参加の方には、10 分間の休憩の後、再び多目的ホールに集まっていただくように依頼する ・ホールの前方へ参加者が集まるよう誘導する	委託業者が司会進行 回収係は委託業者 誘導は委託業者

9	14:40～15:30	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○委託業者より第２部に入ることをアナウンスする ○委託業者よりまち歩きの手順説明を行う ・４グループに分かれてまち歩きを行うこと ・各グループに事務局スタッフが数名付き、説明、説明補助、記録、安全確認等を行うこと ・道路を歩くため、事務局スタッフの誘導に従って欲しいこと ・体調不良等があればすぐに事務局スタッフまで伝えて欲しいこと ○説明後、生涯学習センター入口付近（駐車場）へグループ毎に集合する ・事務局スタッフは「●グループはこちらです」と参加者を集める ・紙に「●グループ」と書いたものを掲げて集まりやすいようにする ○カイロをグループの方に配布する ・ごみ袋を用意する ○各グループ参加者が集まった後、それぞれのルートでまち歩きを行う ・説明担当者は、ルート上のポイントで、参加者の気付きを促すように説明を行う ・補助担当者は、説明担当者を補助する ・記録担当者は、まち歩きの様子を写真に撮るとともに、参加者の会話の中で記録すべき内容をメモに取る ・安全確認担当者は、参加者が車道に大きくはみ出さないように注意するなど、参加者の安全に注意する ○まち歩き終了後、意見交換を行うため、2-1 会議室に誘導する ○参加者にお茶を配るとともに、適宜休憩を取ってもらう	委託業者が司会進行 まち歩きにおける役割分担は(3)まち歩きのグループ編成を参照
10	15:30～15:55	○全グループがまち歩きを終了し、テーブルについたのを確認したら、委託業者よりまち歩きを踏まえた意見交換を行うことをアナウンスする ○スタッフは同行したグループの進行補助を行う。 ○まち歩きの中で気付いたこと､感じたことをフセンに書き出してもらい、図面に貼りだしてもらう ・フセンは 75×75mm、色は自由 ○図面に貼り出しながら、意見交換を行う ○落ち着いたところで、委託業者よりグループ毎に地図を壁に貼り出してもらうようにアナウンスする ・事務局スタッフが壁に貼り出す　→貼りだす場所は前方 ○講師からの講評をいただく ・講師の講評は、ポイントごと（A1～B９）に行う。 ・講師の質問等に対して、適宜事務局スタッフが意見交換の内容を補足説明する ・参加者は講師の周りに集まり、講評を聞いてもらう	委託業者が司会進行 講師より講評
11	15:55～16:00	**閉会** ○アンケートの記入と提出を依頼する ・事務局スタッフはアンケートを回収する ○アンケート回収後、岐阜県より次回の開催内容と日時、場所について説	委託業者が司会進行 岐阜県にて次回の

12	16:00～16:30	**後片付け** ○忘れ物がないよう、参加者に呼びかけながら、退室を促す ○会場（会議室、多目的ホール）の片づけを行う	各自
13	16:30	**撤収** ○会場から一切の荷物を運び出し、撤収する	各自

(3) まち歩きのグループ編成

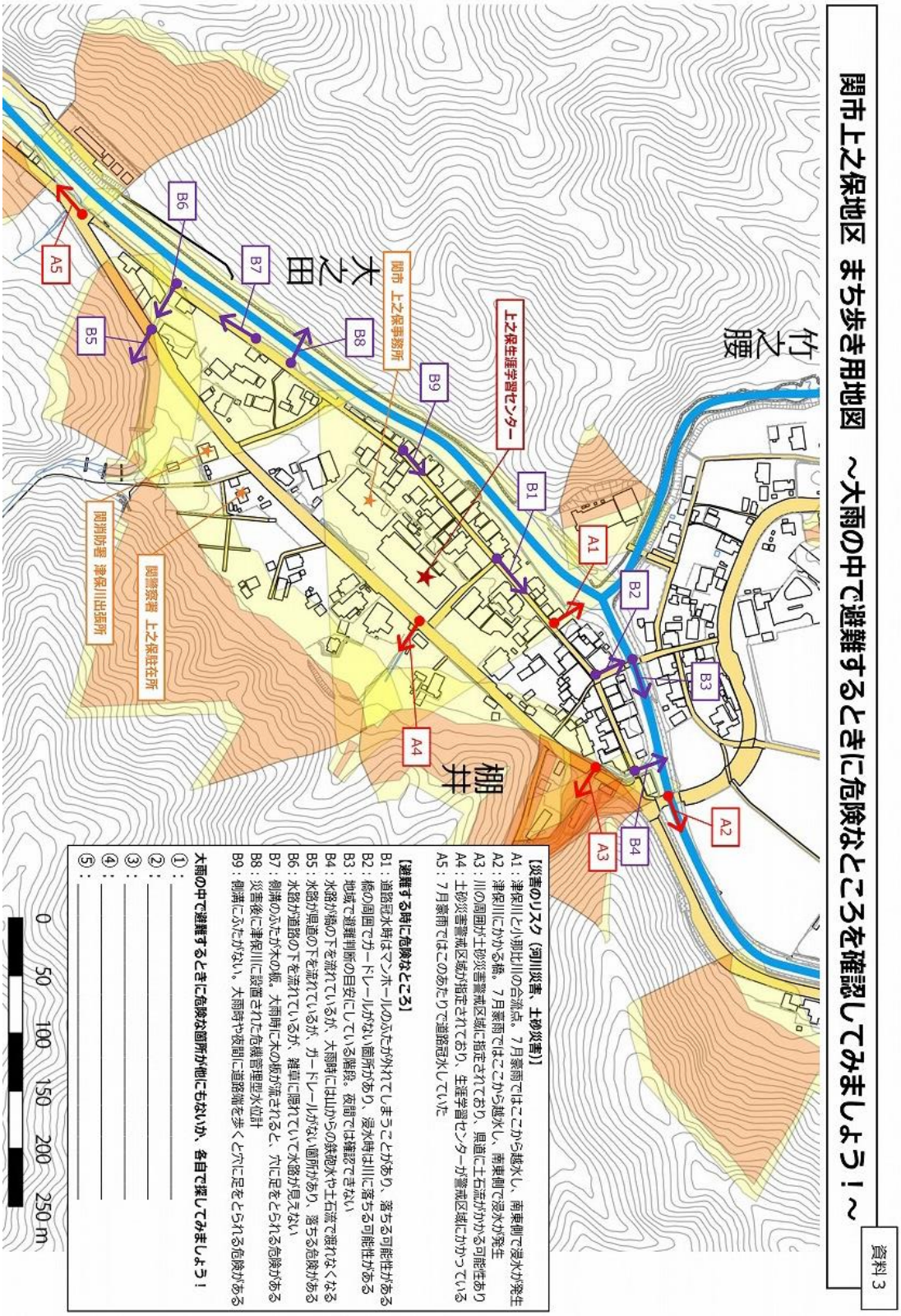
	所属	役職	氏名	役割

講師　　１名
岐阜県　１２名（報道対応１名、全体指揮１名）
関市　　５名
委託業者　５名

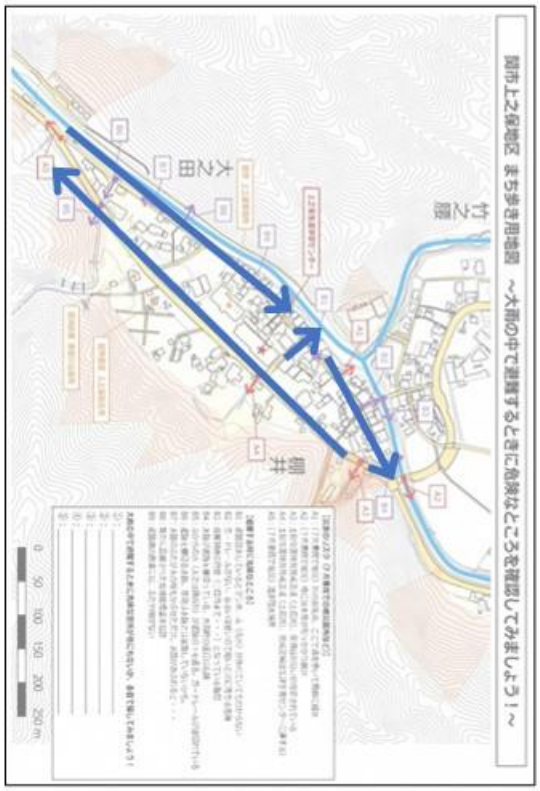
合計　　２３名

グループ	説明	補助	記録	安全確認
本部	業者	関市、業者	－	－
1G	岐阜県	関市	岐阜県	岐阜県
2G	岐阜県	関市	岐阜県	岐阜県
3G	岐阜県	関市	岐阜県	業者
4G	関市	業者	業者	岐阜県

(4) まち歩きのルート及びポイント

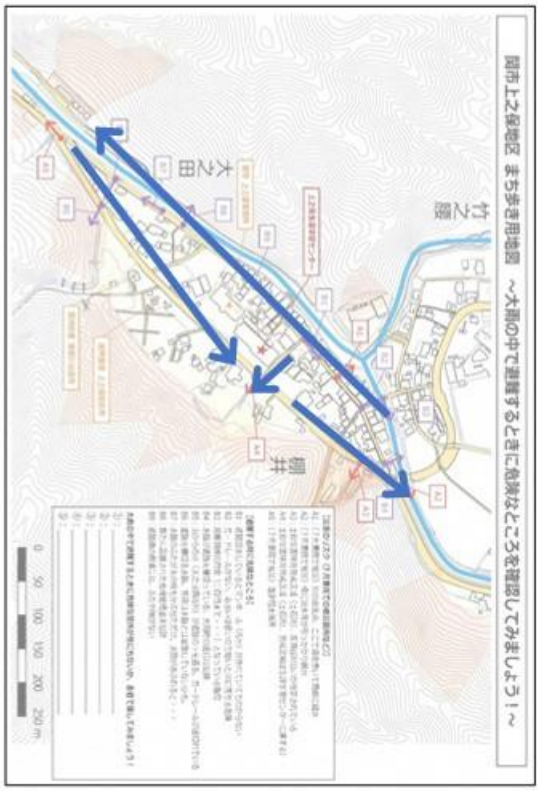


1G



関市上之保地区 まち歩き用地図 ～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
大之田
竹之腰
柳井

2G

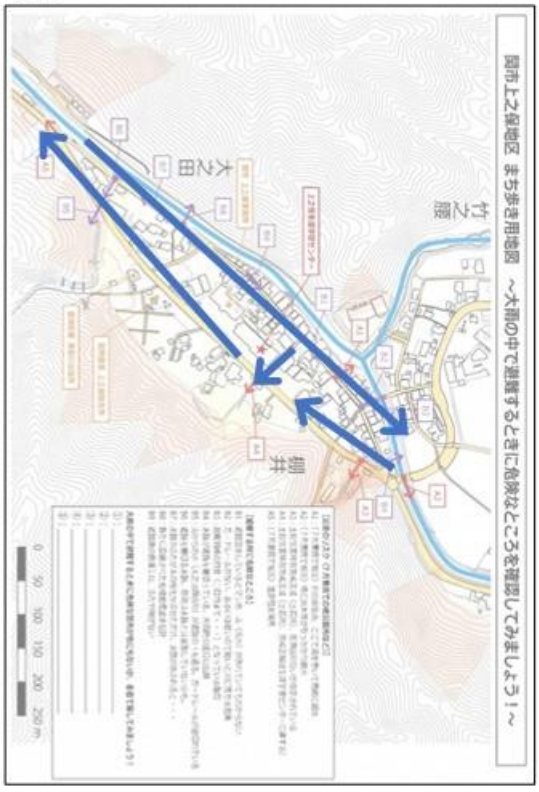


関市上之保地区 まち歩き用地図 ～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
大之田
竹之腰
柳井

3G

関市上之保地区 まち歩き用地図 ～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
大之田
竹之腰
柳井

4G



関市上之保地区 まち歩き用地図 ～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
大之田
竹之腰
柳井

【まち歩きでの説明のポイント】

○Ａ：早めの避難の必要性の認識

・身の回りに予測される危険を現地確認し、それが形として現れる前に逃げることの必要性を認識してもらう

・「こうなってからでは逃げるのが遅い」という事を理解してもらう

○Ｂ：安全に避難するための手順と時間の把握

・安全に避難するために把握すべき避難行動の阻害要因を現地で確認する

・実際に避難行動にかかる時間を体感してもらう

・避難所へ避難する時にどこに気を付ければいいのか、気を付けながら進むと時間がかかるということを理解してもらう

【各ポイントでの説明のポイント】

○Ａ１：津保川と小那比川の合流点。７月豪雨では、ここから越水し、南東側で浸水が発生

＜説明の趣旨＞

・津保川と小那比川の合流点。７月豪雨の時は、ここで南東側に越水し、道路を水が流れた

・今は水位が少なく河川敷も広いが、ここが溢れるほどの水があったことを想像してもらう

Ａ２：津保川にかかる橋。７月豪雨では、ここから越水し、南東側で浸水が発生

＜説明の趣旨＞

・津保川にかかる橋。流木等が引っかかり、越水し道路冠水が発生した。

・ここから南東側に家が浸水している。

Ａ３：川の周囲が土砂災害警戒区域に指定されており、県道に土石流がかかる可能性あり

＜説明の趣旨＞

・南側の山から流れてくる反洞谷川沿いに土砂災害特別警戒区域が指定されている

・土砂災害特別警戒区域が、県道にかかっており、通行できなくなるおそれがある

Ａ４：土砂災害警戒区域が指定されており、生涯学習センターが警戒区域にかかっている

＜説明の趣旨＞
・生涯学習センターの南側の山が土砂災害特別警戒区域に指定されている
・土砂災害警戒区域の範囲として、生涯学習センターがかかっている

Ａ５：７月豪雨では、このあたりで道路冠水していた

＜説明の趣旨＞
・７月豪雨では、道路が冠水し、道に水が流れてモノが流されてきたとのこと

Ｂ１：道路冠水時はマンホールのふたが外れてしまうことがあり、落ちる可能性がある

＜説明の趣旨＞

・普段何気なく歩いている道路でも、大雨の時は、汚水のマンホールが外れる可能性がある

・深夜や泥水が流れている中の避難では、マンホールに気付かず、ふたが外れていると、引き込まれるおそれがある

Ｂ２：橋の周囲でガードレールがない箇所があり、浸水時は川に落ちる可能性がある

＜説明の趣旨＞

・橋の南側の左側は、川に向かって傾斜になっていて、暗いと川の方に進んでしまう危険がある

・橋の反対側の右側のガードレールが低く、同様に暗いと川に落ちる危険がある

Ｂ３：地域で避難判断の目安にしている階段。夜間では確認できない

＜説明の趣旨＞
・７月豪雨の時、この階段で水位を確認していた
・暗くなるまでは確認できたが、周囲に明かりがないと夜になると見えないのではないか
・目安にするとしても、夜に大雨が降った時のことを考えておく必要があるのでは
・７月豪雨の時は、より川上で越水したため、道路側から水が流れてきた

Ｂ４：水路が橋の下を流れているが、大雨時には山からの鉄砲水や土石流で渡れなくなる

＜説明の趣旨＞
・山側からの水路が橋の下を通っているが、傾斜がきつい
・土砂災害で通れなく可能性がある
・橋を渡っているときに、山からの鉄砲水で足元をすくわれる可能性がある

Ｂ５：水路が県道の下を流れているが、ガードレールがない箇所があり、落ちる危険がある

＜説明の趣旨＞
・山からの水の流れが、県道の下を通っているところ
・金網とガードレールの間が１mほど開いており、暗い中を歩くのは危険
・土砂災害特別警戒区域が県道にかかっており、土砂災害により通れなくなる可能性がある

Ｂ６：水路が道路の下を流れているが、雑草に隠れていて水路が見えない

＜説明の趣旨＞
・山からの水路が道路の下を通っているが、雑草が茂っていて水路が見えない
・水路の上を渡っている感覚ではないかもしれないが、大雨時には鉄砲水が通るかもしれない

Ｂ７：側溝のふたが木の板。大雨時に木の板が流されると、穴に足をとられる危険がある

＜説明の趣旨＞

・側溝のふたは、コンクリートもしくはグレーチング（鉄の金網）になっている

・木の板でふたをしている箇所があり、大雨時には流されて足をつっこんでしまう可能性がある

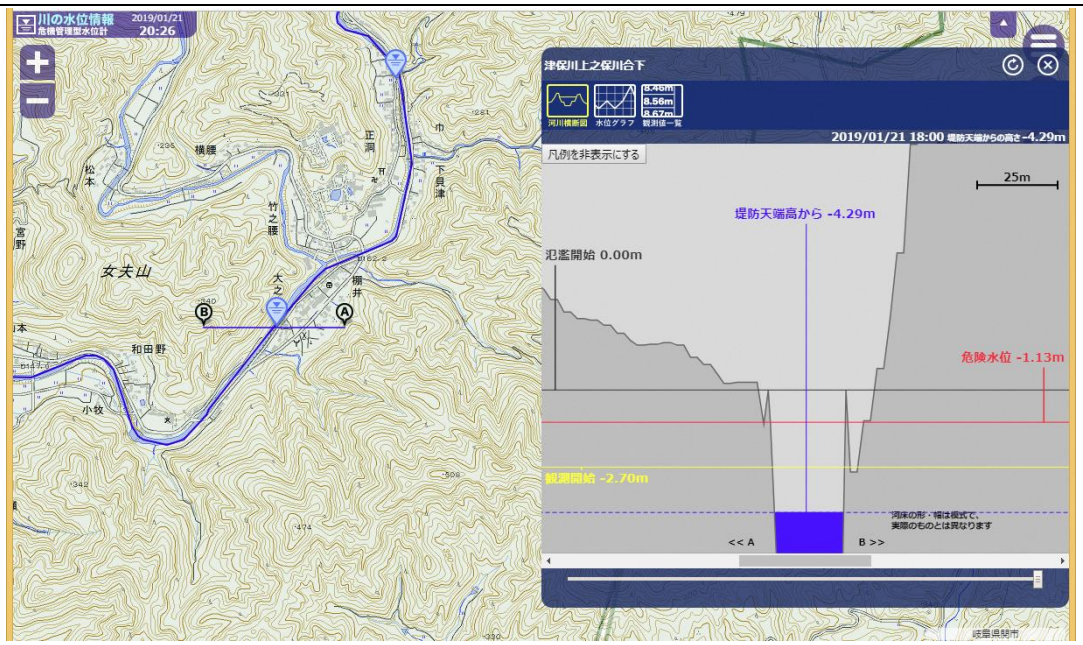
Ｂ８：災害後に設置された危機管理型水位計。インターネットで水位確認可能。

＜説明の趣旨＞

・７月豪雨のあと、ここに危機管理型水位計が設置された。川合下の設置箇所はここ。

・関市内の設置箇所は、津保川（関市上之保川合下、上之保川合中、上之保鳥屋市）３箇所、小那比川（関市上之保明ヶ島）１箇所、津保川（関市富之保粟野）１箇所

・一般財団法人河川情報センターのHP「川の水位情報」でいつでも水位を確認できる



Ｂ９：側溝にふたがない。大雨時や夜間に道路端を歩くと穴に足をとられる危険がある

<説明の趣旨>

・側溝に、ふたやグレーチング（金網）がない箇所が、ここ以外にも何か所かある

・大雨の時や暗い時に道路端を歩いていると、溝に落ち込む危険がある

(5) 準備物

項目	準備物等	備考	数量	確認
配布資料（個人）	次第	A4 版	120 部	
	【資料１】一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について	A4 版	120 部	
	【資料２】第１回勉強会のふり返り	A4 版	120 部	
	【資料３】関市上之保地区 まち歩き用地図	A3 版	120 部	
	アンケート用紙	A4 版	120 部	
	ゴルフペン	–	120 本	
	封筒	角型 2 号	120 部	
配布資料（テーブル）	地区図（A1～B9 を除いたもの）	A1 版	6 枚	
その他（テーブル）	フセン（75×75mm、色指定なし）	–	適量	
	記入用ボールペン	–	適量	
	記入用油性ペン	–	適量	
	記入用マーカーペン	–	適量	
その他（会場）	名簿（参加者用、関係者用）	A3 版	–	
	アンケート回収 BOX	–	2 個	
	会場案内用紙（センター入口掲示用）	–	–	
	設営道具（テープ、磁石）	–	–	
	メモ用紙	–	–	
その他（電子機器等）	ノート PC	–	1 台	
	プロジェクター	–	1 台	
	ケーブル	–	–	
	延長コード	–	–	
	差し棒	–	–	
	デジタルカメラ	–	4 台	
	IC レコーダー	–	1 台	
	ビデオカメラ	–	1 台	
	三脚	–	–	
その他	カイロ	–	50 個	
	お茶	–	50 本	

【第３回勉強会】次第

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
次 第

日時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00
場所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 関市 市長公室 危機管理課　課長
9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○これまでの勉強会のふり返り（10 分） ○私の避難タイミングの検討（75 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:00～11:10	**休憩**
11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○災害・避難カードの活用について（40 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○あいさつ（10 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監

＜配布資料＞

次第
資料１　関市上之保地区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り
資料３　関市上之保地区 災害・避難カード
資料４　非常持出品リスト
資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法
参加者アンケート

【第３回勉強会】資料２

資料２

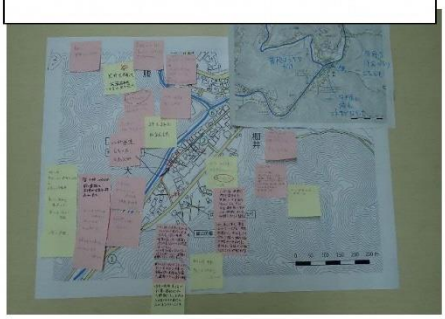
関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第１回勉強会のふり返り

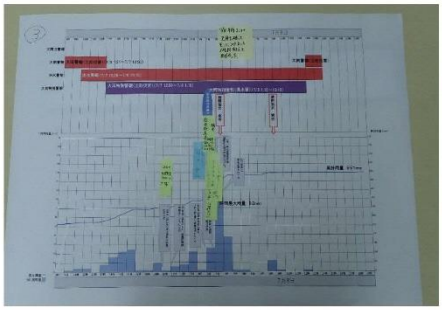
１　開催概要

第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」岐阜県 危機管理部 防災課

第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等）」
　○７月豪雨災害のふり返り
　○とったらよかったと思う避難行動
　○ほかのグループの「ふり返り」確認

・2:30 サイレンに起こされた。自分の家は安全と思っていた。逃げようとしたら既に道路を車がながされていた。
・泥水に気づいた時、すでに道路は激流で近隣の避難状況を確認することなどできない状況であった。
・もう少し早く起きて逃げればよかった。
・サイレンで気づいた時には道路に水が流れ車も流れていたため２階へ逃げるしかなかった





・川を見た時に以前の大雨の時と同じくらいの水位に見えたので油断した
・自分のところは大丈夫との思い込みがあった
・急に水位が上昇する実感がなかった。経験もなかった。
・情報収集する行動を起こせなかった
・過信せず早めの行動をとることが大切かと思う

1

第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

○講義　清流の国ぎふ　防災・減災センター

→大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

→要支援者の支援手順と所要時間も計算しよう

・注意報、警報などの情報は、翌日から
出ていた
・「避難」ではなく「脱出」になっていないか？
・いざという状況になる前に、早めに避難を完了しておく必要がある

2 参加者からの主な意見（参加者アンケートより）

・大変有意義な勉強会で、ありがとうございました。
・早めの避難が必要と思うが、その時の状況とかを考えてしまうので、その意識を変えないといけないが、上之保全体を変えないといけない。
・私は被災者ではないのですが、勉強になりました。
・村岡先生のお話は、具体的でポイントをしぼった話で、避難の判断の大切さが良くわかった。また、やること（行動）が具体的で何をどのように考えれば良いかがわかった。河川災害、土砂災害のメカニズムと避難情報の状況、また各自が避難判断することの重要性が理解できた。今回のことは、より多くの人に知っていただけるとよいと思った。
・とにかく避難は早めに自主避難、自己判断。行政をあてにしない。
・大変勉強になった。今後ともよろしくお願いします。
・もっと多くの人が参加してほしかった。

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第２回勉強会のふり返り

1　開催概要

開催日時：平成３１年１月２６日（土）　午後１時 30 分～午後４時

開催場所：関市上之保生涯学習センター　多目的ホール及び２－１会議室

【第１部】　講義「次の大雨への備え　～危険と課題」

○勉強会の概要説明　　岐阜県 危機管理部 防災課

○講義　　清流の国ぎふ　防災・減災センター

・第１回勉強会のふり返り

・一人ひとりが考えて決める避難手順

・自分の地域に予想される危険について

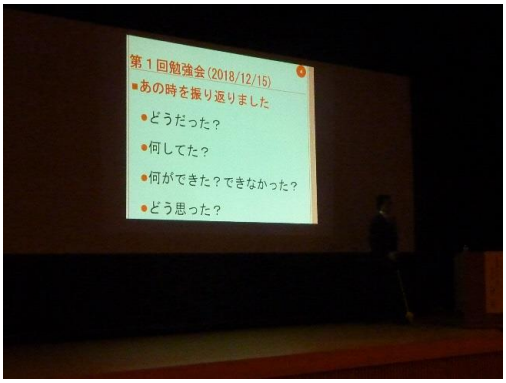
◆講義の主な内容

・第１回勉強会では、「もっと早く起きて逃げればよかった」という意見があったが、前の日に気象庁は警告を出していた。

・地元の子どもたちの発表「自分たちが早めに避難することで、大人を避難させる」。

・避難と脱出は違います。

・ぎりぎりを見極めない。率先して避難することが大切。



【第２部】　まち歩き「地域に潜む意見を知る」

○まち歩きの手順説明

○まち歩き

○まち歩きを踏まえた意見交換

講評　清流の国ぎふ　防災・減災センター

2　参加者からの主な意見（まち歩きからの気づき、参加者アンケートより）

・段差がたくさんあり、特に夜間は危険。

・マンホール、グレーチングは、外れて穴となる。明るい時と違い暗いと危険である。

・警報が出た時には遅いため、注意報などの時に注意して見ておく。

・安全だと思っていたところが危険と知った。

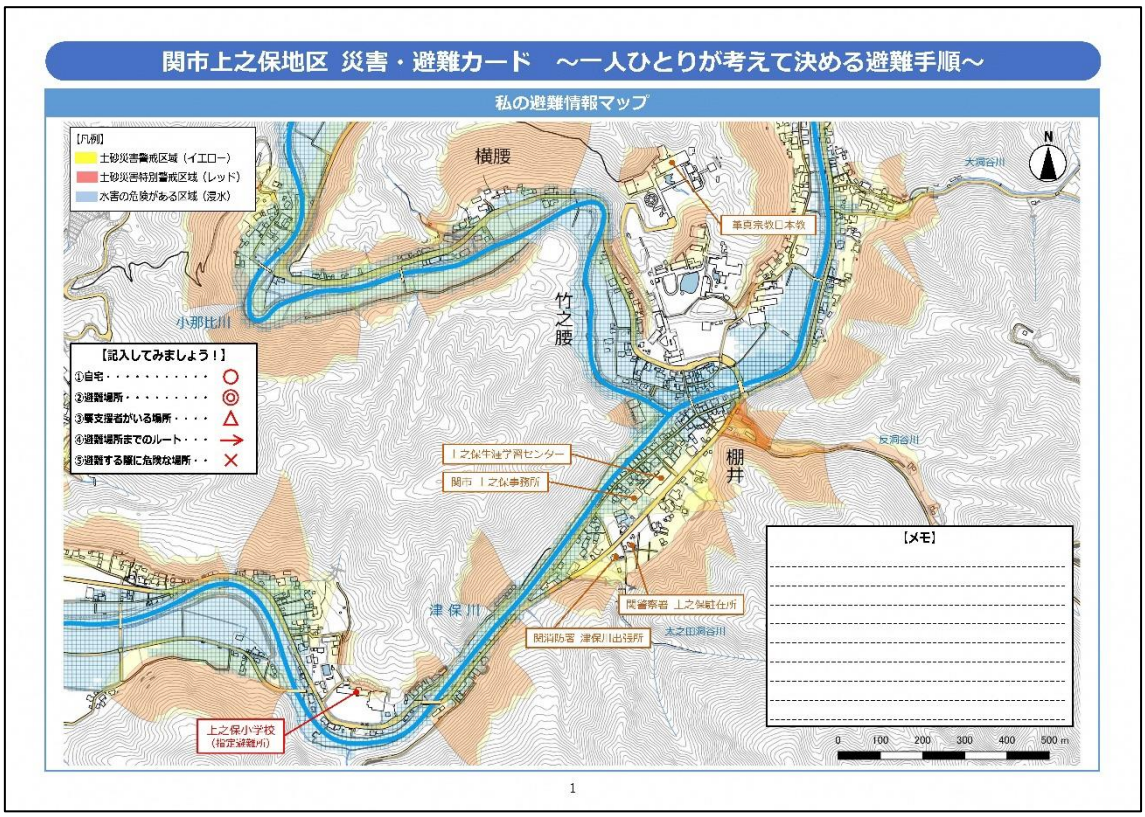
・今まで危ないと思っていなかった谷が危ないと知った。

・早く避難することが、大切だとわかった。とても有意義な話だった。

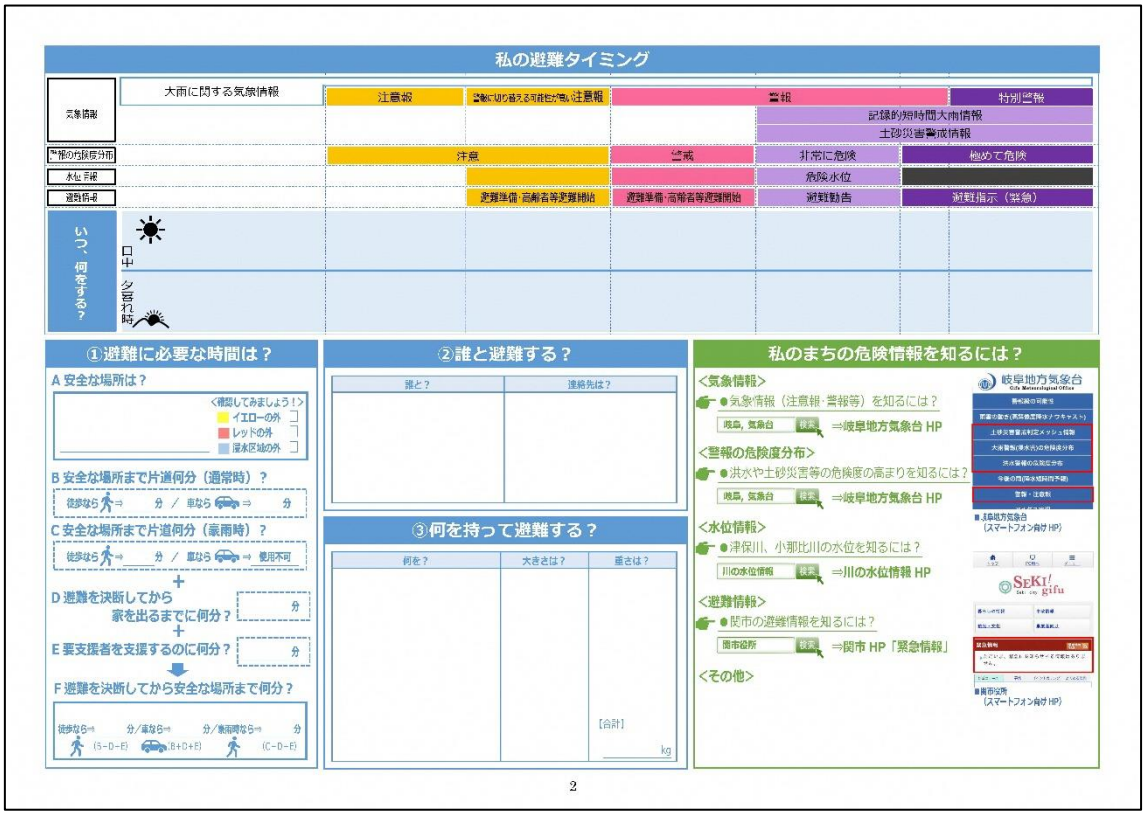
・「ギリギリ」まで待ってではなく「そうなる前に早めに完了」をすることにより、自分以外の人にも良い利点があることを知りました。

・情報は必ず入っている。自分の事として、早く準備は整えておき、脱出にならないように避難は早く、経路が安全なうちに安全な場所に避難完了する。良い勉強になりました。

【第３回勉強会】資料３



関市上之保地区 災害・避難カード ～一人ひとりが考えて決める避難手順～
私の避難情報マップ
【凡例】
土砂災害警戒区域（イエロー）
土砂災害特別警戒区域（レッド）
水害の危険がある区域（浸水）
【記入してみましょう！】
①自宅
②避難場所
③要支援者がいる場所
④避難場所までのルート
⑤避難する際に危険な場所
横腰
竹之腰
棚井
小那比川
津保川
大洞谷川
反洞谷川
太之田洞谷川
華良宗牧口本教
上之保牛涯学習センター
関市 上之保事務所
関警察署 上之保駐在所
関消防署 津保川出張所
上之保小学校（指定避難所）
【メモ】
0 100 200 300 400 500 m
1



私の避難タイミング
気象情報
大雨に関する気象情報
注意報
警報に切り替える可能性が高い注意報
警報
特別警報
記録的短時間大雨情報
土砂災害警戒情報
警報の危険度分布
注意
警戒
非常に危険
極めて危険
水位情報
危険水位
避難情報
避難準備・高齢者等避難開始
避難準備・高齢者等避難開始
避難勧告
避難指示（緊急）
いつ、何をする？
日中
夕暮れ時
①避難に必要な時間は？
A 安全な場所は？
<確認してみましょう！>
イエローの外
レッドの外
浸水区域の外
B 安全な場所まで片道何分（通常時）？
徒歩なら ⇒ 分 ／ 車なら ⇒ 分
C 安全な場所まで片道何分（豪雨時）？
徒歩なら ⇒ 分 ／ 車なら ⇒ 使用不可
D 避難を決断してから家を出るまでに何分？ 分
E 要支援者を支援するのに何分？ 分
F 避難を決断してから安全な場所まで何分？
徒歩なら⇒ 分／車なら⇒ 分／豪雨時なら⇒ 分
(5-D-E) (B+D+E) (C-D-E)
②誰と避難する？
誰と？
連絡先は？
③何を持って避難する？
何を？
大きさは？
重さは？
【合計】
kg
私のまちの危険情報を知るには？
<気象情報>
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？
岐阜, 気象台 検索 ⇒岐阜地方気象台 HP
<警報の危険度分布>
●洪水や土砂災害等の危険度の高まりを知るには？
岐阜, 気象台 検索 ⇒岐阜地方気象台 HP
<水位情報>
●津保川、小那比川の水位を知るには？
川の水位情報 検索 ⇒川の水位情報 HP
<避難情報>
●関市の避難情報を知るには？
関市役所 検索 ⇒関市 HP「緊急情報」
<その他>
岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office
■岐阜地方気象台（スマートフォン向け HP）
SEKI! gifu
■関市役所（スマートフォン向け HP）
2

【第３回勉強会】資料４

資料４

非常持出品(備蓄品)

※関市 HP より抜粋

●貴重品

・現金（10 円玉などの小銭があると便利です）

・携帯電話、預貯金通帳、印鑑、免許証、権利証書、健康保険証など

●非常食品など

カンパン、缶詰、栄養補助食品、

紙皿、紙コップ、割りばし、缶切り、栓抜き、スプーン、フォーク

●応急医薬品

ばんそうこう、消毒薬、持病のある人は常備薬

●衛生品

・タオル、トイレットペーパー、ウェットティッシュ、生理用品、紙おむつ

●衣類

・下着、上着、靴下、雨具など

●燃料など

卓上コンロ、携帯コンロ、固形燃料、ライター、マッチ、携帯ラジオ、懐中電灯、電池

●その他の生活用品

毛布、寝袋、軍手、洗面用具、使い捨てカイロ、ろうそく、ロープ、新聞紙、キッチン用ラップ（止血、汚れた皿にかぶせて使う）

【第３回勉強会】資料５

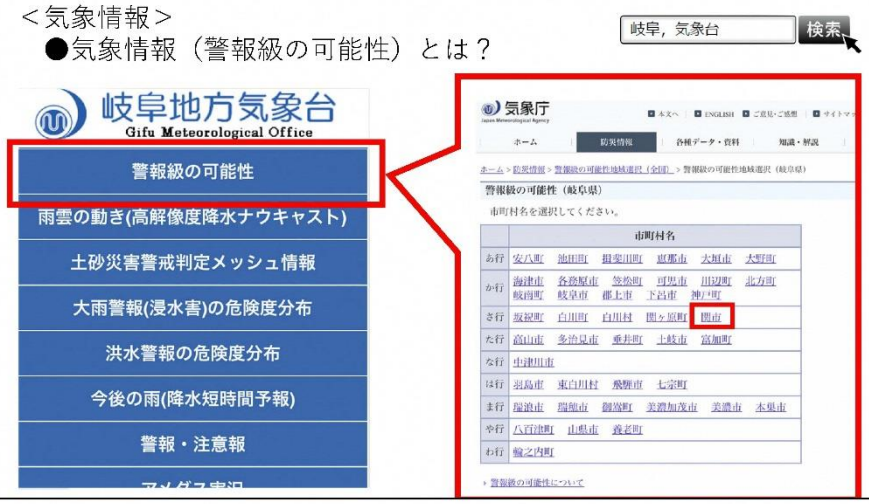
資料５

災害・避難カード
「私のまちの危険情報を知るには？」

情報の入手方法（関市）

1

＜気象情報＞
●気象情報（警報級の可能性）とは？

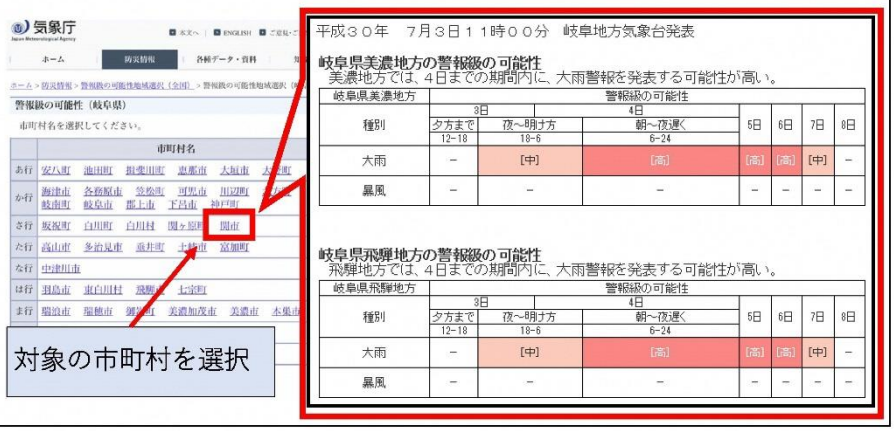


2

1

＜気象情報＞

●気象情報（警報級の可能性）とは？



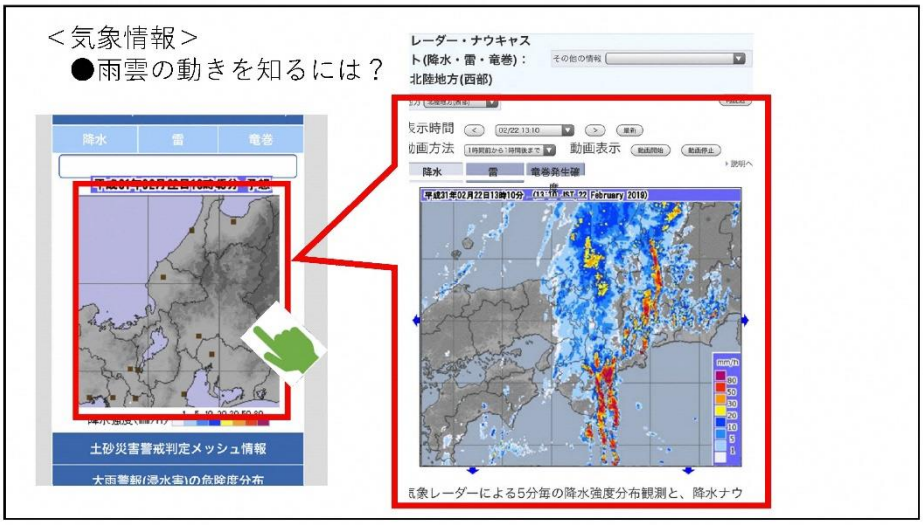
3

＜気象情報＞

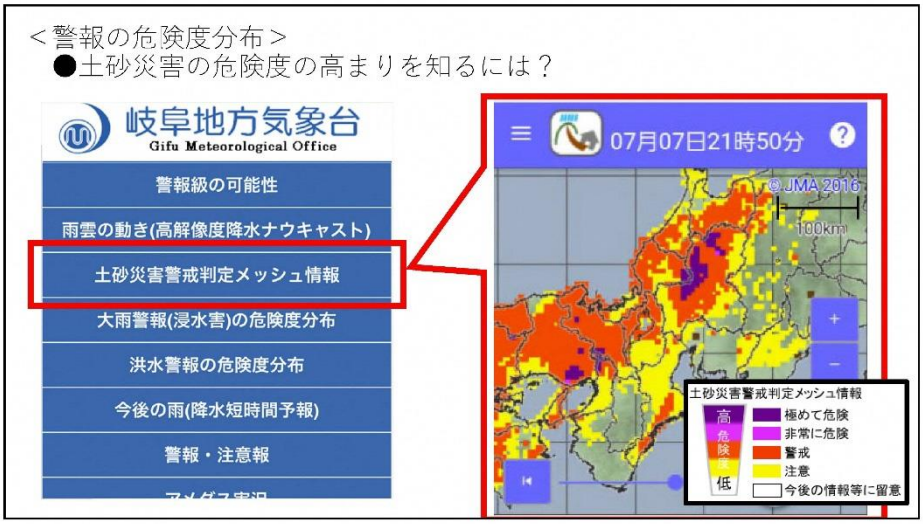
●雨雲の動きを知るには？

4

2


＜気象情報＞
●雨雲の動きを知るには？
レーダー・ナウキャス
ト(降水・雷・竜巻)：
北陸地方(西部)
その他の情報
表示時間
動画方法
動画表示
降水
雷
竜巻発生確
土砂災害警戒判定メッシュ情報
大雨警報(浸水害)の危険度分布
気象レーダーによる5分毎の降水強度分布観測と、降水ナウ

5


＜警報の危険度分布＞
●土砂災害の危険度の高まりを知るには？
岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office
警報級の可能性
雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
土砂災害警戒判定メッシュ情報
大雨警報(浸水害)の危険度分布
洪水警報の危険度分布
今後の雨(降水短時間予報)
警報・注意報
07月07日21時50分
© JMA 2016
100km
土砂災害警戒判定メッシュ情報
高
危険度
低
極めて危険
非常に危険
警戒
注意
今後の情報等に留意

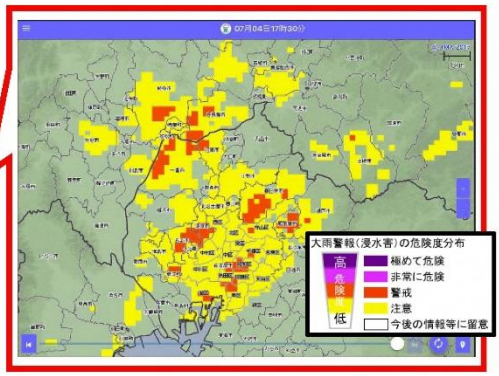
6

3

＜警報の危険度分布＞
●大雨（浸水害）の危険度の高まりを知るには？

岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office

- 警報級の可能性
- 雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
- 土砂災害警戒判定メッシュ情報
- **大雨警報(浸水害)の危険度分布**
- 洪水警報の危険度分布
- 今後の雨(降水短時間予報)
- 警報・注意報
- アメダス実況

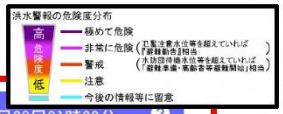


7

＜警報の危険度分布＞
●洪水の危険度の高まりを知るには？

岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office

- 警報級の可能性
- 雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
- 土砂災害警戒判定メッシュ情報
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- **洪水警報の危険度分布**
- 今後の雨(降水短時間予報)
- 警報・注意報
- アメダス実況



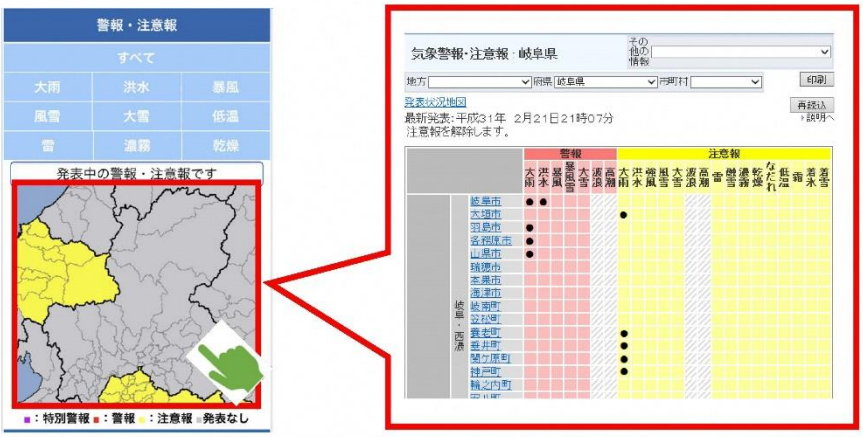
8

4

＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？

9

＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？

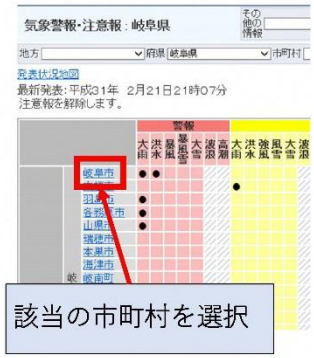


10

5

＜気象情報＞

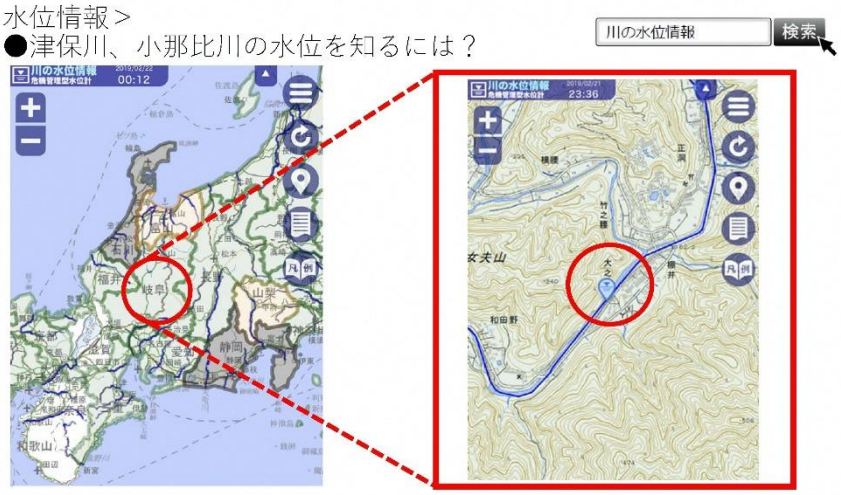
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？



11

＜水位情報＞

●津保川、小那比川の水位を知るには？



12

6

＜水位情報＞

●津保川、小那比川の水位を知るには？

13

＜避難情報＞

●関市の避難情報を知るには？

14

7

テレビやラジオ等での表現

注意報や警報の伝え方・・・定型

「大雨に関する気象情報」として、
以後に予測されることを
付け加えて伝える。

15

危険を伝えることができるよう
慎重に言葉を選択し、１００文字程度で表現。

【注意！】
表現の内容は、
どの地域でも起こる可能性がある。
他人事ではない。

16

8

○過去の大きな災害になぞらえて表現。
例：○○豪雨に匹敵する。

○インパクトのある語句で表現。
例：命に危険を及ぼす土砂災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状態。

例：朝倉では15:38までの１時間に観測史上１位となる129.5mmの降水量を観測した。

○雨雲の現状と今後の予測。

○県内の記録的な雨の観測地や災害の状況。

17

【注意！】
表現の内容は、
どの地域でも起こる可能性がある。
他人事ではない。

18

9

平成３０年７月豪雨の際に
気象庁が記者会見（はじめて）

梅雨前線の停滞、南からの湿った風の流入、
過去の経験や予報資料からの予測、
週末にかかること　などから

○平成３０年７月５日
「西日本と東日本における８日頃にかけての大雨について」
○平成３０年７月６日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」
○平成３０年７月７日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

19

○平成３０年７月５日
「西日本と東日本における８日頃にかけての大雨について」

○　西日本と東日本では、記録的な大雨となるおそれがあります。

○　西日本から東日本にかけて、台風第７号の影響や、太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発になり、広い範囲で大雨が続いています。この状況は、**８日頃にかけて続く見込み**です。**非常に激しい雨が断続的に数日間降り続き、記録的な大雨となるおそれがあります。**

20

10

○平成３０年７月６日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

○　太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、西日本から東日本に停滞する梅雨前線の活発な活動が続いています。この影響により、西日本及び東日本では、猛烈な雨を伴って、広い範囲で記録的な大雨となっています。

○　引き続き、西日本と東日本では、**猛烈な雨が断続的に明後日８日まで降り続く見込み**です。**今後、重大な災害の発生するおそれが著しく高くなり、大雨特別警報を発表する可能性があります。**

21

○平成３０年７月７日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

○　西日本と東日本に停滞している梅雨前線の活動は、一昨日５日から活発な状況が続いています。この影響で、西日本から東日本にかけての広い範囲で記録的な大雨が続いており、広島県、岡山県、鳥取県、兵庫県、京都府に大雨特別警報を発表しています。

○　西日本と東日本では、梅雨前線が８日にかけて停滞し、活動が活発な状況が続きます。**現在雨が止んだり、弱まっているところでも再び雨が強まり、８日にかけて局地的に非常に激しい雨が降るおそれがあります。**

22

11

気象庁の報道発表資料

23

【第３回勉強会】参加者アンケート

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

（１）記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

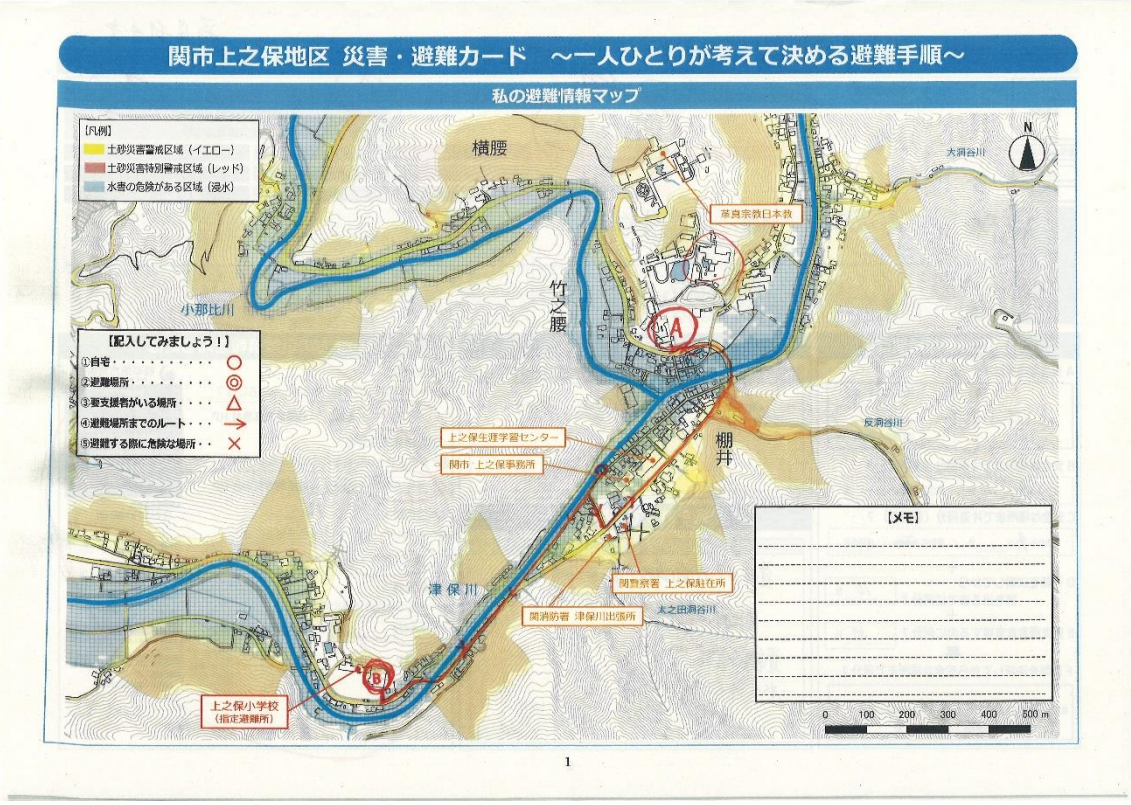
①第３回勉強会の時間はどうでしたか。	短い ← ちょうどよい → 長い
②配布資料はどうでしたか。	わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい
③説明の時間はどうでしたか。	短い ← ちょうどよい → 長い
④【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」の内容はいかがでしたか。	わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい
⑤【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」の内容はいかがでしたか。	わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい
⑥第３回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。	わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい
⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。	は い← どちらとも言えない → いいえ
⑧本日の内容を踏まえて、川合下地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。	そう思う ← どちらとも言えない → そう思わない

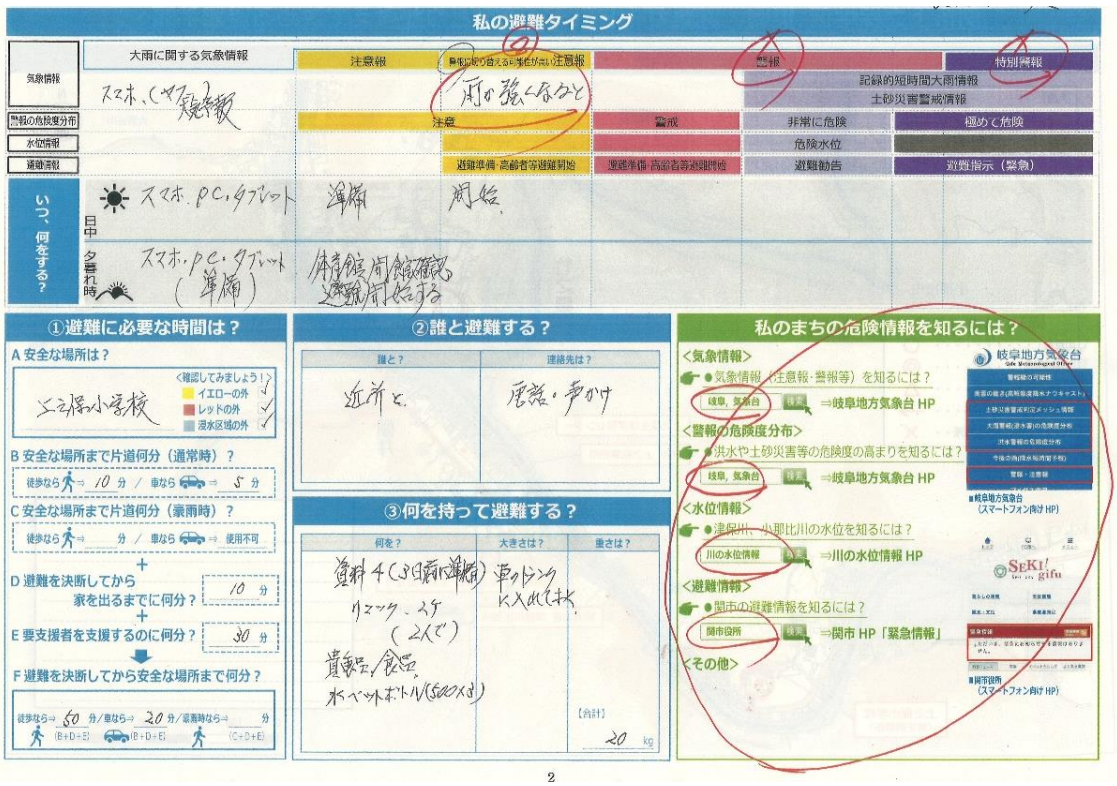
（２）最後に、今後情報提供して欲しいこと、第３回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　**男性・女性**
年代　**20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上**
地区　**大之田・棚井・竹之腰・横腰**
お名前　**（　　）**　※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第３回勉強会】災害・避難カードの記入例





【第３回勉強会】災害・避難カードの普及・活用（意見交換の結果）

・隣近所への声掛けが大事だと思う。
・居間や台所等各家庭で目につきやすいところに掲示しておく。
・夏（出水期）前に避難訓練を実施する。
・不安に思ったら近所や家族に連絡を取る。
・定期的に地域の人が集まって継続的に話し合う。
・家に帰ったら家族と話し合いたい。
・班で情報を共有しておく。
・遠方の家族等にカードを見せて知ってもらう。
・同じ地域の人たちが作成した災害避難カードをお互いに見て、共有できる部分や改善点などを考えてみることが必要
・実際にカードに記入した避難所へのルートを日中や夕方に通って確認をする。
・避難場所として適当なところに緊急の時の避難場所としての協力依頼が必要
・非常用持出袋の内容を、他の人と照らし合わせて考えてみることが必要。

【第３回勉強会】参加者の感想

関市上之保地区　第3回WSアンケート集計　　回答件数:28

(1) 下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第3回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	1
ちょうどよい	25
長い	2

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	23
どちらとも言えない	5
わかりにくい	0

③説明の時間はどうでしたか。

短い	2
ちょうどよい	25
長い	1

④【第1部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	25
どちらとも言えない	2
わかりにくい	1

⑤【第2部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	23
どちらとも言えない	1
わかりにくい	2

⑥第3回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	25
どちらとも言えない	2
高まらなった	0

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。

はい	28
どちらとも言えない	0
いいえ	0

⑧本日の内容を踏まえて、上之保地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う	17
どちらとも言えない	2
そう思わない	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第2回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

となり近所の声かけが大事だと思います
体験して、改めて早目の準備とフライングの大切さを実感。※避難の場所の開放状況の知らせ要
今後勉強会してもらうと思います
この勉強会に参加して、自分自身避難という事にかなり意識が変わりました。大変良かったと思います。ありがとうございました。
今回は具体的なカード作成なので意欲的にできた。地域全体に広めていくときに、今回の村岡先生の避難カード作成時のポイントをぜひ皆さんにも聞いていただけたら良いと思います。
三回にわたりありがとうございました。フライング出来るよう努力します。

自分自身は普段から防災に対する意識は高いと思っています。しかし近隣の中には危機意識が低いと思われる方が、普段世間話しなどで感じられます。今日の勉強会で防災意識が高まったと思います。大変ありがとうございました。
・家族と再度確認し、話し合（避難カードを利用）する。・近所の人と訓練する。・スマホの勉強会をしてほしい。
いかに早めの行動が大事かと知りました。参加して良かったです。
電源がアウトになった場合が心配。大之田水位計について自分で見に行って判断の目安にしたい。
実際に時間に行動を書くことで意識を深めてよかった。

性別

男性	6
女性	15

年代

20代	0
30代	0
40代	0
50代	1
60代	10
70代	10
80代	3
90代以上	0

地区

大之田	5
棚井	14
竹之腰	1
横腰	0

関市上之保地区＆下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
★事務局資料★

1　勉強会について

(1) 勉強会の開催概要（関市上之保地区）

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

関市上之保地区においても、多数の浸水被害が発生しており、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

計 3 回の勉強会を開催し、関市上之保地区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）9:30～12:00

場所：関市上之保生涯学習センター 2 階 2-1 会議室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明。地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

済

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00

場所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール等

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

済

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00

場所：関市上之保生涯学習センター 2 階 2-1 会議室

内容：第 1 回及び第 2 回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(2) 勉強会の開催概要（下呂市金山第一区）

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

下呂市金山第一区においても、土砂災害等が多く発生したことから、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

計 3 回の勉強会を開催し、下呂市金山第一区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明。地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

済

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

済

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

内容：第 1 回及び第 2 回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(3) 作成する「災害・避難カード」のイメージ（共通）

災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードである。

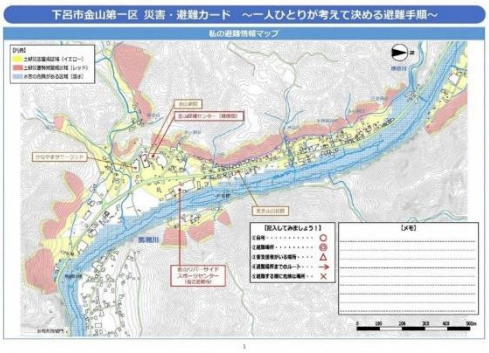
住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していく。

作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段日にとまる場所に置いておく。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用する。

「災害・避難カード」の構成は、自治会長及び市危機管理課等と協議しながら、第３回勉強会までに検討・確定する。

＜「災害・避難カード」のイメージ＞

1



1

2

3

2 第３回勉強会について

(1) 当日のプログラム（関市上之保地区）

日時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00
場所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 関市 市長公室 危機管理課　課長
9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○これまでの勉強会のふり返り（10 分） ○私の避難タイミングの検討（75 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:00～11:10	**休憩**
11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○災害・避難カードの活用について（40 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○あいさつ（10 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監

＜配布資料＞

次第
資料１　関市上之保地区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り
資料３　関市上之保地区 災害・避難カード
資料４　非常持出品リスト
資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法
参加者アンケート

(2) 当日のプログラム（下呂市金山第一区）

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 下呂市金山第一区　区長
9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○これまでの勉強会のふり返り（10 分） ○私の避難タイミングの検討（75 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:00～11:10	**休憩**
11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○災害・避難カードの活用について（40 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○あいさつ（10 分） 下呂市 金山振興事務所　金山地域振興課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監

<配布資料>

次第
資料１　下呂市金山第一区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り
資料３　下呂市金山第一区 災害・避難カード
資料４　非常持出品リスト
資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法
参加者アンケート

(3) 当日の動き（共通）

	時間	内容	役割分担
1	8:00	**集合** ○事務局スタッフは、8 時までに現地に集合する	各自
2	8:00～8:30	**会場設営（関市上之保地区）** ○通路側を前面とした教室形式の配置とする ○テーブル 12 本、椅子 12×3 脚を配置する ○各席にサインペンとボールペンを配置する ○事務局用にテーブル 1 本、椅子 3 脚を配置する ○講師用にテーブル 1 本、椅子 1 脚を配置する ○傍聴者（関係者）用に椅子 15 脚程度を配置する ○入口付近（室外）に受付用にテーブルを 2 本配置する ○講師準備資料を壁に掲示する ○マイクを確認する	委託業者を中心に対応
		会場設営（下呂市金山第一区） ○通路側を前面とした教室形式の配置とする ○テーブル 12 本、椅子 12×3 脚を配置する ○各席にサインペンとボールペンを配置する ○事務局用にテーブル 1 本、椅子 3 脚を配置する ○講師用にテーブル 1 本、椅子 1 脚を配置する ○傍聴者（関係者）用に椅子 15 脚程度を配置する ○入口付近（室外）に受付用にテーブルを 2 本配置する ○講師準備資料を壁に掲示する ○マイクを確認する	
3	8:30～9:00	**事務局ミーティング** ○事務局資料を用いて、第 3 回勉強会のタイムスケジュールの確認、災害・避難カードの構成、ワークショップの進め方について説明する	岐阜県から一言挨拶 委託業者から説明
4	9:00～9:30	**受付** ○参加者の受付をする ・名簿に名前を記入してもらい、班に○印をつけてもらう ・参加者配布資料一式を手渡し、テーブル割り図を使って案内する ・会場内に案内係を配置し、入ってきた参加者を各テーブルへ案内する ○関係者の受付をする ・名簿に所属と名前を記入してもらう ・岐阜県につなげる ○開会後 10 分程度は受付対応し、その後、受付用紙を持って会場に入る	委託業者を中心に対応

5	9:30～9:35	**開会** ○全体の司会進行は委託業者が行う ○開会にあたり、主催者からあいさつをいただく ○配布資料の確認を行う ・不足があれば、事務局スタッフが補充する ・アンケートの記入を依頼する	委託業者が司会進行
6	9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○委託業者より第１部に入ることをアナウンスする ○はじめに、岐阜県危機管理部防災課より、これまでの勉強会のふり返りと、災害・避難カードの説明をしていただく ○その後、講師の進行のもと、参加者一人ひとりが災害・避難カードを記入する ○適宜、講師から書き方に関する説明をいただき、事務局スタッフは説明を受けて参加者の記入をサポートする	委託業者が司会進行
7	11:00～11:10	**休憩** ○委託業者より第１部の終了をアナウンスする ○休憩の後、再び会場に集まっていただくように依頼する ○会場を教室形式からグループワーク形式に変更する ○テーブルを２本並べるように配置する ○各テーブルにワークシート、フセンを配置する	委託業者が司会進行
8	11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○委託業者より第２部に入ることをアナウンスする ○はじめに、委託業者より、これから行うグループワークの内容について説明する ○各グループで、ワークシートに意見を書き出す ○事務局スタッフはファシリテーターとして意見を引き出すとともに、参加者の意見をフセンに書き出してワークシートに貼り出す ○ワークシートを壁に貼り出し、講師より講評をいただく	委託業者が司会進行
9	11:50～12:00	**閉会** ○アンケートの記入と提出を依頼する ・事務局スタッフはアンケートを回収する ○主催者からあいさつをいただく ○委託業者より勉強会の終了をアナウンスする ○勉強会を終了する	委託業者が司会進行 下呂市あいさつ

10	12:00～12:30	**後片付け** ○忘れ物がないよう、参加者に呼びかけながら、退室を促す ○会場の片づけを行う	各自
11	12:30	**撤収** ○会場から一切の荷物を運び出し、撤収する	各自

(4) 事務局スタッフ（関市上之保地区）

	所属	役職	氏名	役割

講師	1名
岐阜県	10名（報道対応1名、全体指揮1名）
関市	4名
委託業者	4名
合計	19名

(5) 事務局スタッフ（下呂市金山第一区）

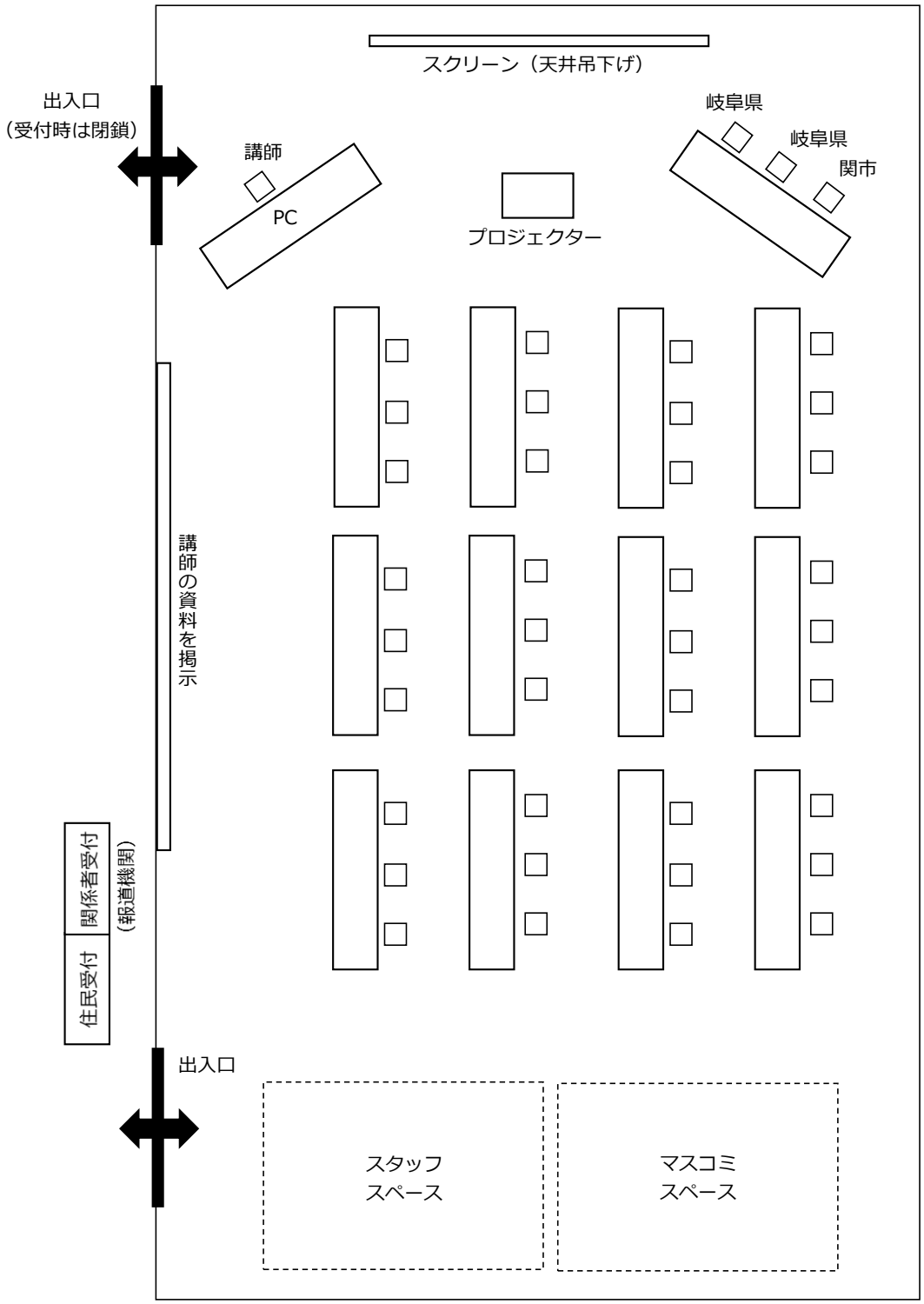
	所属	役職	氏名	役割

講師　　1名
岐阜県　　13名（報道対応1名、全体指揮1名）
下呂市　　2名
委託業者　4名

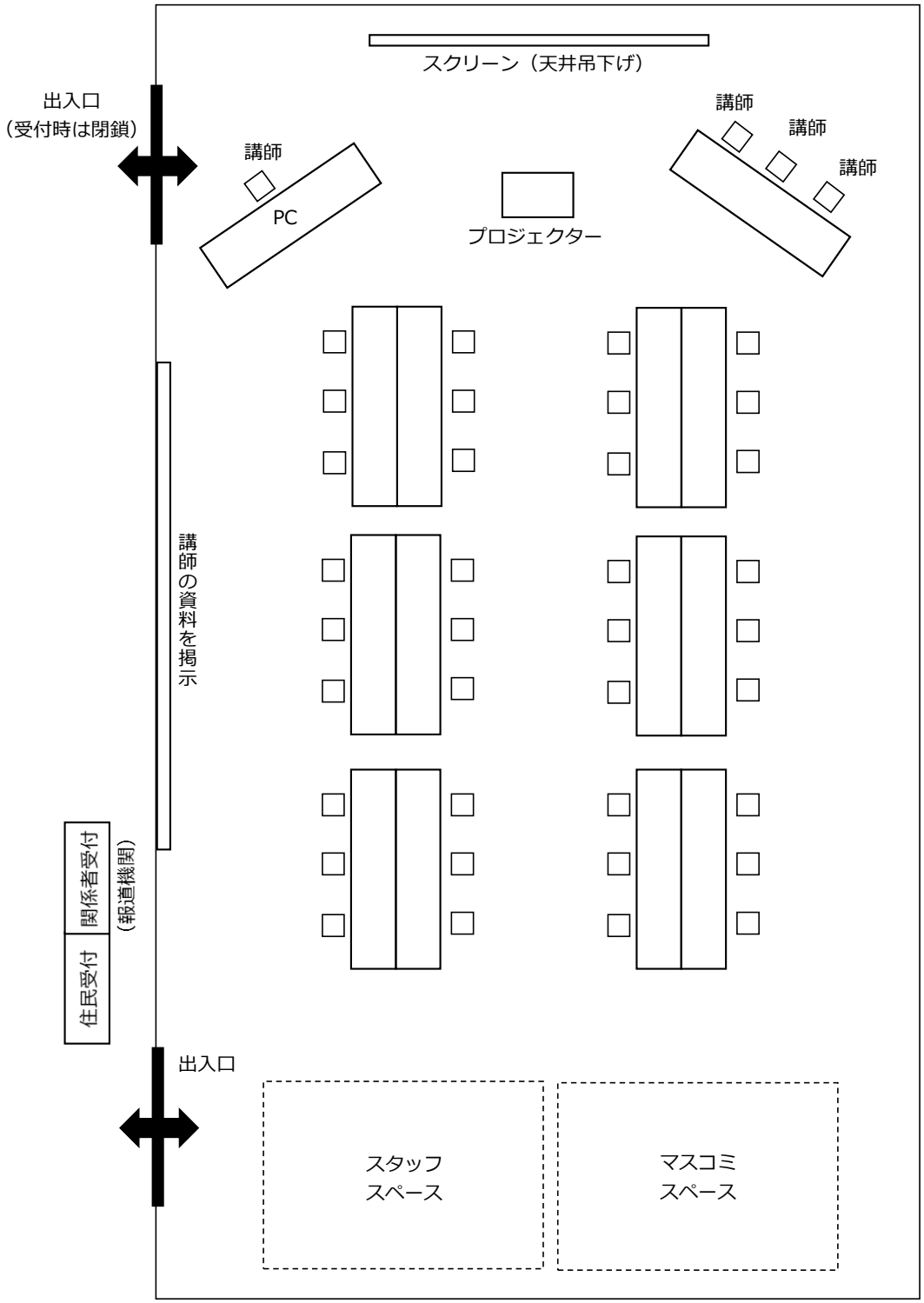
合計　　19名

(6) 会場レイアウト（関市上之保地区）

①【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」

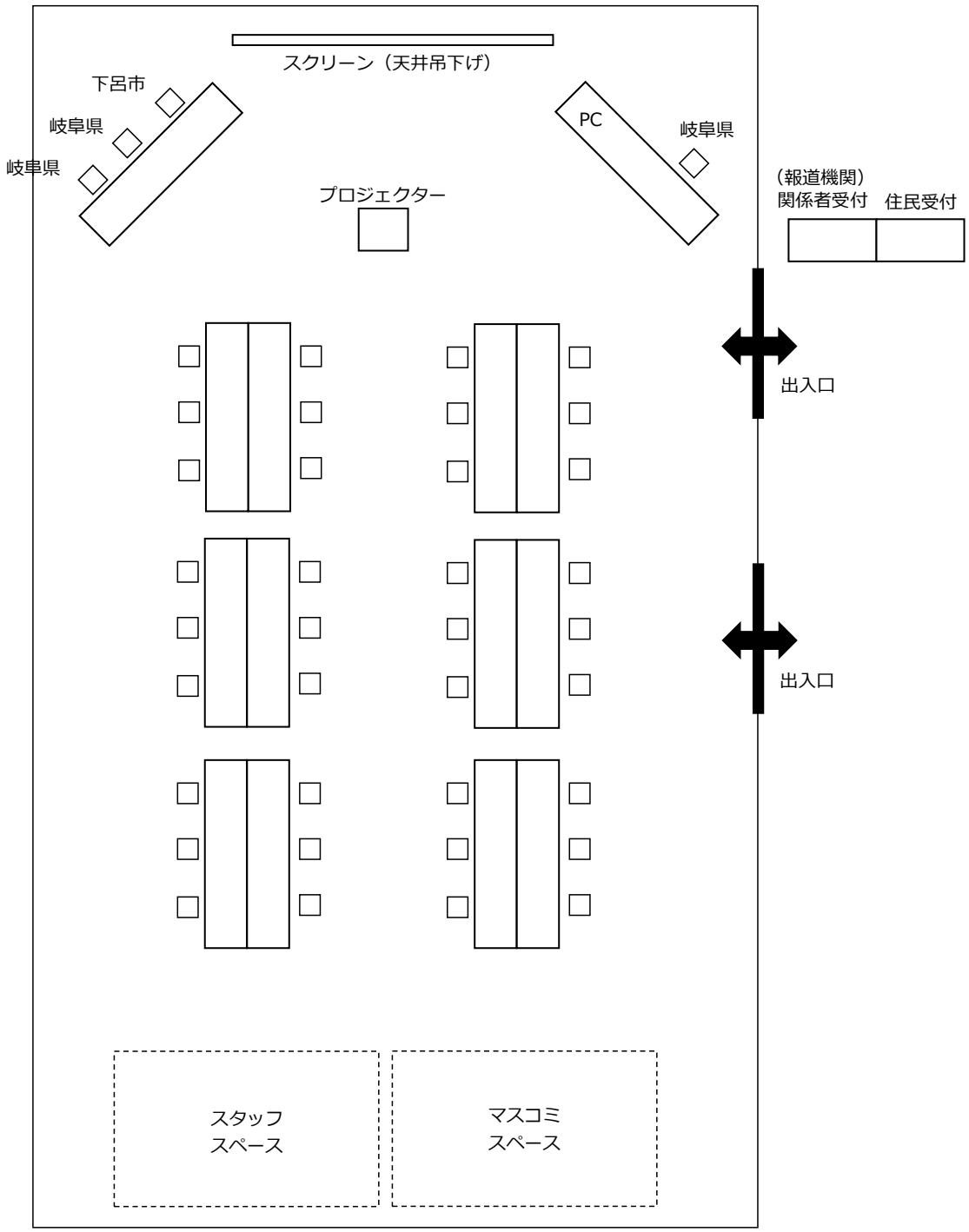


②【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」

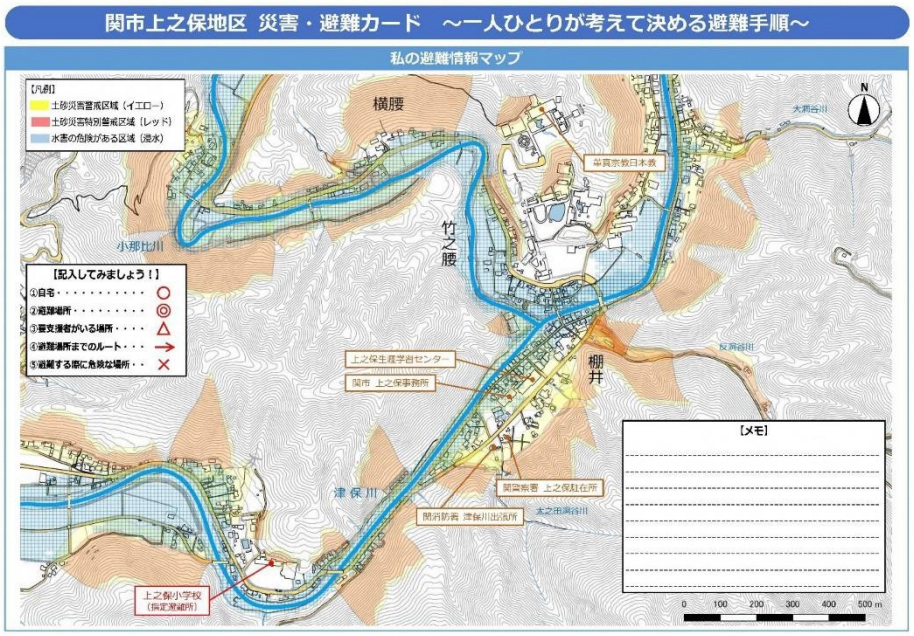


(7) 会場レイアウト（下呂市金山地区）

【第１部、２部共通】



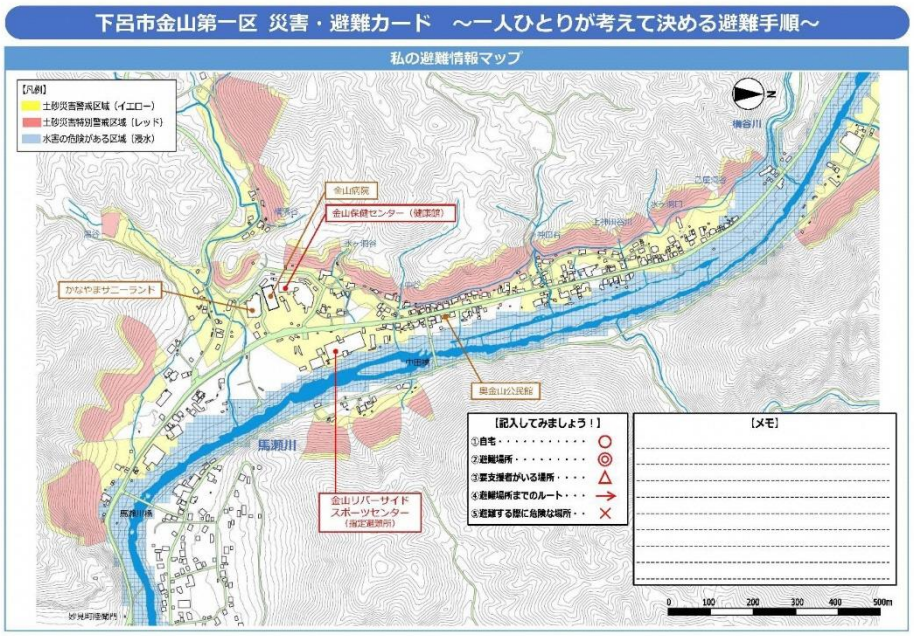
(8) 災害・避難カード（関市上之保地区）



1

2

(9) 災害・避難カード（下呂市金山第一区）



1

2

（10）災害・避難カードの活用に関するワークシート（共通）

「災害・避難カード」の活用について

早めに避難を完了するために、 皆でどう使っていきますか？	一人ひとりが避難の手順を考えるために、 どう家族や地域に広めますか？

(11) 準備物（共通）

項目	準備物等	備考	数量	確認
配布資料（個人）	次第	A4 版	60 部	
	【資料 1】一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について	A4 版	60 部	
	【資料 2】第 1 回，第 2 回勉強会のふり返り	A4 版	60 部	
	【資料 3】災害・避難カード	A3 版	60 部	+20
	【資料 4】非常持出品リスト	A4 版	60 部	
	【資料 5】情報の入手方法	A4 版	60 部	
	アンケート用紙	A4 版	60 部	
	封筒	角型 2 号	60 枚	
配布資料（テーブル）	ワークシート	A1 版	6 枚	
その他（テーブル）	フセン（75×75mm、色指定なし）	–	適量	
	記入用サインペン	–	適量	
	記入用ボールペン	–	適量	
	記入用マーカーペン	–	適量	
その他（会場等）	名簿（参加者、関係者用）	A3 版	各 1 部	
	アンケート回収 BOX	–	2 個	
	会場案内用紙（会場入口掲示用）	–	2 枚	
	設営道具（テープ、磁石）	–	–	
	メモ用紙	–	–	
その他（電子機器等）	ノート PC	–	1 台	
	プロジェクター	–	1 台	
	ケーブル	–	–	
	延長コード	–	–	
	差し棒	–	–	
	デジタルカメラ	–	2 台	
	IC レコーダー	–	1 台	
	ビデオカメラ	–	1 台	
	三脚	–	1 台	
その他	カイロ	–	60 個	
	カイロ開封時用ごみ袋	–	1 枚	
	お茶	–	60 本	

(2)下呂市金山第一区

【第１回勉強会】次第

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
次　第

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

時間	プログラム
19:00～19:10	**開会** ○あいさつ 下呂市 金山振興事務所　金山地域振興課長 岐阜県 危機管理部 防災課　防災対策監 下呂市金山第一区　区長
19:10～19:30	**第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」** ○開催趣旨の説明 ○全体的な検討スケジュールの説明 ○本日の勉強会についての説明 岐阜県 危機管理部 防災課
19:30～20:20	**第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」** ○7 月豪雨災害のふり返り ○取ったら良かったと思う避難行動 ○他のグループの「ふり返り」確認
20:20～20:30	**休憩**
20:30～21:20	**第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」** ○講義 清流の国ぎふ　防災・減災センター
21:20～21:30	**閉会** ○次回の開催内容の説明

●配布資料リスト
資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　本日の勉強会について
資料３　大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

【第１回勉強会】資料１

資料１

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について

１ 開催目的

平成３０年７月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例がありました。

下呂市金山第一区においても、土砂災害等が多く発生したことから、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となります。

そのため、「災害・避難カード」の作成をとおして、地域住民のみなさま一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施します。

２ 開催概要

計３回の勉強会を開催し、下呂市金山第一区における「災害・避難カード」を作成します。

具体的な内容と、各回の開催内容は以下のとおりです。

【第１回目（今回）】　平成３１年１月１６日（水）

勉強会の主旨やスケジュールなどを説明。お住まいの地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、みなさんと考えます。

【第２回目】　平成３１年２月３日（日）

まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認します。

【第３回目】　平成３１年２月２４日（日）

第１、２回のワークショップ踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入します。

3 災害・避難カードのイメージ

・災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードです。

・住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していきます。

・作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段目にとまる場所に置いておきます。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用します。

○災害・避難カードのイメージ

災害・避難カード（●●地区）　～少しでも危険を感じたら迷わず避難！～

わたしの避難行動

災害	避難先	避難の合図
土砂災害	●●小学校 （そこまで逃げられない時は△△）	土砂災害の避難勧告

※避難先までの移動が危険と判断されるような状況の時は、自宅の上層階で山からできるだけ離れた部屋等へ移動

避難の心得

その1	**状況により、すばやく避難する** 自治体などからの情報を収集するとともに、避難準備情報や避難勧告などが発表されたら、早目に避難する
その2	**安全なうちに避難する** 雨が弱い、外が明るい、避難経路が利用可能等といった、避難先へと安全に移動するために必要な条件が整っているうちに避難する
その3	**防災メモを持つ** 事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難する
その4	**家族とメッセージのやり取りを行う** 外出中の家族とは、携帯電話や「災害用伝言ダイヤル171」を活用して、「どこへ避難する」といったメッセージのやり取りを行う
その5	**助け合いながら避難** 近所のお年寄りなど一声をかけながら、一緒に避難する

避難経路

「災害用伝言ダイヤル 171」の使い方

電話で家族と連絡が取れないとき、「災害用伝言ダイヤル 171」で自分から家族へのメッセージを録音でき、また、家族からのメッセージを聞くことができます。

[使い方]　※音声ガイダンスにしたがって録音、再生できます。

メッセージを録音する場合　「171」の後に「1」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

メッセージを聞く場合　「171」の後に「2」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

【第１回勉強会】資料２

資料２

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会

本日の勉強会について

平成31年1月16日

1

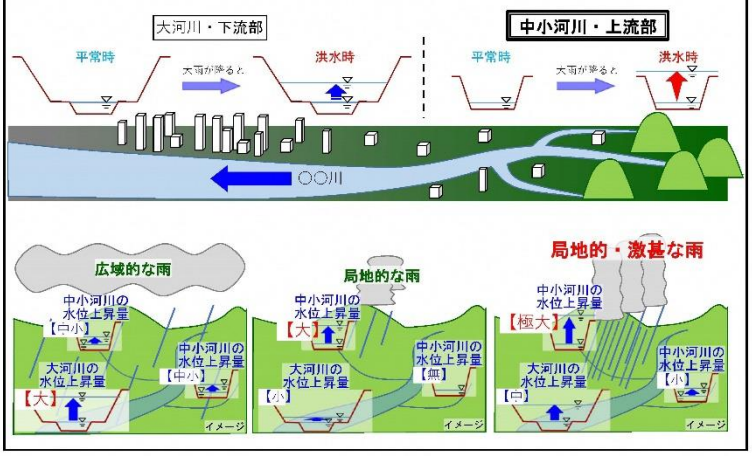
河川災害

2

1

降雨の局地化・激甚化の影響

清流の国ぎふ



3

降雨の局地化・激甚化の影響

清流の国ぎふ

4

2

降雨の局地化・激甚化の影響

清流の国ぎふ

5

土砂災害

6

3

土砂災害の種類

清流の国ぎふ

土石流

谷から、土、石、木などが、大雨による水といっしょになって、一気に流れてくる現象。
（およそ時速40～50km）

土石流のおそれのある箇所
約6，500箇所

がけ崩れ

大雨や地震により、“がけ”が突然、崩れ落ちる現象。

がけ崩れのおそれのある箇所
約8，400箇所

地すべり

大雨により、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。

地すべりのおそれのある箇所
約100箇所

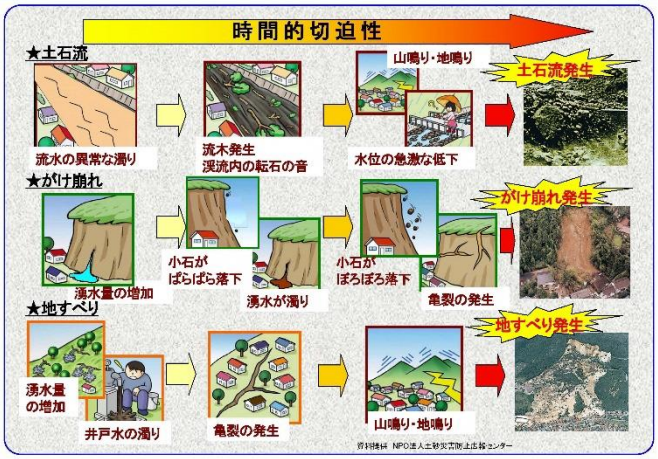
岐阜県内の土砂災害警戒区域数　約15，000箇所

資料提供　NPO法人土砂災害防止広報センター

7

土砂災害の前ぶれと呼ばれる現象

清流の国ぎふ



8

土砂災害防止法

清流の国ぎふ

土砂災害から住民の生命を守るために、
土砂災害が発生する恐れがある区域を明らかにし、
警戒避難体制の整備や一定の行為の制限を行う法律です。

基礎調査の実施
岐阜県が土砂災害により被害を受けるおそれのある場所の
地形や地質、土地の利用状況などを調査

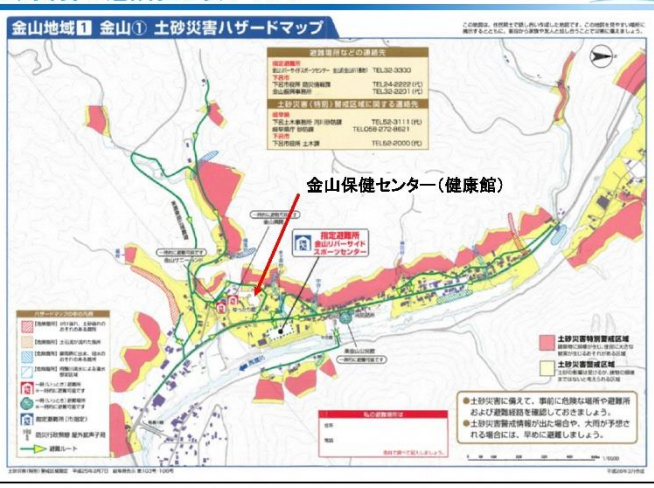
土砂災害警戒区域の指定
通称：イエローゾーン
（土砂災害のおそれがある区域）

土砂災害特別警戒区域の指定
通称：レッドゾーン
（建築物損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域）

9

土砂災害の危険性を表すマップ

清流の国ぎふ



10

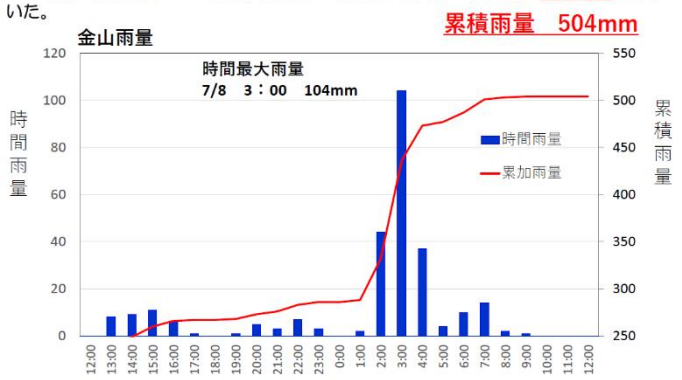
5

7月豪雨時の土砂災害の危険性

清流の国ぎふ

当時、累積雨量275mmの段階で、「土砂災害発生の危険性の基準」を超過していた。
２４時間の累積雨量では「土砂災害発生の危険性の基準」の超過時の約２倍を記録していた。

累積雨量　504mm



11

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

7月8日発生　土石流災害　家之洞（岐阜県郡上市八幡町小那比）

12

6

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

7月8日発生　土石流災害　家之洞（岐阜県郡上市八幡町小那比）

①谷部の崩落

②市道への土砂流入

③土砂氾濫

④家屋への土砂流入

13

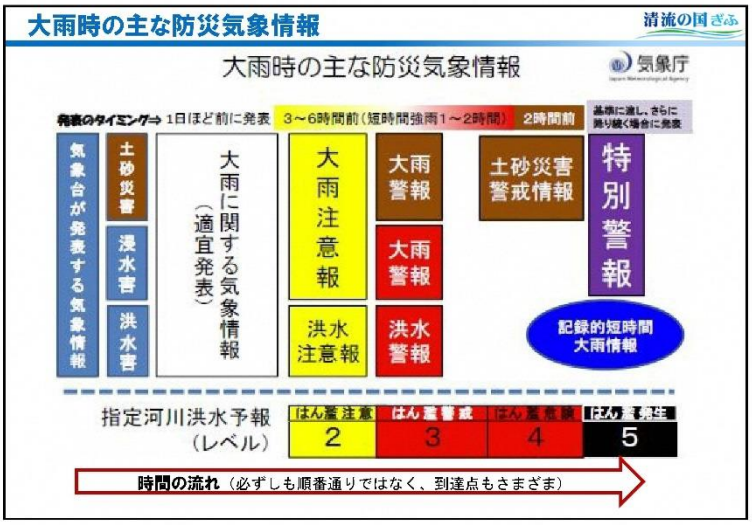
では、

このような
災害の**危険**を予測し、
身を守るために
必要な情報は・・・。

14

大雨時の主な防災気象情報

清流の国ぎふ



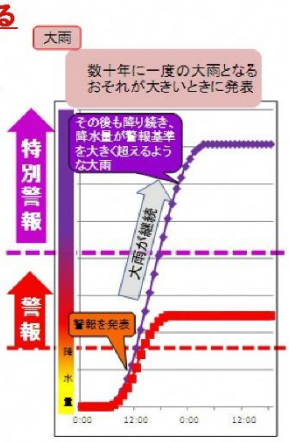
15

特別警報について

清流の国ぎふ

警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、**特別警報**を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

特別警報が出た場合、
数十年に一度しかないような非常に危険な状況！
周囲の状況や市町村からの避難指示・避難勧告などの情報に留意し
ただちに命を守るための行動をとってください！



16

8

各市町村が発令する避難情報

清流の国ぎふ

避難情報の種類	発令時の状況	住民がとるべき避難行動	発令基準（市町村ごとの基準例）
避難準備・高齢者等避難開始	・人的被害の発生する危険性が高まった状況	・避難行動要支援者など、避難に時間を要する方（高齢者、障がい者、乳幼児を含む家族など）は、指定緊急避難場所などへの避難を開始 ・上記以外の方は、気象情報に注意し、非常用持出袋の用意などの避難準備を開始	・大雨警報（土砂災害）が発表され、土壌雨量指数が高まったとき ・河川水位が避難判断水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難勧告	・人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況	・まだ避難行動を開始していない全ての住民が指定緊急避難場所などへの避難を開始	・土砂災害警戒情報が発表された時 ・河川水位がはん濫危険水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難指示（緊急）	・人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況	・確実な避難を完了（まだ避難をしていない住民は、直ちに避難）	・上記の基準を上回る危険性が確認されたとき

17

７月豪雨時は、
避難指示（緊急）のみ発令。

- 基準水位がない河川あり（中小河川）。
- 中小河川は水位上昇が急。

18

9

新たな取組み

中小河川でも
避難情報を発令できるよう
基準を追加。

19

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

1．中小河川における
避難判断参考水位の設定。
・家屋浸水が想定される一級河川に**危機管理型水位計**を設置。
・馬瀬川は既存の金山水位観測所に**避難判断参考水位**を設定。

2．**洪水警報の危険度分布図**の確認。
・３時間先の洪水予測。

3．**現地の情報収集体制**の強化
・消防・水防団からの情報収集　など

20

10

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

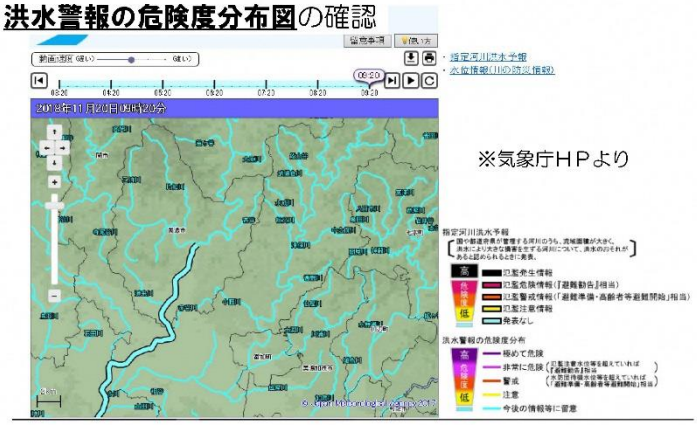
避難判断参考水位を新たに設定

21

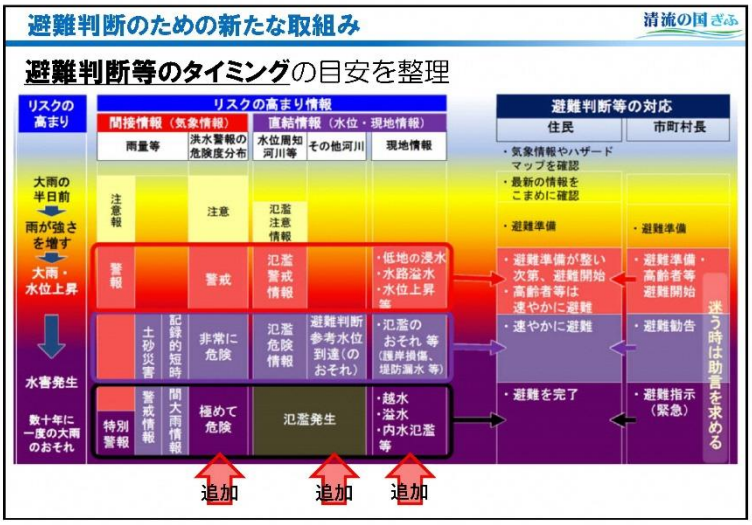
避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

洪水警報の危険度分布図の確認



22



23

しかし、

それだけでは**限界**。

取組を始めたばかり・・・
予測にも限界がある・・・

24

12

一人ひとりが
避難を考える取組み

自分の生活環境などをふり返り、
一人ひとりが避難の手順について考え、
どう行動するのか**あらかじめ決めておく**。

それが今回の取組み

25

13

【第１回勉強会】資料３

地区名＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

資料３

大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

- 大雨時避難の活動手順を整理します
- 『早めの避難』とは『スピード速く』ではなく、『タイミング早く』であることを理解して下さい

① 安全な所はどこですか？

② 片道何分ですか？(通常)　(徒歩)＿＿＿分　(車)＿＿＿分

③ 片道何分ですか？(豪雨時)　(徒歩)＿＿＿分　(車)使用不可

④ 避難を決断してから家を出るまでに何分必要ですか？　＿＿＿分

⑤ 避難を決断してから、安全な所に無事辿り着くまでに何分かかりますか？

②+④	②+④	③+④
(徒歩)＿＿＿分	(車)＿＿＿分	(豪雨時)＿＿＿分

■時間雨量が 20mm を越えると、屋外は危険

⑥ 持ち物は？

合計　＿＿＿＿　ｋｇ

1

要支援者の支援手順と所要時間も整理しよう

⑦ 要支援者にとっての安全な所はどこですか？

⑧ 要支援者はどこにいますか？	
どなたですか？	さん
⑨ 気象情報の入手方法は？	
⑩ 避難開始を決断する目安は？	
⑪ 不安と感じる現象は？(複数)	
⑫ 避難開始を誰が決断しますか？	さん
⑬ 誰が避難開始を連絡しますか？	さん
⑭ 誰に避難開始を連絡しますか？	さん
⑮ 連絡手段は？	
⑯ 第二の連絡手段は？	
⑰ 安全な所の解錠手順は？	
⑱ 安全な所の解錠担当者は？(複数名)	さん　さん　さん
⑲ 避難手段は(徒歩、誰の車)？	
㉑ 避難ルートは？	

㉒ 命を守る為に必要な総所要時間（決断⇒連絡完了⇒避難準備完了

⇒安全な所の解錠完了⇒避難開始⇒避難中⇒全員の避難完了）は？

約　　時間　　分

㉓ 先送りや時間切れの原因は？

2

【第１回勉強会】参加者アンケート

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

(1) 最初に、普段からの備えについて教えてください。

①ご自身が避難する避難場所を知っていますか。　　知っていた ←　→ 知らなかった

②土砂災害や洪水のおそれがある場合、家族で避難場所や避難行動の方法を決めていますか。　　はい ←　→ いいえ

③ハザードマップを確認したことがありますか。　　はい ←　→ いいえ

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第１回勉強会の時間はどうでしたか。　　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

②配布資料はどうでしたか。　　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

③会場全体に掲示した資料や各テーブルに配置した資料はわかりやすいものでしたか。　　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

④説明の時間はどうでしたか。　　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

⑤ガイダンス「本日の勉強会について」の内容はいかがでしたか。　　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑥ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等）」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑦講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」の内容はいかがでしたか。

楽しかった ← どちらとも言えない → つまらなかった

⑧いつまでに避難を完了するのがよいか分かりましたか。

はい ← どちらとも言えない → いいえ

⑨土砂災害や洪水に関することについて、知識が身につきましたか。

高まった ← どちらとも言えない → 高まらなかった

⑩第１回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった ← どちらとも言えない → 高まらなかった

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第１回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　男性・女性

年代　20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上

地区　白山町 1，2，3，4，5，6 班・諏訪町 1，2，3，4，5 班

お名前　（　　） ※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第１回勉強会】とったらよかったと思う避難行動（意見交換の結果）

①当時の行動やできなかったこと

・当時は、避難するタイミングがよくわからなかった。
・午前４時頃に、薬や服を持って金山病院に避難した。
・避難できなかった。隣の人が寝ていたため、付き添っていた。
・冠水した道、土砂が流出した道を通って避難した。
・避難の準備に時間がかかるためあらかじめ持ち物を決めておく。
・避難用具を備えておけばよかった。
・防災カバンを用意しておけばよかった（災害後、用意した）。
・大人３人家にいた。避難することもできなかった。雨音がすごく大石がごろごろと谷を転がる音がした。
・雨雲レーダーを随時確認しておけばよかった。

②命を守る具体的な気づき

・避難所のカギを区長が保管し、地域で開設することができるようにする。
・明るいうちに自主避難できればよかった。
・近所で連絡をどう取りあうか考えておく。
・警報が出そうな時に避難の準備をしておけばよかった。
・体験した災害について、災害に至る時間的経過や状況がイメージしやすいので、学校の授業に活用してはどうか。
・数件となりまで声をかけたい。
・日頃から班で話し合うことが必要。
・地域で確実に安全な場所があるのか？現実には厳しいのはないか。助かるためには、地域外に逃げることも必要かもしれない。
・地域が広範囲なので、緊急時にどのように連絡を取り合えばよいのかを考えておく。
・避難所で時間をつぶせるものを持っていけばよかった。

【第１回勉強会】参加者の感想

下呂市金山地区　第1回WSアンケート集計　　回答件数:31

(1) 最初に、普段からの備えについて教えてください。

①ご自身が避難する避難場所を知っていますか。

知っていた	30
知らなかった	1

②土砂災害や洪水のおそれがある場合、家族で避難場所や避難行動の方法を決めていますか。

はい	18
いいえ	13

③ハザードマップを確認したことがありますか。

はい	22
いいえ	9

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第1回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	1
ちょうどよい	25
長い	5

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	24
どちらとも言えない	6
わかりにくい	1

③会場全体に掲示した資料や各テーブルに配置した資料はわかりやすいものでしたか。

わかりやすい	25
どちらとも言えない	6
わかりにくい	0

④説明の時間はどうでしたか。

短い	0
ちょうどよい	31
長い	0

⑤ガイダンス「本日の勉強会について」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	23
どちらともいえない	8
わかりにくい	0

⑥ワークショップ「安全に避難するためには（7月豪雨災害のふり返り 等）」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	21
どちらともいえない	10
わかりにくい	0

⑦講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」の内容はいかがでしたか。

楽しかった	16
どちらとも言えない	15
つまらなかった	0

⑧いつまでに避難を完了するのがよいか分かりましたか。

はい	27
どちらとも言えない	3
いいえ	1

⑨土砂災害や洪水に関することについて、知識が身につきましたか。

高まった	30
どちらとも言えない	1
高まらなかった	0

⑩第1回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	27
どちらとも言えない	4
高まらなった	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第1回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

・避難所の錠を区長に。 ・近所に連絡をどうしてするか考える
避難するタイミングがよくわからない
一人暮らしのお年寄りなど高齢者世帯が多いので、特に、情報を徹底してほしいと思いました。
子どもたちが体験した災害なので、災害に至る時間的経過や状況がイメージしやすいので、学校の授業に活用してほしい。教材とすることも可能。家に帰って、子どもたちと話し合いを持ちたい。
今後多くこうした時間を作ってください。
第一区でこのような災害があったことで、家庭でも防災の話をすることができた。意識が高まり、今後も引き続き話をしていきたい。
日頃班で話し合うことが必要
今の地域で確実に安全な場所があるのか、現実問題厳しい。自分や家族は助かりたいが、今の地域を見捨てないとたすからないのか。
緊急時に、どのように連絡を取り合えばよいのか？ 地域が広範囲である。
初めての出来事であった。どうしていいかわからなかったことは事実である。早く避難するサインが出ていたかもしれないが、それを理解することはできなかった。区民はみな、そうでなかっただろうか。教訓にしたい。
勉強になりました。今回参加されていない住民の方々も広く参加されることを願います。
避難所に指定されている場所に、仮設トイレを早急に設置できるようにしていてほしい。
避難時には何を持って行けばよいか？

性別

男性	27
女性	4

年代

20代	0
30代	3
40代	4
50代	4
60代	18
70代	2
80代	0
90代以上	0

地区

白山町1班	3
白山町2班	5
白山町3班	5
白山町4班	2
白山町5班	0
白山町6班	0
諏訪町1班	4
諏訪町2班	3
諏訪町3班	5
諏訪町4班	3
諏訪町5班	0

【第１回勉強会】事務局資料

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
★事務局資料（確定版）★

1 勉強会について

(1) 開催目的

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

下呂市金山第一区においても、土砂災害等が多く発生したことから、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

(2) 開催概要

計 3 回の勉強会を開催し、下呂市金山第一区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明。地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00（予定）

場所：下呂市金山第一区内（調整中）

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00（予定）

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室（調整中）

内容：第 1 回及び第 2 回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(3) 作成する「災害・避難カード」のイメージ

災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードである。

住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していく。

作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段日にとまる場所に置いておく。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用する。

下呂市金山第一区の「災害・避難カード」の構成は、金山第一区長と下呂市危機管理課と協議しながら、第3回勉強会までに検討･確定する。

＜「災害・避難カード」のイメージ＞

災害・避難カード（●●地区）　～少しでも危険を感じたら迷わず避難！～

わたしの避難行動

災害	避難先	避難の合図
土砂災害	●●小学校（そこまで逃げられない時は△△）	土砂災害の避難勧告

※避難先までの移動が危険と判断されるような状況の時は、自宅の上層階で山からできるだけ離れた部屋等へ移動

避難の心得

その1	**状況により、すばやく避難する** 自治体などからの情報を収集するとともに、避難準備情報や避難勧告などが発表されたら、早目に避難する
その2	**安全なうちに避難する** 雨が弱い、外が明るい、避難経路が利用可能等といった、避難先へと安全に移動するために必要な条件が整っているうちに避難する
その3	**防災メモを持つ** 事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難する
その4	**家族とメッセージのやり取りを行う** 外出中の家族とは、携帯電話や「災害用伝言ダイヤル171」を活用して、「どこへ避難する」といったメッセージのやり取りを行う
その5	**助け合いながら避難** 近所のお年寄りなどへ声をかけながら、一緒に避難する

避難経路

「災害用伝言ダイヤル171」の使い方

電話で家族と連絡が取れないとき、「災害用伝言ダイヤル 171」で自分から家族へのメッセージを録音でき、また、家族からのメッセージを聞くことができます。

［使い方］　※音声ガイダンスにしたがって録音、再生できます。

メッセージを録音する場合　「171」の後に「1」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

メッセージを聞く場合　「171」の後に「2」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

2 第１回勉強会について

(1) 開催プログラム

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水） 19:00～21:30
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

時間	プログラム
19:00～19:10	**開会** ○あいさつ 下呂市 金山振興事務所　金山地域振興課長 岐阜県 危機管理部 防災課　防災対策監 下呂市金山第一区　区長
19:10～19:30	**第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」** ○開催趣旨の説明 ○全体的な検討スケジュールの説明 ○本日の勉強会についての説明 岐阜県 危機管理部 防災課
19:30～20:20	**第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」** ○7 月豪雨災害のふり返り ○取ったら良かったと思う避難行動 ○他のグループの「ふり返り」確認
20:20～20:30	**休憩**
20:30～21:20	**第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」** ○講義 清流の国ぎふ　防災・減災センター
21:20～21:30	**閉会** ○次回の開催内容の説明

【参加者配布資料】
資料１：一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２：本日の勉強会について
資料３：大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

(2) 当日の動き

	時間	内容	役割分担
1	17:30	**集合** ○事務局スタッフは、17:30 までに現地に集合する ○金山振興事務所職員に会場を解錠していただき、荷物を搬入する	各自
2	17:35～18:00	**会場設営①** ○テーブルを 4 グループ分配置する ○参加者が想定より多かった時のために、2 グループ分余分に配置する ○1 グループあたり、テーブルは 2 本並べて配置する ○椅子を、1 グループあたり 8 脚配置する	委託業者が対応
3		**会場設営②** ○事務局用にテーブルを 2 本（講師等着席用）配置する ○そのうち 1 本は演台とする ○事務局用に椅子を 4 脚程度配置する ○傍聴者（関係者）用に椅子を 15 脚程度配置する	委託業者が対応
4		**会場設営③** ○スクリーンとプロジェクター台を配置する ○ノート PC とプロジェクターを設置し、投影を確認する	委託業者が対応
5		**会場設営④** ○入口付近（室外）に受付用にテーブルを 2 本配置する	委託業者が対応
6	18:00～18:15	**資料配布①** ○各グループに以下の資料を配置する （上から順番に） ・全体図（A0 版、1 枚） ・短期タイムライン（A1 版、1 枚） ○各グループに以下の WS グッズを配置する ・記入用ボールペン（10 本） ・マーカーペン（1 セット） ・75×75mm フセン（ピンク／イエロー／ブルー、各適量） ・75×25mm フセン（ブルー／グリーン、各適量）	委託業者が対応
7		**資料配布②** ○壁･ホワイトボードに掲示する資料を準備する ・全体図（A0 版、1 枚） ・長期タイムライン（A0 版、1 枚） ・メンディングテープ、磁石、画びょうなど	委託業者が対応

8	18:00～18:15	**資料配布③** ○受付用テーブルに以下の資料等を配置する ・参加者受付用紙（A3 版、3 枚） ・関係者受付用紙（A3 版、1 枚） ・記入用ボールペン（5 本） ・参加者配布資料一式（ペットボトル飲料、カイロ含む） ○テーブル割り図を掲示する ○健康館入口等に会場の案内用紙を掲示する	委託業者が対応
9	18:15～18:30	**事務局ミーティング** ○当該資料（(2) 当日の動き）を用いて、勉強会の流れを確認する ○第 2 部 WS の進め方、役割分担について確認する	委託業者が説明
10	18:30～19:00	**受付** ○参加者の受付をする ・名簿に名前を記入してもらい、班に○印をつけてもらう ・参加者配布資料一式を手渡し、テーブル割り図を使って案内する ・会場内に案内係を配置し、入ってきた参加者を各テーブルへ案内する ○関係者の受付をする ・名簿に所属と名前を記入してもらう ・岐阜県につなげる ○開会後 10 分程度は受付対応し、その後、受付用紙を持って会場に入る	委託業者と岐阜県ｽﾀｯﾌで対応 受付　2名 案内　4～5名程
11	19:00～19:10	**開会** ○全体の司会進行は委託業者が行う ○開会にあたり、下呂市からあいさついただく ○続いて、岐阜県からあいさついただく ○最後に、金山第一区長からあいさついただく ○配布資料の確認を行う ・配布資料に不足があれば、事務局スタッフが補充する ・アンケートの記入を依頼する	委託業者が司会進行 あいさつは、 ①下呂市 ②岐阜県 ③区長 の順番
12	19:10～19:30	**第 1 部 ガイダンス「本日の勉強会について」** ○第 1 部 ガイダンスは、岐阜県が説明する ・マイクを岐阜県に渡す ○資料 2 を用いて、勉強会の開催趣旨、全体的な検討スケジュールを説明する ○資料 1 を用いて、本日の勉強会について説明する ○資料 3 及びノート PC を用いて、本日の勉強会について説明する ○説明後、マイクを委託業者に戻す	委託業者が司会進行 岐阜県が説明

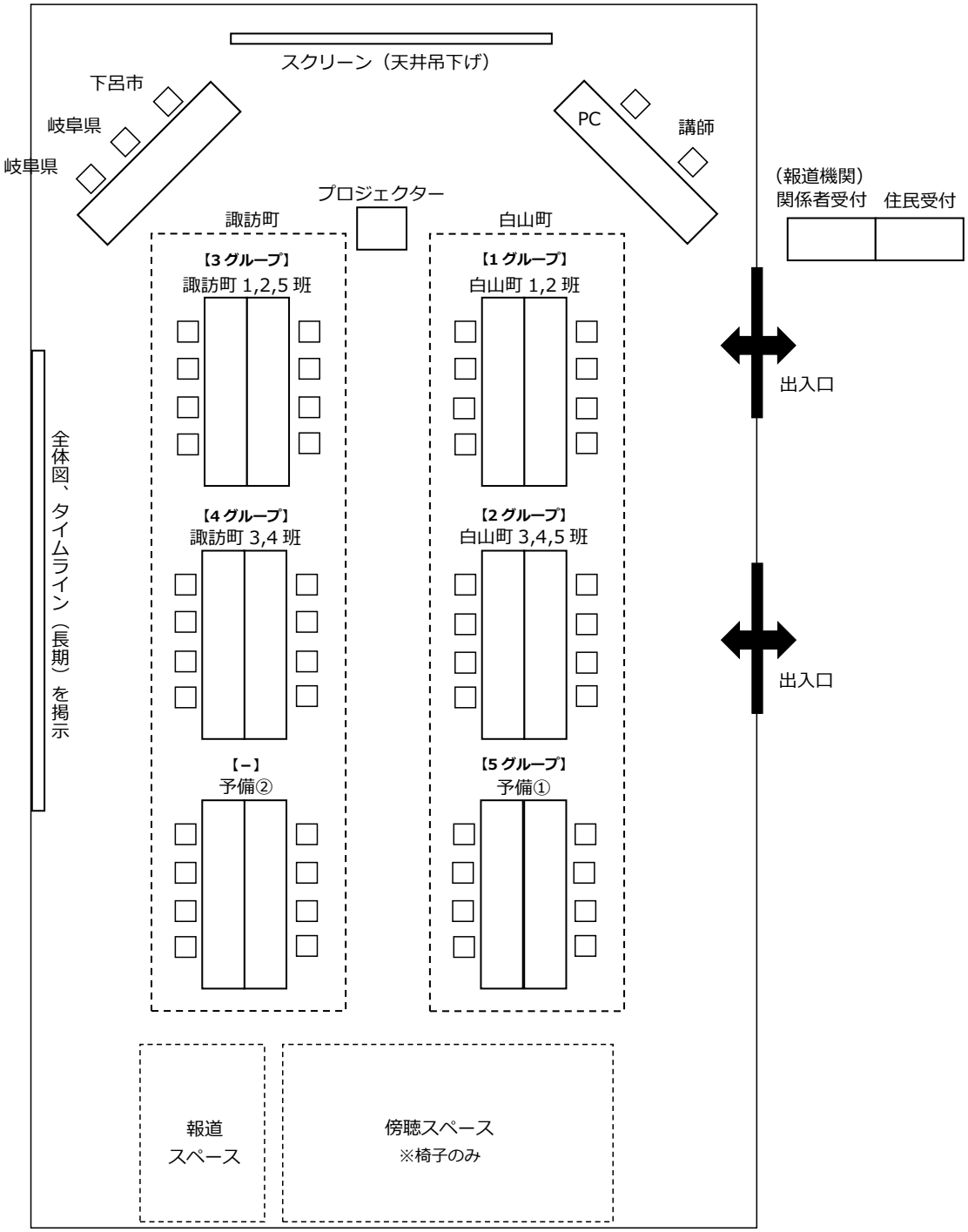
13	19:30～20:20	**第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」** ○ワークショップの内容について、委託業者から説明する ○進行及びタイムキーパーも委託業者が務める ○事務局スタッフは、各グループに移動する ○7 月豪雨災害のふり返りを行う（30 分） ・発生した事象と取った避難行動について、参加者自身がフセンに書き出す ・フセンは 75×75mm、発生した事象はピンク、取った避難行動はイエロー ・書き出したフセンを全体図に貼り出す ・ペンが進まない参加者には、積極的に声をかけ、当時の様子を聞き出し、代わりにフセンに記入して全体図に貼り出す ・参加者が最初に確認した事象をチェック（フセンに○印をつける）し、短期タイムラインに記入する ・参加者自身がフセンに地区名と名前を記入し、短期タイムラインへ避難行動をとった時間の辺りに貼り出す ・フセンは 75×25mm、避難できたはブルー、避難できなかった（≒脱出した）はグリーン ○取ったら良かったと思う避難行動（15 分） ・取ったら良かったと思う行動について、参加者自身がフセンに書き出す ・フセンは 75×75mm、取ったら良かったと思う行動をブルー ・書き出したフセンを全体図や短期タイムラインに貼り出す ○他のグループの「ふり返り」確認（5 分） ・参加者が一斉に他のグループの「ふり返り」を確認する ・事務局スタッフはテーブルに残り、話し合いの内容を説明する ○参加者が自分のテーブルに戻ったところで、委託業者が第 2 部の終了を宣言する	委託業者が司会進行 各グループの担当スタッフは以下のとおり 【1 グループ】 4 名 【2 グループ】 3 名 【3 グループ】 3 名 【4 グループ】 3 名 【5 グループ】 3名 ※参加者の人数に合わせてグループ数を調整
14	20:20～20:30	**休憩** ○10 分間程度の休憩を取る ○休憩時間は、全体の進行状況を見て調整する ○休憩中、事務局スタッフは各グループでの話し合いの結果を整理し、掲示用の全体図に記入する ○記入した全体図と長期タイムラインを壁やホワイトボードに貼り出す	岐阜県を中心に対応
15	20:30～21:20	**第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」** ○委託業者より、講師を紹介する ○講師にマイクを手渡す ○講師の講義中にある避難に必要な所要時間の記入の際、事務局スタッフは参加者の記入をフォローする ○記入が終わった用紙を回収し、コピーして返却する（？） ○講師の講義が終わったら、マイクを委託業者に戻す	委託業者が司会進行

16	21:30～22:00	**後片付け** ○参加者からアンケートを回収する ○忘れ物がないよう、参加者に呼びかけながら、退室を促す ○テーブルと椅子を元の位置に戻す ○ノート PC とプロジェクターを閉じて、演台やスクリーンを元の位置に戻す ○フセンが貼り出された全体図、短期タイムラインは、写真を撮ってからしまう ○長期タイムライン、地区割り図、会場案内図など、跡が残らないように丁寧に剥がす	委託業者が全体指揮 全ｽﾀｯﾌで対応
17	22:00	**会場退出** ○会場から一切の荷物を運び出す ○忘れ物がないか確認する	－
18	22:00～22:15	**撤収** ○荷物を車に乗せて、撤収する	－

(3) ワークショップの進め方

8

(4) 会場レイアウト


スクリーン（天井吊下げ）
下呂市
岐阜県
岐阜県
PC
講師
プロジェクター
諏訪町
白山町
（報道機関）
関係者受付
住民受付
【3 グループ】
諏訪町 1,2,5 班
【1 グループ】
白山町 1,2 班
出入口
全体図、タイムライン（長期）を掲示
【4 グループ】
諏訪町 3,4 班
【2 グループ】
白山町 3,4,5 班
出入口
【－】
予備②
【5 グループ】
予備①
報道
スペース
傍聴スペース
※椅子のみ

(5) 準備物

項目	準備物等	備考	数量	確認
配布資料（個人）	次第	A4 版片面	70 部	
	事業概要資料【資料 1】	A4 版両面	70 部	
	本日の勉強会について（パワーポイント資料 2in1 印刷）【資料 2】	A4 版	70 部	
	大雨時の避難に必要な"所要時間"を計算しよう【資料 3】	A4 版両面	70 部	
	第１回アンケート	A4 版両面	70 部	
	非常用呼子笛	–	70 個	
	カイロ	–	70 個	
	角 2 封筒	角 2	70 部	
配布資料（テーブル）	全体図	A0 版	5 枚	
	短期タイムライン	A1 版	5 枚	
会場掲示資料	全体図	A0 版	1 部	
	長期タイムライン	A0 版横長	1 部	
その他（テーブル）	記入用ボールペン（ジェットストリーム 0.7mm）	–	70 本	
	浸水状況記入用油性ペン（マッキー細･極細）	–	12 本	
	地区詳細図記入用マーカーペン（プロッキー10 色）	–	6 ｾｯﾄ	
	75mm×75mm ふせん（ピンク、イエロー、ブルー）	–	6 ｾｯﾄ	
	75mm×25mm ふせん（ブルー、グリーン）	–	6 ｾｯﾄ	
その他（会場）	名簿（参加者用、関係者用）	A3 版	２部	
	名簿記入用ボールペン（ジェットストリーム 0.7mm）	–	2 本	
	会場案内図（健康館入口等での案内用）	A3 版	1 ｾｯﾄ	
	設営道具（テープ、ピン、ごみ袋など）	–	–	
	全体図（報道対応用）	A3 版	適量	
	A4 用紙（メモ用）	A4 版	適量	
	A3 用紙（メモ用）	A3 版	適量	
その他（電子機器等）	ノート PC	–	1 台	
	プロジェクター	–	1 台	
	ケーブル	–	1 本	
	延長コード	–	1 台	
	差し棒	–	1 本	
	デジタルカメラ	–	1 台	
	ビデオカメラ（あれば）+三脚	–	1 ｾｯﾄ	
	レーザーポインタ（スクロール機能付き）		1 台	
	IC レコーダー	–	1 台	
その他	お茶	–	100 本	

【第２回勉強会】次第

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
次 第

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00
場所：金山町 健康館･保健センター １階 栄養指導室 他

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 下呂市金山第一区　区長
9:35～10:15	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○勉強会の概要説明（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課 地域支援係長 ○講義（35 分） ・第１回勉強会のふり返り ・一人ひとりが考えて決める避難手順 ・自分の地域に予想される危険について 清流の国ぎふ 防災･減災センター
10:15～10:25	**休憩**
10:25～11:55	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○まち歩きの手順説明（5 分） ○まち歩き（60 分） ○まち歩きを踏まえた意見交換（25 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:55～12:00	**閉会** ○あいさつ 下呂市　金山振興事務所 ○第３回勉強会の開催内容の説明（5 分）

＜配布資料＞

次第
資料１　下呂市金山第一区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　本日の勉強会について
資料３　第１回勉強会のふり返り
資料４　下呂市金山第一区 まち歩き用地図
参加者アンケート

【第２回勉強会】資料２

資料２

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第１回勉強会のふり返り

１　開催概要

開催日時：平成３１年１月１６日（水）　午後７時～午後９時 30 分
開催場所：下呂市金山町　健康館・保健センター１階　栄養指導室

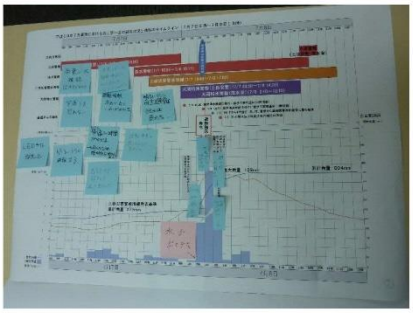
【第１部】 ガイダンス「本日の勉強会について」岐阜県 危機管理部 防災課

【第２部】ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等）」
○7 月豪雨災害のふり返り
○とったらよかったと思う避難行動
○ほかのグループの「ふり返り」確認

◆住民の方の声

・リバスポに開放されている確認に行った 7/8　0:00 頃
・水抜きから水があふれたのを確認。1:30～徒歩で避難。
・冠水した道、土砂が流出した道を通って避難した。
・AM4:00 頃、パトカーの呼びかけで金山病院へ避難
・避難できなかった。隣の人が寝ていたため、付き添っていた。

・雨雲レーダーを随時確認しておけばよかった。（スマホなどで）
・防災カバンを用意しておけばよかった（災害後、用意した。
・警報が出そうな時になったら、避難の準備をしておけばよかった）。
・明るいうちに自主避難できればよかった。
・避難用具を備えておけばよかった。
・空振りを恐れない



1

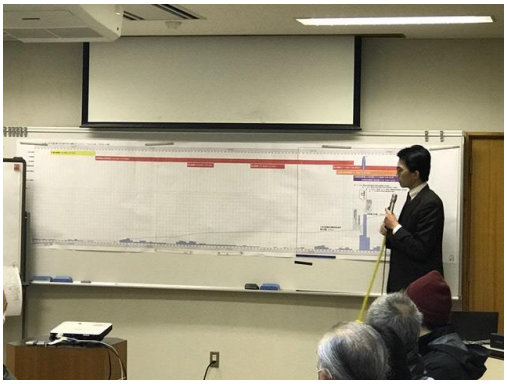
第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

○講義　清流の国ぎふ　防災・減災センター　　村岡　治道

→大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

→要支援者の支援手順と所要時間も計算しよう

・注意報、警報などの情報は、前日から出ていた
・「避難」ではなく「脱出」になっていないか？
・いざという状況になる前に、早めに避難を完了しておく必要がある
・自分が避難にかかる時間を把握し、いつまでに避難を完了させるのが重要



2 参加者からの主な意見（参加者アンケートより）

・子どもたちが体験した災害なので、災害に至る時間的経過や状況がイメージしやすいので、学校の授業に活用してほしい。教材とすることも可能。家に帰って、子どもたちと話し合いを持ちたい。

・今後多くこうした時間を作ってください。

・第一区でこのような災害があったことで、家庭でも防災の話をすることができた。意識が高まり、今後も引き続き話をしていきたい。

・日頃班で話し合うことが必要

・緊急時に、どのように連絡を取り合えばよいのか？

・初めての出来事であった。どうしていいかわからなかったことは事実である。早く避難するサインが出ていたかもしれないが、それを理解することはできなかった。区民はみな、そうでなかっただろうか。教訓にしたい。

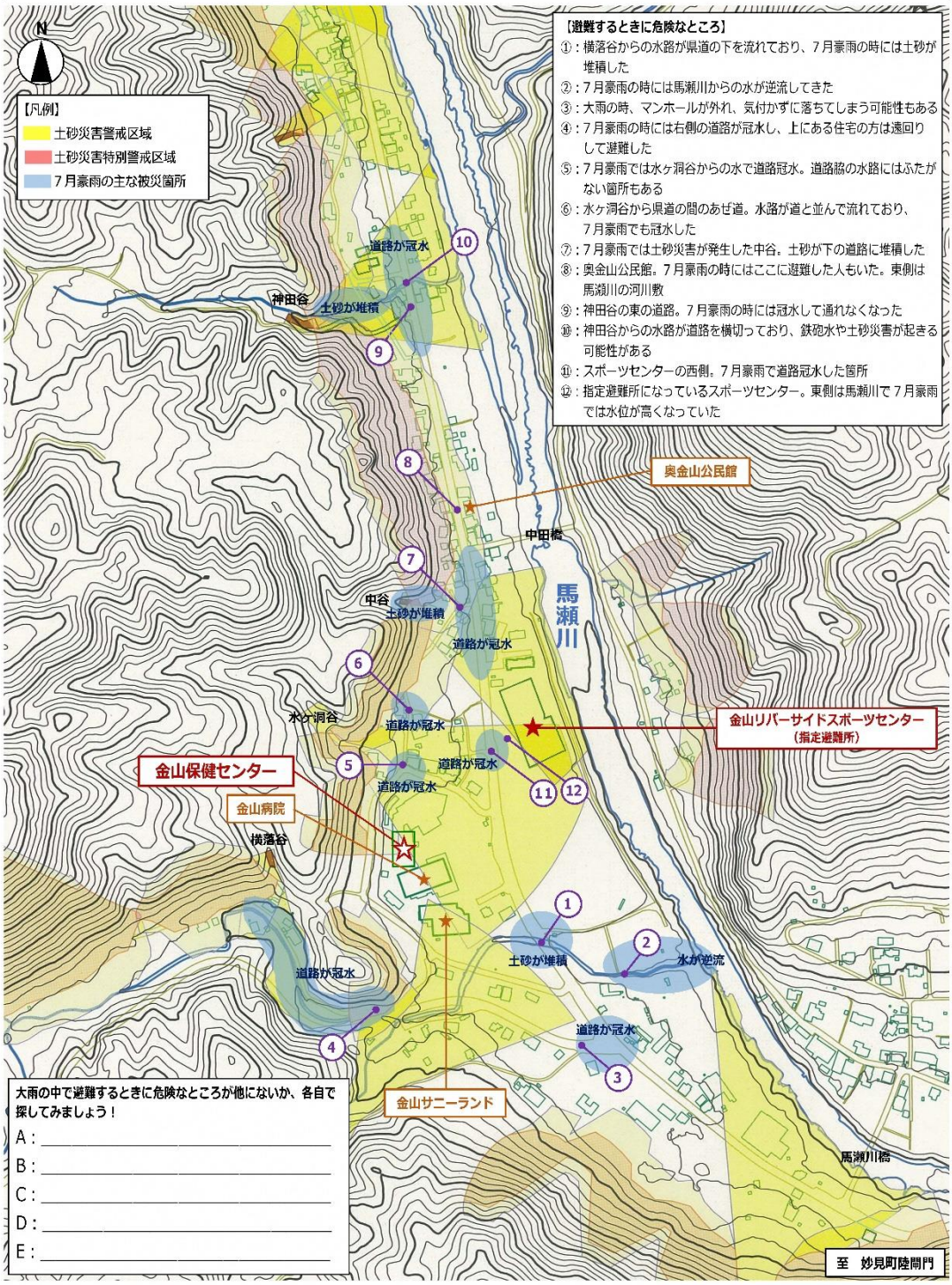
・勉強になりました。今回参加されていない住民の方々も広く参加されることを願います。

・避難時には何を持って行けばよいか？

【第２回勉強会】資料３

資料３

下呂市金山第一区 まち歩き用地図
～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～



【第２回勉強会】参加者アンケート

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

（１）記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第２回勉強会の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

②配布資料はどうでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

③説明の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

④【第１部】講義「次の大雨への備え～危険と課題～」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑤【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑥第２回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。　は　い←　どちらとも言えない　→ いいえ

⑧本日の内容を踏まえて、金山第一区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。　そう思う　←　どちらとも言えない　→ そう思わない

（２）最後に、今後情報提供して欲しいこと、第２回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　**男性・女性**
年代　**20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上**
地区　**白山町 １，２，３，４，５，６ 班・諏訪町１，２，３，４，５ 班**
お名前　**（　　）**　※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第２回勉強会】まち歩きを踏まえた気付き（意見交換の結果）

・連絡網の有効活用を考えていきたい。
・今回の勉強会をいかして、もっと自主的に避難しようと思った。
・早めの避難と日ごろの準備が大事だと思った。
・地域を歩くことは危険箇所の把握ができて良い事でした。
・川に目印となる岩があり、その岩が水につかると危ないことが分かった。
・倒木対策が大事であると分かった。
・谷川の土砂が流れこんでいる所が、まだまだいっぱいある。写真を撮ることで、皆にわかってもらえるようにしたいと思った。
・他地区の避難情報を紹介し、避難を呼びかける。
・詳しい気象情報を把握すること。
・現場を実際に見ることは大切であった。
・川の水が増水した形跡が残っているうちに、現場を再点検すること。
・自分たちの地区では、最近では、大雨または台風が近づく前に避難するようにしている。
・自分一人では気づかないようなことを、皆で見ることによって、違う見方での危険箇所を発見することができた。
・地域のつながりで、防災意識を高めていくことが大切。
・冠水する場所を事前にチェックしておく。
・話にあったように速くではなく早めに避難することが大事だとわかった。金山第一区という大きな組織での話し合いもよいが、もう少し小さい単位（例えば班ごととか）で話し合うこともいいと思う。
・地域をグループで歩いて現状がよく見えた。

【第２回勉強会】参加者の感想

下呂市金山地区　第2回WSアンケート集計　　回答件数:34

(1)下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第2回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	2
ちょうどよい	30
長い	2

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	25
どちらとも言えない	8
わかりにくい	1

③説明の時間はどうでしたか。

短い	1
ちょうどよい	33
長い	1

④【第1部】講義「次の大雨への備え~危険と課題~」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	30
どちらとも言えない	5
わかりにくい	0

⑤【第2部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	26
どちらとも言えない	7
わかりにくい	2

⑥第2回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	28
どちらとも言えない	6
高まらなった	0

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。

はい	32
どちらとも言えない	3
いいえ	0

⑧本日の内容を踏まえて、金山第一区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う	34
どちらとも言えない	1
そう思わない	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第2回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

・避難所が行っても入れるかどうか？　・LEDライトはヘッドライトがよいか？　連絡網の有効活用を考えていきたい。
今回の勉強会をいかして、もっと自主的に避難しようと思いました。
・防災グッズについても検討してもらうとありがたいです。　・早めの避難が重要なことがわかりました。また、日頃の準備が大事だと思いました。
岩屋ダムの水量管理を考えてほしい（夏場）。和良川の雨量を知りたい。夜間の川の増水状態を確認したい（中田橋の水量レベル線があるとベスト）。
早めの情報が知りたい。
地域を歩くことは危険箇所の把握ができて良い事でした。
・とにかく早く避難する！！　・家の裏の川に大きな石が流れて川をふさいでいるので大雨の時に心配です。

実際に被害にあった所を昼間に見て歩くことで、危険なことがよくわかりました。避難する時の持ち物は何があればいいのか？　常日頃から気をつけたいと思う。
谷川の土砂が流れこんでいる所が、まだまだいっぱいあるので、写真を撮ることで、一番、皆にわかってもらえることだと思います。
今できることを早めに取組めたらと思いました。
・他地区の避難情報を紹介し、避難を呼びかける。　・詳しい気象情報。　・現場を実際に見ることは大切であった。　・川の水が増水した形跡が残っているうちに、現場を再点検する。
避難するのはいつか、もっと早く、伝えてほしいです。
最近では、大雨または台風が近づく前に、田渕では避難するようにしている。
・自分一人では気づかないようなことを、皆で見ることによって、違う見方での危険箇所を発見することができた。　・地域のつながりで、防災意識を高めることができた。
今回のように、普段から自分たちの住んでいる所を歩き、把握しておくことも大切（危険だと思うところ）。お話にあったように速くではなく早めに避難することが大事だとわかった。金山第一区という大きな組織での話し合いもよいが、もう少し小さい単位（例えば班ごととか）で話し合うこともいいと思う。
まち歩きの時間に限界があると思いますが、もっと多く時間を取ってほしい。開催の日数を増やしては？（勉強会）
大きな看板を立ててください。
地域をグループで歩いて現状がよく見えた。
指定避難所の位置、イエローゾーンである。どう設定するか？　健康館、病院、サニーランド、リバーサイドスポーツセンター、一緒の問題かと。
・次回は、地区はもちろん、行政（下呂市）も一緒になって、考えてほしい。　・行政（下呂市）より、もう少し多くの職員に参加してもらってはどうか。
岩屋ダムの水量管理を考えてほしい（夏場）。和良川の雨量を知りたい。夜間の川の増水状態を確認したい（中田橋の水量レベル線があるとベスト）。その時（7月7～8日）の話が聞きたい（所長様）。私たちの話も聞いてほしい。

性別

男性	27
女性	2

年代

20代	0
30代	2
40代	3
50代	6
60代	17
70代	3
80代	3
90代以上	0

地区

白山町1班	3
白山町2班	4
白山町3班	3
白山町4班	2
白山町5班	0
白山町6班	0
諏訪町1班	5
諏訪町2班	4
諏訪町3班	7
諏訪町4班	3
諏訪町5班	0

【第２回勉強会】事務局資料

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
★事務局資料★

1 勉強会について

(1) 開催目的

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

下呂市金山第一区においても、土砂災害等が多く発生したことから、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

(2) 開催概要

計 3 回の勉強会を開催し、下呂市金山第一区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明。地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

済

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00（予定）

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室（調整中）

内容：第 1 回及び第 2 回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

1

(3) 作成する「災害・避難カード」のイメージ

災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードである。

住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していく。

作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段日にとまる場所に置いておく。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用する。

下呂市金山第一区の「災害・避難カード」の構成は、金山第一区長と下呂市危機管理課と協議しながら、第3回勉強会までに検討･確定する。

＜「災害・避難カード」のイメージ＞

災害・避難カード（●●地区）　～少しでも危険を感じたら迷わず避難！～

わたしの避難行動

災害	避難先	避難の合図
土砂災害	●●小学校 （そこまで逃げられない時は△△）	土砂災害の避難勧告

※避難先までの移動が危険と判断されるような状況の時は、自宅の上層階で山からできるだけ離れた部屋等へ移動

避難の心得

その1	**状況により、すばやく避難する** 自治体などからの情報を収集するとともに、避難準備情報や避難勧告などが発表されたら、早目に避難する
その2	**安全なうちに避難する** 雨が弱い、外が明るい、避難経路が利用可能等といった、避難先へと安全に移動するために必要な条件が整っているうちに避難する
その3	**防災メモを持つ** 事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難する
その4	**家族とメッセージのやり取りを行う** 外出中の家族とは、携帯電話や「災害用伝言ダイヤル171」を活用して、「どこへ避難する」といったメッセージのやり取りを行う
その5	**助け合いながら避難** 近所のお年寄りなどへ声をかけながら、一緒に避難する

避難経路

「災害用伝言ダイヤル171」の使い方

電話で家族と連絡が取れないとき、「災害用伝言ダイヤル 171」で自分から家族へのメッセージを録音でき、また、家族からのメッセージを聞くことができます。

［使い方］　※音声ガイダンスにしたがって録音、再生できます。

メッセージを録音する場合　「171」の後に「1」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

メッセージを聞く場合　「171」の後に「2」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

2 第２回勉強会について

(1) 開催プログラム

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 下呂市金山第一区　区長
9:35～10:15	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○勉強会の概要説明（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課 地域支援係長 ○講義（35 分） ・第１回勉強会のふり返り ・一人ひとりが考えて決める避難手順 ・自分の地域に予想される危険について 清流の国ぎふ 防災･減災センター
10:15～10:25	**休憩**
10:25～11:55	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○まち歩きの手順説明（5 分） ○まち歩き（60 分） ○まち歩きを踏まえた意見交換（25 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:55～12:00	**閉会** ○あいさつ 下呂市金山振興事務所　金山地域振興課長 ○第３回勉強会の開催内容の説明（5 分）

<配布資料>

次第
資料１　下呂市金山第一区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回勉強会のふり返り
資料３　下呂市金山第一区 まち歩き用地図
参加者アンケート

(2) 当日の動き

	時間	内容	役割分担
1	8:00	**集合** ○事務局スタッフは、8 時までに現地に集合する	各自
2	8:00～8:30	**会場設営①** ○テーブルを 4 グループ分配置する ○参加者が想定より多かった時のために、2 グループ分余分に配置する ○1 グループあたり、テーブルは 2 本並べて配置する ○椅子を、1 グループあたり 8 脚配置する ○各テーブルに、地図とフセン、マジック等を配置する ※基本は第 1 回勉強会と同じ	委託業者を中心に対応
		会場設営② ○事務局用にテーブルを 1 本（講師等着席用）配置する ○演台としてテーブルを 1 本配置する ○事務局用に椅子を配置する ○傍聴者（関係者）用に椅子を 15 脚程度配置する ※基本は第 1 回勉強会と同じ	
		会場設営③ ○スクリーンとプロジェクター台を配置する ○委託業者 PC とプロジェクターを設置し、接続･投影を確認する ○マイクを確認する ※基本は第 1 回勉強会と同じ	
		会場設営④ ○入口付近（室外）に受付用にテーブルを 2 本配置する ※基本は第 1 回勉強会と同じ	
3	8:30～9:00	**事務局ミーティング** ○事務局資料を用いて、第 2 回勉強会のタイムスケジュールの確認、まち歩きにおけるグループ編成、役割分担について説明する	岐阜県から一言挨拶 委託業者から説明
4	9:00～9:30	**受付** ○参加者の受付をする ・名簿に名前を記入してもらい、班に○印をつけてもらう ・参加者配布資料一式を手渡し、テーブル割り図を使って案内する ・会場内に案内係を配置し、入ってきた参加者を各テーブルへ案内する ○関係者の受付をする ・名簿に所属と名前を記入してもらう ・岐阜県につなげる ○開会後 10 分程度は受付対応し、その後、受付用紙を持って会場に入る	委託業者を中心に対応

5	9:30～9:35	**開会** ○全体の司会進行は委託業者が行う ○開会にあたり、岐阜県からあいさつをいただく ○続いて、金山第一区長からあいさつをいただく ※講義＆まち歩きの時間を踏まえ、あいさつは手短にお願いする ○配布資料の確認を行う ・不足があれば、事務局スタッフが補充する ・アンケートの記入を依頼する	委託業者が司会進行 あいさつは、 ①岐阜県 ②区長 の順番
6	9:35～10:15	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○創建より第１部に入ることをアナウンスする ○はじめに、岐阜県から勉強会の概要説明をいただくことをアナウンスする ○岐阜県にマイクを手渡す ○岐阜県より勉強会の概要を説明していただく ○マイクを委託業者に返す ○委託業者より講師を紹介し、「次の大雨への備え ～危険と課題～」と題して講義いただくことをアナウンスする ○プロジェクターを、業者 PC から講師 PC につなぎ変える ○講師にマイクを手渡す ○講師より、第１回勉強会のふり返り、第２部のまち歩きの趣旨説明等をしていただく ○マイクを委託業者に返す	委託業者が司会進行 岐阜県が概要説明 講師が講義
7	10:15～10:25	**休憩** ○委託業者より第１部の終了をアナウンスする ○休憩の後、再び栄養指導室に集まっていただくように依頼する	委託業者が司会進行
8	10:25～11:30	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○委託業者より第２部に入ることをアナウンスする ○委託業者よりまち歩きの手順説明を行う ・４グループに分かれてまち歩きを行うこと ・各グループに事務局スタッフが数名付き、説明、説明補助、記録、安全確認等を行うこと ・道路を歩くため、事務局スタッフの誘導に従って欲しいこと ・体調不良等があればすぐに事務局スタッフまで伝えて欲しいこと ○説明後、健康館入口付近（駐車場）へグループ毎に集合する ・事務局スタッフは「●グループはこちらです」と参加者を集める ・紙に「●グループ」と書いたものを掲げて集まりやすいようにする ○カイロをグループの方に配布する ・ごみ袋を用意する ○各グループ参加者が集まった後、それぞれのルートでまち歩きを行う ・説明担当者は、ルート上のポイントで、参加者の気付きを促すように説明を行う	委託業者が司会進行 まち歩きにおける役割分担は(3)まち歩きのグループ編成を参照

9	11:30～11:55	○全グループがまち歩きを終了し、テーブルについたのを確認したら、委託業者よりまち歩きを踏まえた意見交換を行うことをアナウンスする ○スタッフは同行したグループの進行補助を行う ○まち歩きの中で気付いたこと､感じたことをフセンに書き出してもらい、図面に貼りだしてもらう ・フセンは 75×75mm、色は自由 ○図面に貼り出しながら、意見交換を行う ○落ち着いたところで、委託業者よりグループ毎に地図を壁に貼り出してもらうようにアナウンスする ・事務局スタッフが壁に貼り出す ・貼り出す場所は前方で、スクリーンを上げておく ○講師からの講評をいただく ・先生の講評は、ポイントごとに行う？ ・講師の質問等に対して、適宜事務局スタッフが意見交換の内容を補足説明する ・参加者は講師の周りに集まり、講評を聞いてもらう	委託業者が司会進行 講師より講評
10	11:55～12:00	**閉会** ○アンケートの記入と提出を依頼する ・事務局スタッフはアンケートを回収する ○下呂市あいさつ ○アンケート回収後、岐阜県より次回の開催内容と日時、場所について説明していただく ○委託業者より勉強会の終了をアナウンスする ○勉強会を終了する	委託業者が司会進行 下呂市あいさつ 岐阜県にて次回の説明
11	12:00～12:30	**後片付け** ○忘れ物がないよう、参加者に呼びかけながら、退室を促す ○会場（会議室、多目的ホール）の片づけを行う	各自
12	12:30	**撤収** ○会場から一切の荷物を運び出し、撤収する	各自

(3) まち歩きのグループ編成

	所属	役職	氏名	役割

講師　　1名
岐阜県　13名　（報道対応1名、全体指揮1名、スタッフ11名）
下呂市　　2名
委託業者　5名

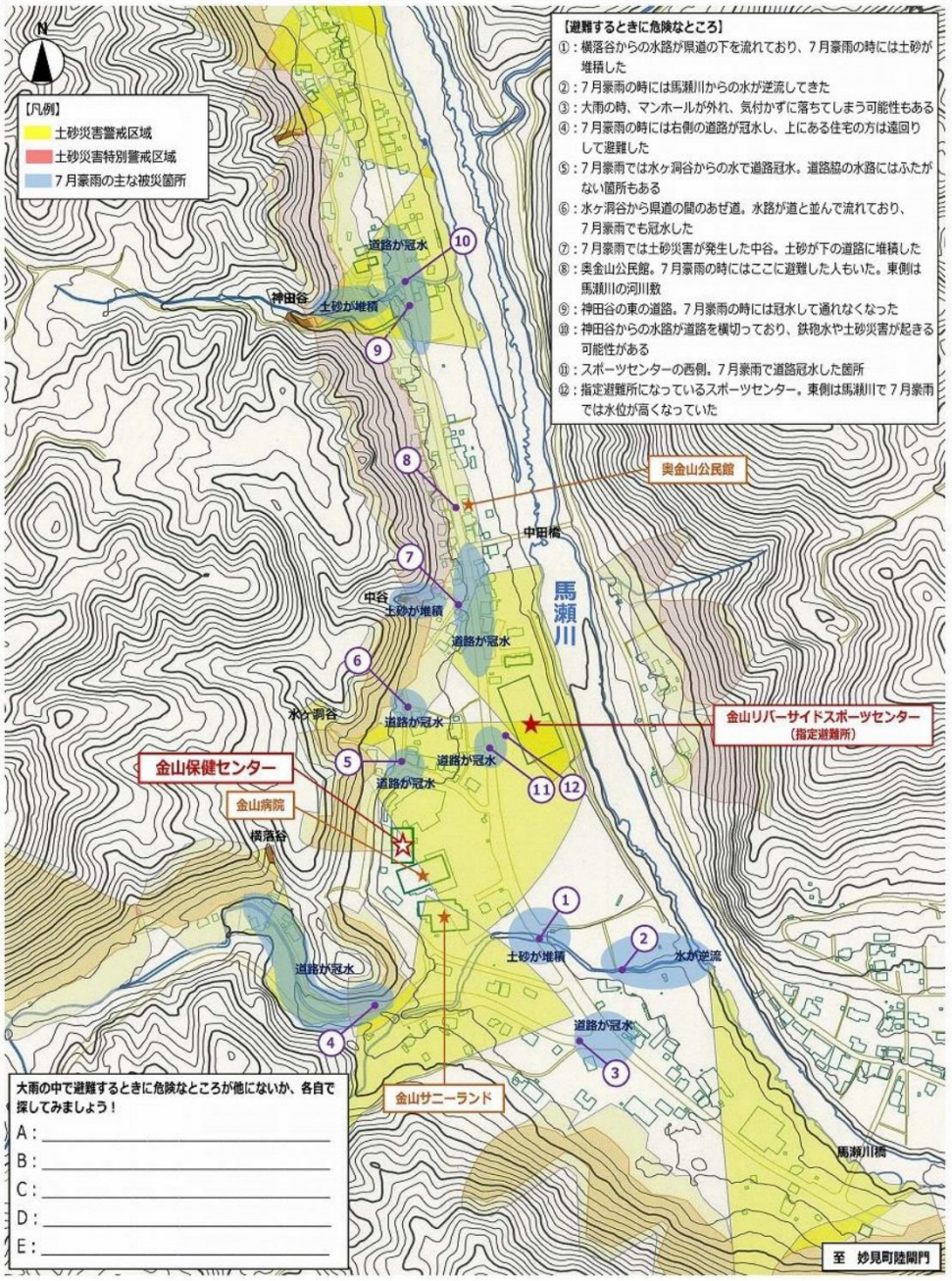
合計　　21名

グループ	説明	補助	記録	安全確認
本部	委託業者	委託業者	－	－
1G	岐阜県	岐阜県	委託業者	岐阜県
2G	岐阜県	下呂市	岐阜県	委託業者
3G	委託業者	下呂市	岐阜県	岐阜県
4G	岐阜県	岐阜県	岐阜県	岐阜県

(4) まち歩きのルート及びポイント

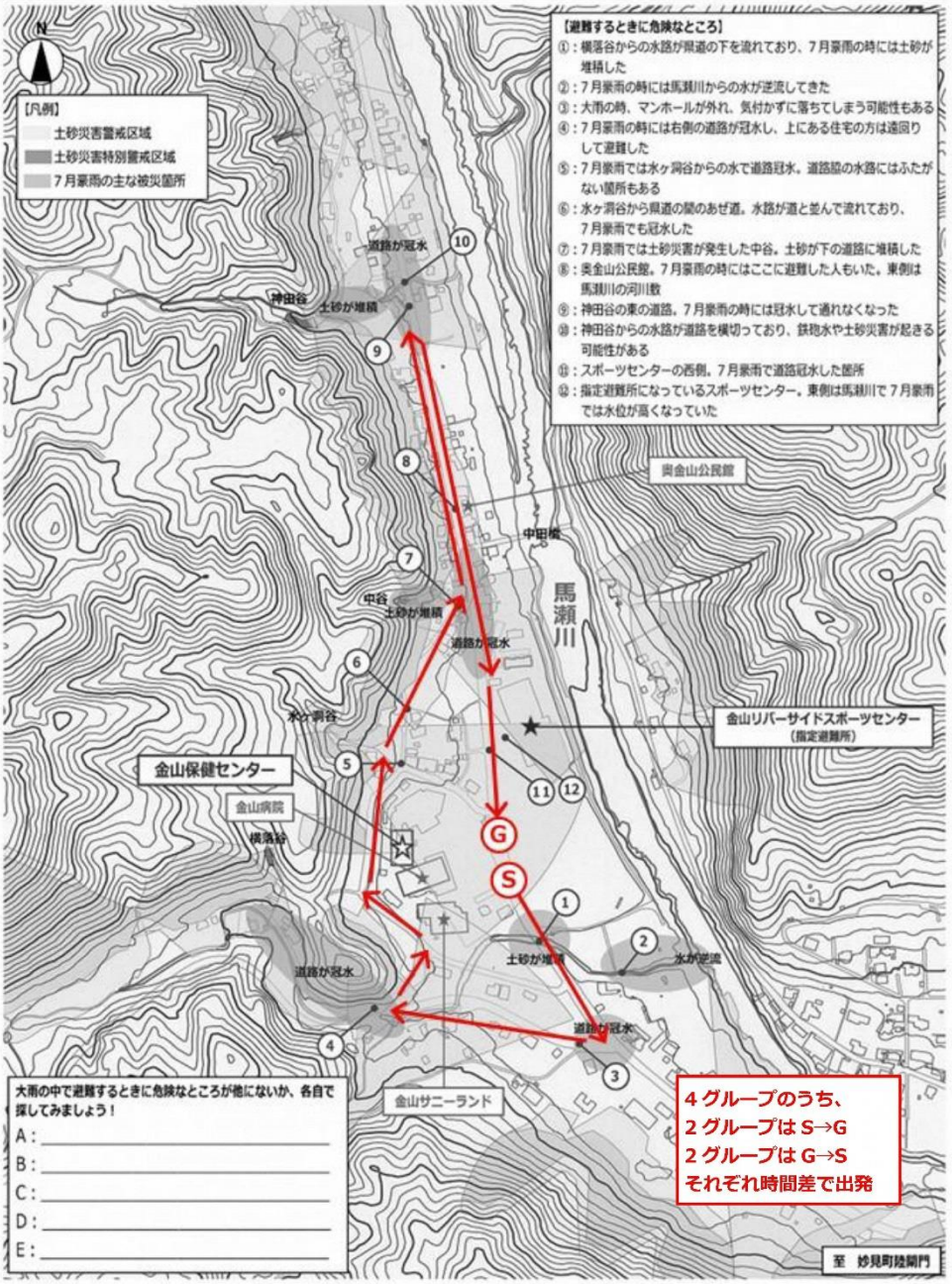
下呂市金山第一区 まち歩き用地図

～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～



8

下呂市金山第一区 まち歩き用地図
～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～



9

【まち歩きでの説明のポイント】

ポイント１：早めの避難の必要性の認識

・身の回りに予測される危険を現地確認し、それが形として現れる前に逃げることの必要性を認識してもらう

・「こうなってからでは逃げるのが遅い」という事を理解してもらう

ポイント２：安全に避難するための手順と時間の把握

・安全に避難するために把握すべき避難行動の阻害要因を現地で確認する

・実際に避難行動にかかる時間を体感してもらう

・避難所へ避難する時にどこに気を付ければいいのか、気を付けながら進むと時間がかかるということを理解してもらう

【各ポイントでの説明のポイント】

①：横落谷からの水路が県道の下を流れているが、７月豪雨の時には、土砂が堆積した

＜説明の趣旨＞

・横落谷からの水が県道を横切って馬瀬川に流れ込む箇所

・７月豪雨の時には、土砂が流れ込み道路に堆積した

②：７月豪雨の時には、馬瀬川からの水が逆流してきた

＜説明の趣旨＞

・１の馬瀬川方向。７月豪雨の時には、馬瀬川の水位が上がり、水が逆流してきたとのこと

③：マンホールは、大雨の時には外れてしまい、気づかずに落ちてしまう可能性がある

＜説明の趣旨＞

・南側から金山病院への裏手への避難ルートとなった道

・道路にマンホールがあり、浸水時に外れてしまう可能性がある

・夜間の避難や浸水時の避難では、マンホールの穴に気づかずに落ちる可能性もある

④：７月豪雨の時は、右側の道路が冠水し、上にある住宅の方は遠回りして避難した

＜説明の趣旨＞

・７月豪雨の時は、右側の道路側が横落谷からの水で冠水した

・２枚目の写真は、右側の道の上にある住宅。下に逃げられず、上側に避難した

・広域農道（３枚目写真）に出て、降りてくると、左の写真の左側の道路に出てくる

⑤：７月豪雨では水ヶ洞谷からの水で道路冠水した。道路脇に沿った水路にふたがない箇所もある

＜説明の趣旨＞

・水ヶ洞谷からの水が、道路脇の水路に流れ込む地形になっている

・水路にふたがない箇所もあり、夜間の避難時などには水路に落ちる危険がある

・ハザードマップの避難ルートになっているが、冠水していると避難時に危険になる

⑥：水ヶ洞谷から県道の間のあぜ道。水路が道と並んで流れており、７月豪雨でも冠水した

＜説明の趣旨＞

・生活道路として使用されていそうなあぜ道だが、水ヶ洞谷からの水路が脇を流れている

・一部避難ルートとしてハザードマップで記載されているが、避難の際は危険性が高い

⑦：７月豪雨では土砂災害が発生した中谷。土砂が下の道路に堆積した

＜説明の趣旨＞

・道路を横切るように水路が流れているが、大雨時は山からの水や土砂が道路上に流れ込む

・交差部分に欄干やガードレールなどもないため、夜間などでは危険

⑧：奥金山公民館。７月豪雨の時は、ここに避難した人もいた。東側は馬瀬川の河川敷

＜説明の趣旨＞

・ハザードマップでは、一時避難所に指定されている。７月豪雨の時は、ここに避難した人もいる

・東側は馬瀬川が近く、このあたりは水には浸からなかったが、川上、川下では浸かった場所もある

⑨：神田谷の東の道路。７月豪雨の時には冠水して通れなくなった

＜説明の趣旨＞

・写真左側が神田谷。谷から流れた水がたまり、道路が冠水した

・ここから北側でも冠水が起き、道路が通れなくなっていた

⑩：神田谷からの水路が道路を横切っており、鉄砲水や、土砂災害が起きる可能性がある

＜説明の趣旨＞

・神田谷の東側の県道。谷からの水路が、道路を横切っている

・柵はあるが、大雨時には鉄砲水や土石流が来ると、避難時に流されてしまう危険がある

⑪：スポーツセンターの西側。７月豪雨で道路冠水した箇所

＜説明の趣旨＞

・山からの水が水路からあふれて道路冠水が起きた

・県道との境はガードレールがあるが、沿道側は境があいまいな箇所もある

⑫：指定避難所になっているスポーツセンター。東側は馬瀬川で７月豪雨では水位が高くなっていた

＜説明の趣旨＞

・ハザードマップで指定避難所になっているスポーツセンター

・南側はすぐ馬瀬川が流れているが、護岸は整備されている

その他：妙見町陸閘門。７月豪雨の時は、馬瀬側の水位により閉鎖された

＜説明の趣旨＞

・まち歩きの範囲外。馬瀬川橋より 500mほど東にある

(5) 準備物

項目	準備物等	備考	数量	確認
配布資料（個人）	次第	A4 版	60 部	
	【資料１】一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について	A4 版	60 部	
	【資料２】第１回勉強会のふり返り	A4 版	60 部	
	【資料３】下呂市金山第一区 まち歩き用地図	A3 版	60 部	
	アンケート用紙	A4 版	60 部	
	ゴルフペン	－	60 本	
	封筒	角型２号	60 枚	
	ハザードマップ	A3 版	60 部	
配布資料（テーブル）	下呂市金山第一区 まち歩き用地図	A0 版	６枚	
その他（テーブル）	フセン（75×75mm、色指定なし）	－	適量	
	記入用ボールペン	－	適量	
	記入用油性ペン	－	適量	
	記入用マーカーペン	－	適量	
その他（会場等）	名簿（参加者、関係者用）	A3 版	各１部	
	アンケート回収 BOX	－	２個	
	会場案内用紙（健康館入口掲示用）	－	２枚	
	設営道具（テープ、磁石）	－	－	
	メモ用紙	－	－	
	まち歩きグループ割り図	A3 版	４枚	
その他（電子機器等）	ノート PC	－	１台	
	プロジェクター	－	１台	
	ケーブル	－	－	
	延長コード	－	－	
	差し棒	－	－	
	デジタルカメラ（うち２台は岐阜県にて準備）	－	４台	
	IC レコーダー	－	１台	
	ビデオカメラ	－	１台	
	三脚	－	１台	
その他	カイロ	－	60 個	
	カイロ開封時用ごみ袋	－	１枚	
	お茶	－	60 本	

【第３回勉強会】次第

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
次 第

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 下呂市金山第一区　区長
9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○これまでの勉強会のふり返り（10 分） ○私の避難タイミングの検討（75 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:00～11:10	**休憩**
11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○災害・避難カードの活用について（40 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○あいさつ（10 分） 下呂市 金山振興事務所　金山地域振興課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監

<配布資料>

次第
資料１　下呂市金山第一区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り
資料３　下呂市金山第一区 災害・避難カード
資料４　非常持出品リスト
資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法
参加者アンケート

資料２

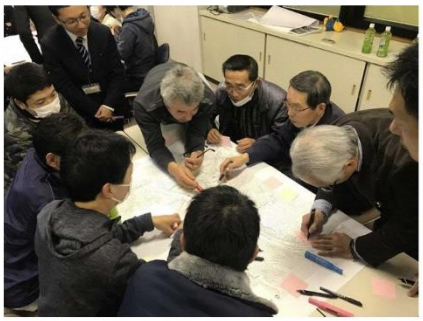
下呂市金山地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第１回勉強会のふり返り

１ 開催概要

第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」岐阜県 危機管理部 防災課

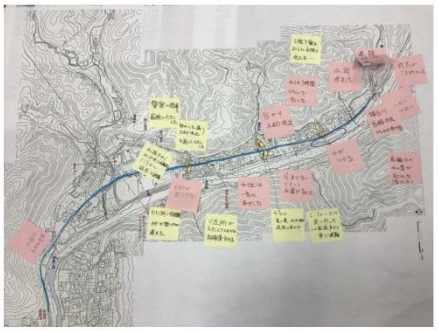
第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等）」

○７月豪雨災害のふり返り
○とったらよかったと思う避難行動
○ほかのグループの「ふり返り」確認



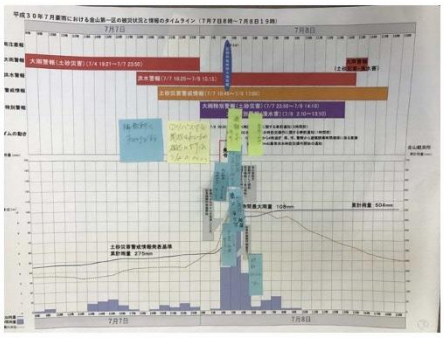
○当時の状況、避難行動 等

・橋を渡って逃げようとした時には、川の水位が橋下１ｍ位まで上昇していた。
・川岸にある竹藪の所まで水位が上がっていた。
・川の水位が短時間で一気にあがった。
・家の２階で寝るように子どもに伝えた。
・金山病院が避難所として開設された時、警察や消防団等が病院まで誘導していた。
・土砂が流出した道路や、冠水した道路を通って避難した。



○取ったら良かった行動 等

・隣数件に声掛けをして一緒に逃げればよかった。
・連絡網を整備していても、土壇場では使う余裕がないと実感した。
・地域の情報をどこから収集すればいいのか分からなかった。
・過信せず早めの行動をとることが大切かと思う。



1

第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

○講義　清流の国ぎふ　防災・減災センター

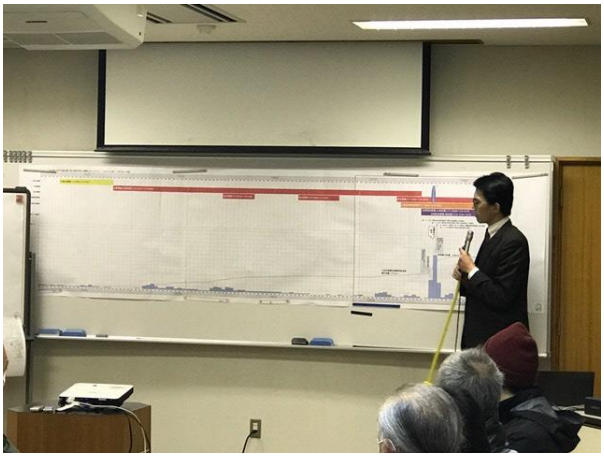
→大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

→要支援者の支援手順と所要時間も計算しよう

・注意報、警報などの情報は、前日から出ていた

・「避難」ではなく「脱出」になっていないか？

・いざという状況になる前に、早めに避難を完了しておく必要がある



2 参加者からの主な意見（参加者アンケートより）

・早く避難するサインが出ていたかもしれないが、それを理解することは出来なかった。

・この地域で確実に安全な場所があるのか。現実問題厳しいと感じる。

・一人暮らしのお年寄りなど高齢者世帯が多いので、特に情報を徹底してほしい。

・日頃、班で話し合うことが必要。

・このような災害があったことで、家庭でも防災の話をすることができた。意識が高まり今後も引き続き話をしていきたい。

・子供たちが体験した災害なので、災害に至る時間的経過や状況がイメージしやすいので、学校の授業に活用してほしい。教材とすることも可能。

・家に帰って子ども達と話し合いを持ちたい。

・今後、多くこのような時間を作ってほしい。

下呂市金山地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第２回勉強会のふり返り

1　開催概要

開催日時：平成３１年２月３日（日）　午前９時 30 分～午前 12 時

開催場所：金山町　健康館・保健センター　１階　栄養指導室

【第１部】　講義「次の大雨への備え　～危険と課題」

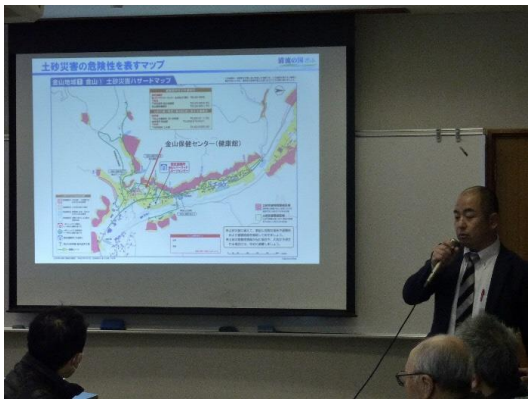
○勉強会の概要説明　　岐阜県 危機管理部 防災課

○講義　　清流の国ぎふ　防災・減災センター

・第１回勉強会のふり返り

・一人ひとりが考えて決める避難手順

・自分の地域に予想される危険について



◆講義の主な内容

・７月豪雨の時に、この地域では十分警戒はしていた、という話だが、他の家の心配をする一方で自分は大丈夫と思っていた。
・避難するタイミングをうかがってはダメ。
・命を守るためには早く避難すること。
・「冠水した道路を通って避難」は「脱出」。
・暴風によって避難できない危険もある。
・普段気にせず歩いている道も、雨や風の中では危険な道になることも。
・土砂災害では家にいても危険。
・マンホールのふたが開いているかもしれない。
・自分が率先して逃げることが、家族や近所の人、消防団など、多くの人を助けることになる。

【第２部】　まち歩き「地域に潜む意見を知る」

○まち歩きの手順説明

○まち歩き

○まち歩きを踏まえた意見交換

講評　清流の国ぎふ　防災・減災センター

2　参加者からの主な意見（まち歩きからの気づき、参加者アンケートより）

・危険な場所が多い。車で通るのと歩くのでは見え方が違う

・裏山の倒木が気になる。風が強くなる前の避難が必要。

・山からの水を流すための水路が小さいため、冠水してしまう。

・冠水するため避難が困難になる恐れ。

・歩道、水路のふたが噴き上がってはずれていた。

・側溝のふたがない。

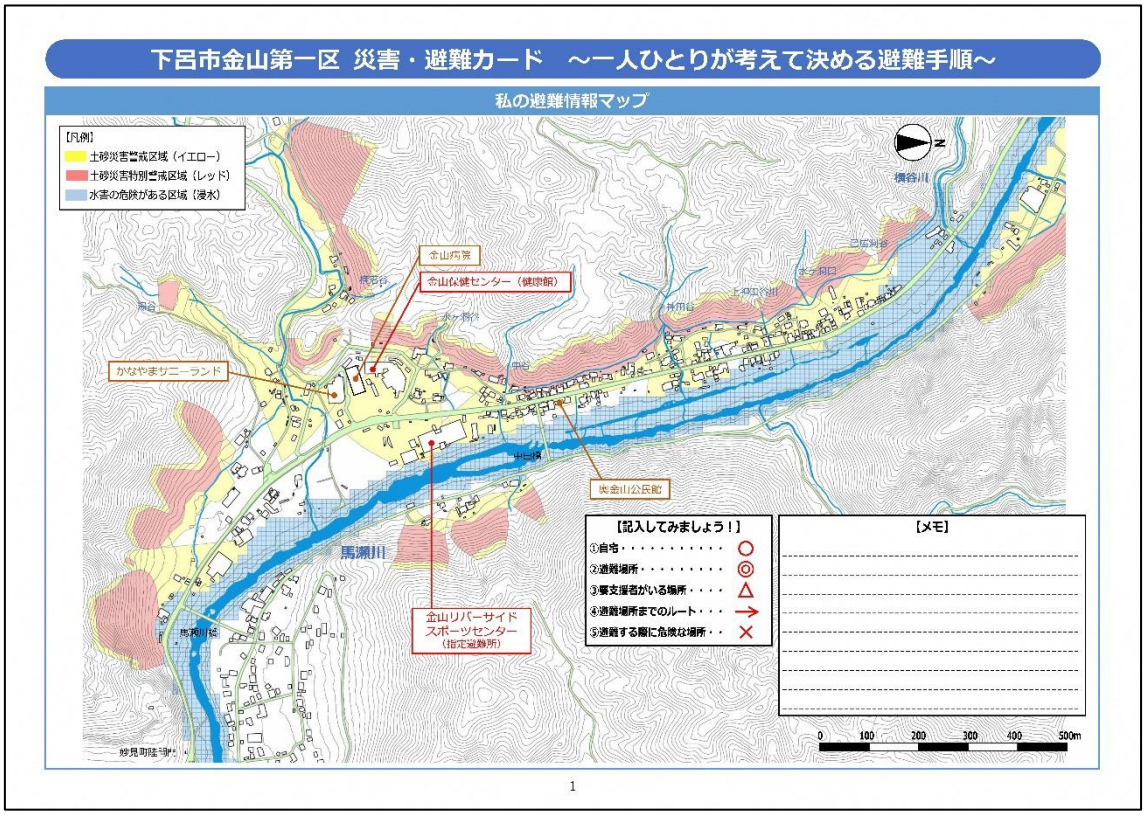
・地域を歩くことは危険箇所の把握ができて良い事でした。

・実際に被害にあった所を昼間に見て歩くことで、危険なことがよくわかりました。避難する時の持ち物は何があればいいのか？　常日頃から気をつけたいと思う。

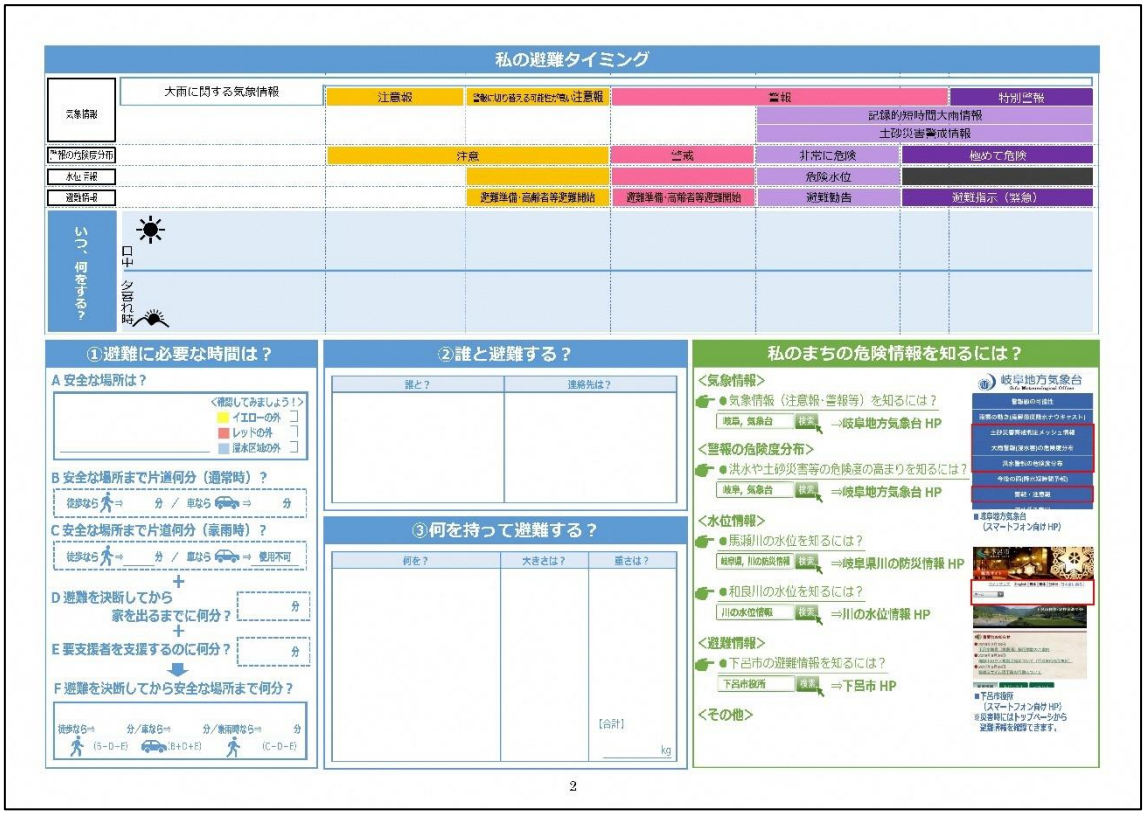
・自分一人では気づかないようなことを、皆で見ることによって、違う見方での危険箇所を発見することができた。

・今回のように、普段から自分たちの住んでいる所を歩き、把握しておくことも大切（危険だと思うところ）。お話にあったように速くではなく早めに避難することが大事だとわかった。金山第一区という大きな組織での話し合いもよいが、もう少し小さい単位（例えば班ごととか）で話し合うこともいいと思う。

【第３回勉強会】資料３



下呂市金山第一区 災害・避難カード ～一人ひとりが考えて決める避難手順～
私の避難情報マップ
【凡例】
土砂災害警戒区域（イエロー）
土砂災害特別警戒区域（レッド）
水害の危険がある区域（浸水）
金山病院
金山保健センター（健康館）
かなやまサニーランド
奥金山公民館
馬瀬川
金山リバーサイド
スポーツセンター
（指定避難所）
【記入してみましょう！】
①自宅・・・・・・・・・・・
②避難場所・・・・・・・・・
③要支援者がいる場所・・・・
④避難場所までのルート・・・
⑤避難する際に危険な場所・・
【メモ】
0 100 200 300 400 500m
1



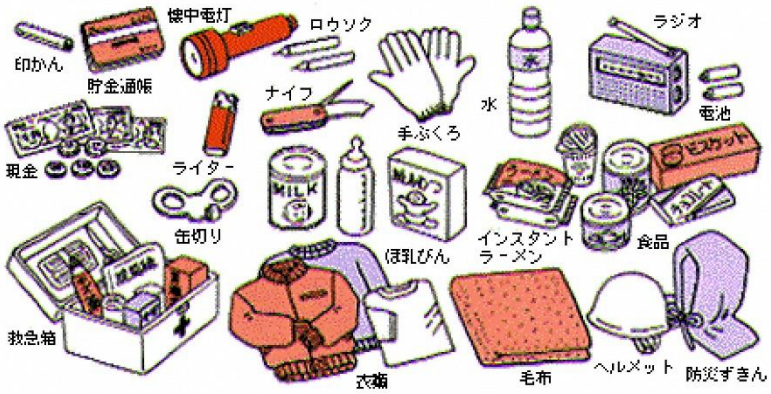
私の避難タイミング
気象情報
大雨に関する気象情報
注意報
警報
特別警報
記録的短時間大雨情報
土砂災害警戒情報
警報の危険度分布
注意
警戒
非常に危険
極めて危険
水位情報
危険水位
避難情報
避難準備・高齢者等避難開始
避難勧告
避難指示（緊急）
いつ、何をする？
日中
夕暮れ時
①避難に必要な時間は？
A 安全な場所は？
<確認してみましょう！>
イエローの外
レッドの外
浸水区域の外
B 安全な場所まで片道何分（通常時）？
徒歩なら⇒ 分 ／ 車なら⇒ 分
C 安全な場所まで片道何分（豪雨時）？
徒歩なら⇒ 分 ／ 車なら⇒ 使用不可
D 避難を決断してから家を出るまでに何分？ 分
E 要支援者を支援するのに何分？ 分
F 避難を決断してから安全な場所まで何分？
徒歩なら⇒ 分／車なら⇒ 分／豪雨時なら⇒ 分
(B-D-E) (B+D+E) (C-D-E)
②誰と避難する？
誰と？
連絡先は？
③何を持って避難する？
何を？
大きさは？
重さは？
【合計】
kg
私のまちの危険情報を知るには？
<気象情報>
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？
岐阜，気象台 検索 ⇒岐阜地方気象台 HP
<警報の危険度分布>
●洪水や土砂災害等の危険度の高まりを知るには？
岐阜，気象台 検索 ⇒岐阜地方気象台 HP
<水位情報>
●馬瀬川の水位を知るには？
岐阜県，川の防災情報 検索 ⇒岐阜県川の防災情報 HP
●和良川の水位を知るには？
川の水位情報 検索 ⇒川の水位情報 HP
<避難情報>
●下呂市の避難情報を知るには？
下呂市役所 検索 ⇒下呂市 HP
<その他>
岐阜地方気象台
■岐阜地方気象台（スマートフォン向け HP）
■下呂市役所（スマートフォン向け HP）
※災害時にはトップページから避難情報を確認できます。
2

【第３回勉強会】資料４

資料４

非常持出品リスト

※下呂市 HP「下呂市防災点検の日」より



消防庁 HP から

- 印かん
- 貯金通帳
- 現金
- 懐中電灯
- ロウソク
- ライター
- 缶切り
- 救急箱
- ナイフ
- 手ぶくろ
- ほ乳びん
- 衣類
- 食品
- 水
- インスタントラーメン
- 毛布
- ラジオ
- 電池
- ヘルメット
- 防災ずきん

【第３回勉強会】資料５

資料５

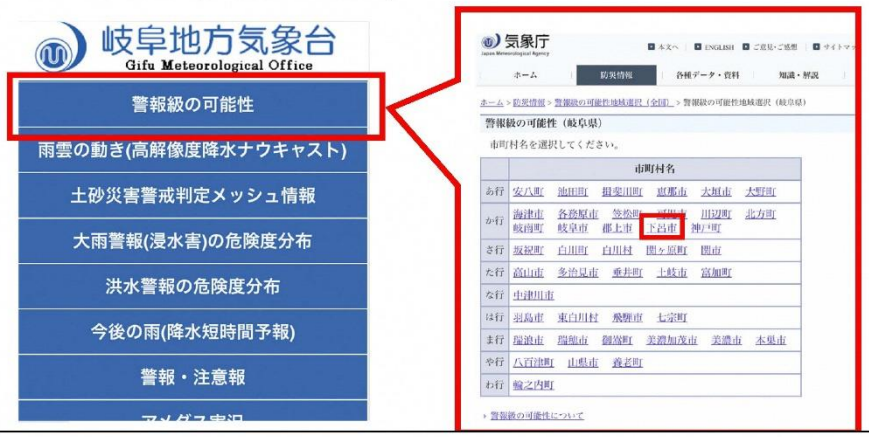
災害・避難カード
「私のまちの危険情報を知るには？」

情報の入手方法（下呂市）

1

＜気象情報＞
●気象情報（警報級の可能性）とは？

岐阜，気象台　検索

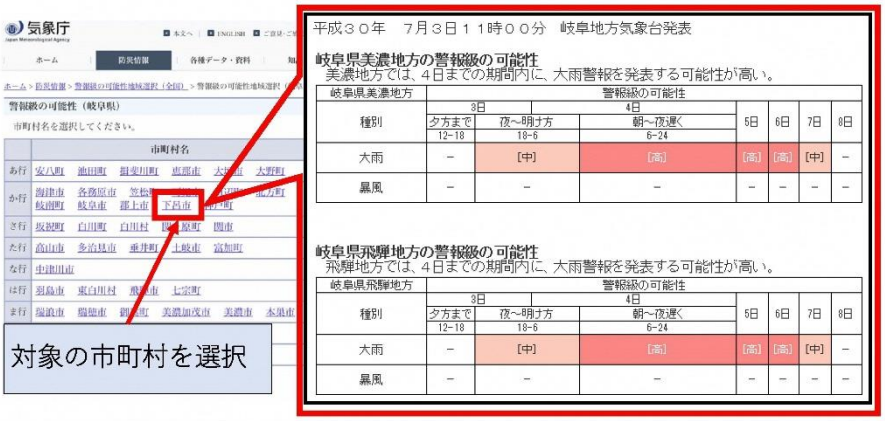


2

1

＜気象情報＞

●気象情報（警報級の可能性）とは？



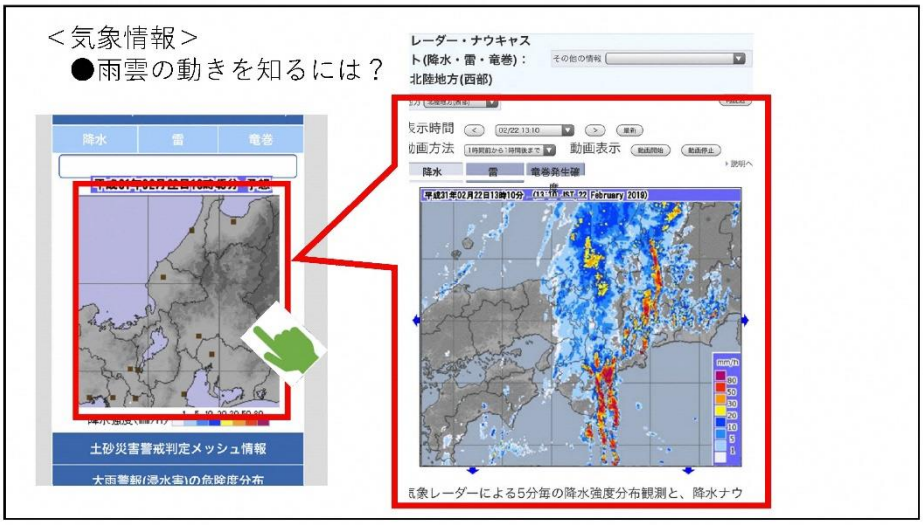
3

＜気象情報＞

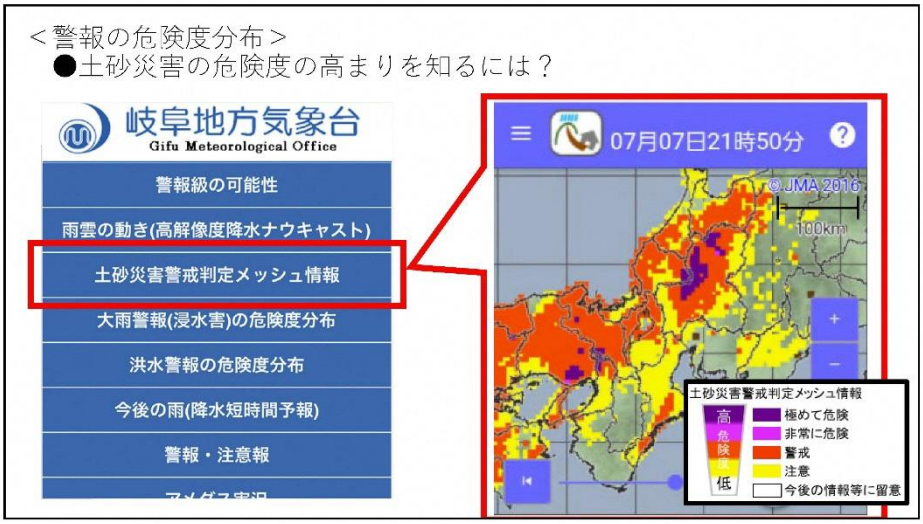
●雨雲の動きを知るには？

4

2


＜気象情報＞
●雨雲の動きを知るには？
レーダー・ナウキャス
ト(降水・雷・竜巻)：
北陸地方(西部)
その他の情報
表示時間
動画方法
動画表示
降水
雷
竜巻発生確
土砂災害警戒判定メッシュ情報
大雨警報(浸水害)の危険度分布
気象レーダーによる5分毎の降水強度分布観測と、降水ナウ

5


＜警報の危険度分布＞
●土砂災害の危険度の高まりを知るには？
岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office
警報級の可能性
雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
土砂災害警戒判定メッシュ情報
大雨警報(浸水害)の危険度分布
洪水警報の危険度分布
今後の雨(降水短時間予報)
警報・注意報
07月07日21時50分
© JMA 2016
100km
土砂災害警戒判定メッシュ情報
高
危険度
低
極めて危険
非常に危険
警戒
注意
今後の情報等に留意

6

3

＜警報の危険度分布＞
●大雨（浸水害）の危険度の高まりを知るには？

7

＜警報の危険度分布＞
●洪水の危険度の高まりを知るには？

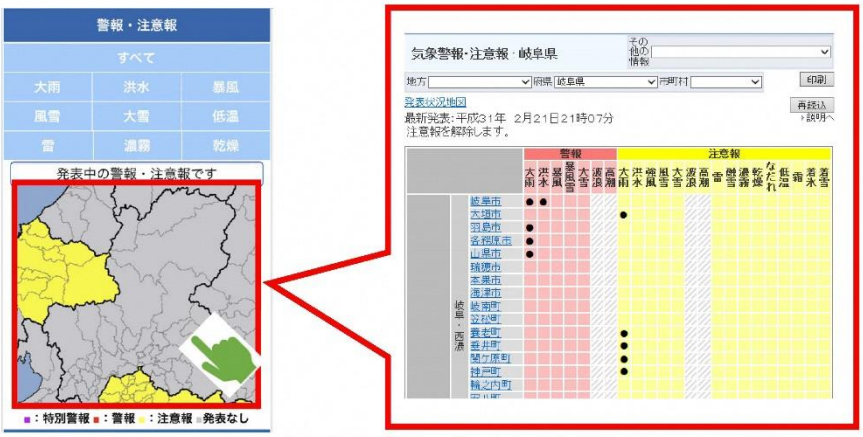
8

4

＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？

9

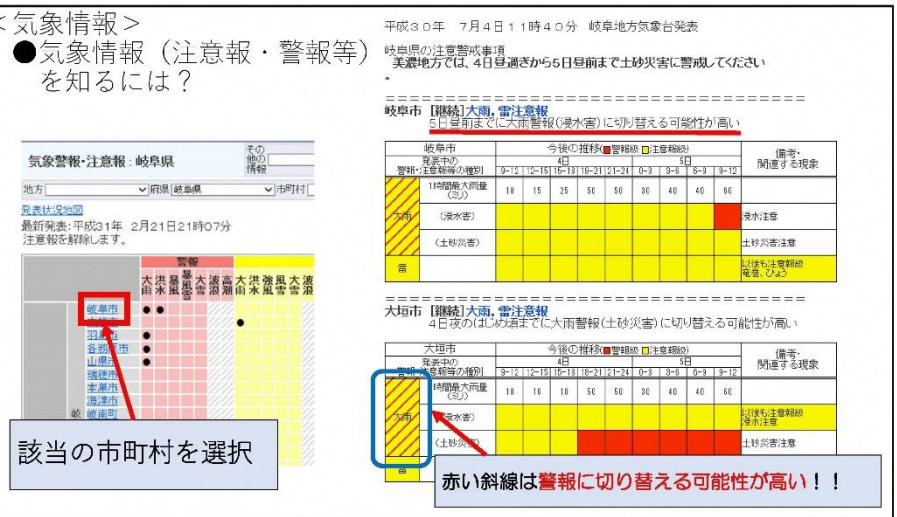
＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？



10

5

＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？



11

＜水位情報＞
●馬瀬川の水位を知るには？

12

6

＜水位情報＞
●馬瀬川の水位を知るには？

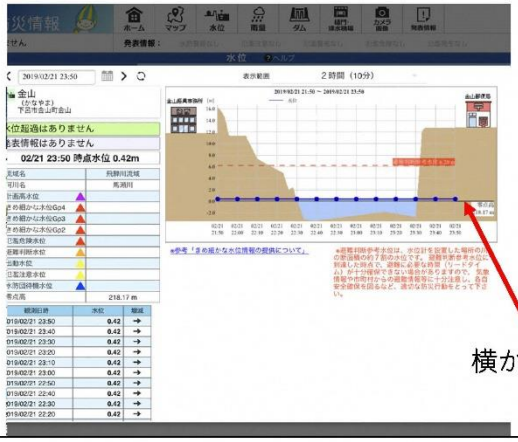
13

＜水位情報＞
●馬瀬川の水位を知るには？

14

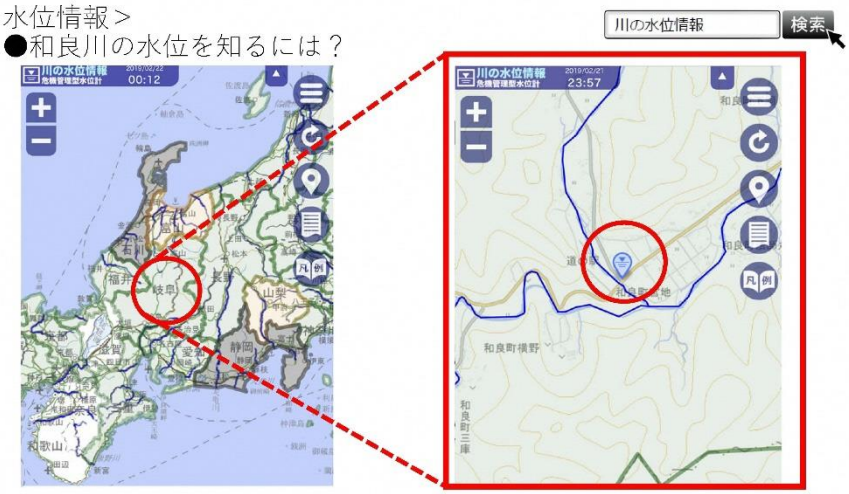
7

＜水位情報＞
●馬瀬川の水位を知るには？



15

＜水位情報＞
●和良川の水位を知るには？



16

8

＜水位情報＞
●和良川の水位を知るには？

横から見た水位

水位の推移

17

＜避難情報＞
●下呂市の避難情報を知るには？

災害時にはホームページが災害時用のものに切り替わり、ここに情報が表示されます。

18

9

テレビやラジオ等での表現

注意報や警報の伝え方・・・定型

「大雨に関する気象情報」として、
以後に予測されることを
付け加えて伝える。

19

危険を伝えることができるよう
慎重に言葉を選択し、１００文字程度で表現。

【注意！】
表現の内容は、
どの地域でも起こる可能性がある。
他人事ではない。

20

10

○過去の大きな災害になぞらえて表現。
例：○○豪雨に匹敵する。

○インパクトのある語句で表現。
例：命に危険を及ぼす土砂災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状態。

例：朝倉では15:38までの１時間に観測史上１位となる129.5mmの降水量を観測した。

○雨雲の現状と今後の予測。

○県内の記録的な雨の観測地や災害の状況。

21

【注意！】
表現の内容は、
どの地域でも起こる可能性がある。
他人事ではない。

22

11

平成３０年７月豪雨の際に
気象庁が記者会見（はじめて）

梅雨前線の停滞、南からの湿った風の流入、
過去の経験や予報資料からの予測、
週末にかかること　などから

○平成３０年７月５日
「西日本と東日本における８日頃にかけての大雨について」
○平成３０年７月６日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」
○平成３０年７月７日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

23

○平成３０年７月５日
「西日本と東日本における８日頃にかけての大雨について」

○　西日本と東日本では、記録的な大雨となるおそれがあります。

○　西日本から東日本にかけて、台風第７号の影響や、太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発になり、広い範囲で大雨が続いています。この状況は、**８日頃にかけて続く見込み**です。**非常に激しい雨が断続的に数日間降り続き、記録的な大雨となるおそれがあります。**

24

12

○平成３０年７月６日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

○　太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、西日本から東日本に停滞する梅雨前線の活発な活動が続いています。この影響により、西日本及び東日本では、猛烈な雨を伴って、広い範囲で記録的な大雨となっています。

○　引き続き、西日本と東日本では、**猛烈な雨が断続的に明後日８日まで降り続く見込み**です。**今後、重大な災害の発生するおそれが著しく高くなり、大雨特別警報を発表する可能性があります。**

25

○平成３０年７月７日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

○　西日本と東日本に停滞している梅雨前線の活動は、一昨日５日から活発な状況が続いています。この影響で、西日本から東日本にかけての広い範囲で記録的な大雨が続いており、広島県、岡山県、鳥取県、兵庫県、京都府に大雨特別警報を発表しています。

○　西日本と東日本では、梅雨前線が８日にかけて停滞し、活動が活発な状況が続きます。**現在雨が止んだり、弱まっているところでも再び雨が強まり、８日にかけて局地的に非常に激しい雨が降るおそれがあります。**

26

13

気象庁の報道発表資料

27

【第３回勉強会】参加者アンケート

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

（１）記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第３回勉強会の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

②配布資料はどうでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

③説明の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

④【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑤【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑥第３回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。　は　い←　どちらとも言えない　→ いいえ

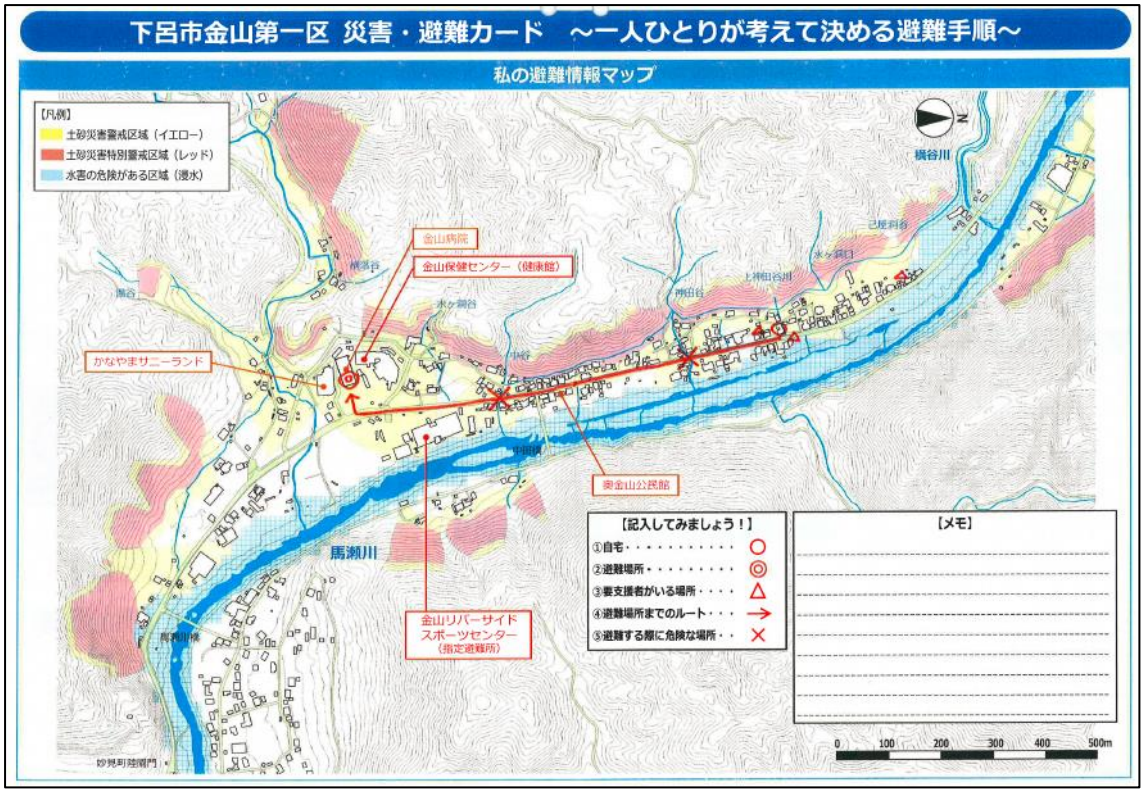
⑧本日の内容を踏まえて、金山第一区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。　そう思う　←　どちらとも言えない　→ そう思わない

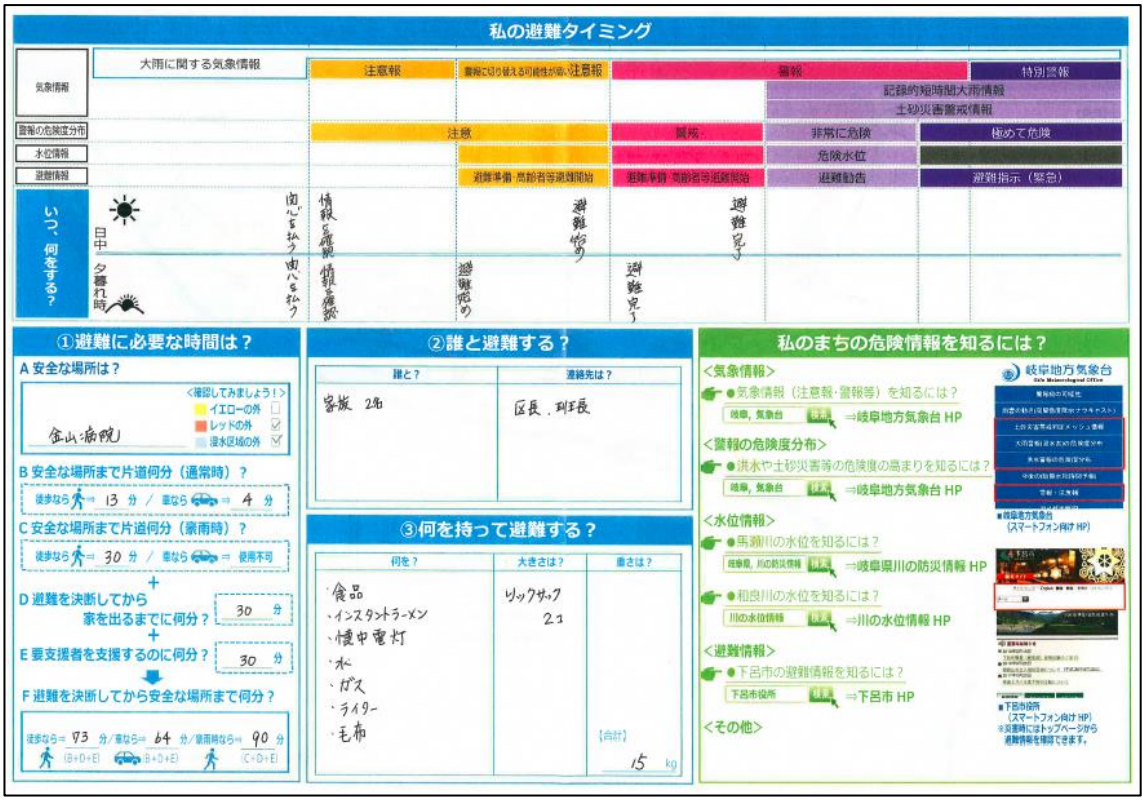
（２）最後に、今後情報提供して欲しいこと、第３回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　**男性・女性**
年代　**20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上**
地区　**白山町 １，２，３，４，５，６ 班・諏訪町１，２，３，４，５ 班**
お名前　**（　　）**　※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第３回勉強会】災害・避難カードの記入例





【第３回勉強会】災害・避難カードの普及・啓発（意見交換の結果）

・作成したカードを、台所など見える場所に置いておく。
・自主防災組織で避難カードの再確認を行う。
・６月の防災訓練の時に、本番を想定して実際に避難してみる。
・避難のタイミングが非常にむずかしい。フライングするぐらいの感じで避難することが必要だと思う。
・避難する際の持っていく道具を準備しておくことが大切だと判った。
・日々災害に対する情報について話し合う事が大事である。
・こまめに情報を収集することで早めに準備し、無事に避難できるようにしなければいけないと思った。
・災害、避難カードを複数コピーして家族が共有できるようにしたい。子供達にもわかるように説明しておきたい。
・今回のカードを地区で回覧して共有したい。
・避難経路について、家族で意見交換をうる
・小学校で出前授業をしてもらう
・避難の時期、行動手順等が明確になった。
・独居老人及び高齢夫婦へ、地区で避難場所、時間、持ち物を決めたカードを配布する。
・区の会議や班の集まりの時にカードを使用する。
・地域の行事があった時に今日学んだことを説明することができたらいいと思う

【第３回勉強会】参加者の感想

下呂市金山第一区　第3回WSアンケート集計　　回答件数：32

(1) 下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第3回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	6
ちょうどよい	26
長い	0

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	29
どちらとも言えない	3
わかりにくい	0

③説明の時間はどうでしたか。

短い	5
ちょうどよい	27
長い	0

④【第1部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	24
どちらとも言えない	7
わかりにくい	0

◆第2部に参加された方にお聞きします。

⑤【第2部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	25
どちらとも言えない	6
わかりにくい	0

⑥第3回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	31
どちらとも言えない	0
高まらなった	0

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。

はい	31
どちらとも言えない	0
いいえ	0

⑧本日の内容を踏まえて、上之保地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う	31
どちらとも言えない	0
そう思わない	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第2回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

大変いい勉強をさせていただきました。ありがとうございました。勉強会だけに終わらないように、区の中で、自主防災の中で、話し合い今後の防災対策に活かしていきたいと思います。
大変良い勉強会ありがとうございました。今後も、県下にワークショップを開催していくと言うことで防災に強い県をめざして下さい。
川の中州が全て見えなくなったくらいの水量で上流で何ミリ（50ミリ　100ミリ）降ったら、どこまで水位が上がるのか計算してほしい。
第3回の勉強会で、これから先、大雨の時の避難の時期の最確認が出来た。
・避難のタイミングが非常にむずかしい。・フライングするぐらいの感じで避難することが必要だと思います。・避難する際の持っていく道具を準備しておくことが大切だと判った。

・早めの避難で車は良いのか？・危機感を持続するには？・地域の安全な場所の確認の大切さが理解できた。
いかに実戦できるかが課題です。
ありがたい事でした。早めのヒナンをします。妻と来たかった。
日々災害に対する情報を話し合う事が大事である。避難のタイミングが非常にむずかしい。避難カードを今後どのようにつかうか考える必要がある。
・こまめに情報を収集することで早めに準備し、無事に避難できるようにしなければいけない。・災害、避難カードを複数コピーして家族が共有できるようにしたい。子供達にもわかりやすい様に説明しておく。
大変勉強になりました。これから、近所のつながりを強め、いざとなった時に共助できるようにしていきたい。
時間が決まっているので無理な事ですが、説明をゆっくりしてほしい。頭の整理がつかないうちに、次々と話がでてくるとついていけないです。早めの行動が大事だと理解出来ました。
なぜ、イエローゾーンの場所が、指定避難所として認定されているか疑問に思う。家でも今回の避難カードを使って、話をにつめていきたい。
・防災に関する情報が得られた。
地図が変わっている所があるので、新しくなった物があると良いと思います。
避難の時期、行動手順等明確になった。
勉強会でわかった事は災害の起きる前に安全な方々で近所の人に、声をかけて素早く避難することが大切だと思います。

性別

男性	23
女性	1

年代

20代	0
30代	2
40代	3
50代	8
60代	13
70代	3
80代	1
90代以上	0

地区

白山町1班	1
白山町2班	5
白山町3班	2
白山町4班	2
白山町5班	0
白山町6班	0
諏訪町1班	4
諏訪町2班	3
諏訪町3班	5
諏訪町4班	4
諏訪町5班	0

問い合わせ先
○　岐阜県危機管理部防災課
〒５００－８５７０
岐阜県岐阜市薮田南２－１－１
TEL：０５８－２７２－１１１１
FAX：０５８－２７１－４１１９
メール：c11115@pref.gifu.lg.jp